公益社団法人弘前青年会議所
長期ビジョン　60周年～70周年

白神の恵み
お城に桜　美しく
世界に誇れる
安住(あず)ましいまち
それが弘前

世界自然遺産白神山地の恵みに生かされた城下町弘前
築城より400年の月日を経て日本人が
愛してやまない桜を誇らしげに咲かせている
その姿に励まされるように私たちの
まちづくりも紡がれてきた
桜はやさしく咲き　桜は潔らかに散る
桜はしたたかに待ち　津軽人の心を写しだす
築城400年の弘前は　桜にこだわりぬいたまち
先人に感謝と敬意を抱き私たちは未来へ約束する
世界に通じるもう一つの心の遺産「弘前城の桜」を
未来永劫に紡ぐことを

The Creed of Junior Chamber International

We Believe：
That faith in God gives meaning
and purpose to human life ;
That the brotherhood of man
transcends the sovereignty of nations ;
That economic justice can best be won
by free men through free enterprise ;
That government should be of laws
rather than of men ;
That earth,s great treasure lies in
human personality ; and
That service to humanity is the best
work of life.

JCI MISSION

To provide development opportunities.
that empower young people.
to create positive change.

JCI VISION

To be the leading global network of
young active citizens.

ＪＣ 宣 言

日本の青年会議所は
混沌という未知の可能性を切り拓き
個人の自立性と社会の公共性が
生き生きと協和する確かな時代を築くために
率先して行動することを宣言する

綱　　領

われわれJAYCEEは
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者、相集い、力を合わせ
青年としての英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう

東北JC宣言

われわれは
新たな価値を創造する旗手として
尊い「結」の精神を呼び覚まし
かつてない未来を切り拓くことを誓う

※説明文P69参照

目　　次

○2014年度　公益社団法人　弘前青年会議所　基本資料

長期ビジョン……
JCIクリード、JC宣言、綱領 ……
JCIクリード、JCI　MISSION、JCI　VISION ……
東北JC宣言 ……
基本理念・基本方針……
理事長所信……
直前理事長挨拶……
役員基本方針……
職務分掌……
事業計画……
予算書類……
役員名簿……
組織図……
出向者名簿……
出向者挨拶……
年間公式スケジュール……

○2014年度　公益社団法人　日本青年会議所　基本資料

・公益社団法人　日本青年会議所

スローガン・基本理念・基本方針……
会頭所信……
組織図……

・公益社団法人　日本青年会議所　東北地区協議会

基本理念・基本方針・事業計画……
東北地区協議会　会長所信……
組織図……
東北JC宣言 ……

・公益社団法人　日本青年会議所　東北地区青森ブロック協議会

スローガン・基本理念・事業計画……
東北地区青森ブロック協議会　会長所信……
組織図……

○2013年度　公益社団法人　弘前青年会議所　事業・決算

2013年度を振り返って……
事業報告……
決算書類……
監査報告書……
会員異動……
生年別会員一覧表…… 135

2014年度

公益社団法人弘前青年会議所

基　本　資　料

2014年度　公益社団法人弘前青年会議所

スローガン

～Heart～

～青年らしく生き生きと情で生きる～

基本理念

「地域密着・会員一心」

～青年として覚悟を一心に、
明るい豊かな未来創造のために、
すべてを信じ今こそ、
我々が住まう弘前の希望となれ！～

基本方針

地域の未来開発事業の実施

地域の子どもたちの夢開発事業の実施

自立したJAYCEEとして覚悟と決断！研修事業の実施

地域連携活性化事業の検討

会員拡大運動

東日本大震災中長期復興支援の継続

～地域再生プロジェクトの検討～

公益社団法人　弘前青年会議所

理　事　長　所　信

理事長　佐　藤　　譲

〈事業計画〉

１．地域の未来開発事業の実施
２．地域の子どもたちの夢開発事業の実施
３．自立したＪＡＹＣＥＥとして覚悟と決断！研修事業の実施
４．地域連携活性化事業の検討
５．会員拡大運動
６．東日本大震災中長期復興支援の継続　～地域再生プロジェクトの検討～

～はじめに～

1951 年 1 月 15 日　弘前青年会議所設立趣旨書

「事業は青年独自の熱と力を以って経済文化の繁栄と社会一般に貢献し、正義心を涵養（かんよう）して時代を担う清新（せいしん）なる自覚に生きる。これが我々の運動の原点である」ついに弘前に情漲る青年の集う団体が誕生した。

戦後の焼け野原から、地域を再建するという志を持って青年たちが立ち上がり、先行きの見えない時代に弘前の未来を強く信じることで、「自分が一日休めば日本が一日遅れる」という強い気概と覚悟を持ち地域の「希望」になったのです。それから尊敬してやまない先輩諸兄が 63 年もの間、「明るい豊かな社会」の実現に向けて、様々な困難に立ち向かいながらも挑戦し続け紡いできた弘前青年会議所運動の「希望」を、今度は震災後の新しい時代に生きる我々が、次の世代のために気概と覚悟を持って、我々が住まう弘前の新しい「希望」となり、明るい豊かな社会を創造する責任があります。

私は、弘前ＪＣに 2006 年に入会しました。創始の志を継承しながら、常に弘前の未来の為にまっすぐ前を向いて、たまには涙し喧嘩しながらも常に誠実に正面から仲間と議論をし、先輩を敬い後輩を慕い子どもたちの未来を描くために真っ直ぐで、自らの犠牲を惜しまず、地域のためにただひたすら仲間と共に手を取り合い走り続ける先輩に出会いました。その先輩の背中を常に追いかけながら、また自分も自分を振り返らず行動してきました。その中で多くの「情」を学ばせていただく機会がありました。何のために、誰の為に運動しているのか、何故今ここに自分がいるのか、生きているのか。体を張って教えていただきました。これこそが私の財産であり今の私なのです。

青年会議所は 40 歳で卒業です。それ故に毎年新しい風が入ってきます。組織も単年度制であるゆえ常に新しい英知も導入されます。しかし設立創始の志は 63 年間一度も変わっていません。変わっているのは時代だけです。

創始のバトンを今受け継いだ私は、いや全会員は「一心」になり、64 年目の歴史の 1 年を創造するのです。１年しかない故に「挑戦」しなければならないのです。創立 60 周

年に掲げた長期ビジョン、「白神の恵み、お城に桜美しく世界に誇れる、安住ましいまちそれが弘前」これが我々の使命であり責任であるならば、情熱を燃やし笑顔溌剌で基軸を持ったJAYCEEとして更なるステージに飛躍し「挑戦」していかなければならない。それこそが青年としての「英知」と「勇気」と「情熱」の証であります。

過去があるから今がある、今があるから未来がある。今を生きる我々が高い意志を持ち行動し、そして行動したものだけ得られるかけがえのない経験が必要なのです。この経験は必ず未来の人生を大きく変えることが出来ると信じております。

大事な１年１分１秒を大切に、青年会議所の力を信じ自分の可能性を信じ、そして仲間を信じて、今を生きる我々が「青年らしく生き生きと情で生きる」自分の成長こそが「明るい豊かな社会」の実現に繋がることを強く信じて､記録ではなく記憶に残る１年にする。そして、すべてを信じ今こそ未来への「挑戦」！自分への「決断」！

「私は､情漲る我々が描く未来こそが､弘前を輝かせることができると確信しております」

【地域の未来開発事業の実施】

2010年度より展開してきた「さくらデザインプロジェクト事業」様々な形でさくらをキーワードに事業を展開し観光を含め各地に伝播してきた事業、長期ビジョンにあるように弘前が玄関口の「世界自然遺産白神山地」について理解し、遺産としての価値と豊かな恵みを次代へ紡いでいく責任があります。昨年実施した記念事業との連携も模索しながら弘前を｢さくら色｣｢白神の風｣に染めるくらい地域の未来を磨き輝かせていく壮大なビジョンのもと事業を展開します。地域を愛し地域を信じ、そして次世代に残したい。

そして、決して忘れてはいけないのは、我々の運動は地域に生活している人々の間に結ばれた､「強い連帯感と情」に支えられている部分があるからこそ、会員と地域そして弘前市民に利益をもたらす事が出来るのであり、それこそが公益に資する運動なのです。地域に根差した信頼されるJCであるからこそ出来る運動をしましょう！
さくら色そして白神の風を！我々が「希望」になるのです。

【地域の子どもたちの夢開発事業の実施】

昔と今の弘前では、まちなみや生活習慣は大きく変化をし、欲しいものがあれば何でも手に入る世の中になり便利になりましたが、子どもたちを取り巻く様々な環境は整っていないような気がします。心が痛む悲しいニュースが多いこの世の中はどうなってしまったのでしょうか。今私たちには何が出来るでしょうか。やはり私たち大人が子どもたちの手本にならなければならないはずです。

私たち責任世代が犠牲を払ってでも、地域を明るく豊かにするのだ！と云う強い気概と覚悟が必要であり、明るい豊かな社会の実現のためには、明るい豊かな人間にならなければなし得ないし、本気で地域の子ども達を取り巻く環境について真剣に考え学び行動していかなければならないはずです。責任世代としての自覚を強く抱き、地域の次の時代を担う子どもたちに大きな優しい心･夢を育む運動を展開します。そして我々ができることは、地域の子どもたちに、情と笑顔のやさしさ溢れる花を咲かせる事です。今こそ我々が子どもたちの「希望」になるのです。

【自立したJAYCEEとしての覚悟と決断！研修事業の実施】

なぜJCに入会したのでしょうか？会員それぞれ理由があるでしょう。私の場合は、自分を鍛えたいから入会しました。世間しらずで無口で礼儀も知らない一人の人間でした。このままではいけないと思い先輩の紹介もあり入会いたしました。

入会し７年あまりが経ちようやく少しずつですが、成長していると感じております。せっかくＪＣに入会し、高い年会費を払い時間を使い運動しているのであれば、もっと地域を担うリーダーとして議論し学び修練していかなければならないはずです。自分の成長こそが地域と会社に貢献し、内にこもらず社会への貢献を鮮明に打ち出し、常に当事者意識を持ち、その時その瞬間に悔いを残さないように前進する事が大事であり、ＪＣ運動とは、魅力的な人間になり運動を起こし、数多くの人間の意識を変えて行く市民意識変革団体なのです。

人生において失敗は沢山あります。失敗は成長へと必ず繋がるし、地域のリーダーであるならば、道が無いのならば俺が作るのだ！「挑戦」と行動力を発揮することで強いリーダーシップを得ることが出来ます。そのためには強い覚悟と「決断」が必要だと思います。間違ってはいけない一番大事なのは、一番近くにいる家族です。

【地域連携活性化事業の検討】

一昨年「HIROSAKIコミュニティーミーティング～わげものビジョン～」、昨年は「HIROSAKIコミュニティミーティング」にて、たくさんの市民の方々よりいただいた課題について、意見を出し合い議論し共有をしてきました。

我々は、いただいた弘前の未来の「希望」を、継続していく責任があります。明るい豊かな弘前の未来創造の為に、弘前の市民の皆様と共に、行政各種団体と連携し今度は実践行動に移していきたいと思います。小さな運動がまちを変えることができ市民の意識を変えていく。弘前というまちがより一層活性化していくために率先して我々が行動しなければなりません。これこそが公益に資する運動でもあり、市民意識変革団体としての使命であります。

【会員拡大運動】

自分たちの地域の「明るい豊かな社会」の実現に向けて精力的かつ持続的なＪＣ運動を展開していけるように、メンバー一人ひとりが会員拡大意識の高揚と、その意義、目的を理解する必要があります。組織としての力をより強固にするためは、地域の未来を創造する人を増強し、意識変革団体としての基本運動との想いを伝え、地域において必要とされるメンバーを一人でも多く集め、本気で弘前の未来創造へ寄与して行く事であります。それこそが基本運動＝会員拡大運動であります。

しかし、会員拡大運動とは入れるだけでは駄目です。共に学び共に笑い共に感じ共に共感できる、地域のリーダーにしなければなりません。

我々の前進なくして地域の未来はない！そのくらいの覚悟と自覚を持ち、一年間運動して参りましょう！私たちは地域の「希望」になるのです。私たちは弘前の未来を描くこと

が出来るのです！ＪＣのためにＪＣをするのではありません！
　自分一人の力は小さいが、仲間と一緒ならその力は無限です！

【東日本大震災中長期復興支援の継続 ～地域再生プロジェクトの検討～】

　一昨年に組織した「東日本大震災中長期復興支援プロジェクト」も４年目に入ります。もう一度被災地の状況を検証し、長期的に考えた地域再生支援をして参ります。我々だから出来る支援、行政レベルでないと出来ない支援様々ありますが、小さなことから歩みを進めていきます。
　人と人、地域と地域、ＬＯＭとＬＯＭがつながる支援を進めて、被災地の地域再生を検討します。

【最後に】

　私を今まで優しい愛情で育ててくれた家族と会社、豊かな心で見守ってくれた地域、そして何よりも情熱と友情で包んでくれた先輩仲間に、私は恩返ししたい思いで理事長職を強い「情」を持ちやらせていただきます。
　私の体を流れる真っ赤な愛情と友情と情熱が溢れた血を全会員に注ぎ、「地域密着・会員一心」～青年として覚悟を一心に、明るい豊かな未来創造のために、すべてを信じ今こそ、我々が住まう弘前の希望となれ！～の基本理念のもと、第６４代理事長としての担いを果たすよう一生懸命やり抜きます。どうか一年間宜しくお願い申し上げます。
　私の一歩ではなく、全会員の一歩を信じます。
　会員一心、真摯な気持ちと、弘前ＪＣの一員である誇りと自覚があれば、お互いを思いやる結束力に繋がり、自分一人の力は小さいが仲間と一緒ならその力は無限です。涙の数だけ人間は強くなれます。自信を持って「挑戦」し「決断」しましょう。今こそ我々が「希望」になるのです。「情」漲る明るい豊かな弘前の未来創造のために。さぁ風を！

直 前 理 事 長 挨 拶

直前理事長 **清　藤　洋　介**

公益社団法人格の担いを背負い、新たな一歩を踏み出してから、本年で３年。

創始のバトンを受け継ぎ、１年という限り或る時間の中で会員と一心となり、挑戦し、決断する63年目の一歩を踏み出す年となります。

震災後、地域主権＝市民主権時代の到来と共に、私たち青年は混沌という時代を未知の可能性として切り拓き前進ある地域社会の確立を目指し、地域の未来に明るい希望をもたらす使命＝志を身にまとい、行政や地域コミュニティーとのつなぎ役として連携と協働から地域の未来を考え、また次代の地域を担う子供たちの夢を育む運動を展開します。これからの地域づくりには、地域の全ての人々が連携と協働というつながりあるバランス感覚の基、まちづくり展開して行かなければなりません。この地域に住まう経済人として、地域の未来をみつめ、強い使命＝志と、地域の経済、文化や歴史から、私たちのこれから進むべき方向性を確り見据え、強い影響力を与えることのできるオピニオンリーダーになることが出来れば、それは地域の希望になるはずです。決して失敗を恐れることなく、今の目の前にある現実を真剣に考え、強い信念を持ちながら変化を生み出し続け、そしてこの地域と共に歩み続けながら成長することこそが、この地域の活力となり創造する原動力となるのです。

この厳しい経済状況は更に勢いを増し、少子高齢化時代を迎え、震災によって人々の価値観が大きくシフトチェンジし、この数年で公益社団法人弘前青年会議所が担う役割は益々重さを増しています。

だからこそ私たちJAYCEEが心（情）を持ち、私利私欲を捨て、誠実に地域社会とのつながりを意識しながら、ひたむきに、情熱と笑顔、そして志を持ちながら、世界に誇れるあずましい故郷創生の為に努力を惜しまず、この地域への誇りを紡いでいく為に、この地域を担う未来（子供たち）を支えて参ります。

役員基本方針

副理事長　相　内　英　之

弘前ＪＣに入会して９年目、５回目の役職を預かりました。

理事長である佐藤譲君とは同じ歳で知り合ってからの付き合いも長いのですが、まだまだ私の事をわかっておりません。佐藤譲君がどういう意図をもって私を副理事長に任命したかは不明ですが、完全に人選ミスです。ギリギリアウト、ギリギリセーフの境目があったら完全にアウトです。セカンドゴロです。

私は入会してからず～っと弘前ＪＣのあり方、やり方ともに疑問符がつきまくりで、なんじゃこりゃ～と今も思いつづけている輩です。

ただ！今も昔も弘前ＪＣメンバーは大好きです^^

前置きが長くなりましたが､そんなＪＣでの役割とか､ＪＣでの役職とか正直どうでもいいと思ってるわたくしですが、佐藤譲君の事はちょっとだけ好きなので一年間ちょっとだけ頑張ってちょっとだけ褒めてもらおうと思ってます。

補足ですが今年度ＪＣ運動をする為の自分なりの目的、目標を勝手に決めてみました。

目的

友達を増やして見識を深め、より豊かな人生をおくる

目標

①初対面のメンバーに自分から話しかける
②なるたけＪＣの会議や例会に行く
③色んな場所と日にちを間違えない
④ランチは東家か叙々苑
⑤卒業式で完全アウトの暴露話はダメダメ

副理事長　井　上　信　平

〈事業計画〉

１．地域の子どもたちの夢開発事業の実施
２．ちびっこねぷた事業の継続
３．わんぱく相撲事業の検討
４．新年祝賀会の企画・運営（副）
５．その他

この度、公益社団法人弘前青年会議所 2014年度 副理事長を仰せつかるにあたり、佐藤理事長の補佐に徹し、久保委員長の潜在能力を最大限に発揮していただく場作りを全うして参ります。久保委員長率いるゆめ創造委員会は、目を輝かせ堂々と夢を語りそれらの実現に向けて努力する子ども、そして、その子ども達に経験の場を与え応援することを喜び誇れる大人達をの創造を目的に組織された委員会です。

小学生の頃に語った夢､中学生の頃に思い描いた将来､高校生、大学生と時が過ぎていくに従って、私達は何かを諦め、軌道修正してきたのではないでしょうか。現実を知り諦めることも時には必要ですが、それが努力を止める理由になるのは勿体ない。せっかくいただいた素晴らしい身体で、何か方法があるのではないかと諦めず探し続けることで、子ども達が輝かしい未来を創造する原動力に成り得るのではないか。私達はそう考え、夢を発表する場を作ることにしました。これが子供達の夢開発事業です。自信を持って夢を語る子ども達。その姿を見た大人は何を考えるでしょう。過去の自分の夢を振り返るでしょうか。応援することの大切さに気付くでしょうか。一生懸命な子ども達の思いが、大人たちにきっと届くと信じています。ちびっこねぷた事業、わんぱく相撲事業も同様に、土俵は違いますが、夢に向かって目を輝かせる子ども達に確かな未来を示し、笑顔で応援し続ける事業です。私達も勉強を重ね、時代に合ったサポートの方法を探求し続ける必要があると考えております。

これらの事業を終えた後、自分の思いを伝え自信に溢れる子どもと、子どもの本当の夢を知り誇りに思い全力でサポートすることを誓う大人が一人でも多く増えることを願っております。そして、そんな大人自身も忘れかけていた夢を再び持ち直し、夢に向かって輝く日が来ることを祈っております。

副理事長　太　田　厚　仁

〈事業計画〉

１．例会の企画・運営
２．公開討論会の実施
３．地域連携活性化事業の実施
４．新年祝賀会の企画・運営
５．理事長の補佐、担当委員会業務の分担執行

６．行政機関、関係団体等への折衝並びに応接

戦後の焼け野原から、青年たちが立ち上がり志を持って地域を再建し、弘前もまた60年の時を経て青年会議所運動を紡ぎ地域を創り上げてきました。しかし2011年3月11日に東日本大震災が発災しました。戦後から震災後時代へと変わって3年が経ち、4年目を迎える今だからこそ、さらなる明るい未来創造のために、青年としての覚悟を一心に、すべてを信じ青年らしく生き生きと情で生き､我々が住まう弘前の「希望」となることが必要です。

まずは、新年度最高のスタートが切れるよう設えをしっかりとした新年祝賀会を開催し、地域の方々に今年度の事業・運動をPRします。そして、例会においてはメンバーが逞しく優しい立派なJAYCEEへと成長するために、自己啓発などの研修会を開催することで何にでも挑戦出来る行動力や、どんな境遇にも負けない強い覚悟と決断力を磨く機会を提供します。さらに、家族や地域に向けた例会を企画することで、地域貢献や、お世話になっている家族や友人、メンバー等への感謝の気持ちを忘れない優しい心を養います。また、出席率向上のためにアンケートを実施しニーズを探ります。そして、地域連携事業においては昨年までの事業で頂いた市民の皆様からの問題提起、解決案を基に今年度精査し、市民と共に事業を展開することで弘前の街を市民と共に活性化して行きます。さらに、4月の市長選に向けて公開討論会を開催し、立候補予定者の政策や訴え等を公開、討論出来る場を創ることで市民の市政への関心、選挙の投票率向上を促します。また、今後の弘前市の将来を任せられる最善な市長を選出出来る機会を提供することで市民の意識を変えていきます。

自信を持って「挑戦」し「決断」することが我々一人ひとりの成長に繋がり、一人ひとりの成長が仲間や地域に良い影響を与え、その繋がりにより弘前を輝かせることができる。その輝きこそが弘前の「希望」となり「情」漲る明るい豊かな弘前の未来を創造します。

副理事長　**小山内　隆　一**

〈事業計画〉

１．地域の未来開発事業の実施

この我々の住まう弘前は、白神山地によってもたらされたと言っても過言ではない。

2013年度世界自然遺産登録20周年を迎え、白神山地を理解し、発信することで多くのつながりが生まれた。このつながりをより強固なものとし、共に悩み、考え、支えあうことが、弘前にあるサクラ、りんご、長年培われたものづくりをはじめとする多くの宝を守りぬく礎となるはずである。

我々弘前青年会議所が公益社団法人格を取得し、3年目となる。我々の運動は、地域に住んでいる皆様の信頼を得るもので無ければならないと考える。これは、我々だけで解決できる問題ではなく、他団体をはじめとする多くの市民と手と手を取り合い進める必要がある。地域に根ざした運動を展開、発信することで地域に公益に足りえる団体であることを伝播する。

地域間のつながりとこの地域に住まう者同士のつながりを我々弘前青年会議所がハブとなり、ワクワクする事業を展開することで次世代が、誇れる地域を残すことを使命とし、

2014年度楽しみながら理事長を支えます。

副理事長　**斉　藤　勇　太**

＜事業計画＞

１．東日本大震災中長期復興支援の継続

２．卒業式の企画運営

３．その他

2011年3月11日から早3年経ち、弘前青年会議所として毎年いろいろな形で支援をしてきました。初年度・人的支援他（残土だし・炊き出し・募金活動）、2年目・心の支援（祭りに招待）、3年目・金的支援（現地の物を購入し、その売り上げを現地に寄付）を行い、その中でも2･3年目は大槌・釜石を主としてきました。

2014年度の復興支援事業は、いろいろ考える年となるはずです。復興支援4年目にもなると現地の再生も進み、支援方法も変わって行きます。まずは現地に赴き、我々は何が出来るのか、どういった支援が現地では求めているのかを再度検証する事で、地域再生への歩みになるはずです。また来年は、地域を絞り、人と人･地域と地域･LOMとLOMがつながる支援になる様、私が出来うる範囲で精一杯、委員長・委員会メンバーを纏め上げ、1年間邁進します。

卒業式では、今日までJC運動に取り組んできた9名の卒業生を、メンバー・OB一同が新たな旅立ちへの見届け人となり、今後のご活躍を記念し、思いでになる様な設えで、送り出して行きたいと思います。

最後に佐藤理事長とは小・中と同じ学校で野球をしてきた仲で、彼がつらい時・悩んだ時少しでも助けられる様､『闘志無き者は去れ』の精神で頑張ります。

専務理事　**小　野　貴　志**

〈事業計画〉

1．業務執行理事として、理事長の補佐、担当委員会業務を分担執行
2．総務財政に関する事務及び事務局の管理

2014年度専務理事を拝命いたしました､小野貴志です。私自身はこれまでは、主に事業系の委員会に配属されてきており、事務方の仕事は初めての経験になります。私自身も不安はありますが、任命して頂いた佐藤理事長においても気がかりの種だと感じております。

しかし、我々50年生組の代表として理事長を担う佐藤譲理事長を支える一年として、私が率先して重責の職に就こうと決心しました。佐藤理事長のもと、メンバー一人一人が「情」を胸に宿し、地域のために邁進していける弘前青年会議所を作り上げて、佐藤理事長の気がかりの種を一日もはやく一掃したいと思います。

そして、メンバーの活躍を縁の下からしっかりと支える事ができる専務理事を目指し、努力して参ります。まだまだ未熟ものではありますが、メンバー、諸先輩皆様のご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

事務局長　**野　村　太　郎**

2014年度事務局長を拝命しました野村太郎です。

事務局長は理事長、専務理事の補佐そして事務局業務の円滑な運営を職務としています。通常業務を円滑に遂行し、弘前青年会議所の2014年度各事業がスムーズに実行できるようサポートしていく所存です。

事務局業務は上手くいってはじめて意味がある、成果というものが見えにくい業務であると考えます｡それ故、達成感というものはなかなか味わうことの出来ない立場であります。しかしながら一方で弘前青年会議所の各事業を俯瞰できる面白いポジションでもあります。2014年度はその点を十二分に生かし、各委員会の事業の進捗状況や困っている点、サポートを必要としている点を把握して、先手先手でサポートできるよう業務を遂行していきます。

自分自身細やかな配慮や工夫が決して得意ではない人間です。しかしながら、一年間事務局長としての任務を全うすることで自身の弱い点､足りない点をトレーニングしていこうと考えます。一年間よろしくお願いいたします。

財政局長　**三　國　典　央**

2014年度、財政局長を務めます三國典央です。

財政局長という名の通り、公益社団法人弘前青年会議所の財政に関する業務と、専務理事のサポートが主な仕事になろうかと思います。

2014年度は、理事長を務める佐藤譲君のもと､「情～Heart～」をスローガンに掲げ1年間活動してまいります。しかしながらその中においても、情に流されず、時には厳しく、しっかりと運営を行わなければならないいわゆる「汚れ役、嫌われ役」的な側面も担っていかなければならないのが財政業務を行う自分の役割ではないかなと感じております。

公益社団法人の財政運営は、公益目的比率をはじめとして法的にも様々な規制・ルールがあり、絶対に遵守しなければなりません。理事長をはじめ会員のみんなが情を前面に出して全力で活動できるように、時にはイラッとされることもあるかもしれませんが、縁の下の力持ち的な存在になれればと感じております。

2014年度もひとつよろしくお願いいたします。

復興支援担当常任理事
吉　川　裕　之

〈事業計画〉

1．復興支援事業
2．弘前JCメンバー卒業式

2014年度、復興支援担当常任理事を務めさせて頂きます。委員長のサポート役としては今回で３回目の役職となります。毎回委員会の事業内容が異なる為、新たな気持ちで全力に事業へ取り組み、自他共にやって良かったと思われる事業を展開して参ります。

事業を成功へ導くには、委員長のやる気と委員会内の結束力が不可欠であると考えます。近年新人メンバーが委員長を任される傾向にあり、まず第一に事業計画書等の資料作成や理事会での受け答え等に苦戦を強いられます。これらは場をこなす事で慣れていくものですが、最終的に悩んだ時は〝何の為、誰の為にこの事業をやるのか〟と考え、奮起してもらえればと思います。次に委員会について言える事は、委員会に来られなくても委員会メンバーには事業動向がわかるよう、逐次情報を発信する事が大切です。知らないうちに物事が進んでいくと、人というのは口を出せなくなるものです。携帯端末を使

い随時連絡を取り合い、2014年度は委員会内の輪を大切に進めて参ります。

最後に担当常任理事として今まで得た経験を基に、委員長・委員会メンバーをサポートし、副理事長との連絡を密に行い、一丸となって事業を行える環境を１年を通して構築して参ります。

MUSUBIME担当常任理事

須　藤　立　也

〈事業計画〉

人と人とを“結ぶ”MUSUBIME事業（会員拡大）
人と社会を“結ぶ”為のMUSUBIME事業（新人研修）
人と街を“結ぶ”MUSUBIMEまんじ札事業

当委員会では、新入会員の獲得を目標とした会員拡大事業。新人メンバーに対して、青年会議所運動への活発な参加へとつながる新人研修の開催。この二つの事業は、今年度に限った事ではなく、毎年のJC運動の基本的な事業であります。同じ志を持つ者同士が一つの団体に所属しその「力」を集結し、思う存分発揮する事が出来るのがこの青年会議所だと私は思っております。「仲間は一人でも多い方がいい」これ言うまでもありません。この地域には仲間になるべき人材がまだまだいるはずです。その様な人材を必ず探し出し、入会までの結び役を当委員会では行って参ります。委員会名にある「MUSUBIME」とは以上の様な想いから委員長が名付けた物であります。また、弘前青年会議所は地域の発展を第一に考えている団体であります。当委員会では街・地域と弘前青年会議所を結ぶ「MUSUBIMEまんじ札事業」の開催を考えております。老若男女問わず人が街に集い、ふれあう魅力を持った事業を委員長と共に開催して参りたいと思います。

自身担当常任理事の役目を理解し、委員長が事業に専念できる環境造りと自身の経験を生かしアドバイスまたはサポートへ回り、委員長には達成感や感動を味わってもらえる様、努めて参ります。

最後となりますが、以上の三事業は、全メンバー及びOBの皆様また様々な方からの力添えがあってこそ初めて達成し得る事業だと、委員長はじめ当委員会では思っております。どうか「知恵とお力」をお貸し頂ける様、一年間よろしくお願いいたします。

ヒロサキノチカラ発信担当常任理事

黒　部　能　史

2014年度ヒロサキノチカラ発信委員会担当常任理事を仰せつかりました黒部です。佐藤譲理事長の津軽・弘前への想いを委員長のアイデアで実現すべく共に手を携えて、よきフォロワーとして進んでいきたいと考えております。我々のヒロサキノチカラ発信委員会では、この地域の名前を冠していますので、弘前のプライドを持って事業に当たりたいと考えております。

今年度は「ヒロサキノチカラ」を弘前だけにとどまらせず、日本へと発信いたします。弘前といえば「桜」「白神山地」「りんご」がまず浮かびます。他には「津軽塗」であったり、「ブナコ」であったり、「刃物」であったりと…（他にも多数ありますが）。そのすべてのものが今活き活きとし、日本有数といわれているのはそれを黙々と支えしてくれた先人のチカラがあればこそ。発信の基盤を作るには、まず、我々は自分たち弘前の文化を深く知り、支える事をもっと学ばなければならないのです。「ヒロサキノモノ」が持つ「ヒロサキノチカラ」を信じて。

まずは、「芽吹く」という力強さを、「咲く」という美しさを難病を持つ子どもたちに希望という形で弘前の「サクラ」を「サクラノチカラプロジェクト」で発信する事業を展開します。次に、弘前の持つ文化（創、音、食）を発展させ、次世代に引き継ぐべく、支え、発信する「Cross.S」を展開してまいります。

その結果、弘前の中が自信と文化であふれ、「チカラ」となり、市民が心豊かなを送ることが実現できるでしょう。そして、そのあふれ出た「チカラ」が外の地域にと発信され、弘前の魅力となって、弘前を彩ることになるでしょう。

ゆめ創造担当常任理事

比　内　理　佑

〈事業計画〉

１．あなたの「ゆめ」を応援しますプロジェクト
２．ちびっ子ねぷたのお通りだい
３．わんぱく相撲

2014年度、ゆめ創造委員会の担当常任理事を務めさせていただきます比内理佑と申します。事業系の常任理事という役職は初めてですが、2011年度の青少年委員長を始めとしたこれまでの経験を活かし、久保委員長が目指している事業をより良いかたちで実施できるよう、陰に

日向に精進する所存です。

さてゆめ創造委員会では上記事業計画の通り3つの事業を行います。いずれも次世代を担う青少年の健全なる育成を目指す、青年会議所らしい事業です。理事会や常任理事会、委員会等、青年会議所の段取りの中で、久保委員長がその思いを具現化できるよう、また委員会が委員みんなで活発に活動できるよう、担当常任理事として一緒に頑張ります。

まだまだ未熟な身ではございますが、2014年度もどうぞよろしくお願いいたします。

例会・地域連携担当常任理事

秋　元　駿　一

〈事業計画〉

1．例会の企画運営
2．公開討論会の実施
3．新年祝賀会の企画・運営
4．地域連携活性化事業の実施

例会・地域連携担当常任理事の秋元です。2014年度は二つの委員会の担当常任理事として初めての中間管理職となります。委員長の想いを実現させるため、全力でサポートし組織とのパイプ役として各調整に力を注ぎこみたいと思っております。例会委員会は工藤委員長か掲げる、メンバーが参加する例会をキーとして進めて参ります。地域連携委員会は葛西委員長の行動力をサポートし、他の委員会への働きかけや調整に尽力してまいりたいと思います。また、太田副理事長と各委員長の意思疎通を行い、委員会運営をサポートしてまいります。

佐藤理事長の下で少しでもお力になれればと思っております。よろしくお願いします。

総務委員会

委員長　**山　形　昌　弘**

〈事業計画〉

1．基本資料・メンバーズリスト・名刺作成
2．アテンダンスポイント集計
3．各種会議運営

2014年度総務委員会委員長務めさせていただきます。山形昌弘申します。まだ入会５ヵ月目の新人です（11月現在）委員長という重責と期待に応えるため、一つ一つ学びながら知識と経験を蓄えてメンバーの活動を支えていけるように頑張って行きますのでどうぞよろしくお願いいたします。

今年度の総務委員会は昨年度の渉外事業が分かれ、総務一つの委員会ということになりました。総務ということで表に出ることは少なく目立ちませんがJC活動の事業、運営に円滑に行える為の土台に無くてはならないと思っております。総務は基本資料・メンバーズリスト・名刺作成と各種会議運営、アテンダンスポイント集計事業を行ってまいります。

それぞれ事業系事業に比べると目立ちませんが、弘前青年会議所の土台として支える事業と捉えています。メンバーの参加率向上は各種事業の成功に大きく関わってくる要因の一つと考え、アテンダンスポイントをツールとして活用し各事業参加して頂く為に周知して行きたいと思います。

広報渉外委員会

委員長　**大　井　康　敬**

〈事業計画〉

1．各種大会参加推進事業計画
2．あおいりんご事業計画

私は昨年の２月に入会したばかりの新人です。未だにJCというものをよく理解していない私が委員長という大役をお受けし、正直戸惑ってばかりです。ただ、昨年は「弘前白神プロモーション委員会」に所属させていただき、事業を行うための心構えを先輩方より教えていただいたように思います。その教えをもとに今年度はメンバーのお役に立てるように頑張らせていただきたいと思います。

私が委員長を務めさせていただく広報渉外委員会には、大きく分けて２つの役割があると考えております。まず１つ目は各種大会等への参加促進です。これは、メンバーが大会への参加や、友好JC・友好都市との交流を行うにあたり、できるだけ多くのメンバーが参加していただけるように促し、メンバーが安心して参加できるように行程等の段取りを行うものです。また、より多くのメンバーに参加していただくために、渉外ニュース等で大会や運動へ参加していただけるようメンバーの意識を高めてくように努めたいと考えております。

次にあおいりんごの発行についてですが、今年度は特別会員とメンバーに送付する会報誌ということになりましたので、大会や運動の予定・報告を記載するだけでなく、メンバーが大会や運動に参加したいと思うような内容にしたいと考えております。また、会員拡大事業でも使用していただきたいと考えておりますので、ＭＵＳＵ

ＢＩＭＥ委員会とも協力し、勧誘対象者運動にＪＣの運動に参加したいと思っていただけるような内容にしていきたいと考えております。

以上のような内容が当委員会の役割と考えておりますが、どちらにも共通して言えることは、メンバーもしくは、勧誘対象者に、大会や運動に参加したいと思っていただくことが最も重要であるということです。各種大会において様々な知識を得ていただき、それを糧に地域の発展に貢献していただきたいと考えております。

自分がどこまでメンバーの役に立てるかわかりませんが、精一杯頑張らせていただきますので、ご指導をお願いいたします。

復興支援委員会
委員長　笹　　淳　志

〈事業計画〉

１．復興支援事業
２．卒業式の企画・運営

2014年度復興支援委員会委員長を務めさせていただきます、笹　淳志と申します。入会して、一年未満と経験が浅く、知識・経験が未熟ではございますが、先輩方の情熱とメンバーとの友情を自身の力に変え、期待に応えられるよう努力して参りますので、どうぞ宜しくお願い致します。

今年度の復興支援事業につきましては、今までの弘前ＪＣでの支援活動を再認識し、被災地域との「心のキャッチボール」をテーマに、今自分達で何ができるか、何を必要としておられるのかを考え、メンバー一致団結して取り組んで参りたいと思います。

また、前文にも載せてありますが、「心」を伝える場を創り東北の明るい豊かな未来を目指した活動を目標にメンバー共に頑張って参ります。

卒業式の企画につきましては、ご卒業されるメンバーの方への感謝の気持ちを伝え、今後の活躍を祈念するとともに、我々のＪＣ運動を更に発展させる事をご卒業されるメンバーに約束していきたいと思います。

最後に今年度の「復興支援事業」と「卒業式の企画・運営」に繋がる部分として、「心」を大切に確実な決断力とメンバーとの結束力で事業を進めて参ります。個人的には、覚悟と情を持ち、ぶれのないよう頑張って参ります。微力ではありますが、弘前青年会議所の運動に貢献することで、委員長としての職務を全うしていきたいと思いますので、一年間宜しくお願いいたします。

MUSUBIME委員会
委員長　川　嶋　貴　裕

〈事業計画〉

人と人とを“結ぶ”MUSUBIME事業（会員拡大）
人と社会を“結ぶ”為のMUSUBIME事業（新人研修）
人と街を“結ぶ”MUSUBIMEまんじ札事業

青年会議所運動を行う上で最も必要な人材の確保と、入会して頂いたメンバーに対して、青年会議所運動を行う上での基礎知識や歴史、「奉仕」・「友情」・「修練」の精神を学び得る為の研修事業を行うこと、また地域社会の活性化、健全な発展に寄与する為にまんじ札事業を行うことを目的、役割とし設置された委員会です。

まず、委員会を始める際に委員会名を“MUSUBIME”（結び目）委員会とさせて頂きました。この“結び目”の由来は、様々な事柄、例えれば人と人、人と社会、人と街とを結ぶ”結び目“にこの委員会が、ひいては我々青年会議所が成れればとの想いでつけさせて頂きました。それでは、それぞれ上記の三つの事業の具体的な取り組みとして、まず人と人とを“結ぶ”MUSUBIME事業（会員拡大）ですが、前年度からの引き継ぎをして頂き、その情報を元に新しい人材リストを作成してゆきます。更に、例会や全体ミーティング活動、OB会などで新しい紹介情報を頂き、それぞれ紹介して頂いた方々にお会いし入会へと促してゆくつもりです。今年度の会員拡大事業では新規会員拡大もそうですが、途中退会者やあまり事業等に積極的に参加されない方々へのアプローチも行ってゆく予定です。人と社会を“結ぶ”MUSUBIME事業（新人研修）では、諸先輩方からの青年会議所運動の基礎知識や理念、歴史を学べる講義や、ワークショプを交えた他のメンバーとの友情を深めるための交流合宿などを予定しております。最後に、人と街を“結ぶ”MUSUBIMEまんじ札事業ですが、こちらは前年度、前々年度と自身の店舗でも参加しておりましたが、更に子供の頃にも参加しまんじ札を集めさせて頂いた想い入れのある事業です。事業内容としては、街歩きをして頂き、各店舗へまんじ札を集めて回って頂くという基本的な内容は変わりませんが、今回は是非とも観光客の方々にも集めて回って頂きたいと考えております。その為に、魅力のあるまんじ札作りをしてゆこうと日々模索しております。

以上の事業により、会員拡大事業においては、地域のリーダーとなりえるような人物を入会へと導き、力強い団体への礎を築きます。新人研修事業では、「奉仕」・「友情」・「修練」を学んで頂くことにより、青年会議所の発展と地域に貢献する経済人への成長を促します。まんじ札事業では、世代を問わず市民や観光で訪れた方々が市内の様々な施設や店舗を訪ねて、弘前の文化や魅力に触

れてもらうことで、地域社会の活性化や発展に寄与して頂くことで、笑顔あふれる元気な街、弘前になれる事と思っております。

ヒロサキノチカラ発信委員会
委員長　齋　藤　拓　靖

〈事業計画〉

1．地域発展に寄与する事業の実施
（サクラノチカラプロジェクト）
2．地域の未来開発事業の実施（2014年度版Cross.S）

2014年度ヒロサキノチカラ発信委員会委員長を仰せつかりました、齋藤拓靖と申します。新人でありながら、初委員長且つ、事業系の委員会を任せていただいたことの重責に、改めて身が引き締まる思いです。失敗を恐れることなく、青年のパワー、弘前のパワーを遺憾無く発信していけるよう、まだまだ微力ではございますが、粉骨砕身取り組む所存ですので、何卒よろしくお願い申し上げます。

2014年度当委員会は2つの大きな事業を担い、運営を行ってまいります。1つ目は地域発展に寄与する事業といたしまして、サクラノチカラプロジェクトを行ってまいります。現在青森県内で約1,000人、全国では約20万人の子供たちが難病で苦しみながら、小さな体で必死に病と闘っており、その家族も自責の念や、孤独感に苛まれながらも、子供と一緒になって一生懸命戦っております。病に有効なのは何も高度医療や良薬ばかりでは無いと考えます。古より、日本人が心のよりどころとした、『サクラ』を見ることで心穏やかにし、明日への希望、困難に立ち向かう勇気を感じ取っていただき、この事業を行うことで、弘前が日本に、そして世界に誇る『サクラ』の可能性に一石を投じたいと考えております。同時に健常者が改めて、健康で日常を過ごすこと、健康で生まれたこと、つまり当たり前であることの『ありがたさ』を再認識し、『生きる』ことへの道しるべとなるよう取り組んでまいります。2つ目に2013年度白神山地世界自然遺産登録20周年を記念して、クラフト・フード・音楽を融合し、盛大に開催されたCross.Sを継承し、白神の玄関先である弘前が舞台となって、人と風土が交わり、思いあふれる事業を行ってまいります。2013年度は若年層をターゲットに開催されましたが、2014年度は各部門のプロフェッショナルを招集して、子供から大人まで老若男女が楽しみ、笑顔あふれ、白神の風を感じ、情あふれる、さくら色のまちを創るための一助となる事業にできるよう、頑張ってまいります。

最後にこの大きな事業を背負い、進める委員会として、委員会内の一致団結は勿論のこと、弘前青年会議所全メンバー間の連携を図り、ぶれる事無く、力強くガッチリとスクラムを組んで、ともに助け合い、成長できるよう進めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

ゆめ創造委員会
委員長　久　保　良　太

〈事業計画〉

1．あなたの「ゆめ」を応援しますプロジェクト
2．ちびっ子ねぷたのお通りだい
3．わんぱく相撲
4．新年祝賀会の企画・運営（副）
5．その他

ゆめ創造委員会は、「地域の子どもたちの夢開発事業の実施」「ちびっ子ねぷた事業の継続」「わんぱく相撲事業の検討」という青少年の育成を主とした役割があります。地域の次世代を担う希望に満ち溢れた子どもたちが「ゆめ」を描き、周囲の大人たちが共感・後押しが出来る環境を創出する事により、本気で「ゆめ」に向かって努力するというような意識変革に繋がる事を目的と致します。

ちびっ子ねぷた事業では、伝統ある弘前ねぷたまつりの後継者育成を目的とし地域の保育園等と連携をし、ねぷたの運行を行う。また、わんぱく相撲事業では日本の国技である相撲を通じて礼節や努力そして精神力を鍛える事を目的とし地区大会の開催、両国国技館での全国大会への引率などを行う。最後に、あなたの「ゆめ」を応援しますプロジェクトでは、思春期であり自分の現実が見え始めてくるであろう中学2年生を対象とした「ゆめ」の実態調査（アンケート方式）を行い、「ゆめ」作文を公募し友人・親御さん・学校の先生の前で発表をする場を提供して行きます。発表する事によって自らの「ゆめ」を自覚すると共に周囲と共有し合い、お互いに切磋琢磨していく環境になると考えます。また、子どもたちの「ゆめ」を後押しする環境づくりに関しては、見本となるべく地域の大人たちの意識を変革していく為に、目的に相応しい講師を外部よりお招きしての講演会を実施致します。周囲に尊敬し目標とすべき大人がいる環境になってこそ、次世代を担う子どもたちが本気で「ゆめ」を追い続ける事が出来るようになると確信し以上の事業を実施致します。

本事業により子どもたちが「ゆめ」に向かって努力する事の大切さ、「ゆめ」を探すことの楽しさなどを実感して頂き、自分に自信を持ち「やればできる」という自己肯定感を育成致します。

例会委員会
委員長　工　藤　順　敬

〈事業計画〉

1．例会の企画、運営
2．公開討論会の実施

当委員会の設置された目的、役割の主たるものは例会の企画、運営であり、例会を通して何にでも挑戦出来る行動力や、どんな境遇にも負けない強い覚悟と決断力を磨いてもらい、更には地域貢献や、お世話になっている家族や友人、メンバー等への感謝の気持ちを忘れない優しい心を持った逞しく、優しい立派なJayceeへと成長出来る機会をメンバーへ与えていきます。

具体的な取り組みとしては、様々な分野で活躍している講師による講話例会や、家族、友人、メンバーへ感謝の気持ちが表現できる例会を企画していきます。そして、例会の出席率の向上も促さなければならないので、楽しく、面白い例会も併せて企画していきます。

次に当委員会の設置された目的、役割として、4月に行なわれる弘前市長選挙における公開討論会の実施が挙げられます。市政への関心、選挙の投票率向上を促し、今後の弘前市の行末を任せられる最善な市長を有権者が選択出来る機会を与えていきます。

具体的な取り組みとしては、公開討論会を実施し、弘前市長選挙立候補予定者の政策や訴えを有権者に公開し、討論出来る場を当会から発信していきます。

これからの地域の未来を支えていく新たな世代の成長を促し、現在の地域をより良いものへと導いてくれるリーダー確立へのサポートをしていき、明るい豊かな社会を実現していきます。

地域連携委員会
委員長　葛　西　豊　喜

〈事業計画〉

1．わげものビジョン、ＨＩＲＯＳＡＫＩコミュニティーミーティングの意見を精査
2．精査したものをリストアップし、どの事業を行うべきか（もしくはどの問題点を解決すべきか）を公募（対象：弘前市民及び弘前に来訪したことがある方。方法：Ｗｅｂ、紙面アンケート）
3．意見を基に、実行する事業を決定
4．事業内容もしくは解決方法を公募（対象：弘前市民及び弘前に来訪したことがある方　方法：Ｗｅｂ、紙面アンケート）
5．事業内容考査・参加者公募（事業内容は持続可能な解決策を提案できるように善処する）

2012年度わげものビジョン、2013年度HIROSAKIコミュニティーミーティングにて市民の皆様から問題提起、解決案を伺いました。

我々は市民意識変革団体として、明るい豊かな弘前の未来創造の為に弘前市民、弘前に来訪したことのある方の意見を伺いながら、その意見を精査・選別・考査し、市民の皆様とともに事業化し､小さな運動がまちを変え、市民の意識を変えていく事を目的とします。

その目的を達成するために、たくさんいただいた「わげものビジョン」「ＨＩＲＯＳＡＫＩコミュニティーミーティング」の意見をすべて拝見し、すでに別な形で事業として行われていないか、実現可能な事業か、ある一定の企業・団体が受益されるものではないか等委員会にて様々な角度で精査致します。

精査したものをリストアップし、どの事業を行うべきか（もしくはどの問題点を解決すべきか）を弘前市民及び弘前に来訪したことがある方を対象として、基本的にはインターネット上で意見を公募する予定です。

いただいた意見を基に、実行する事業を委員会で決定し、その事業内容もしくは解決方法を再度弘前市民及び弘前に来訪したことがある方を対象として、基本的にはインターネット上で意見を公募する予定です。

いただいた意見を基に委員会で事業内容の考査をします（事業内容は持続可能な解決策を提案できるように善処致します）

その事業の参加者を公募し、市民の皆様とともに事業を実行してまいりたいと存じます。

これら一連の事業により、市民の皆様、弘前に来訪したことがある方に再度弘前の事を考えていただく機会となりまた、小さな運動がまちを変え市民の皆様の意識が変革していく事を信じております。

一年間どうぞよろしくお願い申し上げます。

監　事　鎌　田　法　丈

監事とは、法人・団体の保有財産及び理事の業務執行を監査する機関又は役職であります。公益社団法人となった当弘前青年会議所においては２年任期であり、今年度がその２年目になります。

昨年度は例会、理事会、総会において最後に時間をいただき皆さんに姿勢を正してもらい一言挨拶を述べさせていただきました。それとはもうひとつ、青年会議所の

活動、地域のイベントや全体事業として町ぐるみで参加している事業など多くにいちメンバーとして参加させていただきました。監事という役職に甘んじる事無く、多くのそういった活動に一緒に参加して、見て感じることでより多くの気づきを得られました。

今年度も引き続き、弘前JC活動の業務執行を表面的なものだけではなく、根本にあるより大事なものを見つめることができると思います。そして、それを言葉に発し次世代の青年に繋いでいきたいと思います。

監事 三上富裕

昨年同様、今年度も監事としてご承認頂いた三上と申します。近年、経済不安や国民の政治への不信などで迷走を続ける日本は東日本大震災からの復興、エネルギー問題、安全保障問題、領土問題などまだまだ数多くの問題、課題を抱える国において、我々に必要な事は先送りすることの出来ない問題を真摯に受け止め新しい震災後の時代を築く為に組織として進化しながら行動していかなければなりません。その為にはまず人作りとして我々弘前青年会議所のメンバー１人１人が覚悟と責任を持った行動力のあるJAYCEEになることがなにより必要だと感じております。今年度も監事としてこれからの弘前青年会議所を作る若い世代に先輩たちより受け継がれてきた大切なことを伝え、共に知恵を振り絞り微力ながらも弘前青年会議所運動に貢献することで監事としての職務を全うしていきたいと考えております。一年間どうぞよろしくお願いいたします。

2014年度　公益社団法人弘前青年会議所　職務分掌

★復興支援委員会　委員長

- 東日本大震災中長期復興支援の継続
  ～地域再生プロジェクトの検討～
- 卒業式の企画・運営
- その他

★ MUSUBIME委員会　委員長

- 会員拡大
- 新人研修の実施
- まんじ札事業の継続
- その他

★ヒロサキノチカラ発信委員会　委員長

- 地域の未来開発事業の実施
- りんご音楽祭事業の実
- その他

★ゆめ創造委員会　委員長

- 地域の子どもたちの夢開発事業の実施
  ・ちびっこねぷた事業の継続
  ・わんぱく相撲事業の検討
  ・新年祝賀会の企画・運営（副）
- その他

★例会委員会　委員長

- 例会の企画運営
- 公開討論会の実施
- 新年祝賀会の企画・運営（主）
- その他

★地域連携委員会　委員長

- 地域連携活性化事業の実施
- 新年祝賀会の企画・運営（主）
- その他の共益事業

★総務委員会　委員長

- 各種会議運営（総会・理事会等）
- 基本資料作成
- メンバーズリスト・名刺の作成
- アテンダンスポイント集計
- 新年祝賀会の企画・運営（補助）
- その他

★広報渉外委員会　委員長

- 各種大会総合窓口
- あおいりんごの作成
- 姉妹ＪＣ、友好都市の交流
- 新年祝賀会の企画・運営（補助）
- その他、広報渉外活動

★事務局長

- 事務局運営
- 各種関係団体窓口
- HP・FB総合管理
- 新年祝賀会の企画・運営（補助）
- 専務理事補佐
- 総務委員会、広報渉外委員会を統括
- その他

★財政局長

- 公認会計士窓口
- 外部監査対応
- 財政指導
- 会費の徴収
- 専務理事補佐
- 新年祝賀会の企画・運営（補助）
- その他

2014年度

公益社団法人弘前青年会議所

事　業　計　画

総務委員会

１．各種会議運営

●事業の内容：会員の資質・親睦向上事業
●職務分掌：各種会議運営（総会・理事会等）
●事業概要
趣　　旨（意義･目的）：定款及び諸規定に則り、会議の運営を円滑に行う。
内　　容（方法手段）：通常総会は年3回、通常理事会は月1回、臨時総会及び臨時理事会については随時定款に則り開催する。資料は定款に則り迅速に事前配信等を行う。
●年間ｽｹｼﾞｭｰﾙ：１月　通常総会
８月　通常総会
12月　通常総会
毎月　理事会の開催
●予　　算：¥0

２．基本資料・メンバーズリスト・名刺作成事業

●職務分掌：基本資料・メンバーズリスト・名刺作成
●事業概要
趣　　旨（意義･目的）：JCメンバーとしての運動および認識の共有に必要なツールとして基本資料・メンバーズリスト・名刺の作成を行う事で、事業活動をスムーズに行うことを目的とする。
内　　容（方法手段）：基本資料・メンバーズリスト・名刺の作成をする。基本資料に関しては必要な原稿をメンバーに依頼し、完成した基本資料はHPにアップし公益団体として組織の情報を公開する。作成したツールは各々のJC運動に役立てる。
財　　源：基本資料、メンバーズリストは管理費　名刺は自費負担
●年間ｽｹｼﾞｭｰﾙ：10月　原稿依頼
11月　校正作業
12月　校正作業
1月10日　完成
1月15日　新年祝賀会にて配布
●予　　算：¥200,000

３．アテンダンスポイント集計事業

●事業番号：他２
●事業の内容：本会の活動を活発にする事業
●職務分掌：アテンダンスポイントの集計
●事業概要
趣　　旨（意義･目的）：JC運動の充実を計る上で、メンバーの参加率向上は不可欠であり、メンバーの参加状況把握し､各種事業に参加を促すことで、より質の高いJC運動の展開を目的とする。
内　　容（方法手段）：・アテンダンスポイント報告書フォーマットを作成し、各委員会へ配布・各委員会（大会）案内のメール配信の際に、アテンダンスポイント集計表を同時に配信し、出席状況把握のスピードアップを図る
・委員会（大会）終了後、委員長には速やかに委員会の出席報告（アテンダンスポイント表に記入）を行ってもらう
・低ポイント者を各委員会に通知し、担当委員会にて出席を促す
財　　源：入会金及び会費
●事業の公益性：チェックポイント事業区分
●年間ｽｹｼﾞｭｰﾙ：・毎月10日を報告書提出期限として、前月分の集計結果を事務局に提出し、メンバーに配信
・年間総合獲得ポイント結果を、2015年1月の通常総会にて発表し、表彰する
●予　　算：¥10,000

広報渉外委員会

１．大会参加促進事業

●事業番号：他１
●事業の内容：会員の資質・親睦向上事業
●職務分掌：各種大会総合窓口
●事業概要
趣　　旨（意義･目的）：「明るい豊かな社会を築き上げる」ことを目的として掲げる弘前JCメンバーには、各種大会・セミナーに参加し、多くの知識を得てもらい、また、他LOMと交流することにより、各地の問題や解決策・取り組み等を学ぶ意義がある。そこで得た知識・情報を生かし、今後のJC運動に精力的に取り組んでもらうために、各種大会に参加してもらうことを目的とする。
内　　容（方法手段）：通知方法
メール・FAX・フェイスブック・その他
配信時期
東北大会以上の遠征が必要な大会は開催2ヶ月前
その他の大会においても1ヶ月前を原則に参加案内を配信する
財　　源：入会金及び会費

●年間スケジュール：予定月　主な行事予定
１月　京都会議（京都）
２月　青森ブロック新春名刺交歓会(八戸)
３月　復興創造フォーラム（いわき）
５月　全国城下町シンポジウム（熊本）
６月　ASPAC（山形）
７月　青森ブロック会員大会（十和田）
７月　斜里JC交流(津軽藩士殉難慰霊祭・斜里ねぷた)(斜里)
７月　サマーコンファレンス（横浜）
８月　尾島ねぷたまつり（太田市）
９月　東北青年フォーラム（酒田）
10月　全国会員大会（松山）
11月　JCI世界会議（ドイツ）

●予　　算：¥50,000

２．あおいりんご

●事業番号：他１

●事業概要

趣　　旨：あおいりんごは、メンバーや特別会員、関係協力団体へ、年間の事業・各種大会の予定や報告等を行う会報であり、他の委員会で行っている運動等をメンバー全員が把握し協力し合うためのツールでもある。
本事業では、JCの魅力がより分かりやすく伝わるような「あおいりんご」を作り、会員同士の情報共有や、新入会員の勧誘等に使える優れた会報誌を作ることを目的とする。

(意義･目的)

内　　容：発行回数は年間３～４回

(方法手段)　主な内容
・年間の事業や行事　　・新入会員紹介
・各種大会の予定、報告
送付先
・メンバー　　・特別会員

財　　源：入会金及び会費

●年間スケジュール：年3回～4回発行

●予　　算：¥200,000

復興支援委員会

１．復興支援事業

●事業番号：公２

●事業の内容：被災地復興支援事業

●職務分掌：東日本大震災中長期復興支援の継続～地域再生プロジェクトの検討～

●事業概要

趣　　旨：復興支援

(意義･目的)　東日本大震災の支援活動から３年目となり、徐々に被災地域は復興に進んでいる。東北(地域)再生の歩みとなるべく本事業は、今まで継続されてきた支援活動を再認識し、今後の支援活動が更なる復興へ繋がるよう、同じ東北の青年として心を一つにし情～Heart～を被災地域に届け、被災地域との交流・心のケアとなる場を創り未来の明るい豊かな東北を目指した、支援活動を目的とする。

内　　容：１　復興支援事業の対内外の窓口業務

(方法手段)　２　被災地への復興支援
３　大規模災害の窓口業務
４　その他事業に資する業務

財　　源：入会金及び会費、その他外部資金

●事業の種類：障害者若しくは生活困窮者又は事故、災害若しくは犯罪による被害者の支援を目的とする事業

別表の号：3

該当理由：本事業は、東日本大震災の被災地の１日も早い復興を支援することを目的とする。

●事業の公益性：

チェックポイント 事業区分	チェックポイントに 該当する旨の説明
１．事業目的（趣旨：不特定多数でない者の利益の増進への寄与を主たる目的に掲げていないかを確認する趣旨。）	1. 本事業は東日本大震災の被災地の１日も早い復興を支援することを目的とする。
2. 事業の合目的性（趣旨：事業の内容や手段が事業目的を実現するのに適切になっているかを確認する趣旨。）	
ア　受益の機会の公開（例　受益の機会が一般に公開されているか）	ア　本事業は東日本大震災の被災者一般を対象としている。また対象とする被災地は理事会において決定し、一般的な広報活動を行うため、一般に受益の機会が開かれている。
イ　事業の質を確保する方法（例　専門家が適切に関与しているか）	イ　被災者のニーズを把握し効果的な支援活動を行うため、被災地の担当者との連絡を密にし適切な活動を行う。
ウ　審査・選考の公正の確保（例　当該事業が審査・選考を伴う場合、審査・選考が公正に行われることになっているか）	ウ　本事業は審査・選考を行わない。
エ　その他（例　公益目的として設定した事業目的と異なり、業界団体の販売促進、共同宣伝になっていないか）	エ　なし

●年間スケジュール：１月～12月　随時
●予　　算：¥400,000

２．弘前JCメンバー卒業式

●事業番号：他１
●事業の内容：会員の資質向上事業
●職務分掌：卒業式の企画・運営
●事業概要　卒業式の企画・実施
趣　　旨（意義･目的）：これまでＪＣ運動を通して培った友情という財産、修練という経験を手に携えて卒業されるメンバーの門出を祝い、今後更なる活躍を祈念する。また我々も卒業生と共にしてきたＪＣ運動をさらに発展させる事を約束しメンバーが一丸となって行動する決意の場とする。
内　　容（方法手段）：40歳を迎え、ご卒業されるJCメンバーのために弘前青年会議所卒業式の企画、実施を行う。
財　　源：入会金及び会費、登録料収入
●年間スケジュール：10月～11月　卒業式企画立案
12月　卒業式実施
●予　　算　¥100,000

MUSUBIME委員会

１．人と人とを”結ぶ”MUSUBIME事業

●事業番号：他２
●事業の内容：会員拡大及び研修事業
●職務分掌：会員拡大
●事業概要
趣　　旨（意義･目的）：青年会議所運動が企業や地域へのメリットであると理解して頂き、地域のリーダーとなりえるような人物を入会へ導き、力強い団体への礎を築く。
内　　容（方法手段）：・前年度からの引き継ぎを元にリストを作成する。
・各委員会事業に参加し情報収集を行い、例会での呼びかけを合わせて勧める。
・新たな会員拡大の為の方法手段を模索する。
財　　源：入会金及び会費
●年間スケジュール：１月　新年祝賀会での情報収集・会員募集活動
２月　会員募集活動
３月　全体でのミーティング　会員募集活動
４月　会員募集活動
５月　会員募集活動
６月　会員募集活動
７月　会員募集活動
８月　会員募集活動
９月　会員募集活動
10月　会員募集活動
11月　会員募集活動
12月　次年度への引き継ぎ・総括
（年間目標入会数20名）
●予　　算：¥50,000

２．人と社会を”結ぶ”為のMUSUBIME研修事業

●事業番号：他２
●事業の内容：会員拡大及び研修事業
●職務分掌：新人研修の実施
●事業概要
趣　　旨（意義･目的）：新加入会員が入会後に率先して青年会議所運動を行う一助として研修事業を行い、理念・知識・精神を学ぶ事を目的とする。
内　　容（方法手段）：・JCIクリード･JCIミッション･JCIビジョン･JC宣言及び綱領･東北JC宣言を理解し、理念を修得する。
・年３回程度の研修を通して、青年会議所メンバーとしての基礎知識や、概念、歴史を学ぶ。
・「奉仕」・「友情」・「修練」の精神を学び、そのことを日々の生活や事業活動に生かし、地域社会への奉仕・貢献を行えるような精神を培う。
財　　源：入会金及び会費
●年間スケジュール：年３回程度の研修及び合宿
●予　　算：¥100,000

３．人と街を”結ぶ”MUSUBIMEまんじ札事業

●事業番号：公１
●事業の内容：地域社会の健全な発展を目的とする事業
●職務分掌：まんじ札事業の継続
●事業概要
趣　　旨（意義･目的）：まんじ札事業を通じ世代を問わず市民や観光で訪れた方々へ、市内の様々な店舗や施設を訪ねて弘前の文化や歴史にふれてもらうことにより、地域社会の活性化や発展に寄与し、元気な弘前を創造することを目的とする。
内　　容（方法手段）：・弘前の様々な施設にまんじ札を配布
・参加施設マップを弘前の様々な場所にへ設置
・参加施設マップを見ながらまんじ札を探し、収集してもらう
・全収集者には記念品を贈呈する
財　　源：入会金及び会費、その他外部資金
●事業の種類　地域社会の健全な発展を目的とする事業
別表の号：19
該当理由：本事業は、弘前に住む全世代及び弘前に観光で訪れた方などを中心に、弘前の文化･魅力を知り体験できる機会を設ける事により、地域社会の活性化、発展に寄与することを目的としており、「地域社会の健全な

発展を目的とする事業」に該当する。

●事業の公益性：

チェックポイント 事業区分	チェックポイントに 該当する旨の説明
上記の事業区分に該当しない場合区分ごとのチェックポイント	
1．事業目的（趣旨：不特定多数でない者の利益の増進への寄与を主たる目的に掲げていないかを確認する趣旨。）	1．本事業は、世代を問わずまんじ札を通して弘前の魅力、文化に触れてもらうことで、地域の文化及び様々な施設や商業を活性化を促すことにより、地域の健全な発展に寄与することを目的とする。
2．事業の合目的性（趣旨：事業内容や手段が事業目的を実現するのに適切なものになっているかを確認する趣旨。）	
ア　受益の機会の公開（例　受益の機会が、一般に公開されているか）	ア　本事業は参加者の募集を一般的に行い、また継続されている事業であることから、受益の機会は一般的に公開されている。
イ　事業の質を確保するための方策（例　専門家が適切に関与しているか）	イ　2012年度、2013年度において実施されている事業であることと、並びに過去に同様の事業を企画運営したものの助言を受けている。
ウ　審査・選考の公正性の確保（例　当該事業が審査・選考を伴う場合、審査・選考が公正に行われているか）	ウ　本事業は審査・選考は行わない。
エ　その他（例　公益目的として設定した事業目的と異なり、業界団体の販売促進、共同宣伝になっていないか）	エ　公益目的以外の目的設定がなされる余地はない。

●年間スケジュール：１月～３月（参加依頼店舗等のリスト化・その他準備作業）
４月～12月（事業開催予定期間）

●予　　算：¥300,000

ヒロサキノチカラ発信委員会

１．サクラノチカラ　プロジェクト（仮）

●事業番号：公１
●事業の内容：地域発展に寄与する事業
●職務分掌：地域の未来開発事業の実施
●事業概要
趣　　旨（意義･目的）：現在日本国内で約20万人（青森県内でも約1000人）の子供たちが難病を患い、小さな体で病と闘っている。その家族も自責の念にかられ、孤独感に苛まれながらも、必死になって子供と一緒に病と闘っている。病は気からといわれ、高度医療や、良薬ばかりでが治療ではない。古より、日本人が心のよりどころとした『サクラ』を観る事で希望を持ち、生きる勇気が湧き上がってくる。しかし､病を患っている為に『サクラ』を見る事の出来ない子供達もいる。その子供たちと､家族に『サクラ』を寄付する事で､『生きる』事への希望、そして病に立ち向かう勇気を持ってもらう。また、この事業を展開する事で『サクラ』の可能性を深化し、日本に誇る弘前の『サクラノチカラ』を世界に向けて発信する。
内　　容（方法手段）：『サクラ』を使ったチャリティー事業を弘前・県外等で実施し、ボランティア運動を実施する｡チャリティー運動で得た収益と、『サクラ』を難病を患った子供とその家族に寄付し、ボランティア運動も実施する事で、その家族の負担を軽減し、総合的にサポートする。
財　　源：入会金及び会費、その他外部資金
●事業の種類
別表の号：19　地域社会の健全な発展を目的とする事業
該当理由：事業を展開する事で『サクラ』の可能性を深化し、日本に誇る弘前の『サクラノチカラ』を通じて、人々に希望、勇気を創出することを目的とするため、本業に該当すると考える。

●事業の公益性：

チェックポイント 事業区分	チェックポイントに 該当する旨の説明
(8) キャンペーン､○○月間	キャンペーン
区分ごとのチェックポイント	
① 当該キャンペーンが不特定多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。	①本事業は、全国の難病指定に認定された、不特定多数の家族に、チャリティー事業で得た、収益を寄与することで、社会貢献を目的としている。
② 公益目的として設定されたテーマを実現するプログラムになっているか。（例：テーマで謳っている公益目的と異なり、業界団体の販売促進や共同宣伝になっていないか）	②本事業を行うことで、希望を創出する慈善事業となるため、販売促進・共同宣伝には当てはまらない。
③（要望・提案を行う場合には､）要望・提案の内容を公開しているか。	③本事業は要望、提案は行わない。

●年間スケジュール：
１月　市との調整
２月～３月　桜の枝収集
４月　桜の枝加工

5月　チャリティー事業
6月　サクラのメッセージ募集
7月　桜の植樹事業
7月～8月　ボランティア事業
10月～12月　報告資料作成

●予　　算：¥500,000

2．ヒロサキノチカラ発信事業（全体事業）

●事業番号：公1
●事業の内容：地域発展に寄与する事業
●職務分掌：りんご音楽祭事業の実施
●事業概要
趣　　旨：我々の根源は白神にあるととらえ、2013年度、日本初となる4つの世界自然遺産地域がつながりを持ち、個々の問題点を共有しあうことができ、弘前にとって近くて遠い白神を身近に感じるために食、音楽、ものづくりをテーマにCross. Sを開催することで風土と様々な世代がつながりを持つことができたと感じている。このつながりをさらに進化、発展させることでこの地域のみならず地域間においても支えあい、共有することで『ヒロサキノチカラ』を未来へ発信する。
（意義･目的）
内　　容：※環世界自然遺産サミット（仮）
（方法手段）　現状の問題点を各世界自然遺産地域と官・民が共同で話し合いの場を設ける。
※Cross.S（仮）
弘前の適所にて創（創作）･音（音楽）･食（食育）を融合させ、『ヒロサキノチカラ』を発信する。
※この2つの事業を全体事業とし、各部会を設け事業役割を明確にしていく。
財　　源：入会金及び会費、その他外部資金
●事業の種類　児童又は青少年の健全なる育成を目的とする事業
別表の号：19　地域社会の健全な発展を目的とする事業
該当理由：本事業は白神山地を知り、共生していくために弘前や白神山地のめぐみに関連したイベントを開催し、市民とともにプロモーションを行い、世界遺産白神山地を取り入れた『弘前ブランド』を日本全国に発信する事業となることから『地域社会の健全な発展を目的とする事業』とすることが言える。

●事業の公益性：

チェックポイント 事業区分	チェックポイントに 該当する旨の説明
（18）上記の事業区分に該当しない場合	
区分ごとのチェックポイント	
1.事業目的（趣旨:不特定多数でない者の利益の増進へ寄与を主たる目的に掲げていないかを確認する趣旨）	1.本事業は、弘前市の観光客の増加を図ることにより、地域社会の健全な発展に寄与することを目的としている。
2.事業の合目的性（趣旨:事業の内容や手段が事業目的を実現するのに適切なものになっているかを確認する趣旨。）	2．
ア　受益の機会の公開（例　受益の機会が、一般に開かれているか）	ア　本事業における受益者は弘前市民や観光客などの不特定多数であり、入場の制限は特に設けないことから受益の機会は一般に開かれていると言える。
イ　事業の質を確保するための方策（例　専門家が適切に関与してるか）	イ　白神山地の知識については勉強会等を開き技術的な専門家も交えて行う。
ウ　審査・選考の公正性の確保（例　当該事業が審査選考を伴う場合、審査選考が公正に行われることとなっているか）	ウ　本事業は審査・選考を行わない。
エ　その他（例公益的として設定した事業目的と異なり、業界団体の販売促進、共同宣伝になっていないか）	エ　なし

●年間ｽｹｼﾞｭｰﾙ：適宜に開催　環自然遺産サミット
9～10月　Cross.S開催
●予　　算：¥1,100,000

ゆめ創造委員会

1．あなたの「ゆめ」を応援しますプロジェクト

●事業番号：公2
●事業の内容：青少年育成事業
●職務分掌：地域の子どもたちの夢開発事業の実施
●事業概要
趣　　旨：「ゆめ」を実現する為に努力していた小学生が、成長するにつれ本気で目指すことが出来ない現状がある。本事業では、次世代を担う子どもたちが表現を通じて自分の「ゆめ」や希望を自覚し共有させると共に、周囲の大人が子どもの「ゆめ」に共感、後押しする環境を創り、希望に満ち溢れた子どもたちの自己肯定感を育成する事を目的とする。
（意義･目的）
内　　容：市内の中学2年生より公募した「ゆめ」作文の発表の場などを提供する。
（方法手段）　事業概要に適した講師を招き、講演会を実施する。

財　　源：入会金及び会費、その他外部資金

●事業の種類　児童又は青少年の健全なる育成を目的とする事業

別表の号：7

該当理由：本事業は「ゆめ」をもった子どもたちが、表現を通じて「ゆめ」を自覚・共有すると共に、周囲の大人たちがその「ゆめ」を後押しする環境を創出する事により次世代を担う子どもたちの自己肯定感を養う事を目的としているため、「児童又は青少年の健全なる育成を目的とする事業」に該当する。

●事業の公益性：

チェックポイント 事業区分	チェックポイントに 該当する旨の説明
(18)上記の事業区分に該当しない場合	
区分ごとのチェックポイント	
①事業目的（趣旨：不特定多数でない者の利益の増進への寄与を主たる目的に掲げていないかを確認する趣旨。）	①本事業は次世代を担う子どもたちが「ゆめ」を自覚・共有し自己肯定感を育成する事が目的である。
②事業の合目的性（趣旨：事業の内容や手段が事業目的を実現するのに適切なものになっているかを確認する趣旨。）	②
ア、受益の機会の公開（例受益の機会が、一般に開かれているか）	ア、本事業の受益者は参加する子どもたちであり、受益の機会が一般に開かれている。
イ、事業の質を確保するための方策（例専門家が適切に関与しているか）	イ、弘前市教育委員会の協力を頂きながら事業運営をする。
ウ、審査・選考の公正性の確保（例当該事業が審査・選考を伴う場合、審査・選考が公正に行われることとなっているか）	ウ、本事業は審査、選考を行わない。
エ、その他（例公益目的として設定した事業目的と異なり、業界団体の販売促進、共同宣伝になっていないか）	エ、なし

●年間スケジュール：12月～３月　「ゆめ」実態調査（中学生へアンケート）
４月～６月　「ゆめ」作文の公募開始
７月～10月　「ゆめ」作文の発表会や講演会を実施

●予　　算：¥1,100,000

２．ちびっ子ねぷたのお通りだい

●事業番号：公２

●事業の内容：青少年育成事業

●職務分掌：ちびっ子ねぷた事業の継続

●事業概要

趣　　旨（意義･目的）：弘前ねぷたまつりのオープニングイベントとして開催する事により、子どもたちへ思い出作りの機会を提供するとともに、伝統ある弘前ねぷたの後継者育成を目的とし行う。

内　　容（方法手段）：「ちびっ子ねぷたのお通りだい」の運営

財　　源：入会金及び会費

●事業の種類　児童又は青少年の健全な育成を目的とする事業

別表の号：7

該当理由：伝統ある弘前ねぷたまつりの後継者を育成するとともに、仲間や家族と参加した良き思い出創りを目的としている為、本事業は「児童又は青少年の健全な育成を目的とする事業」に該当する。

●事業の公益性：

チェックポイント 事業区分	チェックポイントに 該当する旨の説明
上記の事業区分に該当しない場合	
区分ごとのチェックポイント	
①事業目的（趣旨：不特定多数でない者の利益の増進への寄与を主たる目的に掲げていないかを確認する趣旨。）	①本事業は次の時代を担う子ども達が、ちびっ子ねぷたを通して良き思い出づくりをし、弘前ねぷたの後継者を育成する事を目的としている。
②事業の合目的性（趣旨：事業の内容や手段が事業目的を実現するのに適切なものになっているかを確認する趣旨。）	
ア：受益の機会の公開（例 受益の機会が、一般に開かれているか）	ア：本事業の直接の受益者は、本事業に参加する若い世代の子どもたちであり受益の機会が一般に開かれている。
イ：事業の質を確保するための方策（例 専門家が適切に関与しているか）	イ：事業運営のバックアップについてノウハウのある者が関与し、過去に事業を経験した者の助言や協力を得ている。
ウ：審査・選考の公正性の確保（例 当該事業が審査・選考を伴う場合、審査・選考が公正に行われることとなっているか）	ウ：本事業は、審査・選考を伴わない。
エ：その他（例 公益目的として設定した事業目的と異なり、業界団体の販売促進、共同宣伝になっていないか。）	エ：特定の団体や業界の利益を図るものではない。

●年間スケジュール：１月～６月　ちびっ子ねぷた実行委員会への出向、準備
２月　第1回目会議（予定）
７月末　ちびっ子ねぷたの運行

●予　　算：¥50,000

３．わんぱく相撲

●事業番号：公２
●事業の内容：青少年育成事業
●職務分掌：わんぱく相撲事業の検討
●事業概要
趣　　旨：わんぱく相撲の歴史と伝統を絶やすことなく、後世にその誇りを受け継いでいくために、国技である相撲を通じ、礼節や努力、伝統や思いやりといった、将来の社会生活に必要な精神・知識を学んでもらうことを目的としてこの事業を行う。
（意義･目的）
内　　容：関係諸団体と協議し、わんぱく相撲事業を運営する。
（方法手段）
財　　源：入会金及び会費
●事業の種類　児童又は青少年の健全なる育成を目的とする事業
別表の号：7
該当理由：子どもたちがわんぱく相撲を通じ、礼節や努力、伝統や思いやりといった将来の社会生活に必要な精神を学ぶ事を目的としている為、本事業は「児童又は青少年の健全なる育成を目的とする事業」に該当する。

●事業の公益性：

チェックポイント 事業区分	チェックポイントに 該当する旨の説明
（15）競技会	【わんぱく相撲】
区分ごとのチェックポイント	
１．当該競技会が不特定多数の者の利益の増進に寄与する事を目的ととして位置づけ、適当な方法で明らかにしているか。	１．本事業は不特定多数の青少年に相撲を通じ健全な心身の発達と、礼節や努力、伝統や思いやり等将来の社会生活に必要な特性を育てる事を目標とし広く告知している。
２．公益目的として設定した趣旨に沿った競技会となっているか。（例：親睦会のような活動にとどまっていないか）	２．児童又は青少年の健全な育成を目的とした競技会となっている。
３．出場者の選定や競技会の運営について公正なルールを定め、公表しているか。	３．わんぱく相撲大会の公正なルールを定め公表している。

●年間スケジュール：5月～6月　わんぱく相撲地区大会
7月～8月　わんぱく相撲全国大会
●予　　算：¥70,000

例会委員会

１．例会の企画、運営

●事業番号：他１
●事業の内容：会員の資質・親睦向上事業
●職務分掌：例会の企画、運営
●事業概要　例会の企画、運営
趣　　旨：何にでも挑戦出来る行動力や、どんな境遇にも負けない強い覚悟と決断力を磨き、地域貢献や、お世話になっている家族や友人、メンバー等への感謝の気持ちを忘れない優しい心を養い、逞しく、優しい立派なJAYCEEへと成長出来る機会をメンバーへ与える。
（意義･目的）
内　　容：研修会等の実施
（方法手段）　メンバー等でのディスカッションの実施
地域、メンバー、家族に向けた企画実施
その他(年頭にメンバーへ例会アンケートの実施等)
財　　源：入会金及び会費

●年間スケジュール：１月　通常総会　―
２月　例会の企画、運営　例会委員会
３月　例会の企画、運営
ゆめ創造、MUSUBIME委員会
４月　例会の企画、運営　例会委員会
５月　例会の企画、運営
復興支援、総務委員会
６月　例会の企画、運営　例会委員会
７月　例会の企画、運営
広報渉外、ヒロサキノチカラ発信委員会
８月　通常総会　―
９月　例会の企画、運営　例会委員会
10月　例会の企画、運営
地域連携、例会委員会
11月　例会の企画、運営　例会委員会
12月　通常総会　―
※上記担当委員会は案です。
※懇親会はメインタイム担当の委員会が担当する。
●予　　算：¥600,000

２．弘前市長選挙公開討論会

●事業番号：公１
●事業の内容：地域社会の健全な発展を目的とする事業
●職務分掌：弘前市長選挙公開討論会の企画、運営
●事業概要　弘前市長選挙公開討論会の企画、運営
趣　　旨：弘前市長選挙立候補予定者の政策や訴え等を公開、討論出来る場を弘前JCから有権者へ提供し、市政への関心、選挙の投票率向上を促し、今後の弘前市の将来を任せられる最善な市長を有権者が選出出来る機会を提供する。
（意義･目的）
内　　容：①立候補予定者による演説(案)
（方法手段）　②事前テーマによる演説と質疑応答(案)
③締めくくりの市民への訴え(案)
財　　源：入会金及び会費（案）
●事業の種類　19
別表の号：地域社会の健全な発展を目的とする事業

該当理由：当事業は選挙前に立候補予定者毎の政策や訴えを市民へ向けて発信し、市民はこれをうけ地域社会の発展に携わる新たな市長を選考する。新たな市長は地域社会の発展に寄与するので、当事業は「地域社会の健全なる発展を目的とする事業」に該当すると考えられる。

●事業の公益性：

チェックポイント 事業区分	チェックポイントに 該当する旨の説明
上記の事業区分に該当しない場合	
区分ごとのチェックポイント	
①事業目的（趣旨：不特定多数でない者の利益の増進への寄与を主たる目的に掲げていないかを確認する趣旨。）	①当事業は立候補予定者が政策や訴え等を公開で討論する場を与え、市民の政治への関心や投票率の向上を促すことを目的としている。
②事業の合目的性（趣旨：事業の内容や手段が事業目的を実現するのに適切なものになっているかを確認する趣旨。）	
ア、受益の機会の公開（例受益の機会が、一般に開かれているか）	ア、当事業は公開で行なわれるため、受益の機会が一般に開かれている。
イ：事業の質を確保するための方策（例 専門家が適切に関与しているか）	イ、当事業は外部協力者が関与し、バックアップを受けながら行なう。
ウ、審査・選考の公正性の確保（例当該事業が審査・選考を伴う場合、審査・選考が公正に行われることとなっているか）	ウ、当事業は、審査・選考を伴わない。
エ、その他（例公益目的として設定した事業目的と異なり、業界団体の販売促進、共同宣伝になっていないか）	エ、なっていない

●年間ｽｹｼﾞｭｰﾙ：1月　討論会準備
2月　同上
3月　弘前市長選挙公開討論会実施
4月　弘前市長選挙

●予　　算：¥200,000

地域連携委員会

1．わげものビジョン及びHIROSAKIコミュニティーミーティングの事業化（仮称）

●事業番号：公1

●事業の内容：地域発展推進事業の実施

●職務分掌：地域連携活性化事業の実施

●事業概要　2012年度わげものビジョン、2013年度
趣　　旨：HIROSAKIコミュニティーミーティング
（意義･目的）　にて市民の皆様から問題提起、解決案を伺いました。
我々は市民意識変革団体として、明るい豊かな弘前の未来創造の為に弘前市民、弘前に来訪したことのある方の意見を伺いながら、その意見を精査・選別・考査し、市民の皆様とともに事業化し、小さな運動がまちを変え、市民の意識を変えていく事を目的とします。

内　　容：1．わげものビジョン、ＨＩＲＯＳＡＫＩ
（方法手段）　コミュニティーミーティングの意見を精査します。
2．精査したものをリストアップし、どの事業を行うべきか（もしくはどの問題点を解決すべきか）を公募します。
（対象：弘前市民及び弘前に来訪したことがある方。方法：Ｗｅｂ、紙面アンケート）
3．意見を基に、実行する事業を決定
4．事業内容もしくは解決方法を公募
（対象：弘前市民及び弘前に来訪したことがある方　方法：Ｗｅｂ、紙面アンケート）
5．事業内容考査（事業内容は持続可能な解決策を提案できるように善処する）
6．参加者を公募
7．事業実行

財　　源：入会金及び会費、助成金等

●事業の種類

別表の号：19 地域社会の健全な発展を目的とする事業

該当理由：本事業は、わげものビジョン及びHIROSAKIコミュニティーミーティングに参加した弘前市民及び弘前周辺市町村民が提起した、「弘前市の問題」を解決することを目指し、意見を精査・選別・考査を弘前市民及び弘前に来訪したことがある方々に意見を伺いながら、青年会議所が解決策を考慮し、その考案した解決策を弘前市民及び弘前周辺市町村民が一緒に実現することを目的とするため、地域社会の健全な発展を目的とする事業として該当すると考えます。

●事業の公益性：

チェックポイント 事業区分	チェックポイントに 該当する旨の説明
上記の事業区分に該当しない場合	
区分ごとのチェックポイント	

1. 事業目的（趣旨：不特定多数でない者の利益の増進への寄与を主たる目的に掲げていないかを確認する趣旨。）	1.本事業は弘前市民及び弘前市周辺市町村民の積極的な活動を支援するものであり、地域社会の健全な発展を目的としている。
2. 事業の合目的性（趣旨：事業の内容や手段が事業目的を実現するのに適切なものになっているかを確認する趣旨。）	
ア　受益の機会の公開（例受益の機会が、一般に開かれているか）	ア　本事業の受益者は、弘前市民及び弘前市周辺市町村民であり、また意見の公募は弘前市民及び弘前に来訪したことがある方に伺うため、一般に開かれていると考えます。
イ　事業の質を確保するための方策（例専門家が適切に関与しているか）	イ　事業化するにあたり、専門知識が必要な場合は専門家を実行委員に入れて活動する。
ウ　審査・選考の公正性の確保（例当該事業が審査・選考を伴う場合、審査・選考が公正に行われることとなっているか）	ウ　本事業は、審査・選考を伴わない。
エ　その他（例公益目的として設定した事業目的と異なり、業界団体の販売促進、共同宣伝になっていないか）	エ　なし

●年間ｽｹｼﾞｭｰﾙ：１月　精査・実際に事業化可能かどうか等の検討スタート
２月頃　リストアップ・選別（選別についてはＷｅｂ・一部紙面にてアンケートを予定）
３月頃　実行する事業を決定・事業内容考査スタート
４月頃　事業内容の意見を公募（公募方法はＷｅｂ・一部紙面にてアンケートを予定）
５月頃　事業内容決定
７月頃　参加者募集
10月頃まで　事業実行
（但し、季節性の強い事業等の場合は実施する時期が前後する場合があります）

●予　　算：¥300,000

２．新年祝賀会の企画・運営

●事業番号：他１
●事業の内容：会員の資質・親睦向上事業
●職務分掌：新年祝賀会の企画・運営
●事業概要　新年祝賀会の企画・運営
趣　　旨：2014年度の全メンバー及び新理事長、新役員理事をお披露目し､2014年度の方向性を、周知する事を目的とする。
（意義･目的）
内　　容：来賓、特別会員、関係諸団体、JC関係者を招待し新年祝賀会式典・祝賀会を開催する。
（方法手段）
財　　源：入会金及び会費・登録料収入　等

●年間ｽｹｼﾞｭｰﾙ：【役割分担】
・地域連携・例会委員会
（新年祝賀会式典･祝賀会の統括管理運営）
発送先”リスト”作成、席順原案作成
・ゆめ創造委員会
（新年祝賀会での余興の企画運営）
・総務委員会及び財政局長
・当日の受付金管理運営
・お礼状の発送
・広報渉外委員会
・発送先”案内状”作成発送取りまとめ
【スケジュール】
10月中　案内発送先リスト作成、案内文の作成
11月中　案内発送先リスト確定、案内文の確定
11月中　新年祝賀会式典・祝賀会の内容の選定
12月中　案内状の発送及び出席者の確定
12月中　新年祝賀会式典・祝賀会の内容の確定及び役割分担、タイムテーブルの確定
12月中　会場との打ち合わせ及び備品リスト等の確認
1月上旬　会場と最終打ち合わせ
1月上旬　新年祝賀会最終審議
1月15日　新年祝賀会開催
１月中　お礼状の発送

●予　　算：¥700,000

2014年度

公益社団法人弘前青年会議所

予　算　書　類

正味財産増減１次修正予算書

公益社団法人弘前青年会議所
2014年度

自 2014年１月１日～至 2014年12月31日　（単位：円）

科目	当年度	前年度	増減	備考
Ⅰ 一般正味財産増減の部				
1．経常増減の部				
（1）経常収益				
①特定資産運用益	0	0	0	
特定資産受取利息	0	0	0	
特定資産受取配当金	0	0	0	
特定資産受取賃貸料	0	0	0	
②受取入会金	400,000	560,000	−160,000	
受取入会金	400,000	560,000	−160,000	新加入会員　￥20,000×20名（案）
③受取会費	10,597,500	9,450,000	1,147,500	
正会員会費	8,167,500	7,020,000	1,147,500	￥135,000×60名　¥67,500×1名
特別会員会費	1,080,000	540,000	540,000	￥135,000×8名
賛助会員会費	0	0	0	
新入会員会費	1,350,000	1,890,000	−540,000	￥67,500×20名（入会月未定のため半年で試算）
④事業収益	700,000	0	700,000	
登録料収益	700,000	0	700,000	新年祝賀会登録料
懇親会費収益	0	0	0	
広告料収益	0	0	0	
販売収益	0	0	0	
事務局受託収益	0	0	0	
雑収益	0	0	0	
⑤受取補助金等	15,000,000	4,654,000	10,346,000	
受取国庫補助金	0	0	0	
受取地方公共団体補助金	0	0	0	
受取民間補助金	0	0	0	
受取国庫助成金	0	0	0	
受取地方公共団体助成金	15,000,000	0	15,000,000	りんご音楽祭分,地域連携活性化事業
受取民間助成金	0	4,654,000	−4,654,000	JCねぶた4,654,000円（むつ小川原財団）
受取補助金等振替額	0	0	0	
⑥受取負担金	0	0	0	
受取負担金	0	0	0	
受取負担金振替額	0	0	0	
⑦受取寄付金	0	466,000	−466,000	
受取寄付金	0	466,000	−466,000	JCねぶた（企業協賛金として）
募金収益	0	0	0	
受取寄付金振替額	0	0	0	
⑧雑収益	2,000	2,000	0	
受取利息	2,000	2,000	0	
雑収益	0	0	0	
経常収益計	26,699,500	15,132,000	11,567,500	
（2）経常費用				
①事業費	23,402,384	12,298,973	11,103,411	
事業費	0	0	0	
1 給料手当	972,000	672,000	300,000	
2 退職給付費用	0	0	0	
3 福利厚生費	3,360	3,360	0	
4 会議費	377,000	492,000	−115,000	
5 旅費交通費	1,970,000	458,500	1,511,500	
6 通信運搬費	648,000	378,000	270,000	
7 消耗什器備品費	800,000	3,000,000	−2,200,000	
8 消耗品費	2,910,000	356,000	2,554,000	
9 会員支給品費	40,000	0	0	
10 修繕費	24,000	16,000	8,000	
11 印刷製本費	2,578,000	1,392,000	1,186,000	
12 広報費	1,910,000	160,000	1,750,000	
13 燃料費	130,000	180,000	−50,000	
14 光熱水料費	142,000	162,000	−20,000	
15 賃借料	2,823,600	2,975,100	−151,500	
16 保険料	75,000	80,000	−5,000	
17 諸謝金	5,850,000	950,000	4,900,000	
18 租税公課	0	0	0	
19 渉外費	300,000	200,000	100,000	
20 委託費	170,000	150,000	20,000	
21 記念品費	804,000	120,000	684,000	
22 衛生費	310,000	0	310,000	
23 雑費	565,424	554,013	11,411	
24 寄付金	0	0	0	
②管理費	3,297,116	2,833,027	464,089	
1 給料手当	168,000	168,000	0	
2 退職給付費用	0	0	0	
3 福利厚生費	840	840	0	
4 会議費	28,000	28,000	0	各種会議
5 旅費交通費	50,000	0	50,000	
6 通信運搬費	60,000	50,000	10,000	通話料・通信料・発送費・HP管理等費用
7 消耗什器備品費	20,000	0	20,000	
8 消耗品費	20,000	14,000	6,000	
9 会員支給品費	80,000	80,000	0	認証書、バッジ、ネームプレート等
10 修繕費	6,000	4,000	2,000	

11	印刷製本費	300,000	100,000	200,000	基本資料、メンズリ、新定款
12	広報費	229,000	200,000	29,000	
13	燃料費	30,000	20,000	10,000	事務局灯油代
14	光熱水料費	28,000	28,000	0	
15	賃借料	128,400	128,400	0	事務局家賃、コピー機リース料
16	保険料	10,000	0	10,000	
17	諸謝金	30,000	0	30,000	
18	租税公課	30,000	30,000	0	
19	渉外費	300,000	300,000	0	慶弔費、諸会費、渉外費(お祝いお酒)
20	委託費	410,000	410,000	0	
21	記念品費	30,000	0	30,000	
22	衛生費	30,000	20,000	0	除雪費
23	雑費	83,856	78,503	5,353	新聞、振込手数料、感謝状、等
24	寄付金	0	0	0	
26	支払負担金	1,225,020	1,173,284	51,736	
27	国際青年会議所負担金	53,520	46,384	7,136	¥892×60名
28	日本青年会議所負担金	882,000	876,000	6,000	欄外記入→
29	国際協力資金	109,500	94,900	14,600	¥1,825×60名
30	We Believe購読料	180,000	156,000	24,000	¥3,000×60名
	経常費用計	**26,699,500**	**15,132,000**	**11,567,500**	
	評価損益等調整前当期経常増減額	0	0	0	
	①基本財産評価損益等	**0**	**0**	**0**	
	②特定資産評価損益等	**0**	**0**	**0**	
	③投資有価証券評価損益等	**0**	**0**	**0**	
	評価損益等計	**0**	**0**	**0**	
	当期経常増減額	**0**	**0**	**0**	
2. 経常外増減の部			**0**	**0**	
(1)経常外収益					
①固定資産売却益		**0**	**0**	**0**	
建物売却益		0	0	0	
車両運搬具売却益		0	0	0	
什器備品売却益		0	0	0	
土地売却益		0	0	0	
借地権売却益		0	0	0	
電話加入権売却益		0	0	0	
②固定資産受贈益		**0**	**0**	**0**	
土地受贈益		0	0	0	
投資有価証券受贈益		0	0	0	
経常外収益計		**0**	**0**	**0**	
(2)経常外費用			**0**	**0**	
①固定資産売却損		**0**	**0**	**0**	
建物売却損		0	0	0	
車両運搬具売却損		0	0	0	
什器備品売却損		0	0	0	
土地売却損		0	0	0	
借地権売却損		0	0	0	
電話加入権売却損		0	0	0	
②固定資産除却損		**0**	**0**	**0**	
土地減損損失		0	0	0	
投資有価証券減損損失		0	0	0	
③災害損失		**0**	**0**	**0**	
災害損失		0	0	0	
経常外費用計		**0**	**0**	**0**	
当期経常外増減額		0	0	0	
他会計振替額		0	0	0	
当期一般正味財産増減額		0	0	0	
一般正味財産期首残高		1,109,153	**0**	**0**	
一般正味財産期末残高		1,109,153	0	0	
Ⅱ 指定正味財産増減の部					
①受取補助金等		**0**	**0**	**0**	
受取国庫補助金		0	0	0	
受取地方公共団体補助金		0	0	0	
受取民間補助金		0	0	0	
受取国庫助成金		0	0	0	
受取地方公共団体助成金		0	0	0	
受取民間助成金		0	0	0	
②受取負担金		**0**	**0**	**0**	
受取負担金		0	0	0	
③受取寄付金		**0**	**0**	**0**	
受取寄付金		0	0	0	
④固定資産受贈益		**0**	**0**	**0**	
土地受贈益		0	0	0	
投資有価証券受贈益		0	0	0	
⑤基本財産評価益		**0**	**0**	**0**	
基本財産評価益		0	0	0	
⑥特定資産評価益		**0**	**0**	**0**	
特定資産評価益		0	0	0	
⑦基本財産評価損		**0**	**0**	**0**	
基本財産評価損		0	0	0	
⑧特定資産評価損		**0**	**0**	**0**	
特定資産評価損		0	0	0	
⑨一般正味財産への振替額		**0**	**0**	**0**	
一般正味財産への振替額		0	0	0	
当期指定正味財産増減額		0	0	0	
指定正味財産期首残高		**1,109,153**	**0**	**0**	
指定正味財産期末残高		**1,109,153**	**0**	**0**	
Ⅲ 正味財産期末残高		**1,109,153**	**0**	**0**	

日本¥5,000×60名+¥45,000＝305,000
地区¥1,500×60名+¥5,000+¥10,000×1名(出向)＝93,000
ブロック¥5,000×60名+¥20,000+¥7,000×14名(出向)＝378,000

正味財産増減予算書内訳書

公益社団法人弘前青年会議所
2014年度

自 2014年 1 月 1 日～至 2014年12月31日　（単位：円）

科目名	公益目的事業会計					収益事業等会計				法人会計	内部取引消去	合計	2013年度当初予算	差異	【ご参考】 備 考
	地域発展推進事業	青少年育成事業	東日本復興支援事業	共通	小計	資質親睦向上事業	会拡研修事業	共通	小計						
	公1	公2	公3			他1	他2								
Ⅰ　一般正味財産増減の部															
1．経常増減の部															
（1）経常収益															
①特定資産運用益	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	
特定資産受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
特定資産受取配当金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
特定資産受取賃貸料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
②受取入会金	**0**	**0**	**0**	**120,000**	**120,000**	**0**	**0**	**80,000**	**80,000**	**200,000**	**0**	**400,000**	**300,000**	**100,000**	
受取入会金	0	0	0	120,000	120,000	0	0	80,000	80,000	200,000	0	400,000	300,000	100,000	新加入会員　￥20,000×20名（案）
③受取会費	**0**	**0**	**0**	**3,179,250**	**3,179,250**	**0**	**0**	**2,119,500**	**2,119,500**	**5,298,750**	**0**	**10,597,500**	**9,382,500**	**1,215,000**	
正会員会費	0	0	0	2,450,250	2,450,250	0	0	1,633,500	1,633,500	4,083,750	0	8,167,500	7,560,000	607,500	￥135,000×60名
特別会員会費	0	0	0	324,000	324,000	0	0	216,000	216,000	540,000	0	1,080,000	810,000	270,000	￥135,000×8名
賛助会員会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
新入会員会費	0	0	0	405,000	405,000	0	0	270,000	270,000	675,000	0	1,350,000	1,012,500	337,500	￥67,500×20名（入会月未定のため半年で試算）
④事業収益	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**700,000**	**0**	**0**	**700,000**	**0**	**0**	**700,000**	**3,100,000**	**−2,400,000**	
登録料収益	0	0	0	0	0	700,000	0	0	700,000	0	0	700,000	500,000	200,000	
懇親会費収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	600,000	−600,000	
広告料収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
販売収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,000,000	−2,000,000	
事務局受託収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
雑収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⑤受取補助金等	**15,000,000**	**0**	**0**	**0**	**15,000,000**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**15,000,000**	**3,500,000**	**11,500,000**	
受取国庫補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
受取地方公共団体補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	500,000	−500,000	
受取民間補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
受取国庫助成金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
受取地方公共団体助成金	15,000,000	0	0	0	15,000,000	0	0	0	0	0	0	15,000,000	1,000,000	14,000,000	
受取民間助成金	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	2,000,000	−2,000,000	JCねぶた4,654,000円（むつ小川原財団）
受取補助金等振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⑥受取負担金	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	0	0	
受取負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
受取負担金振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⑦受取寄付金	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	0	0	
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	JCねぶた（企業協賛金として）
募金収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
受取寄付金振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⑧雑収益	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**2,000**	**0**	**2,000**	150,000	−148,000	
受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,000	0	2,000	2,000	0	
雑収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	148,000	−148,000	ご祝儀、JCIカード手数料還元等
経常収益計	**15,000,000**	**0**	**0**	**3,299,250**	**18,299,250**	**700,000**	**0**	**2,199,500**	**2,899,500**	**5,500,750**	**0**	**29,699,500**	**16,432,500**	10,267,000	
（2）経常費用															
①事業費	**17,400,000**	**1,220,000**	**400,000**	**1,807,740**	**20,827,740**	**1,850,000**	**160,000**	**964,644**	**2,774,644**	**0**	**0**	**23,402,384**	**13,381,456**	**10,020,928**	
事業費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1　給料手当	300,000	0	0	420,000	720,000	0	0	252,000	252,000	0	0	972,000	1,780,000	−808,000	配賦基準表参照　A
2　退職給付費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	57,600	−57,600	配賦基準表参照　B
3　福利厚生費	0	0		2,100	2,100	0	0	1,260	1,260	0	0	3,360	200,000	−196,640	配賦基準表参照　C
4　会議費	240,000	20,000	0	70,000	330,000	0	5,000	42,000	47,000	0	0	377,000	108,800	268,200	配賦基準表参照　D
5　旅費交通費	1,630,000	90,000	200,000	0	1,920,000	50,000	0	0	50,000	0	0	1,970,000	1,200,000	770,000	
6　通信運搬費	310,000	20,000	0	150,000	480,000	60,000	18,000	90,000	168,000	0	0	648,000	651,000	−3,000	配賦基準表参照　E
7　消耗什器備品費	800,000	0	0	0	800,000	0	0	0	0	0	0	800,000	100,000	700,000	
8　消耗品費	2,750,000	30,000	0	50,000	2,830,000	50,000	0	30,000	80,000	0	0	2,910,000	556,000	2,354,000	配賦基準表参照　F
9　会員支給品費	0	0	0	0	0	0	40,000	0	40,000	0	0	40,000	0	40,000	
10　修繕費	0	0	0	15,000	15,000	0	0	9,000	9,000	0	0	24,000	16,000	8,000	
11　印刷製本費	1,380,000	180,000	20,000	250,000	1,830,000	590,000	8,000	150,000	748,000	0	0	2,578,000	1,366,200	1,211,800	配賦基準表参照　G
12　広報費	1,560,000	250,000	0	0	1,810,000	100,000	0	0	100,000	0	0	1,910,000	850,000	1,060,000	
13　燃料費	50,000	0	0	50,000	100,000	0	0	30,000	30,000	0	0	130,000	80,000	50,000	
14　光熱水料費	30,000	0	0	70,000	100,000	0	0	42,000	42,000	0	0	142,000	112,000	30,000	配賦基準表参照　H
15　賃借料	1,500,000	330,000	0	321,000	2,151,000	450,000	30,000	192,600	672,600	0	0	2,823,600	3,223,600	−400,000	配賦基準表参照　I、J
16　保険料	60,000	0	10,000	0	70,000	0	5,000	0	5,000	0	0	75,000	30,000	45,000	
17　諸謝金	5,320,000	200,000	100,000	0	5,620,000	230,000	0	0	230,000	0	0	5,850,000	1,820,000	4,030,000	
18　租税公課	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
19　渉外費	220,000	0	50,000	0	270,000	0	30,000	0	30,000	0	0	300,000	35,000	265,000	
20　委託費	120,000	50,000	0	0	170,000	0	0	0	0	0	0	170,000	80,000	90,000	
21　記念品費	630,000	30,000	0	0	660,000	120,000	24,000	0	144,000	0	0	804,000	570,000	234,000	
22　衛生費	310,000	0	0	0	310,000	0	0	0	0	0	0	310,000	0	310,000	
23　雑費	190,000	20,000	20,000	209,640	439,640	0	0	125,784	125,784	0	0	565,424	545,256	20,168	配賦基準表参照　K
24　寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
②管理費										**3,297,116**	**0**	**3,297,116**	**3,051,044**	**246072**	
1　給料手当										168,000	0	168,000	390,000	−222000	配賦基準表参照　A
2　退職給付費用										0	0	0	14,400	−14400	配賦基準表参照　B
3　福利厚生費										840	0	840	50,000	−49160	配賦基準表参照　C
4　会議費										28,000	0	28,000	27,200	800	配賦基準表参照　D
5　旅費交通費										50,000	0	50,000	0	50000	
6　通信運搬費										60,000	0	60,000	52,000	8000	配賦基準表参照　E
7　消耗什器備品費										20,000	0	20,000	0	20000	
8　消耗品費										20,000	0	20,000	14,000	6000	配賦基準表参照　F
9　会員支給品費										80,000	0	80,000	96,000	−16000	認証書、バッジ、ネームプレート等
10　修繕費										6,000	0	6,000	4,000	2000	配賦基準表参照　L
11　印刷製本費										300,000	0	300,000	89,800	210200	配賦基準表参照　G　　メンズリ、基本資料
12　広報費										229,000	0	229,000	0	229000	
13　燃料費										30,000	0	30,000	20,000	10000	配賦基準表参照　M
14　光熱水料費										28,000	0	28,000	28,000	0	配賦基準表参照　H
15　賃借料										128,400	0	128,400	128,400	0	配賦基準表参照　I、J
16　保険料										10,000	0	10,000	0	10000	
17　諸謝金										30,000	0	30,000	0	30000	
18　租税公課										30,000	0	30,000	30,000	0	
19　渉外費										300,000	0	300,000	866,000	−566000	慶弔費、諸会費、渉外費（お祝いお酒）
20　委託費										410,000	0	410,000	0	410000	
21　記念品費										30,000	0	30,000	0	30000	
22　衛生費										30,000	0	30,000	20,000	10000	
23　雑費										83,856	0	83,856	57,564	26292	配賦基準表参照　K
24　寄付金										0	0	0	0	0	
25　支払負担金										1,225,020	0	1,225,020	1,163,680	61340	
26　国際青年会議所負担金										53,520	0	53,520	60,480	−6,960	配賦が無理
27　日本青年会議所負担金										882,000	0	882,000	833,000	49000	
28　国際協力資金										109,500	0	109,500	102,200	7300	
29　We Believe購読料										180,000	0	180,000	168,000	12000	
経常費用計	**17,400,000**	**1,220,000**	**400,000**	**1,807,740**	**20,827,740**	**1,850,000**	**160,000**	**964,644**	**2,774,644**	**3,297,116**	**0**	**26,899,500**	**16,432,500**	**10267000**	
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 2,400,000	△ 1,220,000	△ 400,000	1,491,510	△ 2,328,490	△ 950,000	△ 160,000	1,234,856	124,856	2,203,634	0	0	△ 2,870,000	0	
①基本財産評価損益等	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	
②特定資産評価損益等	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	
③投資有価証券評価損益等	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	
評価損益等計	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	
当期経常増減額	**△ 2,400,000**	**△ 1,220,000**	**△ 400,000**	**1,491,510**	**△ 2,328,490**	**△ 950,000**	**△ 160,000**	**1,234,856**	**124,856**	**2,203,634**	**0**	**0**	**△ 2,870,000**	**0**	
2．経常外増減の部													**0**	**0**	
（1）経常外収益															
①固定資産売却益	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	
建物売却益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
車両運搬具売却益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
什器備品売却益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
土地売却益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
借地権売却益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
電話加入権売却益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
②固定資産受贈益	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	
土地受贈益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
投資有価証券受贈益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
経常外収益計	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	
（2）経常外費用													**0**	**0**	
①固定資産売却損	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	
建物売却損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
車両運搬具売却損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
什器備品売却損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
土地売却損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
借地権売却損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
電話加入権売却損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
②固定資産除却損	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	
土地減損損失	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
投資有価証券減損損失	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

④災害損失	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
災害損失	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 2,400,000	△ 1,220,000	△ 400,000	1,691,510	△ 2,328,490	△ 950,000	△ 160,000	1,234,856	124,856	2,203,634	0	0	△ 2,870,000	0
一般正味財産期首残高	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**1,109,153**	**0**	**1,109,153**	**0**	**0**
一般正味財産期末残高	**△ 2,400,000**	**△ 1,220,000**	**△ 400,000**	**1,691,510**	**△ 2,328,490**	**△ 950,000**	**△ 160,000**	**1,234,856**	**124,856**	**3,312,787**	**0**	1,109,153	△ 2,870,000	0
Ⅱ 指定正味財産増減の部														
①受取補助金等	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
受取国庫補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取地方公共団体補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取民間補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫助成金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取地方公共団体助成金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取民間助成金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②受取負担金	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
受取負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③受取寄付金	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④固定資産受贈益	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
土地受贈益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
投資有価証券受贈益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤基本財産評価益	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
基本財産評価益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥特定資産評価益	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
特定資産評価益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑦基本財産評価損	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
基本財産評価損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑧特定資産評価損	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
特定資産評価損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑨一般正味財産への振替額	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
一般正味財産への振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**1,109,153**	**0**	**0**
指定正味財産期末残高	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**1,109,153**	**0**	**0**
Ⅲ 正味財産期末残高	**△ 2,400,000**	**△ 1,220,000**	**△ 400,000**	**1,691,510**	**△ 2,328,490**	**△ 950,000**	**△ 160,000**	**1,234,856**	**124,856**	**3,312,787**	**0**	**1,109,153**	**△ 2,870,000**	**0**

2014年度

公益社団法人弘前青年会議所

役　員　名　簿

組　織　図

出　向　者　名　簿

出　向　者　挨　拶

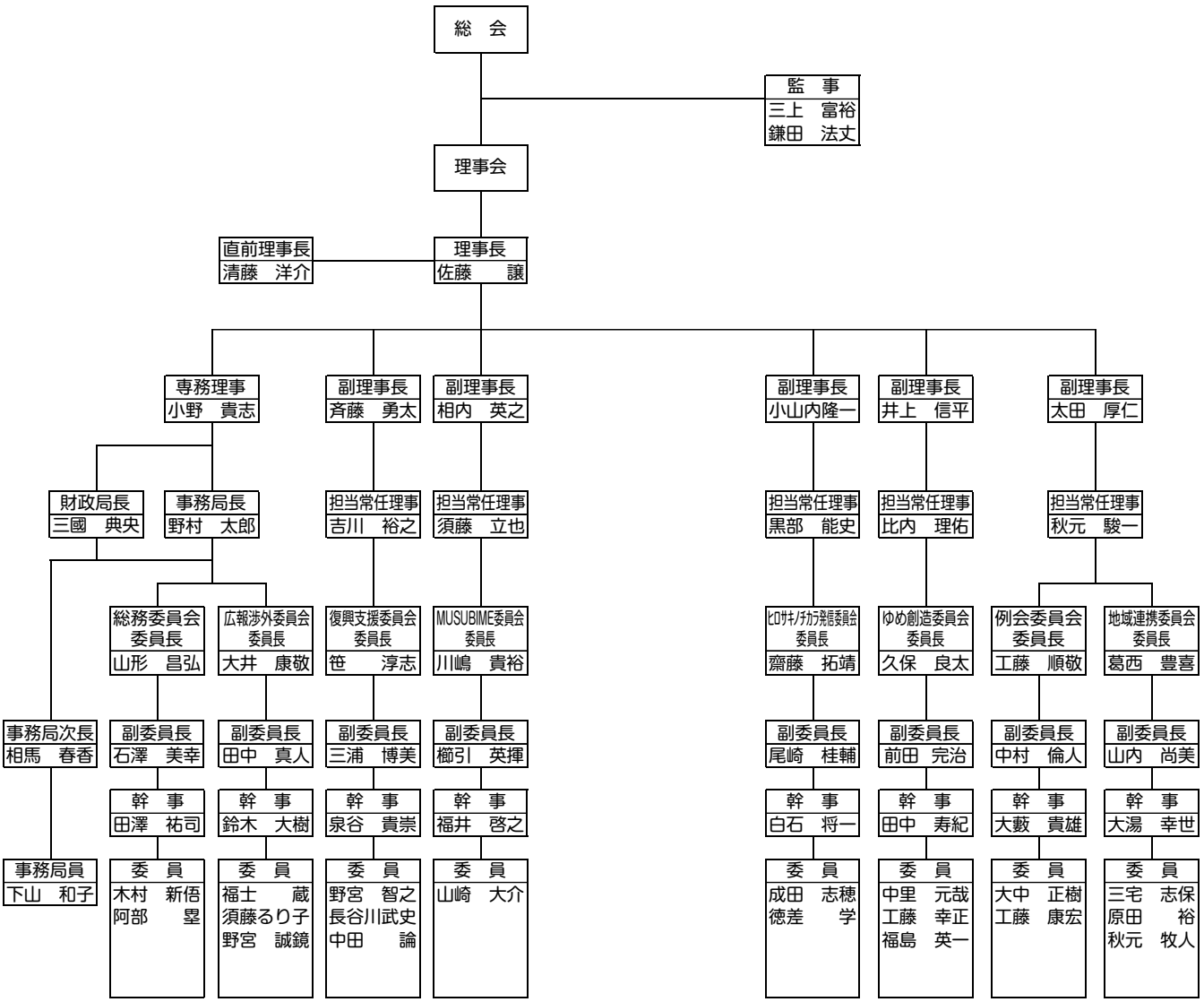
年間公式スケジュール

2014年度　公益社団法人弘前青年会議所
役員一覧

理事長	佐藤　譲
直前理事長	清藤　洋介
副理事長	相内　英之
副理事長	井上　信平
副理事長	太田　厚仁
副理事長	小山内　隆一
副理事長	斉藤　勇太
専務理事	小野　貴志
事務局長	野村　太郎
財政局長	三國　典央
復興支援担当常任理事	吉川　裕之
MUSUBIME担当常任理事	須藤　立也
ヒロサキノチカラ発信担当常任理事	黒部　能史
ゆめ創造担当常任理事	比内　理佑
例会・地域連携担当常任理事	秋元　駿一
総務委員会委員長	山形　昌弘
広報渉外委員会委員長	大井　康敬
復興支援委員会委員長	笹　淳志
MUSUBIME委員会委員長	川嶋　貴裕
ヒロサキノチカラ発信委員会委員長	齋藤　拓靖
ゆめ創造委員会委員長	久保　良太
例会委員会委員長	工藤　順敬
地域連携委員会委員長	葛西　豊喜
監事	鎌田　法丈
監事	三上　富裕

2014年度

公益社団法人弘前青年会議所　組　織　図



2014年度　公益社団法人弘前青年会議所
出向者名簿

出向先・出向名	役　職	出向者名
＊日本青年会議所		
＊東北地区協議会		
ゼミナール委員会	委　員	葛西　豊喜
＊青森ブロック協議会		
副会長	（役　員）	清藤　洋介
アカデミー大学	塾　長	（役　員）太田　厚仁
アカデミー大学	運営幹事	福島　英一
自覚あるＬＯＭ支援委員会	副委員長	福井　啓之
	委　員	鎌田　法丈
自覚ある社会創造委員会	委　員	大中　正樹
自覚ある地域創造委員会	委　員	工藤　順敬
青森ブロック大会構築委員会	委　員	白石　将一
総務兼財政局	委　員	三國　典央
アカデミー大学	塾　生	鈴木　大樹
	塾　生	櫛引　英揮
	塾　生	前田　完治
	塾　生	大藪　貴雄
	塾　生	三浦　博美
	塾　生	大井　康敬
	塾　生	川嶋　貴裕
＊全国城下町青年会議所連絡協議会		
全国城下町青年会議所連絡協議会	監　事	黒部　能史

2014年度出向者ご挨拶

青森ブロック協議会

副会長　**清藤　洋介**

〈基本方針〉

東日本大震災発災から3年という月日が経過し、未だ進まない復興。また昨今を鑑みると、確かに我々世代は厳しい環境下に晒されており、大きな変革期を迎えているように感じます。今こそ我々JCが意識変革団体として、人づくりを通した地域づくりを遂行していくことが、我々JCの使命であります。国家国民としての意識を醸成させる為に、私たちJAYCEEが県民の旗手となり、人とまちとの繋がりから復興への原動力として、活気に満ち溢れた魅力ある青森の未来を描かなければなりません。

まずは、県民が主権者としての責任と義務を認識し、知識と見識を深め政策比較によって政治を選択する意識を高める為にマニフェスト型公開討論会の開催、及びLOMへの支援を行い、また政策本位による政治選択が浸透する機会を広く提供するために、ｅ－みらせんの運用を推進し、政治や選挙をより身近に感じて貰います。そして、憲法に対しより意識喚起を推進する為に共に考える事の出来る、国民参加型の憲法に関する事業を開催。また、被災地の復興支援活動の継続は勿論の事、いつ再発するか判らない自然災害へ備え、正確な連携を図る為にJC災害ネットワークの構築、さらに被災地への迅速な支援活動を行う為に東北地区内の全てのLOMとのつながりを強化し、密接な連携を図って参ります。

この青森を自らの手で変えていくという強い覚悟を持った我々JAYCEEが、青年らしく決して失敗を恐れる事なく、今の目の前にある現実を真剣に考え、強い自覚と志を持ち、光り輝く青森を創造します。

公益社団法人日本青年会議所

東北地区　青森ブロック協議会

アカデミー大学　塾長　**太田　厚仁**

〈基本方針〉

豊かな自然、独自の伝統・文化等魅力あふれるこの青森ではありますが、情報化社会やコミュニティ不足により、人と人とのつながりが希薄化し、東日本大震災からの復旧・復興は３年が経った今でも進んでおりません。今こそ「青年の学び舎」で仲間との絆を育み「意気あふれる人財」を育成し、ＪＡＹＣＥＥの情熱を結集させ、青森県の魅力や人と人のつながりを再認識し県民による、結の精神満ちあふれる自立した青森の実現が必要です。

まずは、出会いが人を成長させる原動力となることから「参加」することに目を向けます。そして、アカデミー大学は何をするところかを理解してもらうために８青年会議所を訪問し、アカデミー大学の魅力をＰＲ致します。さらに、各講座において青森県独自の歴史・伝統・文化・自然・人等の魅力を共有、共感すると共にＪＡＹＣＥＥとして青年会議所運動を理解する「学び」の場として本会やＪＣＩにも触れて頂きます。また、各講座でしっかり学び、居酒屋の青春においてさらなる一体感を創出し、「楽しむ」ことでアカデミー大学ならではの仲間と友情や絆を醸成して頂きます。そして、厚い友情や深い絆を育むために「青い森つながり運動」を展開し、塾生自ら他の塾生を誘い楽しさを共鳴することで出席率１００％を目指します。さらに、青森の魅力を活かし青森県を盛り上げるためにはどうすべきか、各地域において何をすべきか、ＪＡＹＣＥＥとしてどうすべきかを塾生が一体となって考え導き出すために、塾生自らが体験し、積極的に意見を交し合う場を設えます。また、２０１４年度の集大成として塾生が一体となる全体事業を実施致します。

参加して、自らが一歩を踏み出し、自分にそして仲間や地域に向き合うことが人と人との繋がりを深化させ、その繋がりによりＪＡＹＣＥＥが「意気あふれる人財」に育ち、必ずや結の精神が満ちあふれる自立した青森が実現され「たくましい国」日本を創造します。

全国城下町青年会議所連絡協議会

監　事　**黒部　能史**

〈基本方針〉

第29回全国城下町シンポジウム津軽弘前大会で記念事業部会を担当した際、弘前のご縁を題材にさせていただきました。皆さんがご存知の中では、北海道の斜里町の北方警備のご縁で友好都市に。関ヶ原の戦いの戦功で群馬県尾島（現在の太田市）を領有したことがご縁で友好都市になりました。しかしながら、弘前にはまだまだ隠された縁がありました。それが熊本です。弘前藩の殿様は12人おり、直系が途絶えれば黒石藩より養子をもらい、津軽家の血を引き継いできました。（11代目の順承公は三河吉田藩松平家出身で黒石藩に養子に入った後に弘前藩を継ぐ）しかし、最後の殿様「津軽承昭公」だけは熊本藩細川家より婿養子に弘前に来られ、激動の幕末・明治維新を弘前が発展する方向に導いていただきました。このご縁の中で自分が注目し、恩をいつか弘前が返さなくてはいけない。そして熊本と手を携えて行きたいと思ったのが函館戦争時、千葉県勝浦沖で起きた「ハーマン号沈没事件」がキッカケです。熊本藩にはいろいろと助けていただきました。時空を超えて弘前のご恩を熊本の地にて、お返ししてきたいと思っております。

2014年度　公益社団法人弘前青年会議所　年間公式スケジュール

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
弘前青年会議所	例会・総会	総会 29日(水)	7日(金)	7日(金)	7日(月)	9日(金)	3日(火)	7日(月)	総会 7日(木)	8日(月)	7日(火)	7日(金)	総会 5日(金)
	常任理事会	10日(金)	10日(月)	11日(火)	10日(木)	13日(火)	12日(木)	10日(木)	11日(月)	11日(木)	15日(水)	11日(火)	9日(火)
	理事会	21日(火)	21日(金)	25日(火)	22日(火)	22日(木)	24日(火)	23日(水)	26日(火)	25日(木)	24日(金)	25日(火)	24日(水)
	主要行事	15日(水) 新年祝賀会						斜里ねぶた祭り	尾島ねぶた祭り				卒業式
	全国城下町ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ					16日(金)～18日(日) 【熊本】							
青森ブロック協議会	役員会議	16日(木) 【青森】	12日(水) 【青森】	12日(水) 【青森】	9日(水) 【青森】	14日(水) 【青森】	11日(水) 【青森】	2日(水) 【青森】		10日(水) 【青森】	8日(水) 【青森】	5日(水) 【青森】	
	会員会議所会議		1日(土)【八戸】 22日(土)【三沢】	29日(土) 【むつ】		3日(土)【青森】 24日(土)【弘前】	28日(土) 【十和田】	12日(土) 【十和田】		27日(土) 【五所川原】	25日(土) 【黒石】	15日(土) 【未定】	
	アカデミー大学		2月1日(土) 開校式 【八戸】	15日(土)～16日(日) 【黒石】	19日(土)～20日(日) 【弘前】	17日(土)～18日(日) 【むつ】	21日(土)～22日(日) 【五所川原】	12日(土)～13日(日) 【十和田】		20日(日) 閉校式 【青森】			
	主要行事		2月1日(土) 新春名刺交換会 【八戸】					13日(日) ブロック大会 【十和田】					
東北地区協議会	正副会議	4日(土)【仙台】 31日(金)【仙台】		5日(水)【郡山】 28日(金)【鶴岡】	22日(火) 【青森】	30日(金) 【仙台】	27日(金) 【花巻】		22日(金) 【由利本荘】	26日(金) 【二本松】	17日(金) 【米沢】	19日(水) 【未定】	
	役員会議	10日(金) 【仙台】	7日(金) 【仙台】	14日(金) 【酒田】	11日(金) 【大船渡】	9日(金) 【二本松】	10日(火) 【八戸】	11日(金) 【大館】		6日(金) 【酒田】	3日(金) 【高畠】	4日(火)【仙台】 27日(木)【大曲】	
	会員会議所会議	25日（土） 【京都】										28日(金) 【大曲】	
	主要行事		8日(土)～9日(日) ゼミナール開校式 【仙台】		12日(土) 新・東北三つの夢 総決起大会in秋田					東北青年フォーラム 6日(土)～7日(日) ゼミナール閉講式 6日(土)【酒田】			
日本青年会議所	正副会頭会議	9日(木) 23日(木) (京都)	6日(木) 19日(水) 27日(木)	6日（木）	3日(木) 17日(木)	1日(木) 15日(木)	5日(木) 19日(木)	3日(木) 16日(水)		4日(木) 18日(木)	2日(木)	6日(木) 20日(木)	11日(木)
	常任理事会	24日(金) (京都)	20日(木)	7日(金)	18日(金)	16日(金)	20日(金)	17日(木)		19日(金)		21日(金)	12日(金)
	理事会	24日(金) (京都)	21日(金)	8日(土)	19日(土)	17日(土)	21日(土)	18日(金)		20日(土)	10日(金) (松山)	22日(土)	13日(土)
	ブロック会長会議	24日(金) (京都)	21日(金)	8日(土)	19日(土)	17日(土)	21日(土)	18日(金)		20日(土)	10日(金) (松山)	22日(土)	13日(土)
	総会	25日(土) (京都)		9日(日) (福島)							10日(金) (松山)		
JCI	ＪＣＩ諸会議	JCI常任理事会/理事会 【JCI JEN/JBM】 6日(月) ～12日(日)			ｱﾒﾘｶ地域会議 ﾒﾘﾃﾞﾝ（ｺﾛﾝﾋﾞｱ） 23日(水) ～26日(土)	ｱﾌﾘｶ・中東地域会議 ﾒﾛ（ﾄｰｺﾞ） 21日(水) ～24日(土)	JCIASPAC 【山形】 3日(火) ～7日(土) ﾖｰﾛｯﾊﾟ地域会議 ﾊﾞﾚｯﾀ（ﾏﾙﾀ） 11日(水) ～14日(土)	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾊﾟｰﾄﾅｰｼｯﾌﾟｻﾐｯﾄ （GPS） JCI中間常任理事会 （JCIMIE） 27日(日) ～29日(火)				JCI世界会議 【ﾄﾞｲﾂﾗｲﾌﾟﾂｨﾋ】 24日(月) ～29日(土)	
その他	ＮＯＭ主要事業	京都会議 【京都】 23日(木) ～26日(日)		復興創造ﾌｫｰﾗﾑ （福島）				国際ｱｶﾃﾞﾐｰ （半田） 7日(月) ～11日(金) ｻﾏｰｺﾝﾌｧﾚﾝｽ （横浜） 19日(土) ～20日(日)			全国大会 【松山】 9日(木) ～12日(日)		
	財政審査会議	4日(土) 5日(日)	15日(土) 16日(日)	15日(土) 16日(日)	12日(土) 13日(日)	10日(土) 11日(日)	14日(土) 15日(日)	12日(土) 13日(日)		13日(土) 14日(日)	11日(土) 12日(日)	15日(土) 16日(日)	6日(土) 7日(日)
	ｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽ審査会議	4日(土)	15日(土)	15日(土)	12日(土)	10日(土)	14日(土)	12日(土)		13日(土)	11日(土)	15日(土)	6日(土)
	公益審査	4日(土)	15日(土)	15日(土)	12日(土)	10日(土)	14日(土)	12日(土)		13日(土)	11日(土)	15日(土)	6日(土)
	その他												

2014年度

公益社団法人日本青年会議所

基　本　資　料

2014年度　公益社団法人日本青年会議所

基　本　理　念

志高く未来へ
意気あふれる人財による
「たくましい国」日本の創造

基　本　方　針

1．未来を切り拓く国民意識の確立
2．意気あふれる人財の育成
3．活気に満ちあふれた地域の創造
4．日本の精神性による民間外交の推進
5．人と共に進化する強い組織の創造

公益社団法人 日本青年会議所

所　　信

公益社団法人　日本青年会議所
2014年度会頭　**鈴　木　和　也**

「厭離穢土　欣求浄土」

混沌とした現代社会を真に明るい豊かな社会へと導くのは私たち青年の責務である。私たちは今、この国の悠久の歴史の中で光り輝く未来を信じて、学び、そして行動する責任世代であることを自覚しなければならない。
青年たちよ、須らく奮起せよ。そして、取り戻すのだ、日本の矜持を。

はじめに

１５６０年、今川義元が桶狭間の戦いで織田信長に討たれた時、今川軍の尖兵の隊長であった徳川家康は、命からがら故郷（岡崎市）の大樹寺に逃げこんだ。家康は己のふがいなさを悔やむと共に、総崩れとなった今川勢の前途を悲観し、もはや自分の命はこれまでだと考え、大樹寺にある先祖の墓前で自害しようとする。その時、時の住職、登誉上人に諭された言葉が「厭離穢土　欣求浄土」である。「お前は若い時から戦場に向かっているけれど、その心はただ敵を倒すだけにあるのか。功をたて、城を落とし、国を奪って、それでお前は何がしたい。乱世においては、武士が私利私欲のために戦っているので国土が穢れている。正しい目的をもって住みよい浄土にするのがお前の役割だ。」と説かれ、「志が小さい、もっと大きな志をもて。」と強く諭された。自身の為すべき役割に気づいた１９歳の家康は、その後、この８文字を旗印に平和な国土の建設に邁進し、２６５年に及ぶ天下泰平の世を築き上げた。

人は、人生において幾度も挫折するものである。しかしながら、目指すべき夢が明確ならば、必ず乗り越えることができる。そして、幾度も困難を乗り越えた強靭な精神と情熱をもった人は、自信と誇りに満ちた活力ある人生を手にすることができ、周囲を希望の光で照らし出すことができる存在となる。家康は、様々な挫折を乗り越え苦しみを糧とし、夢や目標に向かって突き進んだことで、念願の天下泰平の世を築き上げることができたのだ。

「人生において最も大切なのは経験である。」

これまでの青年会議所の活動、運動を通し、どんな困難が立ちはだかろうとも不可能を可能にしてきた場面を何度も体感してきた私自身だから、そう断言できる。志を高くもち行動した者だけが得られる、かけがえのない経験がある。だからこそ行動するのだ。特に青年期における経験は、その先の人生を大きく変えてくれる。また、人生において「成功」は約束されていないが「成長」だけは約束されている。それだけに時代の変革者たらんとする私たちＪＡＹＣＥＥには、失敗を恐れない積極果敢なチャレンジ精神と行動力が、今求められている。それにより、人間的魅力をもった強い

リーダーシップを得ることができるのだ。そして、世の中の営みはすべて「人」によって成り立っている。この不透明感が漂う現代社会にあっても行動的で意気あふれる人財が育ち、活力に満ちあふれた地域をつくり上げていくことが、必ずや「たくましい国」日本を創造していくのだ。だから、私たちＪＡＹＣＥＥから光り輝く未来に向けて奮起するのだ。

この国を牽引する責任と使命

ＪＡＹＣＥＥの多くは、中小零細企業で経営に関わるメンバーである。私の出身地は地方都市であり、決して大きくはない経済圏において生業を立てている。私は、自分の会社においてはプレーヤーであり、そしてマネージャーでもある。その両方の役割を担いながら社業を営んでいるのである。２００８年のリーマンショック以降、多くの中小零細企業が倒産した。会社が倒産して行き場を失うのは、経営者や経営幹部などのマネージャーたち、そして、従業員つまりプレーヤーたちも同じだ。だから彼らは自社の経営状態に関心をもち、社業の発展を心から願っている。そして、会社の繁栄の中に自らの幸せがあることを知っているのだ。

私たちと国や地域の関係も同じである。国や地域と私たちの生活は直結している。万が一、国が凋落すれば危険にさらされるのは私たち国民である。また、地域が衰退すれば、次世代の子どもたちに故郷をつなぐことができないかもしれない。国や地域をより良くしようと牽引するのは、決して政治に携わる人たちだけではない。だから、これからも私は心眼と矜持をもって国や地域に常に関わっていきたい。そして、それは決して難しいことではなく言い換えれば、人々が属する家族や会社といった身近な社会と接点をもち、大切に想うことから始まっているのである。家族を守り、友を助け、地域を愛し、国を想う。この国の一員である私が能動的に変わることから、水面を走る波紋のように社会が変わっていくのだ。だから先ず、私自身が責任と使命を感じ私の大切な人たちにとってかけがえのない存在になろう。そこにいなくてはならない存在になろう。そんな私の小さな変化から世界を変えられると信じている。そして、世界、国、地域、家族などに属している者として、自分の立ち位置を確認し何をすべきかを青年会議所で学び、そして行動しよう。誰よりも明るい未来を望み、日本を牽引するのは責任世代である私たち青年でなければならないのである。

「たくましい国」日本のかたち

今、どれだけの日本人が一国民であることに誇りを抱き、目の前にいる家族が住み暮らす地域、この日本の未来に希望をもてているのだろうか。日本というこの国を大切に感じ、その拠りどころとなる豊かな文化や先達が築き上げてこられた価値観、歩んでこられた誇れる歴史があるにもかかわらず、私自身にもこの国の未来に対する言い知れぬ不安が脳裏をよぎる。戦後の日本は国家として迷走し、本来あるべき日本とはあまりにもかけ離れた姿を形成してきたのではないだろうか。そして、その原因は、

戦後のＧＨＱ（連合国軍総司令部）の統治政策に見ることができる。ＧＨＱの占領政策の目的は日本国家の解体であり、日本を日本たらしめてきた、あらゆる価値観が否定され、日本人から矜持を奪う結果につながった。こうした状況の中で作られたのが現行の日本国憲法である。憲法の出自については、私たちも近現代史の検証や憲法問題の取り組みで明らかにしてきたが、押しつけられた憲法と批判するだけでは意味がない。これまで国家とは統治（権力）機構としての側面だけにとらわれがちであるが、歴史、伝統、文化を共有する歴史的な共同体と捉えるべきではないだろうか。

幕府使節随行員として清国へ渡った幕末の藩士たちは、欧米列強に国益を搾取され、国土を蹂躙されている清国を目の当たりにし愕然とした。そして、内乱が治まり、政情が一時的に保たれていることだけで安堵する清国の人たちを見て強い危機感をもったという。その危機感とは、直接国益が損なわれることに対してのものではなく、自分たちの力で自分たちの国を護ろうという意識がなくなってしまうことに対してのものであった。

国家を歴史的な共同体と見れば、今を生きる私たちの世代だけでなく、この国を創り今日の礎を築いてこられた先達の世代、そして、これから生まれてくるすべての日本人によって構成されているのが日本国家である。この過去から現在、そして未来へのつながりを強く意識し、私たちは先達の声に耳を傾け、未来への可能性を切り拓いていかなければならない。それが過去と未来のつながりに立つ私たちの責任なのだ。憲法は国のかたちの根幹であり、これまでの歴史、伝統、文化、そして受け継がれてきた精神性に立脚したものでなければならない。これまでの護憲、改憲といった二項対立の議論から脱却し、今こそ、私たちは未来に希望を託すことのできる国家像を、憲法論議を通じて描いてみたい。そして、青年らしく変えるべきは変え、守るべき理念は守ることを正々堂々と主張すると共に、全国各地でさらなる憲法論議が深まる運動を展開したい。そして、わが国の憲法が国民の手により築かれることを信じている。

海洋国家・日本の姿

自分たちの住む日本が四方を海に囲まれ、海から多くの恩恵を受けている海洋国であることを、私たちは認識しなければならない。日本は国土面積こそ３８万平方キロメートルと小さいものの、日本の領土・領海とＥＥＺ（排他的経済水域）を合わせた面積は４４７万平方キロメートルにも達し、世界第６位の広さを誇る。この数字をみれば、わが国が海洋大国であることが理解できる。そして、近年の調査では、南海トラフ、北海道周辺海域に、６兆立方メートルのメタンハイドレートが存在すると言われており、エネルギーの大半を海外からの輸入に頼っているわが国にとって、潜在的な可能性が期待されるところである。しかし、東シナ海では日中間のＥＥＺが重なっており、日中中間線の４キロほど西側に位置する白樺ガス田の開発に、急速な経済成長によりエネルギー問題を抱えた中国が着手している。日本政府は鉱床が日中中間線を越えていると抗議するものの、開発は今なお続いており、絶対的にわが国の国益は損なわれているのである。１９６８年、国連アジア極東経済委員会（ＥＣＡＦＥ）が

東シナ海の海底調査を実施した結果、尖閣諸島近海に埋蔵量豊富な油田がある可能性が高いことを発表した。その数年後に台湾、中国が突如として尖閣諸島の領有権を主張し始めたのだ。東シナ海ガス田開発問題もこうした歴史的文脈にあることを、しっかりと理解しなければならない。歴史的にみても尖閣諸島は、わが国固有の領土であることに疑う余地はないが、果たしてどれだけの国民がこのことに意識をもっているだろうか。領土・領海問題は、わが国の主権に関わる問題であり、私たちの無関心が国益を損ねていることを自覚しなければならない。私たち日本人は、北方領土、竹島を含め、この国の領土・領海を正しく理解し、そこにある大切な天然資源を未来に向けて守りゆく意識を高める運動に取り組んでいきたい。

国家を構成する主権者としての義務

２０１３年７月２１日に実施された参議院議員選挙では、憲法改正、原子力政策、経済政策などが主要な争点とされ、結果は、政権与党（自民党・公明党）側の圧勝により衆参の「ねじれ」が解消されることとなった。この選挙では公職選挙法改正により選挙運動におけるインターネットの活用が解禁され、若年層の政治参画に対する一定のプラス効果は認められたものの、投票率自体は５２．６１％と振るわず、ネット解禁が投票率向上に必ずしも高い有効性をもつとは評価しがたい結果となった。世界に目を転ずれば、２１世紀になってもなお、民主化を求め、自国の進むべき方向性を決める「一票」を獲得するために、様々な国の民主化運動に絡む流血の惨事が起こっている。こうした国々の人々の多大な努力と犠牲を横目に、わが国の「民主主義」を巡る情勢をみると、いささか恥ずかしい気持ちに苛まれる面があるのも事実であろう。誠に幸いなことに、私たち日本人は生まれながらにして「主権者」であり基本的人権も保障されているのは誇らしいことだが、果たしてどれだけの人が国益やこの国の未来を真剣に考え、各政党が掲げる政策や候補者の人物を吟味して投票しているだろうか。また、選ばれる政党や候補者側はどうだろうか。経済面では世界的に認められた地位を築いてきた日本であるが、政治面では、選挙における一票の格差が立法府の怠慢により未だに放置され、「地盤・看板・鞄」即ち、血統や知名度、資金を重視するいわゆる「三バン選挙」が未だに残り、選挙運動においては政策ではなく候補者名だけを街宣カーが連呼し、選良たちの集う国会や議会では野次の応酬が散見され、余り自慢できない現実が横たわっている。私たちはこうした現状を今一度しっかりと踏まえて、公正中立、不偏不党の公益社団法人として、日本の民主主義をさらに高度なものとするために、継続的に行動しなければならないと考える。有権者が選挙において果たすべき役割を自覚すると共に、政策本位による政治選択を行える環境の拡充に取り組み、国民の誰もが、地域を想い、国を想い、未来を描きながら政治参画できる社会にしていきたい。

具体的にはまず、従来から政策本位による政治選択を実現するために取り組んできた公開討論会をさらに進化させたいと考える。これまで、先達の１０年以上に及ぶ運動展開によって、「青年会議所による公開討論会」は全国的に定着しつつあり、討論内

容も年々進化し、手法においても候補者相互のクロストークにより深味のある議論が実現している例もある。本年は大規模国政選挙が予定されていないこともあり、身近な地方自治レベルにおいて、こうしたクロストーク型を原則としつつ、規模、内容のさらなる充実と、事前周知の徹底を図るなどして「実際に討論会に足を運ぶ有権者数」を劇的に増加させ、「地域住民が自らの共同体のあり方を真剣に考える」取り組みを図っていきたい。

また、ＰＤＣＡサイクルにおいてチェック機能にあたるマニフェスト検証は、当選した政治家とその政策を評価するものとして、なかなか浸透していないのが現状であると考える。しかし、政策の実現は、政治を行う者だけの責任ではなく、有権者にも責任があり、政策について深く学ぶことで、有権者としての民度とリテラシーを向上させる機会として定着させるべきである。私たち有権者が選択した政策の進捗状況を確認し、次回の政治選択に対しての判断基準にするためにも、マニフェスト検証に取り組んでいかなければならない。

そして、２０１１年に運用を開始した「ｅ－みらせん」は、若年層の政治参画を向上させること、候補者の考えをより多くの国民に周知すること、そして有権者の声を政治へ届けることなどを目的としている。少しずつ定着しつつあり、先の選挙でも多くの有権者、候補者が活用したと感じているが、まだまだ充分に機能しているとは言い難いことも事実だ。有権者がいつでも、何処でも候補者の政策を確認でき、政治家の人柄や政策をデータベースとして蓄積できる「ｅ－みらせん」を、今後も国民に必要とされ、実用性あるものに進化させ、政策本位による政治選択を実現させたい。

真の経済復興

２０１２年１２月２６日に発足した第二次安倍内閣において安倍首相は、（１）大胆な金融政策、（２）機動的な財政政策、（３）民間投資を喚起する成長戦略、の「三本の矢」からなる「アベノミクス」を提示した。安倍内閣は最優先政策を経済再生と位置づけ、デフレ脱却に向け、金融・財政政策については既に「矢」が放たれ、アメリカのオバマ大統領をはじめ各国の政府関係者、有識者からも支持され内外の注目を集めたが、肝腎な成長戦略については未だ有効な具体策が提示、実行されておらず先行きには不透明感が漂う。この間、ＧＤＰの２倍超という世界最悪水準の公的債務を有するわが国は、国際社会からは、消費税率引き上げや社会保障見直しによる現実的な財政健全化が求められているのが実情である。そもそもわが国のような自由主義経済体制の下では、経済成長はひとえに民間セクターの努力により実現するものなので、まずは民間セクターに位置する私たち青年経済人が努力しなければ何も始まらない。

また、わが国は少子化に伴う生産年齢人口の減少傾向が続いており、こうした状況下で経済成長を実現するには、生産性の飛躍的な向上が必須となっている。一人ひとりが、この生産性向上の面からどのような経済再生への貢献ができるのかを真剣に考えることが、オール日本で経済復興に向け力強く前進させる上でのカギになる。このような状況の中で、私たち青年経済人は、日本経済および地域経済を支える中小零細

企業としてどのように行動すべきなのだろうか。

今こそ、青年会議所の活動、運動を通じてマクロ、ミクロ両面における経済情勢に対する見識を高めると共に、ＴＰＰ交渉の本格化や新興諸国の動向などのグローバルな環境変化を踏まえつつ、これをグローバル市場における１プレーヤーとしての戦略的かつ具体的な行動に繋げることにより、わが国の経済成長の担い手となるべく努力していこうではないか。私たちが青年経済人として、持続可能な経済活動を通じ、商品・サービス提供による社会貢献を行うことはもとより、雇用創出、納税、地球環境への貢献といった社会的責任をしっかりと果たし続けることが明るい豊かな社会を実現する上で何よりも重要であるという「当たり前だが難しいこと」を今一度、問題意識として共有しつつ、共に前に進めていきたい。

また、これから経済交流が進展するであろうロシア企業との関係構築の足がかりを日ロ友好の会と連携を図りながら進めていくと共に、現役ＪＣメンバーであり、国会議員でもあるメンバーで構成されたＪＣ議連とも連携し、オール日本で経済復興に向け力強く前進させたい。グローバル化する時代の中で、日本が生き残り、存在感を示し、世界を牽引していく「たくましい国」日本を創造するためには、私たちが青年経済人としての責任を果たし、真の経済復興が必要不可欠なのだ。

この国を牽引するグローバルリーダーの育成

失われた２０年と言われるように、かつて日本が誇った技術力や経済力は、台頭する新興国との国際競争の中で相対的に力が低下しているように感じる。また、政治、経済、社会のシステムも行き詰まりを見せている。しかしながら、それ以上に憂慮すべきは、日本を支えてきた大切な価値観や他を慮る心といった日本の伝統的な精神性に国民の大半が価値を見出せなくなっている状況である。私たちが未来を切り拓くために選択すべき道は、先達が大切にしてきた世界に誇るべき日本の伝統や文化に立脚したものでなければならない。今一度、社会を覆う閉塞感を打破するために、日本の矜持を取り戻すべく過去に学び、現状を取り巻く幾多の問題を解決するための知識を得て、行動すべきときである。そのために自国を誇れる歴史観と確かな国家観を兼ね備え、柔軟な発想力と行動力で国民を牽引し、未来を切り拓き、グローバル化する社会の中で活躍するリーダーをわが国の貴重な人財として全国各地に育てていきたい。東日本大震災が発災し、社会システムが大きく変わろうとしている今、新しい「震災後」時代の礎を築き、この国を牽引する力強いリーダーの誕生を切望している。

新しい「震災後」時代の礎を築く

東日本大震災が発災した２０１１年、全国から多くのＪＡＹＣＥＥが被災地支援に駆け付けた。私たちのこの迅速な行動には、各方面から多くの評価をいただいたが、同時にいくつかの反省点も残した。ＯＢを含めると２０万人をも超えるＪＡＹＣＥＥのネットワークを有しながらも、必ずしも有機的に機能しなかった。青年会議所とい

う組織の中で有事に対処する体制が確立されていれば、今以上にＪＡＹＣＥＥのネットワークを活かした支援活動ができたと感じている。

震災から３年が経つ。何らかのかたちで被災地支援に携わってきたＪＡＹＣＥＥには、卒業された方ももちろんいるが、今もなお各地会員会議所の中心で活動をしているメンバーも少なくないはずだ。人々と関わって得られる「ありがとう」という感謝のコミュニケーションによって、人も救われ、また自分も、自身の存在を再発見できて嬉しいと思う。そういった共助の領域で、純粋な行動から得られるものもＪＣではとても大切だ。そう思っているメンバーが全国にはたくさんいる。

『人間というのは、もともとその性は善である。
しかし、その善が表に現れないのは、容れ物である環境が劣悪であるからである。』
上杉鷹山

私たちは、震災での反省を踏まえ、共助の領域で多くの人たちが確実に実働できる防災ネットワークの拡充と強化を進めるべきである。そして、災害時に備える防災の備蓄パッケージであるＪＣ－ＡＩＤの普及に力を注いでいきたい。この２つのシステムを構築することで、社会に期待され、信頼される組織へと進化していくことは間違いない。これは青年たちが創立から６２年の長きに亘り、地域社会に貢献しうる運動を積み重ねてきたＪＣだからこそできるものである。私は共助の領域で自己実現を叶える人たちを応援したいと心から強く思う。

被災地での復旧、復興はまだまだ進んでいない。「時計の針」は少しずつ進んでいるようにみえるが、時を刻む針の音は、まだまだ力強さを感じない。被災地の方々は、今見える未来から目をそらさず、恐れずに次の一歩を踏み出している。私たちと共に歩んでいくことで、夢や希望を叶えるべく、次の自分に成長できるのだ。今はまだ帰りたくても帰れない場所があり、小さくて弱い陽の光の中であり、見慣れない景色へと変わるかもしれない。しかし、必ず復興の先にある陽の光を浴びる場所は、優しい光であふれていると信じている。

だからこそ１０年後、２０年後に活かされるＪＣ運動を見据え、真の復興がなされるその日まで、被災地に心を寄せる支援体制を整えていきたい。人と人、ＬＯＭとＬＯＭがつながる支援を進め、被災地、そして日本の復興という「未来の地図」をしっかりと描いていこう。

日本人としての「道しるべ」

ここである意識調査結果を紹介したい。高校生に『自分の国に誇りをもっているか』の問いに「もっていない」と答えたのは４８．３％だった。さらに『あなたの身の回りに「あのようになりたい」と思う大人がいるか』の問いに「いない」と答えたのは、小学６年生が１９．８％、中学２年生が２８．４％、高校２年生が３０．５％であった。学年が上がるにつれて、自分の手本としたい大人がいなくなっていることが如実

に顕れているのではないか。身近に手本となる大人がいない状況の中で自国に誇りをもてる子どもを育てるということ自体無理があるように思う。子どもは社会を映し出す鏡であり、まずは私たちが襟を正し、次世代に伝えていくべき日本人としての精神的支柱を取り戻すことから始めなくてはならない。取り戻すべき精神的支柱、それは「日本固有の美徳」を基盤とした道徳心だ。

明治初期の欧化主義に走った一時期を除き、わが国では「日本固有の美徳」を基盤とした道徳教育が修身科を中心に学校教育の中で行われていたが、大東亜戦争終結後のＧＨＱの統治政策によって消滅してしまった。未だ学校で十分な道徳教育が行われない最大の原因はここにあり、子どもたちの規範意識の低下が問題だと見受けられる反社会的な事件や事故は後を絶たない。見習うべき手本となる大人が不在で自分の未来を描けない若者が「自分さえよければそれでいい」「今さえ楽しければそれでいい」といった刹那主義に陥るのはむしろ当然かもしれない。子どもたちの生き方が刹那的になれば、社会の秩序は低下し、結果として活力までもが低下してしまうのだ。伝えていくべき道徳心は、子どもたちが学校生活や社会に出てから生きていくために、必要な規範であり、心の指標となる。そして、国家や地域への帰属意識を醸成させる自尊心や公共心、他を慮る心は、これから子どもたちが、グローバル化が加速する時代を生き抜くために重要な価値観なのである。子をもつ親として、地域社会を構成する責任世代としての義務を果たし、日本が世界に誇る「日本固有の美徳」を子どもたちに伝えていこう。日本人に根付いてきた価値観である道徳心の醸成を、地域社会で育む運動として、地域の子どもたちは、地域で育てていくことを大人が自覚し、地域社会全体で次世代を担う子どもたちを守っていこう。「たくましい国」日本の創造には、多くの学びから培った自信と誇りからなる強さと、過去から引き継がれた日本人の道徳心からなる美しい精神性を兼ね備えた人財の育成が必要なのだ。

意気あふれる人財の増強

国や地域、さらには次世代のために活動する仲間が増えることは、この組織にとって大きな発展、強みにつながる。そして何より、各地域に同じ志をもったメンバーが少しでも増えることが、必ずや地域の発展やこれから生まれてくる子どもたちに明るい豊かな社会を残していけるものと考える。全国の会員増強の最前線には、トップリーダーである理事長と会員増強担当者の背中がある。そして、地域への想いを伝える多くのメンバーがいる。本年も、ブロック会長には各地のニーズを集約し、卓越したリーダーシップを発揮していただき、組織力を活かして彼らを力強く応援して欲しい。

現在、全国のメンバーの平均在籍年数は４年５カ月である。青年会議所という学び舎において４年、５年で卒業してしまうメンバーが増えてきているのが現状であり、２０代、３０代という貴重な青年期に多くの経験や機会を逃している同世代の方々がいるのは非常に残念なことである。特に私は、この学び舎で多くを経験し学んできたからこそ、そう感じるのである。本年は、より多くの若さあふれるメンバーを迎え入れるために、若い世代をターゲットにした会員の増員を推進していきたい。

また、組織や地域、国家を主体的に牽引し、輝かしい未来に向けて弛まなく行動する意気あふれる人財を多く育成しなくてはならない。これまで、日本ＪＣ及びＪＣＩが積み上げてきた各種プログラムを活用して、私たちが思い描く理想の社会を実現するために公共の担い手として自己研鑽に励む人財をより多く育てていきたい。常により良い変化を生み出すために学び、行動し続けることのできるリーダーたちが、互いのつながりの中で切磋琢磨し、輝かしい未来に向かって牽引しうる意気あふれる人財の強化が必要である。

活気に満ちあふれた地域による持続可能な社会の実現

現在、わが国においては急速に少子化が進行し、人口の減少と高齢化が同時進行している地域が数多く見受けられ、その現象は特に地方圏において切実な問題となっている。地域を自立的に活性化する取り組みが真に問われ始めている。地域における産業や生活空間としてのまちは、静態的に存在するものではなく、環境変化のもとで地域毎に変化を見せ、また同じ地域内でも時代と共に変わっていく。逆に、環境変化に対応できなければ産業もまちも空洞化する恐れがある。グローバル化などの国内外における環境変化は地域間及び都市間競争をも生じさせ、その結果として「都市」の空洞化が生じることは否めない事実である。グローバル化の進展など地域を取り巻く環境変化のもとで、地域経済の自立的発展に重要なのは、やはりその地域を構成する「人」ではないか。活気に満ちあふれた地域を創造するには、人が集うことから始めなくてはならない。地域の過疎化や高齢化は、日本全体の活力を低下させる問題であり、全国６９８の会員会議所が喫緊の課題として取り組まなければならない。地域のことを想い、愛する能動的な人々が多く集う地域は必ず活性化する。そんな人々が関わり集う仕組みづくりを継続していかなくてはならない。

これまで、地域に潜在する歴史的文化、人物、食材などをはじめとする資源を発掘し、多くの人々が関わり「地域のたから」へと昇華させてきた。その過程で多くの地域住民が関わり、企業参画を含めたコミュニティ活性化を促し、人と人、企業と地域をつなげた社会関係資本を生みだしてきた。次に注力すべきは、全国へ、世界へ向けて発信することではないか。そして、同時に地域の起爆剤になりうる「地域のたから」であるのかを見直す機会も必要だ。真に社会関係資本というつながりが構築された「地域のたから」であり、地域の人々が魅力を感じているのか。資源の発掘、人、企業、地域の関わりなど、「地域のたから」へと昇華していく過程をチェックすべき時期にきたと考える。今一度、プロセスイノベーションを起こし、そこに集う人々が魅力を感じ、未来に対して希望をもてる「地域のたから」を生み出していこう。

エネルギーの地域資本化による持続可能な社会

これまで環境問題やエネルギー問題について議論を重ねてきた。京都議定書の発効や化石燃料の価格高騰、そして、福島第一原発事故によって、再生可能エネルギー、

水、廃棄物、森林などの環境アセットへの注目が集まっている。特に、ソーラーや風力などの再生可能エネルギーの普及などは、地域性が極めて高い。私は、環境やエネルギーの問題を、地域と結びつけた議論にシフトチェンジしていきたいと考えている。持続可能な社会を実現するためには、地域資源のローカリゼーションが欠かせない。エネルギーをはじめとする地域資源を循環させることが、地域のコストを下げる。地域資源には、自然や生物などの自然資源、歴史的な建造物などの歴史的資源、それらを人の知恵や技術で活かした人的資源、地域の人たちの協働や信頼によるネットワーク、文化や暮らしなどの社会資源、貨幣や循環の仕組みをつくる経済資源、エネルギーを供給するインフラやパブリックスペースなどの物理資源などがある。こうした地域の資源が、そこに暮らす人々の生活と密接に関わり、経済的に循環することで、地域のマーケットフロントにつながり、マーケットの拡大や地域コストを下げる流れが生み出されるのではないだろうか。エネルギーや環境への取り組みを通して地域を活性化する手法を新たに模索し、活気に満ちあふれた地域の実現に向け、エネルギーの地域資本を次世代に残したい。

「ＪＣ版　新・日本風景論」

２０１３年６月２２日、日本の自然信仰や独特の芸術文化の象徴として、富士山と三保の松原が世界文化遺産に登録された。多くのメディアが取り上げ、多くの国民が歓喜している姿は記憶に新しい。まさに「日本のたから」から、「世界のたから」へ昇華した瞬間であった。今では、富士山への登山者や三保の松原の景観を楽しむ人々がさらに増えているようだ。これにより多くの人々が関わり、自然との共生を生み出し、日本人、そして世界中の人々の心に深く根付くきっかけになったことは間違いない。私たちは、このように少しでも多くの「地域のたから」や「日本のたから」を国内はもとより、世界中へ、さらに次世代に発信し伝えていくべきだと考える。

日本が近代化を進める中で、当時の先達がエポックとして取り上げていたものに「日本風景論」というものがある。これは、志賀重昂氏が明治初期クラーク博士のもと日本の近代を切り拓いた内村鑑三、新渡戸稲造らが学んだ札幌農学校（現北海道大学農学部）の第五期生として自然を愛し、人を愛し、自らを厳しく律する道を学んでいく中で、１８９４年（明治２７年）に古典文学からの豊富な引用と、地理学術語を駆使し、日本の風土がいかに欧米に比べて優れているかを情熱的な文章で綴ったものである。この発刊は、日本人の景観意識を一変させた書物であった。各地域に存在する「地域のたから」を地域に住まうすべての人々が認識し、各方面へ広く知らしめるために、「ＪＣ版　新・日本風景論」を編纂したいと考えている。これには、「地域のたから」だけではなく、これまでの日本の歴史、特に近現代史を検証し、過去から未来へと続く日本人として大切にしなくてはならない伝統や文化、美しい精神性などを「日本のたから」として盛り込み、私たち責任世代の青年が次世代に残すべきもの、すべてをこれに集約していきたい。

地域を牽引する地域プロデューサーの育成

地域の活性化に向けて、これまでも多くの対策が実施されてきた。しかし、それらがすべて実を結んでいるかといえば、残念ながら特定の地域であったり、一定量、一過性においてであり、より精査され、細分化された対策を考えていく必要性を感じている。地域の疲弊は地理的条件や人口減少、大手民間企業の撤退や海外製品の流入による産業競争力の低下など、その度合いや性質が異なり、打開策も様々にあるべきだと考える。しかし、行政が行う政策だけではそれが画一化されやすく、課題別解決といった視点からは非効率な状態と言わざるを得ない。これからの地域活性化において重要視すべきは、その土地においての課題と原因を分析し、地域ごとの特性を活かしながら、自ら解決に向けて行動する人財の育成ではないか。広い視野と深い見識、卓越した想像力と豊かな人間性を身に付け、常に社会への問題意識と確固たる使命感をもち、積極的、主体的に行動できる地域のプロデューサー、つまり地域の核となる人財の育成が必要である。本年も、特色あるそれぞれの地域特性を踏まえつつ、地域独自の育成手法によって、意気あふれる地域プロデューサーが全国各地に誕生し、活気に満ちあふれた地域へ導いてくれることを強く願っている。

恒久的世界平和の実現に向けて

世界に目を向けてみると、紛争や貧困、環境問題など多くの問題が山積しているのが事実である。私は、これらの問題を解決できるカギを握っているのは日本人ではないのかと考えている。東日本大震災が発災し、災害に遭いながらも日本人としての礼節を重んじ、他を慮る心を示した人々を、誇らしく思ったのは私だけではなかっただろう。また、その姿に対して世界各国から賛辞の声が贈られたことは記憶に新しいところだ。あの時「世界が注目していた」のは、日本人の美しい精神性であった。日本が今日のすさまじいグローバリゼーションの荒波の中で、これまで通り生き残っていくためには、今、改めて日本の自画像を日本人一人ひとりが再認識し、日本らしさを追求すべきではないか。ＪＣＩにおける国家青年会議所としての立ち位置をしっかりと自覚し、リーディングＮＯＭとしての責任を果たすべくメンバー一人ひとりが、「和を以て貴しとなす」の精神でＪＣＩとの連携の中で民間外交を行っていくと共に、「世界に誇る日本文化」を国際交流の中で発信していただきたいと考えている。

また、世界にある８つの課題解決を目的として、各国が取り組んできた国連ミレニアム開発目標（ＵＮ　ＭＤＧｓ）は、２０１５年に目標達成の期限を迎える。ＪＣＩと国連とのパートナーシップにおいて、特に注力しているマラリア撲滅に向けた運動であるＪＣＩ　ＮＯＴＨＩＮＧ　ＢＵＴ　ＮＥＴＳキャンペーンを本年も力強く推進しなければならない。これまで以上に多くの方々へ普及させる仕組みを考え、確実に実行していくと共に、これからを担う子どもたちに国際社会が抱える多くの課題に対して取り組む姿勢を養い、グローバルな視点で行動できる担い手を育んでいきたい。

近隣諸国との未来志向な関係

今や世界中が相互に関連し依存し合っていることから、世界の平和と繁栄なしにわが国の平和と繁栄はありえない。これまで日本青年会議所も民間外交の一翼を担ってきたが、その目的は様々な国の人々との友好、相互理解を推進することにより世界の平和と繁栄に貢献することに他ならない。今後も人と人との心通う交流を積み重ね、信頼関係を築くことで互いを理解し合う気持ちを育てていき、国際社会の中でポジティブに影響を与え続ける国でありたいと願う。長年に亘りこれまで継続してきた、個人レベル、地域レベルのより深く好意的な民間交流は、アジアの安寧に貢献しうるものであると確信している。アジア諸国との青年らしく爽やかな国際交流を本年も引き続き行っていきたい。

また、アジアの安寧に欠かせない中国との関係構築には、井戸を掘り、交流を継続されてきた先達に感謝しながら、引き続き未来志向な関係構築に向け協働していきたい。現在、中国との間には領土・領海問題や歴史認識問題などの課題を抱え、友好的な関係が構築されていないのが実情であり、２００９年に策定された「日中中期ビジョン５ヵ年計画」に基づいて進められるべき友好的な交流が進んでいないのが現状である。カウンターパートである中華全国青年聯合会と、今後も未来志向な関係が築けるよう日中友好の会と連携を図っていくと共に、「日中中期ビジョン５ヵ年計画」に代わる新たなビジョンを描く１年にしていきたい。日本と中国の未来志向な関係構築がアジアの安寧につながると確信している。

そして、加速度的に外交が進むロシアにおいての関係も注力していきたい。３年前、私はロシアを訪れた時、衝撃を受けた。アメリカとの冷戦時代やあまり交流が無かったロシアの印象は、私にとってすべてが「冷たい」というイメージだった。しかし、ロシアの学生との交流や、ロシアを訪れてみるとそのイメージとは全く違っていた。緑があふれ自然豊かで、建物や街の景観もとても美しく色鮮やかで、一人で街角に立っていると「何か困っているのかい。」と親切に声をかけてくれる人ばかりで、とても「温かい」印象を受けたのを記憶している。国と国との政府間交渉では、国策として北方領土返還に向け少しずつ動き出そうとしている。そんな中で、私たちが長年に亘り民間外交を担ってきた役割を今一度、大きく昇華させる絶好の機会ではないかと考える。北方領土返還に向けた運動の一環として未来志向な関係を構築すべく、これまで進めてきた日本とロシアの学生による交流を引き続き進めていくと共に、北方領土返還後のビジョンを描いていきたい。とても温かみを感じるロシアの国民とどのような関係を構築していくべきか、共生していくべきかを民間レベルで考えていかなければならない役割を担っているのは、私たち責任世代の青年である。

日本のファンを世界中に

２０１３年のＪＣＩ　ＡＳＰＡＣ光州大会のハンドオーバーにて、ＡＳＰＡＣ大会旗が日本に渡された時、胸が高鳴る想いだった。そう、２０１４年は、ＪＣＩ　ＡＳＰＡ

Ｃが山形の地で開催される。アジア各国のメンバーを迎え入れるにあたり、開催地である山形青年会議所を最大限支援していかなければならない。ホスト側である日本のメンバーには、この機会をチャンスとして捉え、参加するすべてのメンバーがより多くのものを享受できるよう、大会や企画、設営などに主体的に関わっていただきたい。また、これまで世界各国のＮＯＭのリーダーを育ててきた国際アカデミーにも多くの日本のメンバーに新たな刺激や価値観を創出する機会として参加いただくと共に、世界各国のリーダーたちと強固なネットワークづくりに努めていただきたいと強く願っている。そして、この二つの機会で日本のファンをアジア各国はもとより、世界各国に増やすことができたら、どんなに素晴らしいことだろう。参加するすべての海外メンバーにはもちろんのこと、その参加したメンバーが自国に戻ってから、それぞれの国民に日本の素晴らしさを伝えてもらえるよう大会、事業を構築していきたい。さらに、より多くのメンバーに参画いただき、アジアへ、そして、世界へポジティブに影響を与えていきたい。青年らしい爽やかな交流を各国のメンバーと共に行い、２０１５年に開催されるであろうＪＣＩ世界会議金沢大会への物語を描いていきたい。

また、２０２０年に開催が決定した東京オリンピック・パラリンピックにより、私たちには日本の輝かしい未来に向けての希望が生まれた。６年後の希望に向け、すべての国民が一つになって歩み続けていただきたいと願っている。戦後日本が高度経済成長を成し遂げる中で一つの希望としてきたように、新しい「震災後」時代を乗り越え、「たくましい国」日本を創造していく上で一つの希望にすると共に、世界に向け日本の「たくましさ」を発信していきたい。

強固なネットワークを活かしてＬＯＭと共鳴する運動

現在、メンバー数の減少、さらなる会員の成長が喫緊の課題となっている。まさに組織力が低下してきたと言えるのではないだろうか。この現象が経済情勢の悪化だけでは割り切れないことは、多くのメンバーが知っているはずである。青年会議所という組織自体の魅力を実感できないメンバーの増加や、地域の人々のニーズの多様化に起因しているのだと考える。まさに青年会議所の存在意義が問われていると理解できる。青年会議所は、４０歳までという限りある時間を共有し、夢を語って互いに切磋琢磨し、刺激し合いながら、人間としての魅力を高めていく団体である。つまり、私たちは人々の意識を変えていくＪＣという運動体を通して日々学び、考え、行動しているのだ。

日本ＪＣ本会・各協議会への出向を通して、自己の成長と地域や国や世界の発展のために、多くのメンバーが多種多様な価値観で物事を多面的な視点で捉えることのできる人財へと成長する機会につなげていただきたい。大きなフィールドであなたの力を存分に発揮していただきたいと強く願っている。意気あふれる人財を育成するために、日本ＪＣ本会・各協議会は、出向するメンバー一人ひとりが必ず成長する機会となるよう組織を運営していきたい。役職を担うものは、次なる人財を育てることを忘れず、全国各地の次代を担うリーダーを発掘し、育てて欲しい。

そして何より、すべての活動、運営は各地会員会議所やメンバーのためにあることを忘れないで欲しい。青年の運動は、間違いなく各地会員会議所が原動力であり、日本ＪＣは、全国の地域が抱える課題に対して、協働して取り組むべき課題を抽出して応援していきたい。また、これまで日本ＪＣは、本会と各協議会が一体となって各地会員会議所の応援団としての役割を果たしてきたが、これまでの組織運営や事業の構築を見直すべく、日本ＪＣ本会・各協議会が担うべき役割を今一度検証し、活気に満ちあふれた地域の実現に向けて運動する各地会員会議所を力強く応援し続ける組織へと進化させていきたい。

さらに、全国６９８会員会議所の強固なネットワークを活かした運動をこれまで以上に力強く推し進めたい。３５，０００人に及ぶ青年経済人の声を背景に、組織力を活かし、社会にインパクトを与える本気の市民意識変革運動を展開していくために、ＬＯＭと共鳴する一年にしたいと心から願う。

結びに

「人は城、人は石垣、人は堀。」

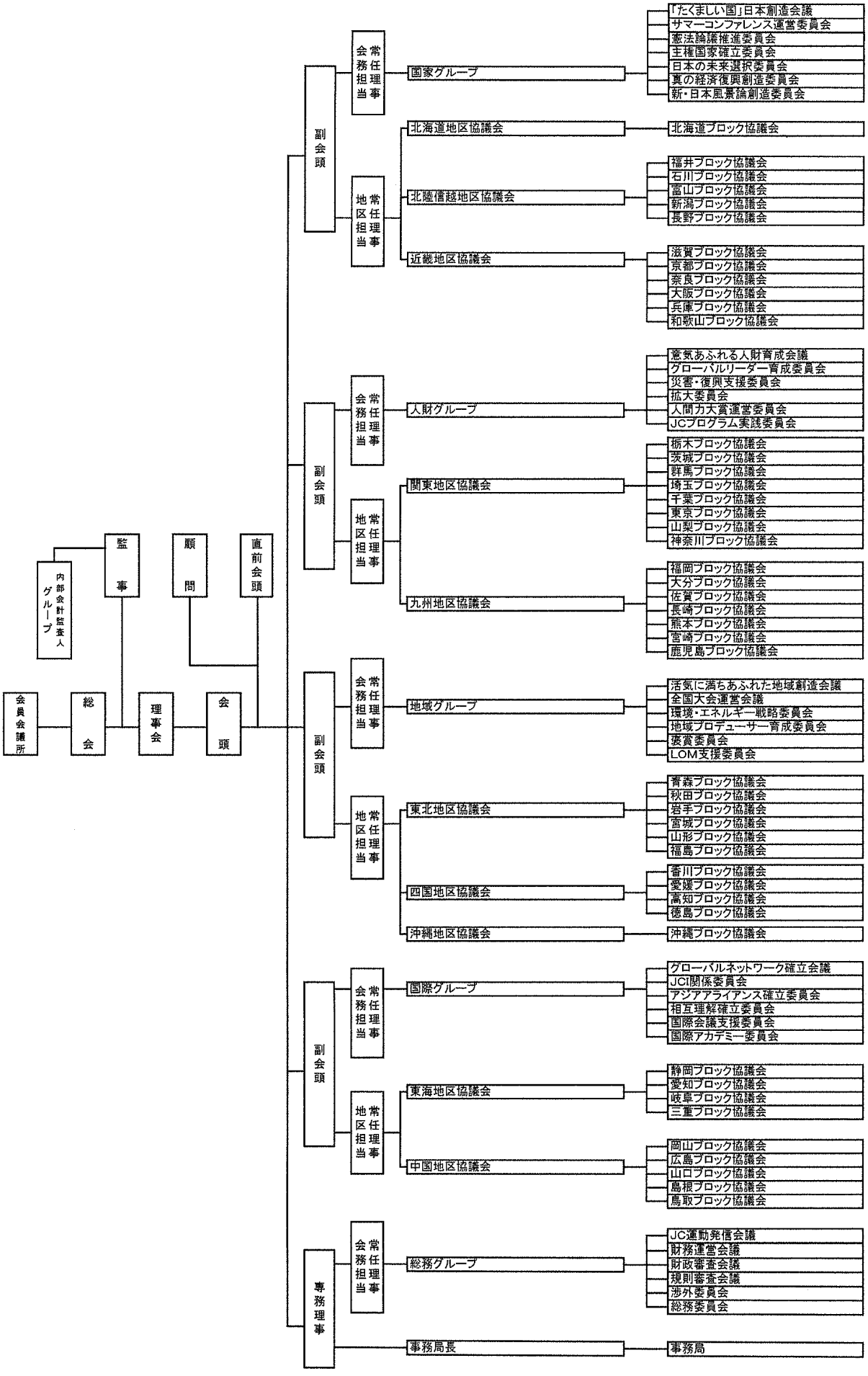
すべてのものごとの始まりは私たち人からなのだ。私たち自身の成長こそが、社会を変革する原動力となり、次世代に誇れるものを残していけるのだと考える。しかし、一人ひとりの成長が様々な方向に拡散し、組織の進化につながらないということが起きてはならない。組織全体が進化するためには、一人ひとりが一つの方向に向かって成長していくことが必要になる。まずは、メンバー一人ひとりが同じベクトルに向かって学び、経験の中から成長するという姿勢ですべてに向き合うことが重要なのだ。学ぶ姿勢が、国や地域、さらには次世代のために何かを考え、最高の価値を創り出すことにつながると信じている。意気あふれる人財への成長と、強い組織への進化を起こしていこうではないか。

「すべての出会いは偶然ではなく必然的なものであり、必ず意味がある。
だから、この一瞬を大切にしたい。二度とないこの一瞬を大切にしたいと願う。」

この言葉を胸に、多くの出会いの中で、私はどれだけ成長できたことだろう。
青年会議所という学び舎において、一つひとつ積み重ねるそのすべては、自分を成長へと導いてくれていることを確信している。

共に学び、考え、決意し、行動しよう。
美しき日本の輝かしい未来に向けて、羽ばたこうではないか。
意気あふれ、活気に満ちあふれた「たくましい国」日本を次世代に引き継ぐために。

公益社団法人　日本青年会議所　2014年度　組　織　図



【基本理念（スローガン）】

結の精神が満ちあふれる自立した新東北の実現

【基本方針】

1. 自立した新東北の実現
2. 震災復興を加速させる組織・体制の構築
3. 結の精神が導く新東北の実現
4. ＪＣＩ　ＡＳＰＡＣ山形大会の支援
5. 新東北再建ビジョンと東北ＪＣ宣言の浸透
6. ＪＣ運動の効果的な発信

【事業計画】

１．本会の事業・運動の推進
２．東日本大震災の検証及びＪＣ防災ネットワークの拡充・強化
３．結の精神を高めるフォーラムの開催
４．ＪＣＩ　ＡＳＰＡＣ山形大会の支援
５．新東北再建ビジョンに基づいた自立した新東北を創る運動
６．東北青年フォーラムの開催
７．【地区連】多くの人が実働できる防災ネットワークの拡充・強化
８．【地区連】本会と連携した会員拡大の実施
９．【地区連】地域資源に関する全地区との情報交換会の実施
１０．【地区連】ＵＮ　ＭＤＧｓ認知向上プログラムの推進・実施

公益社団法人日本青年会議所東北地区協議会２０１４年度会長立候補意見書

久米川和行（一般社団法人大曲青年会議所所属）

【はじめに】

私は１９７４年秋田県大仙市の小さな花火製造販売をしている家に生まれた。職人気質で無口な父と、優しくて料理上手そして笑顔が素敵な母から愛され育てられてきた。夏になると繁忙期になり忙しく、どこにも遊びに連れて行ってもらうことはなかったが、夕飯時に家族で食べる食事が家族愛を感じる瞬間でもあった。クラスで１人だけテレビゲームもラジコンも買ってもらえず、遊びと言えば近所の子ども達と川で魚を取ったり、稲刈り後の田んぼで野球をしたりと日が暮れるまで遊んだ。外で遊ぶことが大好きで、小学校、中学校時代は野球とスキーに明け暮れ、友達も多く活発な子どもに育ててもらったのである。我々が幼少時代を過ごした昭和５０年、６０年代は各分野で新製品が毎日のように開発され、日本全土が活気に満ち溢れていた。また人間関係も今よりは希薄ではなく、ガキ大将や地域の怖いおじさんもまだまだ存在していた。登下校の際には近所の人たちが気軽に声をかけてくれ、地域全体での子育てが行われていたように思う。地域の子どもを常に見守っていてくれた大人たちの姿はそこにはあった。今の自分たちはどうなのだろうか。少子化が進み、登下校の子ども達は半減してしまい、決められたように、そして強制的に挨拶はするが、それ以上の会話があるのだろうか。そもそも自分の子ども以外はどうでもよく、地域の人たちとのコミュニケーションも皆無になってきているのではないだろうか。マザーテレサは「この世で最大の不幸は戦争や貧困などではない。見放され、“自分は誰からも必要とされていない”と感じる事。そして愛の反対は憎しみではなく、無関心である。」と言っている。３．１１東日本大震災では東北人の行動が世界中の多くの人々に感動を与えた。古来よりつながりの中で蓄積されてきた「結」の精神が極限の中で現れたのである。そして、あの震災から２年４ヶ月が経った今、東北人そして、日本人は「結」の精神を忘れていないだろうか？もちろん被災地では今なお困難な生活をされている方々はお互い助け合いながら、励まし合いながら生活をしている。しかし、被災地ではない場所で生活している多くの日本人は被災地に心を寄せているのだろうか。人を救えるのは人であり、人が人を想う気持ちはどれほど尊いことなのだろう。それを私に教えてくれたのは青年会議所である。

【２０１０年代東北ＪＣ運動指針と自立した新東北再建ビジョン】

２０１０年、東北ＪＣは「２０１０年代運動指針」を作成した。その中に、子ども達の夢と希望に溢れる「輝く東北」の実現に向かって東北のグランドデザインというものを策定した。それは①住民が一体となって作り上げる豊かな東北。②連携・協働によって世界に踏み出す東北。③人と自然の支えによって安心して暮らせる東北の３つである。そして

２０１０年代東北ＪＣビジョンは、ＪＡＹＣＥＥ一人ひとりが地域再生の当事者という気持ちを持ち、東北ＪＡＹＣＥＥが子ども達の夢と希望溢れる東北を創るために、「２０１０年代東北ＪＣ運動」の理念のもと、「輝く東北」へ向けて実践を行い、ＪＣが地域の「結」となって市民変革運動を興し、「輝く東北」を実現するのである。また、東日本大震災後の東北を考え新たに「自立した新東北」再建ビジョンを策定した。これは東北人としてのアイデンティティである「結」の精神をバックグラウンドとし、如何なる国難にも負けない強い地域の再生を目指し、「東北コミュニティー」を創造するとある。東日本大震災が発災しさらにコミュニティーの重要性や「結」の精神の尊さを実感している。東北地区協議会では２０１３年度の検証をしっかりと行い、２０１０年代運動指針と自立した新東北再建ビジョンをしっかりとお伝えし「輝く東北」の実現を目指していく。

【真の復興とは】

震災から２年４ヶ月経過し、被災地ではまちが整備され新たな復興計画に多くの住民が意見をし、街の再編に乗り出している。ガレキが処理され、まちが綺麗に再編され、建物も新しくなり、雇用も進めば復興したと言えるのだろうか。そうではない。真の復興とは人の復興であり、心の復興である。それは被災地域に住み暮らす人々がふるさとを愛し、自分たちの手で震災以前よりも輝けるまちを創るのだという強い気持ちを持ち続け、行動し続ける事である。まちを作るのは若者、よそ者、馬鹿者と言われているが、そんな無責任な事では地域は良くなるはずもない。アドバイスとして若者、よそ者、馬鹿者の助言も必要であるのは理解しているが、最終的には地域を一番輝かせることができるのはその地域に住み暮らし、その地域を心から愛し、子ども達にふるさとの魅力や人々との絆を伝えようと行動する人間である。ところが地域によってはまちの再編計画どころか、自分のふるさとに帰ることすら許されない地域もある。その地域の人たちはどんな想いで毎日を暮しているのか考えただけで胸が張り裂けそうになる。何でもない事が、当たり前の事が突然出来なくなる悲しさや虚しさは我々の想像をはるかに超えたものである。外で遊ぶ当たり前の事、稲刈りを手伝い川で水遊びをする事など普通に出来ていたことが突然出来なくなった。東北ＪＣには災害発生時に役立つようにと考え、２００８年にＴＡＤＳネット（Ｔｏｈｏｋｕ　Ａｒｅａ　Ｄｉｓａｓｔｅｒ　Ｓｕｐｐｏｒｔ　Ｎｅｔ－Ｗｏｒｋ）というシステムが完成した。今後は本会と連携しながら災害時の支援体制をより強固なものにしていく。これからも我々は被災地に心を寄せて、東北ＪＣに出来る事は何なのか真剣に考え、行動に移していかなければいけない。今、被災地で求められていることは何か。東北ＪＣとして被災地に対して何をすべきか。この組織のスケールメリットを生かし、被災地の実情をもっと発信し、東日本大震災を風化させないよう努めていく。ＰＣで出来る事は限られているが、人間に出来る事、この東北ＪＣに出来る事は無限にある。今後も東北ＪＣは被災地に心を寄せ、そして行動にも移していく。未来の子ども達から借りているこの地域をもっと輝かせてお返しするその日まで我々は力強く歩み続ける。

【真のリーダーとは】

日本青年会議所には国家、ブロック協議会は県、ＬＯＭは活動地域をカウンターパートとする運動の対象があり、地区協議会には無いとよく耳にするが私はそうは思わない。地区協議会の運動の対象は人であると強く思う。ＪＣに入会したからこそ学んだ事、気づいた事、そして多くの出会いがある。ＪＣで学んだ事や出会った人の影響で自分の人生がプラスに変わった人は多くいるはずである。私もＪＣに入会していなければ、自分だけの家族を愛し、自分の会社だけ良くなればいいと思い、地域の問題や、子ども達の未来には無責任だったかもしれない。そんな小さな人間だった私に多くの事を学ばせてくれたのが、ＪＣであり今まで出会ってきた人たちである。理想のリーダー像は沢山あるかもしれない。しかし、真のリーダーに言える事は責任と自覚があり、自己犠牲の精神を持っている人間であると思う。今、我々は家庭において、会社において、地域において様々な場面で責任ある世代である。その我々が今自分は誰の為に何をしなければいけないのかをしっかりと考え、自分の責任を自覚しながら行動すべきである。そして明確なビジョンを持ち、まずは他人の為に行動すべき人間こそが真のリーダーであると確信している。我々が住み暮らすこの東北がどうすれば今よりも輝ける地域になるのかをしっかりと考え、「自立した新東北」の実現に向けて歩んでいき、その先頭に立つリーダーを多く育てていくのも東北ＪＣである。真のリーダーが多く活動する事でこの東北はますます魅力ある地域に生まれ変わる。その変革の能動者となるのは我々東北ＪＡＹＣＥＥである。

【ＪＣＩ　ＡＳＰＡＣ山形大会と全国大会東北八戸大会】

２０１４年度は２００２年ＪＣＩ　ＡＳＰＡＣ仙台大会から数えて１２年ぶりに東北地区の山形でＪＣＩ　ＡＳＰＡＣ山形大会が開催される。ここまでの道のりは長く、多くの時間と想いを注いで頂いた公益社団法人山形青年会議所のメンバーと先輩諸兄、そして東北ＪＣのメンバーと先輩諸兄の想いがやっと現実のものとなる。入会した当初良く耳にしていた言葉がある。それは「夢を形に、形を現実に」という言葉である。今まさに夢から形になり、そして現実のものとなろうとしている。ＪＣＩ　ＡＳＰＡＣ山形大会がもたらす影響は想像がつかないほど大きいものに違いない。多くの仲間が山形に集うこの機会を活かし、東北の魅力を創出し、発信する絶好の機会である。また東日本大震災の際には多くの支援を頂いた関係諸国に恩返しをするためにも我々は東北ＪＣの一人として行動していく時である。震災後も東北は力強く歩み続け、今を懸命に生きている。その姿を発信していこうではないか。

またＪＣＩ　ＡＳＰＡＣ山形大会の翌年は第６４回全国大会東北八戸大会の開催が決まっている。この大会も決定するまでの多くの時間と想いを費やしてきた。公益社団法人八戸青年会議所のメンバーと先輩諸兄、東北ＪＣのメンバーと先輩諸兄の多くの絆が生んだ結果が２０１５年に大きな形として表れる。そしてこの大会の名称は私の魂に火をつけてくれた。それは八戸大会ではなく「東北八戸大会」ということである。これは大変意義深

い事であり、東北ＪＣのメンバーが一丸となって成功に向けて準備をしていくべきである。八戸港は震災の影響を受けながらも着実に復興し、港は活気を取り戻しつつある。その取り戻した活気を全国のメンバーに発信し第６４回全国大会東北八戸大会を成功に導こう。

ＡＳＰＡＣ山形大会も第６４回全国大会八戸大会も東北から東北ＪＣのメンバーによって東北の魅力と元気を発信し、かつてない大会を作り上げる。その主役は東北ＪＡＹＣＥＥである。

【東北青年フォーラム】

１９５３年から開催されている東北地区大会は、先輩の皆様方の想いを連綿と受けつぎ、時代に即した運動を展開し進化してきた。２０１４年度も東北地区大会は誰の為に何の為に行うかしっかりと考え開催する。主管の公益社団法人酒田青年会議所のメンバーの皆様と共に、より公益性の高い運動を発信し、参加したメンバーも各ＬＯＭに持ち帰り地域での運動に役立てて頂きたい。また多くの市民の皆様にも参加頂き、我々と共に歩みを進めて頂きたい。東北ＪＣのメンバーが一堂に会するこの大会でより多くの気づきと学びと出会いを創出出来るよう努めていきたい。また東北地区会員大会は東北ＪＣの最大の運動の発信の場であり、東北ＪＣらしさを存分に発揮し魅力ある大会をメンバーが一丸となって作り上げよう。

【おわりに】

我々は多くの時間をＪＣに費やしている。最近良く耳にするのが「ＪＣと仕事の両立が困難である」、「ＪＣの活動に時間を取られ、家族との時間が無い」といった言葉である。本当にそうだろうか。私はいつも自分の会社は自分の器以上に大きくならない。全ては自分次第であると思っている。青年会議所という団体はまちづくり団体でもなければ青少年育成団体でもない。自己修練の団体であると信じて活動してきた。青年会議所の活動や運動を真剣にやればやるほど個人のスキルは上がっていくのである。辛い時もあれば泣きたい時、投げ出したい時もあるが全ては自分に与えられた修練、自己成長の為だと思い活動していただきたい。それが個人の成長に繋がり企業の成長へと繋がるのである。そして企業が成長すれば皆さんのまちも魅力あるまちになるのである。青年会議所で自分を磨き、企業を良い企業、さらには強い企業へと成長させて頂きたい。良い企業とは働く人たちが歓びを感じ、お客様や協力業者、地域社会からも尊敬される会社であり、強い会社とはマイナスな外部環境にも影響を受けない強靭な経営体質の会社であり、他社とは異なる製品や技術の提供が出来る会社である。良い会社の条件があってこそ強い会社である。そして良い会社を作れる人間に育て上げるのがＪＣであると信じている。

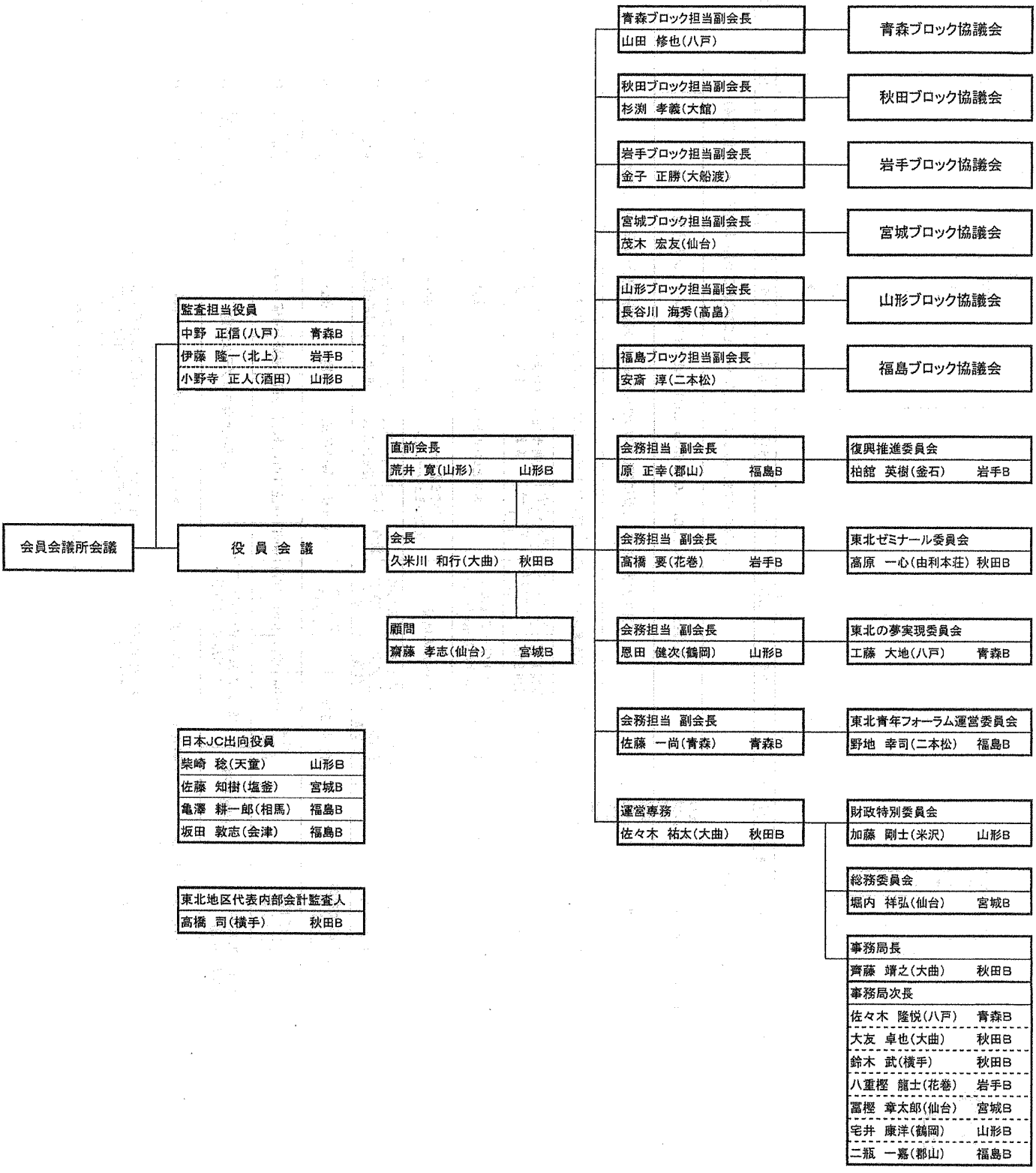
秋田県大仙市大曲には毎年８月第四土曜日には７０万人以上もの人が全国花火競技大会を観るために集まってくる。花火は試行錯誤の末に長い時間をかけ作る。そして打ち上げれば数秒で消えてなくなる。よく長い時間をかけて作ったのに一瞬で消えるのはもったい

ないと思わないかと聞かれるがそうは思わない。花火には作り手の魂が宿る。全ては想いと行動力である。どれだけ美しい花火を作るかという想い、そして、どんなふうに火薬を調合し、仕込み方法や仕上げの調整を寸分狂わず行うかという行動力、それが観る人々に大きな夢と感動を与える事が出来るのだと確信している。花火は確かに一瞬で消えるが、一生人の心に咲き続ける事が出来る。そしてＪＣ運動も一緒である。人の心を動かす運動が出来るのは地域をどれだけ想い、行動出来るか。全ては想いと行動力で決まるのである。精神論だけではどうにもならいない時もあるかもしれないが、最後は精神的に強い人間、想いが強い人間だけが夢を達成できるのである。その想いと行動力を良く表現している言葉がある。それは、「かつてない困難からは、かつてない革新が生まれ、かつてない革新からは、かつてない飛躍が生まれる」この言葉は松下幸之助氏の言葉である。これは一心不乱に粉骨砕身不退転の決意をもって行動した結果の言葉である。今の日本はかつてない困難な状況ではないだろうか。そして我々はかつてない革新を生み出しているのだろうか。今、日本は大きな岐路に立たされている。あの震災から我々は何を学び、そして何を感じたのだろう。そしてどう行動に移すべきか真剣に考えたはずである。それならば東北ＪＣが一丸となり、かつてない革新を生みだそうではないか。そしてこの東北がかつてない飛躍をする時である。想定外の困難であるならば、想定外の頑張りでこの荒波を乗り越えよう。それが東北人である我々東北ＪＡＹＣＥＥの務めである。そしてそれを出来るのが東北ＪＣである。

われわれは、新たな価値を創造する旗手として
尊い結の精神を呼び覚まし
かつてない未来を切り拓くことを誓う。

さあ、力強く歩もう。想いと行動力は全てを叶えてくれる力の源である。

公益社団法人日本青年会議所　東北地区協議会　2014年度　組織図(案)



2014年度　公益社団法人　日本青年会議所東北地区協議会

東北（とうほく）ＪＣ宣言（せんげん）

われわれは

新（あら）たな価値（か ち）を創造（そうぞう）する旗手（きしゅ）として

尊（とうと）い「結（ゆい）」の精神（せいしん）を呼（よ）び覚（さ）まし

かつてない未来（みらい）を切（き）り拓（ひら）くことを誓（ちか）う

【東北ＪＣ宣言】

東北各地の青年会議所は、地域における様々な問題を解決し、明るい豊かな社会の実現に向けた運動を展開しております。地域を想い、地域の実情に目を向けながら活動する青年会議所のそれぞれが抱く熱意を共有し、連帯感から生まれるスケールメリットを発揮することで、計り知れない力へと繋がる、限りない可能性を有しているのです。

「東北ＪＣ」とは、東北地区内すべての青年会議所が「東北は一つ」という想いを共有する形を指します。同じ志を持ち行動する全ての青年会議所が、地域に暮らす人々と共に、相互の信頼と尊敬から生まれる「結」の精神を育みながら力強い歩みを進めるため、ここに「東北ＪＣ宣言」を定めます。

【われわれは】

東北地区内すべての会員会議所会員を指します。

【新たな価値を創造する旗手として】

戦後日本は、先人たちの努力により高度経済成長期を経て世界トップクラスの経済大国へと成長を遂げました。しかし、社会を取り巻く環境の変化に伴い、より良い地域づくりへの取り組みに求められる価値観も変わります。各地で育んできた地域の文化を持続発展させながら、相手を思いやり、公共の幸せを願う気持ちを最上と捉える「新たな価値」を

創りあげ、困難な社会に対し、前向きな姿勢で取り組む必要があります。

旗手とは先頭に立って活躍する者であり、地域住民を先導し牽引するため、東北のＪＡＹＣＥＥが地域のリーダーである使命感を奮い立たせながら、次代を築き上げる旗手としての気概を強く持ち行動することが大切です。

【尊い「結」の精神を呼び覚まし】

人は誰しも相手を思いやり助け合う「結」の精神を心の奥に持っており、それはきわめて価値の高いものです。特に東北地方は昔から労働力や食物を貸し借りし、互いに協力し合いながら暮らし、生きるための「結」の精神が深く根付いており、東北に暮らす人々のアイデンティティとして秘めています。また、震災を受け厳しい状況下で、被災した人びとの行動により、東北には「結」の精神が確かに根付いていると誰もが改めて認識を強くしました。ＪＡＹＣＥＥが展開する運動により、「結」の精神の大切さを確認しあうことで、新たな価値が広く浸透していきます。

【かつてない未来を切り拓くことを誓う。】

思いやりに満ち溢れ、自ら主体性を持って地域を良くしようとする気持ちを最も価値あるものとして捉える人々が各地で多くなるに従い、未来への展望が開けていきます。未来は誰も経験したことはありません。しかし、やがて来る未来を待つのではなく、今を変えることで未来を目指すべき方向へ変えることは出来ます。最も大切なことは目指すべき未来の実現のために、一人ひとりが出来ることを行っていくことです。

一人ひとりに出来ることは溢れています。この時代に生きる意義をそれぞれがしっかりと認識し、今をどう生き抜かなければならないかを真剣に考え、責任世代としての役割を果たすことを誓い合うことで、東北各地の青年会議所運動がより力強く推進されるのです。

2014年度
公益社団法人　日本青年会議所　東北地区　青森ブロック協議会　会長意見書

公益社団法人八戸青年会議所
2014年度　会長　山　田　修　也

高揚無限

～人とまちとのつながりが新たな青森を切り拓く～

【はじめに】

今、自分を振り返って、私のこれまでの人生は挫折と逃避の連続であったと思う。経済的にも恵まれた中で、父母に甘え自分の好きなように生きてきた学生時代。社会に出てからも気づかず挫折の繰り返し。しかし、仕事に対しては人並み以上の熱意はあったと感じている。そんな中、家業を継ぐ為に東京から戻り愕然とした。遊ぶところはなく、テレビを点けニュースを見れば時事ネタに乏しく、独自性の薄い番組が目立つ。人を見れば仕事に対しての熱意も薄く、繋がりという“なあなあ”の関係。うんざりする毎日。人とは交わらず仕事を趣味にする私。私は人と交わりを持たなかった都会の生活が性に合っていたと思う。我が路だけを進んできた人生を今振り返れば、稚拙で何もわかっていない、地域に生きる自覚も無い私であったと羞恥を覚える。しかし、私の人生を一転させたのはＪＣとの出会いだった。これまでの活動の中で多くの気づきを頂いたからだ。更に言えば、ＪＣという組織でめぐり会ったメンバーのお陰で今の私がある。人を愛し、人を大切にする。繋がる事で不可能を可能にする。まちづくりをする事で次代を守る。私は確実にＪＣという組織に意識を高揚していただいた。その事で私の可能性は、それまでの自分と比べて広がりをみせたと確信しているし、私の可能性をまちづくりに結び付ける事で、まちの可能性にも結び付けられたと自負している。更には己が成すべき事を明確に自覚する事で、必ずや未来は変わると信じている。組織が明確なビジョンを策定し、ビジョンに向けたアクションを起こす事が大切であり、ビジョン・アクションが私たち青年のミッションだと言う事を改めてつよく自覚してほしい。

【ブロック協議会として】

１９７１年に発足した青森ブロック協議会は、日本青年会議所と各地会員会議所との調整機関として発足した。近年は時代の変化に則しながら進化し続けている。また近年の法人制度改革により公の利益の為の活動が求められている。改めて組織は何のためにあるのかと考えた時、それは紛れもない県内８会員会議所メンバーの為のものであると考える。自己修練の場であり、友情を分かち合う機会の創出。更には奉仕をしながら自己を磨きあげていく。活動はメンバーの為のものであるが、事業は公の為のものであると私は考える。いわばキャストとゲストの考え方である。キャストはゲストに向けた活動の中で、キャス

トにしか分からない気づきや学びがある。私たち青森ブロック協議会メンバーはキャストであり、ゲストは当然、県民である。私たちは住み暮らす青森の未来をデザインしながら今を創造することが必要なのではないかと考える。

【これからの青森ブロック協議会の在り方】

私はブロック協議会が青森には最も必要な組織であり、かけがえのない組織であって欲しい。ただの行政枠で括られた隣りまちではなく、経済・文化・産業等は勿論の事、人と人とが繋がる事で、青森は今までとは違うステージにあがるのではないだろうか。各地会員会議所のメンバーが出向しブロック協議会から学びを得て、各地にフィードバックするのも良いとは思うが、逆のアプローチで各地から英知を集結し、青森を盛りあげていく事も必要なのではないだろうか。なぜなら私たちは全てにおいて繋がっているからだ。青森全体が盛りあがる事の相乗効果で、更には付加価値で県内各地も盛り上がっていくのではないかと考える。県内各地での先進事例を持ち寄り、真摯に青森という括りでまちづくりをする事で心も共有できるのではないかと信じている。先ずは我々自身がまちづくりへの意識を更に高揚し伝える事で、県民の意識を高揚させ、青森は変革を遂げると確信している。変革は青森に無限の可能性をもたらすだろう。それがスケールメリットを活かしたまちづくりなのではないだろうか。青森の風土を一番わかっているのは、住み暮らす私たちであり、メンバー一人ひとりが青森を愛する心を持ち合わせていると信じている。更には行政ではできない大胆な手法を用いて青年らしく表現していきたい。まずは青森のビジョンを真摯に考え、幾通りとある手法からこれまでの豊富な経験を活かし最善の手法を選択し、必ずアクションに移し明日の青森を創造したい。

【むすびに】

私たちは青森という括りでひとづくり・まちづくりを行う。各地８会員会議所から出向して頂いた英知を結集し、この青森を新たな時代へ導いていきたいと考える。これまで活動をしてきた経験からの自信を持ち、青森を自らの手で変えていくというつよい自覚を持ち邁進していきたい。間違いなく時代を導いていく先導者は我々青年であり、８会員会議所メンバーが繋る事で必ずや光り輝く青森が創出されるだろう。

青森ブロック協議会　事業計画（案）

結の精神が満ちあふれる自立した青森の実現

青森ブロック協議会　会長　山田　修也

　世界遺産の白神山地をはじめ、世界に誇れる豊かな自然に囲まれ、風土や文化等、青森独自の魅力が溢れる地域ではありますが、原油価格高騰による漁業の衰退や、東日本大震災からの復旧・復興は、３年が経った今でも進んではいません。今こそ、責任世代であるＪＡＹＣＥＥが為すべき事を明確に自覚したうえで気概と情熱にあふれる行動をとり、未来を見据え行動する県民による､結の精神が満ちあふれる自立した青森の実現が必要です。

　まずは、地域から日本の未来を切り拓くために、本会の事業・運動を会員会議所へ推進します。そして、意気あふれる人財を育成するために、大きなフィールドを活かしたアカデミー事業を開催し､物事を多面的な視点で捉えることのできる人財を育みます｡さらに、活気に満ちあふれた地域をつくるために、本会と連携し県内８ＬＯＭの会員拡大支援を行い、特に若い世代をターゲットにした増強に努めます。また、県民によってこの国のあるべき姿を描くために、日本人の精神性に立脚したうえで、憲法のあるべき姿を議論し、憲法論議が深まる運動を展開します。そして、描いた国家像を実現するために、日本ＪＣ憲法草案を広く発信し、県民の意見集約と意識の共有をはかります。さらに、有事の際に備えるために、防災パッケージであるＪＣ－ＡＩＤの普及を推進し、これから起きうる災害に対しての準備を進めると共に、他団体とディスカッションをすることで、有機的に機能するネットワークを確立します。また、結の精神を県民に広く発信するために、青森ブロック大会を主管ＬＯＭと協働して開催し、県民に結の意識を醸成する大会を開催します。

　社会を変革する原動力となったＪＡＹＣＥＥが同じベクトルに向かい学び行動し続け、県民の意識がかわり当事者意識をもつ県民と共に地域の課題に対して不可能を可能に変え、結の精神が満ちあふれる自立した青森が実現され､「たくましい国」日本を創造します。

＜事業計画＞

１．本会の事業・運動の推進
２．意気あふれる人財の育成
３．憲法に関する県民の意識集約と意識の共有を図る事業の実施
４．結の精神を醸成する青森ブロック大会の実施
５．ＬＯＭと共鳴する調整機関としての協議会運営
６.【ブロ連】国民参加型による憲法に関する事業への参加推進及び発信
７.【ブロ連】多くの人が実働できる防災ネットワークの拡充・強化
８.【ブロ連】本会と連携した会員拡大の実施
９.【ブロ連】ＵＮ　ＭＤＧｓ認知向上プログラムの推進・実施

年間事業フレーム(案)

東北地区

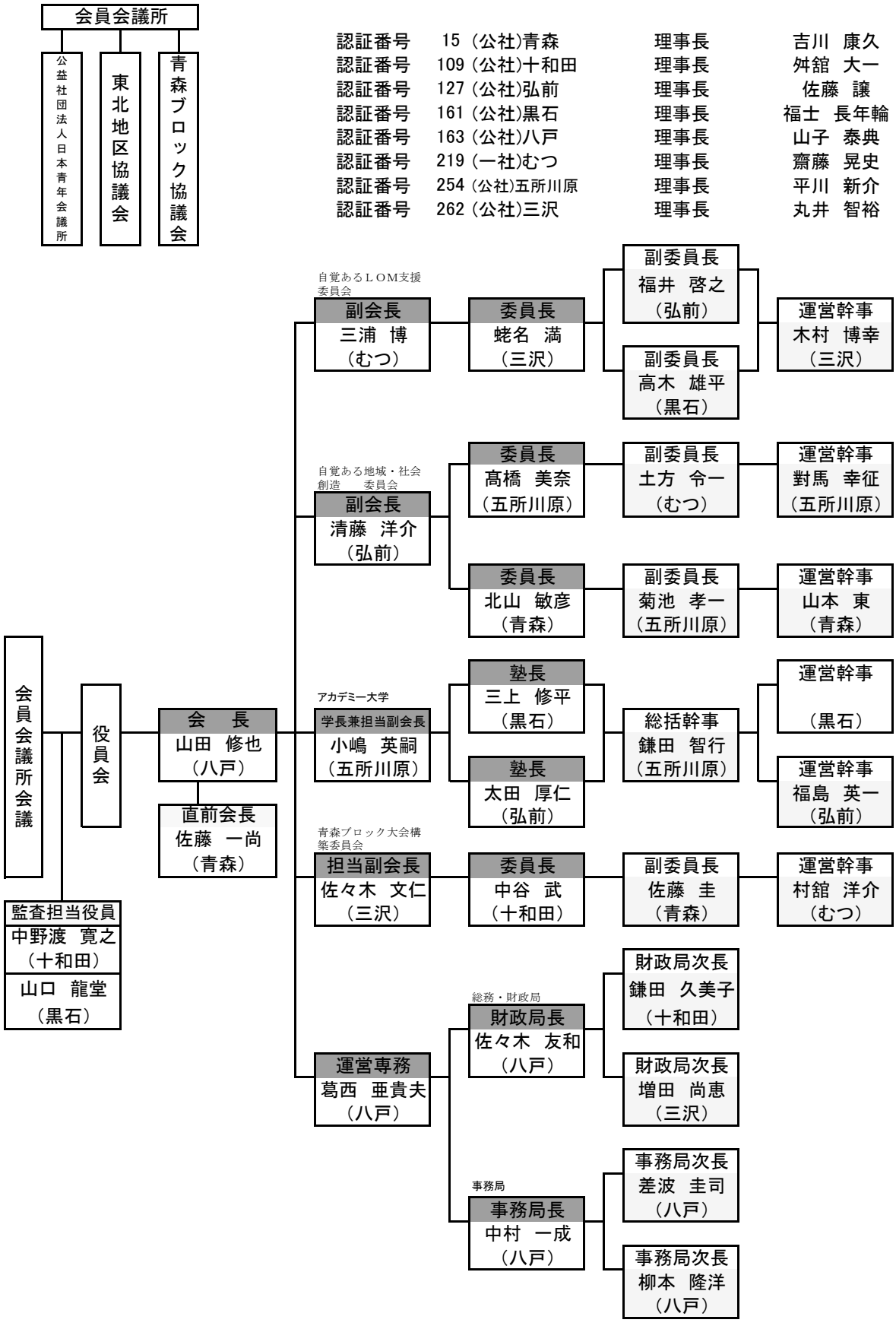
青森ブロック協議会

会長　山田　修也

全国大会（奈良）　世界会議（リオ・デ・ジャネイロ）　京都会議（京都）　復興創造フォーラム（福島）　ASPAC（山形）　サマコン（横浜）　グローバルパートナーシップサミット（ニューヨーク）　全国大会（松山）　世界会議（ライプチヒ）

運動・事業名	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
本会の事業・運動の推進	本会との連絡・調整					随時実施・本会（必要に応じブロック・LOM）との連絡・調整（情報・意見交換）											
・JCI NOTHING BUT NETS キャンペーンの推進	本会との連絡・調整				支援計画立案	本会との連携によるJCI NOTHING BUT NETSキャンペーンの推進										引継	
・選挙におけるマニフェスト型公開討論会の推進	本会との連絡・調整				支援計画立案	随時実施・本会（必要に応じブロック・LOM）との連絡・調整（情報・意見交換）											引継
・道徳心を育む運動の推進	本会との連絡・調整				支援計画立案	随時実施・本会（必要に応じブロック・LOM）との連絡・調整（情報・意見交換）										引継	
意気あふれる人財の育成	引継		本会との連絡・調整		セミナー準備	セミナー開催	各LOM状況把握	各LOM支援			各LOM状況把握	サマコンセミナー参加推進	各LOM支援	各LOM状況把握	全国大会セミナー参加推進	引継	
憲法に関する県民の意識集約と意識の共有を図る事業の実施	本会との連絡・調整・情報収集					憲法についての調査・研究	ブロック事業の企画・立案		ブロック事業の準備	事業の実施	検証	本会との連絡・調整（情報・意見交換）				引継	
青森ブロック大会の実施	引継					開催LOMとの調整市場調査		策定	立案	準備・ブロック内PR		実施	検証		引継		
LOMと共鳴する調整機関としての協議会運営	本会・地区協議会との連絡・調整及びスタッフセミナー受講					LOMと共鳴する調整機関としての協議会運営											
国民参加型による憲法に関する事業への参加推進及び発信	本会との連絡・調整・情報収集			憲法についての調査・研究		ブロック事業の企画・立案			ブロック事業の準備・広報	連携事業の実施	検証	本会との連絡・調整（情報・意見交換）				引継	
多くの人が実働できる防災ネットワークの拡充・強化	本会との連絡・調整			引継		LOMとの調整	ネットワーク構築に向けての情報収集		他団体との打ち合わせ			検証	体制確立		検証	引継	
本会と連携した会員拡大の実施	本会との連絡・調整・情報収集					情報収集	拡大講座		本会・地区協議会・会員会議所との情報交換・共有			検証	本会・地区協議会・会員会議所との情報交換・共有			引継	
UN MDGs認知向上プログラムの推進・実施	引継		プログラムの研究			UN MDGs認知向上プログラムの推進・実施									報告	事業の検証	引継

公益社団法人日本青年会議所　東北地区
青森ブロック協議会　2014年度　組織図(案)



公益社団法人　日本青年会議所　東北地区　青森ブロック協議会
２０１４年度　委員会職務分掌

◇自覚あるＬＯＭ支援委員会
●本会と連携した会員拡大の実施
Ⅰ　会員拡大の推進
１．会員拡大セミナーの実施
２．青森ブロック版拡大褒賞の実施
Ⅱ　ＪＣプログラムを活用した指導力開発事業の実施
１．　ＪＣ推奨プログラムセミナーの実施
（ＵＮ　ＭＤＧｓ認知向上プログラムの推進・実施）
２．　ＪＣＩ　ＮＯＴＨＩＮＧ　ＢＵＴ　ＮＥＴＳキャンペーンの推進
３．　道徳心を育む運動の推進

◇自覚ある地域創造委員会
●国民参加型による憲法に関する事業への参加推進及び発信
Ⅰ　未来に希望を託す事のできる国家像を描く憲法議論の開催
１．マニフェスト型公開討論会の開催（随時）
（１）公開討論会の開催及び各ＬＯＭへの支援
２．ｅーみらせんの運用（随時）
３．浸透させる事業の開催
Ⅱ　国民参加型による憲法に関する事業の開催
１．憲法タウンミーティングの開催
●多くの人が実働できる防災ネットワークの拡充・強化
Ⅰ　広域災害に対しても機能するＪＣ災害ネットワークの構築
１．ＪＣ災害ネットワークの改訂及び構築
２．東日本大震災復興に関する支援
３．発災時における復旧活動に関するデジタルアーカイブの作成・保管（地区）

◇アカデミー大学
●意気あふれる人財の育成
Ⅰ　ブロックアカデミーの実施
１．開校式・閉校式の開催
２．全●回のアカデミー大学講座の開催

◇青森ブロック大会構築委員会
●主管ＬＯＭと協働した意気あふれる地域の創造
Ⅰ　青森ブロック大会の開催
１．青森ブロック大会の開催
２．主管ＬＯＭとの連携・協力
３．青森ブロック大会の検証及び引継ぎ

◇総務・財政局

●ＬＯＭと共鳴する調整機関としての協議会運営

Ⅰ　組織進化に向けたＬＯＭのニーズに即したセミナーや支援の実施

１．格ＬＯＭ法人格維持の為の指導・補助

２．本協議会会計、会議体・委員会会計の予算・決算における指導・助言

３．ブロック内監査の設営

４．諸会議の設営及び議事録の作成並びに庶務全般

５．本協議会のウェブサイトの運営及び各種情報の受発信

６．新春名刺交歓会・卒業式の開催

◇事務局

●日本ＪＣ・地区協議会とＬＯＭの調整機関としての協議会運営

１．本協議会の事務運営

２．運営専務の補佐

３．総務・財政局との連携

４．諸会議の案内通知及び提出議案の取りまとめ

５．ＪＣＩ　ＡＳＰＡＣ　山形大会開催の支援（地区）

６．その他必要とする事項

2013年度

公益社団法人弘前青年会議所

事業・決算報告資料

2013年度を振り返って

理事長　清　藤　洋　介

「この地域で暮らす責任世代として、我々は今なにをすべきか」

公益社団法人化２年目の幕開けであった、2013年。「REBORN【地域創生】～守るべきもの　守りながら変えるべきもの～」を基本理念に掲げ、震災後時代、地域主権＝市民主権時代の到来と共に、私たち青年は混沌という時代を未知の可能性として切り拓き、前進ある地域社会の確立を目指し、地域の未来に明るい希望をもたらす基軸、使命＝志を身にまとい、行政や地域コミュニティー、地域全ての人々のつなぎ役として連携と協働というつながりから地域の未来を考え、また次代の地域（子供たち）を育む運動を展開してきました。

～子供たちの未来創造～

未来の津軽人である若者同士が連携と協働して行く事が出来る、人的なプラットホームとして、「未来の津軽人育成プログラム」を立ち上げ、この地域の魅力や文化に触れながら、参加者自らがデザイン・構成を手掛け、まち歩きを創出し地域とつながった、「平成まんじ札」、この地域の連綿と紡がれてきた誇りと伝統、道徳に触れ、見知らぬ大人や高校生、子供たちが交流から人とつながった、「JCねぷた運行」。また太田新田商工会青年部との強いつながりのある上州尾島ねぷた会の弘前ねぷたへの初出陣。甚大なる被害を受けた、東日本大震災。あの日を忘れることなく、同じ東北に住まうものとして復興への多様化するニーズに合わせ、経済的支援を視野に入れた、絆（つながり）、「復興支援事業」。また売上金を「釜石に桜を植える会」に寄付する等。こうした一つ一つのつながりから、豊かな関係性を創り、この地域への誇りや心の豊かさが育まれ、“道徳”、“伝統”が紡がれ、はじめは特別なことであったとしても、時間を掛けることで、特別なことではなく世代を超えて、自然と交流することが出来るような仕掛けを創っていくことで、循環的に健全な人を創り、次代の地域（子供たち）を育む確かな一歩を踏み出すことが出来ました。

～地域プロモーション～

2012年度事業「HIROSAKIコミュニティーミーティング～わげものビジョン～」事業化。様々な立場・年代の方々が意見を交わし、今まで表面化し難い様々な地域への想いが議論、共有され、そして多くの事業案が考えられ、市民自らがつながり合い、まちづくりに参画する連携・協働システム、「市民協働プロジェクト　わげものビジョン事業」。弘前さくらまつり期間中に弘前カラーさくら色を身に付け、市民皆でまつりを盛り上げた、「弘前さくら色プロジェクト」。「夢」をメインテーマに、子供たちと子供たちを支える大人を対象に、夢と希望を持って未来へ向かって走り続けられる為に、その成長を支える地域と家族が必要だと訴えた、社会教育事業、「夢を目指す君たちへ　～Never give up on your dream～　落合博満氏　講演会」。そして、白神山地　世界自然遺産登録20周年を迎えるにあたり、先人たちより守り、紡がれ、世界に讃えられた白神山地を活用したまちづくり、「環世界自然遺産サミット」。各地個性に満ち溢れ、世界に讃えられた、屋久島・知床・小笠原、そして白神山地の４つの世界自然遺産が、日本で初めて顔を揃え「世界自然遺産を有する地域が、連携し合いながら、自然と人が、共生していく社会の創造」を宣言し、この先手と手を取り合い共に「日本ブランド」へと創り上げていくことを宣言しました。さらに、「地域ブランド」をプロモーションする又とないチャンスと捉え、人と人、人と地域、人と自然がつながり合うストーリーをコンセプトに、地域が誇る物づくり文化、白神山地の豊かな恵みによって育まれた日本一のりんごなど豊富な農産物を有する食文化、そして音楽を取り入れた「Cross.S(クロス・エス)」の開催。行政や地域コミュニティーと手を繋ぎ、連携と協働から、震災後の地域主権＝市民主権時代の到来を発信し、地域への誇りを呼び覚まし、世界へ誇れる、安住しい、憧れの地域への向けた一歩を踏み出すことが出来ました。

～地域に住まう経済人として～

この地域に住まう地域経済人として、目的意識を持ち、変化を恐れることなく、様々な視点から物事を捉え、地域と己と向きあいながら、行動し、進んでいく、資質向上を目的とした「例会」の開催。2012年度より市民の皆さんとのつながりを意識し、市民一人一人が地域づくりへ参画し、地域づくりへの力強い一歩を踏み出す機会を創出するために引き続き開催した「HIROSAKIコミュニティミーティング」。津軽地域の連携を視野に入れ、五所川原青年会議所と共同開催した「わんぱく相撲」。弘前ねぷたのオープニング飾った、「ちびっ子ねぷた」の開催。100人LOMへの礎を築き、23名もの新加入会員拡大の成功。台湾　苗栗青年会議所45周年記念式典への参加。全国城下町シンポジウムで培った絆、松本青年会議所との地域の持つ個性を活かした、その地域にしか出来ない地域づくりを実践すべく締結した、「城下町まちづくり都市締結」。台風18号被害に係わる災害復旧支援並びに義援金募金活動など、今目の前にある現実を真剣に考え、覚悟と強い信念を持ち、自らが成長するために果敢に一つ一つの事業に取り組み、懸命に一歩一歩踏み出した一年となりました。

2013年、メンバー一人一人が己と向きあいながら、強い信念と志という基軸を持ち、行政や地域コミュニ

ティー、地域の全ての人々のつなぎ役として、連携と協働というつながりを意識しながら、活動して参りました。

委員長。一人一人が見せてくれた、己と、地域へ向き合う姿勢は、この年の地域の原動力となりました。震災後時代を迎え、我々を取り巻く環境は、今大きな変革期を迎えています。この時代の中、私たちがどのような役割を担い、運動を進めていくかは、己と向きあい、地域と向きあい、青臭くても畏縮することなく、自分たちが住むこの地域の、この国の未来を考え、ただひたすら、この国、この地域の為に、もう少しだけ失敗を恐れずに行動することだと思うのです。

副理事長、担当幹事、メンバーの皆さん。１年間支えてくれて、本当にありがとう。

この地域に住まう経済人として、この地域に住まう責任世代として活動し、私たちの本気の行動が、地域の活力につながった一年となりました。

弘前青年会議所65年目へ向けた、2013年度は終わりを迎えました。

2014年度　第64代 佐藤 譲理事長らに託し、引き続きのご支援ご協力を皆さんに心からお願い申し上げ、私のご挨拶とさせて頂きます。

行政や地域コミュニティー、地域全ての人々とのつながりを大事に。

一年間、本当にありがとうございました。

直前理事長　**藤　田　あつ志**

◆亡き母の遺言

思春期に揺れ動く自分自身と戦い過ごした紆余曲折の10代。そして、産み育てていただいた父母への感謝に気づき、遅すぎる償いの20代は昼は死に物狂いで働き、夜は取り戻すかのように睡眠返上で勉強する。そして結婚。最愛の我が子たちを授かった。ようやく自立を遂げようと前進し始めた30代の時である。「あつ志は、もう大丈夫。」と言葉の無い遺言を置いて優しすぎる母が若くして他界した。ボーっと。そこには受け入れられない母の死があった。その時である。当時入会間もない私に弘前青年会議所のメンバーたちが、通夜に、葬式にと物凄い団結力で事に向き合い駆けずり回ってくれていた。そして気がつくと、力が抜けた私にしっかりと寄り添ってくれた多くの仲間たちがいた。

それ以来、私にとっての青年会議所との出会いは、多くの仲間たちと亡き母が紡いでくれた、何にも代えることができない一生涯の財産だとそう思っている。だから、私は先輩や後輩、出会う人たちを大切に思う「志」は人並みではないと自負している。

◆郷土愛の根源は家族愛にあり

そうして私の青年会議所への恩返しが始まった。まちづくりの修練。率先して利他の精神に飛び込み修練すればするほど、まちへの愛着が深まり、不思議に国家への誇りも見えてくる。また、その度合いに比例して、まちの課題が実感として多く見えてくるのである。そして、そこには日本人に生まれて良かった、弘前に生まれて良かった、そう思える根源に圧倒的な家族愛によって育まれたものであることも同時に気づくのである。そんな、自分自身との向き合い方の度合いによって、見えないものが、見えてくる。青年会議所とは実に不思議で良くできた組織であると、卒業の振り返りの段階にそう思うのである。

◆卒業後は地域に帰れ！

私たち青年世代は高齢となる親世代を支え、同時に我が子を産み、育てるという子世代を支える両輪のミッションがある。子どもたちには教育を受けさせ、そして経済人として人々に勤労の場を創造し、また自らがその勤労を率先して使命とし、それにより税を納めてさらに互いの暮らしを補い支え合う。

子どもからお年寄りまで、すべての世代が笑顔溢れるような、明るい心豊かな信頼社会創生へ向け、課題である少子高齢化社を乗り越えるには、私たちJAYCEEの力が必要である。修練を終えた卒業後たちは、どうしても、帰らねばならない場所がある。それは、住み暮らしてきたそれぞれの身近な地域だ。

気がつけば、町に子どもの声が無い。気がつけば、独り高齢者たちが苦しんでいる。その異常に気づかないことは地域経営の損失。では、その異常に気づくことができるのは？そう、これまでその場に住み暮らしてきた、まちの変化を捉えることができる存在かつ、まちづくりのトレーニングを経た、地域リーダーのことである。

幾多の修練を乗り越えてきたJAYCEEは、卒業後、弘前のまちに必要とされる各エリアのリーダーとしてバランスある地域づくりをそれぞれプロデュースしていくこと。一人でも多くの仲間たちが、地域再生の実践者たる使命をもって、広く郷土に還元されることを願ってやまない。

◆最後に。

これまで多くの皆様とのつながりに心から感謝するとともに、この卒業を機に、今後も小生なりの最善を尽くして、家族、会社、そして地域の為に勉強を重ね、さらなる自らの志に生きることを肝に銘じたい。

「笑顔溌剌をありがとう。」

副理事長　小山内　隆　一

地域プロモーションを展開した本年、わげものビジョンの事業化からはじめ、講演会事業、そして初の試みとなった白神山地世界自然遺産登録20周年記念事業であるＣross.Sを開催することが出来た。一年を振り返り感じたことは、つながることの大切さである。

この地域で真剣に頑張っている人々が本当に多いことに改めて実感し、様々なことを展開できる可能性を見出すことが出来たと思う。我々ＪＣだけで運動することの必要性は、充分理解しているが、つながりを持つことでできる事業は、無限である。

また、今年度入会したメンバーにも本当に助けていただいたことを感謝します。メンバーが楽しみながら真剣に頑張ってくれている姿が非常に感動しました。

2014年度に向けて、私が入会したときに話した楽しみながら運動することを意識しながらこのつながりをより多く皆さんと持ちたい。そして、その関係をより強固なものとするために運動を展開することを誓う。

副理事長　小　野　貴　志

2014年度は清藤理事長のもと、会員開発委員会担当を任命されました。毎年のことながら「会員拡大は重要」と年当初は議論されますが、弘前JCにおいては卒業生と同等又は下回る入会者数で、年々会員数は減少しておりました。

清藤理事長より、「30名拡大」の目標を頂き、委員会メンバーと1月から動き始め、花巻JCのOBで現役当時に拡大褒章でゴールデンゴングを獲得した伊藤先輩をアドバイザーに迎え、会員拡大の重要性と拡大に向けての方法手段を存分に指導いただきました。拡大候補者リストは約100名近くまで広がり、会員全体で23名の拡大に成功いたしました。目標の30名には届きませんでしたが、メンバー全員の意識改革の結果であると自負しております。

会員拡大運動を通して感じたことは、会費で運営されるJCにおいて拡大運動は、企業でいうと売上にあたると感じました。要は営業です。当会議所の目的や活動内容、それらを訪問先の「青年会議所って何？」と思っている人たちに熱く語りかけるのです。全てが思い通りに進むわけもなく、OBの諸先輩方からお力を借りる等、様々な方法を模索していた1年でありました。

この流れを来年以降も引き継いでもらい、弘前JCの更なる発展に寄与していきたいと思います。

副理事長　佐　藤　　譲

地域経済の低迷が続く中、このような時代だからこそ青年会議所創始の志を持って力強く「明るい豊かな社会」の実現を目指し、共に手を取り合い未来の弘前を照らす燈火とならなければなりません。そのためには地域のリーダーとして共に行動できる人を育み、地域人・経済人として弘前を牽引していかなければなりません。この思いの基、委員会メンバーいや全メンバー一丸となり運動を展開して参りました。

例会を通じて、メンバーとの親睦を図るとともに、リーダーとしての素質を向上するための学習・啓発活動を行い、我々の使命を見つめなおし、個々のアイデンティティーを確立させ、地域を自発的に牽引していくリーダーシップを兼ね備えた、まちを変えていく一歩を踏み出せる活力のある人材を育成して参りました。そして、前年度実施したコミュニティミーティングにおいて我々は市民の想い・意志を受け取ることができましたが、まだまだ多くの課題が残りました。多くの市民よりコミュニティミーティング継続の要望の声を多くいただき、我々はこの事業を継続していく責任があると考えます。弘前というまちがより一層活性化していくために、より多くの市民と交流し、まちづくりへとつなげていくための意見交換を行い、意識の醸成を図り地域の強い絆＝つながりを築いてきました。さらには、わんぱく相撲の歴史と伝統を絶やすことなく、後世にその誇りを受け継いでいくために、国技である相撲を通じ、礼節や努力、伝統や思いやりといった、将来の社会生活に必要な精神・知識・道徳を学んでもらうことを目的としてこの事業を継続しました。我々と次代を担う子供たちが暮らすこの弘前の未来を強く信じ、覚悟をもって切り開いていく誇り＝基軸を胸に強く抱ける地域人の育成・意識の醸成を図り、地域に自分にそして未来に責任を持ち、実行力漲る経済人になることにより「地域創生」に繋がると確信しています。しかし運動はまだまだ続いていきます。いや必ずや次世代に繋いでいく責任が我々にはあります。一つの区切りとして報告とさせていただきます。

副理事長　福　士　圭　介

私にとって2013年はJC最終年即ち、卒業年であります。その年に３期連続で副理事長をさせていただく事は、最後まで燃え尽きろ！と言う事であると思い、気合いをいれて挑んだ年でした。また、青少年事業が担当委員会と言う事で、私が今までのＪＣライフで一度も取りかかった事のない委員会でありました。

青少年事業の内容としては、「まんじ札」の開催・弘前ねぷたへの「ＪＣねぷた」としての参画・「津軽人」の育成・「復興支援」の継続、などがありました。なかでもＪＣねぷた事業は、予算規模からしても大変厳し

く、また難しく、体力的にもかなりハードな事業でありました。その為「まんじ」にしても「津軽人」や復興支援の事業も、すべてが「ねぷた」で燃え尽きてしまった感のある委員長やメンバーをもう一度ＪＣの事業に向き直させる事が私の役割なのですが、それを全うできなかった感はあります。卒業の年に、非常に自責の念に駆られる年となりました。まだまだ未熟と言う事です。

「雨降って地固まる」と言う事で、卒業後もがんばってまいります。

本当に今までありがとうございました。

出向理事　**太田　厚仁**

「タフチョイス」意味は「キツイときこそキツイ選択を」2012年の青森ブロック大会のメインフォーラム講師、ラグビートップリーグ、サントリーサンゴリアスの選手が言っていた言葉ですが、2013年度はまさしくタフチョイスの１年となりました。

2013年度出向理事として公益社団法人日本青年会議所規則審査会議副議長としての出向、またLOMでは白神山地世界自然遺産登録20周年記念事業として環世界自然遺産サミットを担当させていただきました。日本JCは出向者数が多く一人一人に与えられた担いを専門的に取り組めるという利点があり、弘前JCは一人の担いが大きく、総合的に取り組めるという利点があります。ただ、日本JCであれ弘前JCであれ1日24時間しかない中で運動、または活動しなければいけません。1日24時間の時間を家庭に仕事にJCに使い、寝る間も惜しんで時間を費やし、一見何が楽しいのかと思われるかもしれないが、その積み重ねが自分の成長、そして地域の成長に繋がるものと信じております。

2013年度もタフチョイスしたおかげで成長できた年になったのではないかと思います。これもひとえに支えてくれた家族、そして仲間のおかげだと思っております。ありがとうございました。

専務理事　**安田伊佐武**

逢仏殺仏　逢祖殺祖

事務局長　**比　内　理　佑**

2013年度、事務局長を務めさせていただきました比内理佑と申します。振り返るとこの1年間は、これまで弘前青年会議所で過ごしてきた中で最も駆け抜けた時間でした。

思い返せば多くの時間を事務局で過ごしたもので、事業系の委員長では見えなかった総務・事務局系の大変さをつぶさに勉強させていただきました。安田専務からいただいた訓示「事務局長は事務局担当の副理事長相当」を胸に、様々な事柄に主体的に取り組ませていただいた結果、自分自身大きく成長できたと思っています。反面、不慣れな事務局運営により皆様にご負担をおかけしましたことは誠に遺憾でございました。特に「弘前城雪燈籠まつり」において高さ2m程度の雪燈籠製作が、高さ4m・幅奥行各3mの雪像製作へと変貌した事、またそれに伴う一連の出来事については今でもしみじみと感慨深く、率直に言うとごめんなさい、そしてありがとうございました。

最後に、安田専務、１年間のご指導、ありがとうございました。三宅委員長を始めとする総務渉外委員会の皆様、お疲れ様でした。そして事務局員の鈴木さん、貴女の献身的な仕事がなければ2013年度事務局はありませんでした。ありがとうございました、お疲れ様でした。

弘前白神プロモーション委員会
担当幹事　**笹　森　聖　博**

「2013年度を振り返って」と言われても、思い出せないくらい内容の濃い一年でした。

事業を振り返っても過ぎた事は戻ってこないので、委員会メンバーに一言ずつ送ります。

小山内副理事長、今までありがとうございました。あなたの下で本当に良かったです。秋元委員長、頼りにならない上役でごめんなさい。あなたのこれからのご活躍を見守っています。黒部さん、ずっと友達でいて下さい。齋藤君、あなたと出会えたことが今年一番の収穫でした。尾崎君、お世話になりました。あなたの熱い心、尊敬しています。福井君、一年間お疲れ様でした。あなたの冷静な分析がとても助かりました。相内さん、私の事をJCに入れてくれて本当にありがとうございました。工藤先生、これからも家族でお世話になります。大井君、委員会でのムードメーカー役、ありがとうございました。三浦君、齋藤君の事を来年も助けてあげて下さい。石澤さん、成田さん、本当にお世話になりました。るり子姉さん、一生付いていきます。委員会は違いますが、川嶋君、あなたのチャラさはずっと残して下さい。中里君、「酒」は程々に。前田君、ずっと「出来る男」でいて下さい。原田君、徳差さん、杉澤さん、山崎さん、本当にありがとうございました。皆さんがいてくれたから、今年の事業を無事終える事が出来ました。本当に感謝しています。

最後に、清藤理事長、私にこんな大役を任せていただき、本当にありがとうございました。そして、一年間本当にお世話になりました。感謝しています。

出来れば、目立たない所でそっとＪＣ活動をして卒業年度を迎えたかった、笹森でした。

青少年委員会担当幹事　**斉　藤　勇　太**

今年度を振り返ると、大変濃い1年間でした。年間５本の事業を行い、休む期間がまったく無く常に事業の段取り・実施していた様な気がします。
メイン事業のねぷたでは、小屋を建てた日から運行日まで、毎日夜遅くまで製作・運行の打ち合わせをし、時には飲みながら仲間と馬鹿話をし大変ではあったが、楽しい時間を過ごしました。また高校生も笛・太鼓の経験者がほぼいない中、1ヶ月間の練習でマスターできたのは、担当させた立也・クッシーのお蔭でした。製作では泉谷・吉川を筆頭にメンバーを動かし無駄なく出来たことは、彼らが今後理事なって行く上ではいい経験になったと思う。

まんじ札事業では、段取りが悪く参加店舗の方、収集していた方にはご迷惑をかけました。ねぷた事業と重ねっていたとはいえ、担当幹事としてサポートが出来なかったことは反省し、次年度は気をつけながら頑張っていきます。

復興支援事業では、現地への視察・提供品の開発・販売等、高校生が多くの体験をすることで、被災地域に対する考え方・係り方を再度考える事が出来たのではないかと思う。

最後は卒業式事業です。我々の委員会から圭介さん・原田さんの２名が卒業されます。2名とも今年度だけでなく、昨年度・一昨年度と一緒の委員会で頑張ってきたので、JC生活の中で、一番思い出に残るようなものにしたいです。

最後に、野村委員長あなたにはかなり、泣かされ・仕事をつぶされましたが、これを経験に次年度は人の上に立つ者として、もう少し自覚を持って進めてもらえばと思います。しかし、年間５本の事業をこなしたのは頑張った証ですので、今後の自分に活かされると思いますので頑張ってください。本当に１年間お疲れ様！！

会員開発委員会担当幹事　**工　藤　順　敬**

今年度を振り返ると結果が求められる1年でした。
目標が30名入会、更には日本ＪＣの褒賞で拡大率上位に与えられるゴールデンゴングを狙う。正直そんなの不可能ではないかと思っておりました。

目標があまりにも大きいと人間誰しも怯んでしまうもので、最初はあまりやる気が無く、
なるようにしかならない的な感じの会員拡大運動を展開しておりました。

しかし、委員長である坂本貢君のありあまる率先した行動力、何人にも負けないくじけ
ない心につられて私もいつの間にか会員拡大運動にどっぷり協力するようになっていきました。

結果は23名の入会ということで当初の目標に7名ほど足りず非常に悔しいですが、

ここからが大事なのだと私は思います。この動きを来年、再来年と半永久的に続けて

いかなければ会員拡大運動の意味は無いと思います。兎にも角にもそんな運動へ微弱ながらでも協力、携われたことに感謝しております。ありがとう。

地域のリーダー育成委員会担当幹事　**三　國　典　央**

2013年度、地域のリーダー育成委員会の担当幹事を務めさせていただきました三國典央です。今年度地域のリーダー育成委員会では､「例会」と「HIROSAKIコミュニティーミーティング」の2つの事業をメインに1年間活動してまいりました。

例会では､「地域のリーダーとして進んでいくために自分達には何が必要なのか？」をテーマに、メインタイムを担当する４回の例会にて、講師を招いての講演やメンバーでのディスカッションを行いました。また、HIROSAKIコミュニティーミーティングでは、全3回のミーティングにおいて、市民の皆様と一緒に「弘前の未来」について真剣に考え、グループミーティングやグループごとの意見発表を行いました。

いろいろと気づきの多い充実した1年間になりました。特にコミュニティーミーティングでは市民の皆様、特に高校生・大学生の発想の豊かさや考えの深さに目を見張り、感服することが何度もありました。今年度の経験を糧にして、また1つ自分をステップアップさせてこれからも頑張っていきたいと思います。

総務渉外委員長　**三　宅　志　保**

2011年に入会し、若輩ながら、2013年は総務渉外委員長を拝命致しました。1年前、JCのなんたるかもわからないまま候補者会議が始まり、理事候補者会議を運営し、議案を書くことでいっぱいいっぱいだった事を思い出します。理事会や総会がスムーズに運営できず、反省する事も多々ありました。その際には理事メンバーを始めとする多くの方々にご迷惑をおかけし、申し訳ありませんでした。また、いろいろと助けていただき、ありがとうございました。総務とは目立たない存在ですが、弘前JCがどのように運営されているかを知り、私にとって貴重な体験をすることができました。

また、渉外事業を企画し運営する事で、LOM以外でのいろいろな交流を持つことができ、とても刺激的な一年でした。渉外事業の醍醐味は、弘前を離れ、ほかの土地を訪れる事で弘前の魅力を再発見できる事にあると思います。また、そこで出会った方々から受ける影響は弘前JCにとっても、個人にとっても、きっとプラスに働

く事と思います。この経験で得た事を、より多くのメンバーに知ってもらい、渉外事業への参加率を上げていけるよう今後とも努力していきたいと思います。

最後に、総務渉外委員会を支えて下さった多くの方々に心より感謝いたします。ありがとうございました。

弘前白神プロモーション委員長
秋　元　駿　一

ありがとうございました。

今年１年間を振り返ると、自分としては皆さんに支えられた1年間であったと思います。白神事業でバタバタと年初から、小山内副理と笹森幹事を引っ張り出し吹雪の中打ち合わせに行ったり、行った先で門前払いされたりとしょっぱなで厚い壁に当たりました。
しかし多くの方々のご協力を得てなんとかカタチにすることができました。

わげものビジョンの実現化においては、会議をやりましたがその後の実現へ向けての取り組みが、時間に追われ多くできなかったところは反省すべきところだと感じております。

今年実現できたことはわずかでしたが、出会った方々と親交が深まり、声をかけてよ！と言われる関係になれたことは本当に良かったと思っています。

落合博満講演会では、白神の事業と時期が被り、詰み将棋のように時間がなくなっていきました。しかし事前準備から当日運営までとメンバーに助けられました。

最後にＣｒｏｓｓ．Ｓ。私の力不足により最後がつまってしまいました。申し訳ありません。会社にもいかず事務局と家の往復がメインとなりました。（会社の皆さんありがとう）日付が近づくにつれて私だけでなく、事務局に来るメンバーが増えてきました。一緒に深夜まで何日も…子供を寝かせてから駆けつけてくれたりと、本当にありがとうございました。皆さんがいなければこの事業はできなかったと思います。小山内副理、色々とご心配おかけしました本当にありがとうございました。笹森幹事、卒業年度に最後まで助けていただきました。大人を学びました。

人生32年間で最も人の心に触れた1年間でした。
ありがとうございました。

青少年委員長　**野　村　太　郎**

2013年度、青少年委員会委員長を勤めさせていただきました野村太郎です。当委員会は本年度、青少年育成事業として「未来の津軽人育成事業」「ＪＣねぷた事業」「平成まんじ札事業」「復興支援事業」の４つの事業を展開いたしました。各事業とも弘前の未来を担う青少年世代に弘前の歴史、伝統を伝えることで己が故郷を愛し、守っていこうという思いを醸成してもらうことを目指してまいりました。初めての委員長でもあり、実施段階で様々な不手際、もたつきがあり反省ばかりが積みあがっていくといった有様でありました。自らの至らなさを思い知ったところでありましたが、事業に参加してくれた高校生を中心とする皆さんからは「参加してよかった」「前より弘前が好きになりました」といった感想を多く頂くことができたのは満足であると考えます。青少年育成事業は一朝一夕で上手くいくものでもありませんし、結果がすぐに出るものではない事業です。しかし一方で10年20年経ってから素晴らしい花を咲かせうるという「夢」がある事業でもあります。いつの日か「自分が弘前を支えていこうという志を持ったのはＪＣの青少年事業がきっかけだった」といってくれる人物が現れるのを夢見て本年度の事業の総括としたいと考えます。一年間ありがとうございました。

会員開発委員長　**坂　本　　貢**

2013年度は近年課題となっていた会員拡大事業が担当でありました。外部アドバイザーとして、会員拡大に成功してこられた花巻ＪＣのＯＢ伊藤泰尚先輩から多くのアドバイスを頂き、新加入会員数23名という実績を残すことが出来ました。

成功の要因のひとつは、会員拡大リストを徹底して掘り下げたことです。会員全体ミーティングを数回行い、拡大リストを100名近くまでリストを増やし、一つ一つ丁寧に訪問することで入会者を増やすことが出来ました。

会員拡大の新たな試みとして、ＯＢ諸先輩との交流から新会員の情報をいただきました。また新加入会員が新たな会員情報をもっており、新たな会員情報が会員拡大大きな要因の一つでありました。会員拡大は、会議所がある限り行うべき大事な活動です。今年のいい点をなるべく引き継いでほしいと願います。

新人研修もおおくの新加入会員がおり、例年以上に活気ある新人研修が実施でき、講師の方々にも心から御礼申し上げます。

この一年自分なりに必死に走り回った一年でありました。多くの方々のご協力とご理解があり活動できたと感じています。この一年大変お世話になり心より感謝申し上げます。

地域のリーダー育成委員長　**白　石　将　一**

地域のリーダー育成委員会の委員長を務めさせていただきました白石です。私は「例会の企画・運営」、「官民共同中心市街地活性化事業検討事業」、「わんぱく相撲の検討調整」の３つの事業を担当させて頂きました。例会の企画・運営では、地域のリーダー育成プログラムと銘し、計４回のプログラムを運営させて頂きました。３名の講師にお越しいただいて、地域のリーダーについてのご講演を頂き、我々が目指すべき姿を再確認することが出来ました。官民共同中心市街地活性化事業検討事業では、HIROSAKIコミュニティミーティングを計３回開催し、市民の皆様と一緒になって弘前の地域を活性化させるプランを考えました。わんぱく相撲の調整検討では、五所川原青年会議所の会員enjoy委員会と共催で、わんぱく相撲LOM大会を開催し、各学年上位２名を引率し全国大会に参加することが出来ました。これらの事業を通じ、様々な方々と交流することが出来、得難い繋がりを得ることが出来ました。この度得られた人の輪を宝とし、今後のJC活動に活かしていければと思います。拙い運営で様々なご迷惑をお掛けいたしましたが、１年間委員長として活動出来た事をとても嬉しく思います。支えて下さった多くの皆様に感謝申し上げ、次年度以降も頑張っていきたいと思います。１年間誠にありがとうございました。

監事　**鎌　田　法　丈**

監事とは、法人・団体の保有財産及び理事の業務執行を監査する機関又は役職であります。公益社団法人となった当弘前青年会議所においては２年任期であり、2013年度がその１年目でした。

2013年度は例会、理事会、総会において最後に時間をいただき皆さんに姿勢を正してもらい一言挨拶を述べさせていただきました。それとはもうひとつ個人的に行っていた事は、青年会議所の活動、地域のイベントや全体事業として町ぐるみで参加している事業など多くにいちメンバーとして参加させていただきました。監事という役職に甘んじる事無く、多くのそういった活動に一緒に参加して、見て感じることでより多くの気づきを得られました。

次年度も引き続き、弘前JC活動の業務執行を表面的なものだけではなく、根本にあるより大事なものを見ていくことが必要とされます。そして、それを言葉に発し次世代の青年に繋いでいきたいと思います。

監事　**三　上　富　裕**

2013年度振返りとして、震災後の時代を築く為に組織として進化しながら行動していかなければならないその為に人作りとして弘前青年会議所メンバーが覚悟と責任をもった行動力のあるJCになることが必要だと感じ若い世代に先輩たちより受け継がれてきた大切なことを伝え共に知恵を振り絞り弘前青年会議所運動に貢献する事を監事としての職務をまっとうしていくという思いで一年間やってまいりました。どこまで達成できたか分かりませんがメンバーに少しは覚悟と責任を持った行動力が必要だと伝えられたと思います。一年間ありがとうございました。

公益社団法人日本青年会議所
規則審査会議　副議長　**太　田　厚　仁**

2012年度専務理事を務め、その経験を活かし2013年度公益社団法人日本青年会議所規則審査会議副議長として出向させていただきました。全国から同志が集うことで多角的な視点で物事を捉えることができ、日本JCのコンプライアンスを審査することができました。また、自分も学ぶ機会となり、LOMへも還元できたのではないかと思います。特に公益社団法人格としての定款について、弘前JCも公益法人格に移行する際に苦労はしましたが、2年経つ今でも変更を重ねております。移行してから日本JCで定款変更をしたところについて2013年度弘前JCへも還元できましたが、2013年度で変更できなかった部分は2014年度に変更をかけていきたいと思います。

日本JCへの出向の魅力は、専門的に学ぶことができるし、何と言っても日本中に仲間ができることだと思います。お金と時間を使いますが、使う価値のあるところだと私は思います。確かにLOMは大事だが、広い視野を持つためにも日本JCへの出向をお勧めします。灯台下暗しというようにLOMだけにいれば地域のことが案外わからない状況にあるかもしれません。しかし出向することによってLOMや地域のことが見えてくることもあるかと思います。是非出向する機会があるなら機会を逃さないでください。この機会をくれたLOMや家族、そして出会えた仲間に感謝します。ありがとうございました。

公益社団法人日本青年会議所青森ブロック協議会
前進あるLOM確立委員会
委員長　**佐　藤　　譲**

日本青年会議所全体を見ても近年多数の卒業生を輩出し会員が３万人台に突入するという状況の中で「明るい豊かな社会」の実現に向けて精力的かつ持続的なＪＣ運動を展開していくため、青森ブロック内各会員会議所が会員減少という問題を危機と捉え、一人ひとりが会員拡大意識の高揚と、意義、目的を理解し早急に対応する必要がありました。

その中で、自分たちの地域の「明るい豊かな社会」の実現に向けて精力的かつ持続的なＪＣ運動を展開していけるように、メンバー一人ひとりが会員拡大意識の高揚と、その意義、目的を理解する必要があります。組織としての力をより強固にするためは、地域の未来を創造する人を増強し、意識変革団体としての基本運動との想いを伝え、地域において必要とされるメンバーを一人でも多く集め、本気で地域の未来創造へ寄与して行く事である。それこそが基本運動＝会員拡大運動である。

しかし、会員拡大運動とは入れるだけでは駄目です。共に学び共に笑い共に感じ、共に共感できる地域のリーダーにしなければならない。

一つの区切りとして、1月1日時点で381名でしたが、10月31日時点で502名になり12月31日予測として509名、年間純増数で128名33.59％の純増率となり、本年卒業生が68名2014年度スタート時で441名スタート予測になります。

前進あるＬＯＭを確立するために組織としての成長と一人ひとりの意識変革が必要です。ＪＡＹＣＥＥ一人ひとりが意欲的な行動力を呼び起こし、地域を照らす燈火となり、夢と希望に溢れた意欲に漲る力強い青森を築き上げることで「勇壮なる日本」を創造します。

公益社団法人日本青年会議所青森ブロック協議会
財政局長　**三　上　富　裕**

震災後の時代を築く為に組織として進化する為に青森ブロック協議会の財政局の進化の担い活動する必要があります。その為総務委員会と共同し組織進化の為県内LOMのニーズに対応した支援また公益社団法人等運用セミナーを実施各LOMの公益性の進化の一助となるべく運営基盤の支援をしてきました青森ブロック協議会の財政局として各LOMの会計の指導助言などを積極的に行ってまいりました。そして青森ブロック協議会の財政局として適正な会計処理をしてまいりました。

全国城下町青年会議所連絡協議会
監事　**藤　田　あつ志**

長い間の城下町畑にもどっぷり浸かり、ようやく卒業前の最終ミッションである監事の重責も無事に終えることができました。この城下町弘前のカンバンを背負って出向させていただいた、どこかおなじ匂いのする全国の城下町の仲間たちは、私にとっても、弘前にとっても、かけがえのない「つながり」となることができました。いまある地域の宝を最大限に活かす。そして、地域に眠るまだ見ぬ多くの価値を呼び覚ます。そんな、地域の主体性が日本を元気にし、日本本来の魅力を取り戻すことになる。

年始の京都での総会において、「これからは、全国の城下町がそれぞれのまちの魅力を率先して世界に示していかなければならない。」と、日本における“新しい城下町時代”の幕開けであることを監事として次代の方向性を示唆しました。

10月に奈良で開催された役員会においては、2020年東京オリンピック・パラリンピックが日本で開催されることについて、すでに30余年の全城連の歴史を紡いできた城下町同士の“つながり”をもとに、今一度それぞれのまちの磨き上げを推し進め、オリンピック開催の機運を、おもてなしの心と共に全国の城下町が率先して高めて行こうと伝え、その中で、東日本大震災による甚大な被害や、全国で発生する自然災害における被害から、その復興がすべての基礎となることも申し添え、国際化、情報化、少子高齢化など、日本のおかれているキーワードも背景に、全城連加盟青年会議所が一体となって、今後のまちづくり在り方に一定の気づきを得るように監事の職責を進めさせていただいた。

このようにして、全城連加盟地域がもつ特有の課題を広く掌握し、それらを日本全土の城下町が共有し、それぞれの地域が意欲的な見解で切り拓き、明るい心豊かな日本の創造へ向けて前進できるよう、微力ながら小生なりの最善を尽くして役割を担わせていただくことができました。

結びに、卒業にあたり全城連での全国の皆さまとの“つながり”を今後も大切に、ＯＢたちと共々に、今後の現役たちの進める城下町のまちづくりを支援してまいりたいと思います。出会って下さいました多くの皆さまに心からの感謝を申し上げ御礼の言葉と致します。ありがとうございました。

公益社団法人弘前青年会議所
2013年度　事業体系図

公１ 地域社会の健全な発展に寄与する事業

●委員会名：弘前白神プロモーション委員会
●事 業 名：夢を目指す君たちへ
～ Never give up on your dream ～
落合博満氏　講演会
●意義・目的：昔の地域(以下まち)では町内会ごとにねぷたや催しを行い、地域の連帯感の中で道徳や社会性を学び、子どもたちも親も成長することができた。しかし現代社会では地域への関心や近所同士の連帯意識が薄れ、子どもたちも親も社会性を身につける機会や道徳を教わる機会が失われている。こんな時代の中で次代を担う子どもたちは「夢」と「希望」を持って地域の未来を支える人財となるのでしょうか。子どもたちが「夢」と「希望」を持って未来へ向かって走り続けられるためには、成長を支える家族と地域が必要である。地域に連帯感や思いやりある人間関係の大切さを気づかせる場を創出し、地域の未来を支える思いやりと感謝の心を持った青少年を育成する。
●実施日時：平成25年10月13日(日) 午後4時　講演開始
●実施場所・会場：青森県武道館　主競技場
●対 象 者：青少年、弘前市民、その他
●参加人員：919人(大人　７３８人　小人　１８１人)
●外部協力者：関西経営管理者協会
弘前スポーツ・レクリエーション祭実行委員会
HIROSAKI市民球団プロジェクト　弘前アレッズ
高校生ボランティア
弘前市体育協会(青森県武道館)
●方法手段：実動員数(半券計数)

		大人	小人	合計
1	ローソンチケット	223	13	
2	手売り・プレイガイド	475	103	
3	ゲッティ	20	0	
4	招待者(野田村)	20	65	
	合　計	738	181	919

チケット実販売数

		大人	小人	合計
1	ローソンチケット	238	12	250
2	プレイガイド	284	91	375
3	手売り	439	156	595
4	当日券	90	10	100
	合　計	1051	269	1320

ボランティア人数
12日

	項目	人数
1	JCメンバー	12
2	高校生	35
	合計	47

13日

	項目	人数
1	JCメンバー	22
2	高校生	35
	合計	57

●スケジュール：
１月　講師選定
２月　講師選定
３月　講師選定　スポレク祭協働交渉
４月　講師選定　スポレク祭へ資料提出
５月　講師選定
６月　講師選定　スポレク祭実行委員会参加　チラシ・ポスター
７月　講師決定　チケット販売手続き・手売りチケット作成開始
８月　チラシ・ポスター・手売りチケット作成完了　市内各所に配布・掲示
チケット販売開始　スポレク祭　打ち合わせ
広報活動
９月　講師との最終打ち合わせ　広報活動
10月12日　前日設営　１８時～２１時
10月13日　設営並びに講演会
開催　９時集合準備　～19時半
撤収完了

開始	終了	次　第
16：00	16：01	司会者挨拶
16：01	16：05	主催者挨拶
16：05	16：10	講師入場
16：10	17：20	講演
17：20	17：35	質問コーナー
17：35	17：40	講師退場
17：40	17：55	抽選会
17：55	18：00	終了
18：00	19：30	撤収完了

●事業目的の実現と成果：
当日落合氏講演会に非常に多くの方々に来ていただきました。
ご自身の体験を元に努力してきたことや逆境等様々な経験談を元に講話されていました。
子どもたちは講師の講話を聴いて、夢をより現実として持つことができたのではないかと思う。
また、大人たちにおいても、講師は最近の大人は叱り方が下手だ等、大人としての躾

についてや人を育てることの考え方について述べられていた。

●次回への引継事項：

講師選定時期は早めに決めたほうが良い。
予算がかかっても広報活動は最低限必要である
ゲッティは思った以上に利用者が少ない。
リンクステーションの配券管理はすごく役に立った。
スポレク祭との共同をこちらから再度お願いした形となったので、次年度必ず筋を通してください。
ポスター配布リストは他の委員会とのリスト共有が図れればよいと思う。
後援依頼の文章は団体によって、ＪＣの依頼文の他に、各社独自の形式を記入/提出する必要がある.
販売戦略はきちんとシナリオを描いて行った方が良い.
会場内は広いので１点で管理するよりも各担当リーダーに任せる形がよい

●委員長所見：まずは、講師選定をギリギリまで待っていただいた、理事の皆さまに感謝申し上げます。
講師選定に時間がかかり、その後の行動に大きく支障をもたらしてしまいました。最初広報費用を削減していただけに、足を使ったポスターの配布展開を行いました。
チケット販売においても、序盤苦戦を強いられていましたが、メンバーの皆様に販売していただき、開催直前には、ＣＭや中日ドラゴンズのＧＭ就任のニュースがタイムリーに報道され、動員を後押ししました。
しかしながら、全体として子どもたちが少なかったのは反省すべき点であります。
アンケート結果を見ても大人が多く来場していた.特に30代～40代の小さい子を持つ親の世代が多く来ていました。これは親と子の事業として、親の世代が多く来ていただいたことでこの地域でもっと夢について考えていただけるきっかけになれればと思います.
また、事業には非常に多くの方々に支えられましたこと、この場を借りて感謝申し上げます。
私自身、この事業を通じ、来場された方々にとって100％良い結果だったかはわかりません。
しかし、熱心に講師に耳を傾けメモをとる生徒と、少し変化球の効いたトークに夢中になる大人を見て、この事業を担当させていただき本当に良かったと思っておりま す。感謝申し上げます.
本当にありがとうございました.

●決　　算：¥1,939,707

●委員会名：弘前白神プロモーション委員会

●事 業 名：～わげものビジョン～市民協働推進会議

●意義・目的：2012年度事業「HIROSAKIコミュニティーミーティング～わげものビジョン～」において様々な立場・年代の方々が意見を交わし、今まで表面化しがたい様々な課題が議論・共有され、そして多くの事業案が考えられた。私たちはこの2012年度事業で多くの市民が自らの住む地域(まち)について考え「実行したい」という思いを知ることができた。青年会議所はこの事業案をしっかりと育てていく責任と使命がある。今後は青年会議所が地域の架け橋となり、市民が参加し行動する地域(まち)を目指し、様々な方との協働を見据え、生まれた事業案を一つでも多く実現することを目的とする。

●実施日時：適時

●実施場所・会場：
弘前市総合学習センター　視聴覚室
弘前公園・土手町コミュニティパーク

●対 象 者：弘前市民、各団体、2012年度ＨＩＲＯＳＡＫＩコミュニティミーティングに参加した方

●参加人員：25名

●外部協力者：弘前大学北原研究室

●方法手段：わげものビジョン事業化
①わげものビジョン事業化　２回
委員会に参加した市民の方々が企画したプロジェクト
実行日時：平成25年4月20日（土） 13：30～15：30
②弘前さくら色プロジェクト
委員会に参加した市民の方々が企画したプロジェクト
実行日時：平成25年４月28日～５月５日（さくらまつり期間中）
参加者：300名
方法手段：
「弘前さくらまつり」期間中に「さくら色」の何かを身につけて、みんなでまつりを盛り上げよう！
（わげものビジョンで56歳男性の方が考案した『弘前カラー大作戦～まちなかを弘前カラーの服で染めよう』が原案）
５月４日に弘前追手門にてさくら色を身に着けた参加者で記念撮影(約50名参加)
周知方法：フェイスブック

③Cross.S
Cross.S事業を参照

●スケジュール：
１月　わげものビジョン事業の精査　実行委員会　組織準備(委員会内)
２月　わげものビジョン事業の精査　実行委員会　組織準備(委員会内)
３月　わげものビジョン事業の精査　実行委員会　組織準備(外部への周知)
４月　第１回　委員会の開催
５月　事業実施(さくら色のプロジェクト)
６月　第２回　委員会の開催
11月　事業実施(Cross.S)
12月　ＪＣ次年度への引き継ぎ等

●事業目的の実現と成果：
まずはじめに第１回の委員会の開催を行い、市民の皆さまと前年度の事業について精査いたしました。熱い議論を重ね、その結果として自発的に市民の皆さまが行動し、「さくら色のプロジェクト」としてわげものビジョンの事業を事業化することができました。これは単年度で終わるものではなく、市民の皆様の力で継続可能な事業として根付いていくものと考えております。また、私たちJCが架け橋となっていくことができた第１歩目であったと考えます。またCross.Sにおいても、秋に対してのイベントの構想や土手町でのわげものの活性化という意見がある中で合致し、実施することができたと考えております。

●次回への引継事項：
市民と共に行動するにはきちんと事業案を示した後でないといけない。
委員会という形の運営は管理をきちんとしないといけない。
事業によっては予算がかからない場合もあるので、事業精査の段階で計画する必要がある。

●委員長所見：まずは様々な方にご協力を賜り、ここに感謝申し上げます。事業はJCとして意見をきちんと順序立てて、市民の方々を招致しないと厳しいと思った。今回、市民の方々から自発的に行動が起こされたことは、我々が想像していた以上にうれしく、それと同時に管理が難しかった。私たちが市民の意見を伺い実行するのではなく、市民の意見を市民と一緒に行動していくのだと感じた。

●決　　算：¥17,432

●委員会名：弘前白神プロモーション委員会

●事 業 名：環世界自然遺産サミット～知床・白神・小笠原・屋久島　いま　つながる～

●意義・目的：豊かな生態系、類稀なる姿のままで守られてきた。人が自然を想い在るものすべてに感謝し、紡がれてきた雄大な自然。人類の宝、それが世界自然遺産。今ここに個性に満ち溢れた、雄大な大自然を有する知床・白神・小笠原・屋久島が集います。世界に讃えられた日本の自然。今まで成す機会を得なかったこの試み。いまここで、共に手と手を取り合い、一歩を踏み出す。それがこの先、大きな道になり、その道が環となり魅力となり「日本ブランド」＝「おもてなしブランド」へと繋げていく。

●実施日時：９月21日(土)～22日(日)

●実施場所・会場：
岩木文化センター あそべーる(弘前市)及び暗門の滝自然観察教育林周辺(西目屋村)

●対 象 者：環世界自然遺産関係者及び一般市民

●参加人員：サミット　160名
案内板　除幕・白神山地トレッキング　40名

●外部協力者：共 催
弘前市、西目屋村、
弘前・西目屋エリア白神山地世界自然遺産登録20周年記念事業実行委員会
後 援
青森県、鰺ヶ沢町、深浦町、斜里町、小笠原村、屋久島町、一般社団法人青森県ユネスコ協会、知床観光協会、小笠原観光協会(父島)、小笠原母島観光協会、屋久島観光協会、弘前商工会議所、公益社団法人弘前観光コンベンション協会、目屋観光協会、公益財団法人知床財団、公益財団法人小笠原協会、公益財団法人屋久島環境文化財団、一般財団法人白神山地財団、(株)東奥日報社、(株)陸奥新報社、白神の魚普及実行委員会、ユースサミット弘前、社団法人斜里青年会議所、屋久島青年会議所(順不同)

●方法手段：基調講演(対談)
ねらい：造園家で日本の伝統的景観に造詣の深い涌井史郎氏とＣＳＶ(共有価値の創造)論を唱え、全国の地域再生に取り組む赤池学氏の対談を通じて、自然遺産の価値、まちづくり、環世界自然遺産の連携意義を発信する。
サミット
・パネルディスカッションを行う。
・メインコーディネーターは涌井史郎氏
・サブコーディネーターは赤池学氏

・パネリストは各地から2名
・テーマは２つ
①世界自然遺産の来し方・活動
【涌井さん・パネリストとのトーク】
②日本各地世界自然遺産の魅力・強みは何か、また今後のまちづくり・ひとづくり
【涌井さんのコーディネイトを基に赤池さん･パネリストとのＣＳＶトーク】
最後の涌井さんにまとめてもらう

ねらい：世界自然遺産という資本経済（自然資本経済）を基軸とした地域の在り方と、自然遺産を有する地域が連携することで拡がる未来像を各々の視点から議論し、得たものを持ち帰り活かしてもらう。

「菅江真澄の辿った秋道」案内板除幕式及び白神山地トレッキング
・菅江真澄の歩いた古道の再生に向け、案内板を寄贈
・白神山地を歩くことでの白神の可能性を探る

ねらい：実際に我々の地域の世界自然遺産白神山地にて、白神山地の可能性を探ることで世界自然遺産の価値を肌で感じてもらい、未来への活路を見出すきっかけを創造する。

記念切手事業
･「白神山地」と題し弘前市･西目屋村の小･中学生及び高校生から切手のデザインを募集する。
・弘前市長賞、西目屋村村長賞、公益社団法人弘前青年会議所理事長賞を決め、賞に入ったデザインを切手シートにする。

ねらい：小・中学生及び高校生にデザインを考えてもらうことで、白神に興味を持ってもらい、子供たちへも世界自然遺産地域に住んでいるという意識の醸成につなげたい。

● スケジュール：

７月下旬　内容の確定・予算の確定・関係者との調整
８月上旬　案内文・依頼文の発送等
８月中旬　挨拶まわり・関係者と綿密な打ち合わせ
９月上旬　各種取り纏め

９月20日（金）　サミット前日　会場設営
13：00～21：00
９月21日（土）　サミット当日

時間	所要	内容	備考
9：00	120分	集合・会場準備	JCメンバー
11：00	60分	リハーサル	出演者打ち合わせ
12：00	60分	開場	出演者と市長懇談ランチ

サミット			
13：00	１分	開会	
13：01	５分	主催者挨　拶（理事長）	理事長清藤洋介
13：06	５分	開催地代表挨拶（弘前市長）	市長代理観光振興部長高木伸剛
13：11	２分	お祝いメッセージ	東北森林管理局津軽森林管理署長
13：13	２分	祝電	三浦雄一郎様他
13：15	10分	記念切手表彰式	弘前市長賞、西目屋村長、理事長賞授与
13：25	３分	オープニング映像	

※記念切手表彰者：
弘前市長賞：
南中学校3年　斎　藤　はなか
西目屋村長賞：
西目屋小学校6年　堀　川　　心
弘前青年会議所理事長賞：
南中学校3年　対　馬　紗　奈

13：28	１分	講師入場・紹介(2名)	
13：29	40分	基調講演（対談）■日本の世界自然遺産とは（魅力など）■世界の世界自然遺産とは（比較）■日本の世界自然遺産の持つポテンシャル（共生した、まちづくり・ひとづくり・可能性など）	日本の各地世界自然遺産について、魅力をお話しいただく。それから、それぞれの講師による世界の世界自然遺産の豊かさ（まちづくり・ひとづくりなど）と日本との比較。最後に共生した世界自然遺産との関わりを考えた上で、日本の世界自然遺産の可能性とは。

14：09	１分	講師退場	

14：10	５分	休憩＆準備	

14：15	２分	講師入場 (10名) 講師紹介	
14：17	100分	パネルディスカッション テーマ１：世界自然遺産の来し方・活動 テーマ２：日本各地世界自然遺産の魅力・強みは何か、また今後のまちづくり・ひとづくり（現状の課題など）	なぜ世界自然遺産を取得するに至ったのか？自然を支えた心？市民・町民にとっての世界自然遺産とは？想いとは？を涌井さん・パネリストとのトークをし、日本各地世界自然遺産の魅力・強みは何か、また今後のまちづくり・ひとづくりとはを、涌井さんのコーディネイトを基に赤池さん・パネリストとのＣＳＶトークをする。各地まちづくり・ひとづくりに対する意見。そして世界自然遺産と共生し遺産を持つ地域・人が繋がる事で何を可能性として秘めるか、そしてそれを活かしていく為には。まとめとして涌井さんのお話しいただく。
15：57	１分	ビジョン・ミッション準備	

ビジョン・ミッション披露		
15：58	２分	サミットの趣旨説明
16：00	２分	ビジョン・ミッション披露
16：02	１分	エンディング映像
16：03	１分	閉会・交流会のご案内

交流会　　会場：ホテルニューキャッスル
白神の魚　旨いｄｅＳＥＡに参加（主催：白神の魚普及実行委員会）
18：00　開会
20：00　閉会
９月22日（日）「菅江真澄の辿った杣道」
案内板除幕式
10：00　アクアヴィレッジANMON集合
10：05　除幕式開式 会式のことば 司会
10：06　弘前青年会議所理事長挨拶
理事長　清藤洋介
10：10　弘前市長挨拶　市長代理
国際広域観光課長 福田実
10：14　案内板除幕
除幕者：市長・村長・理事長
11：16　西目屋村長謝辞　村長　関和典
10：20　除幕式閉式 閉式のことば 司会
白神山地トレッキング
10：30　ブナ林散策
12：00　終了解散

●事業目的の実現と成果：
今までは役所や環境系諸団体によって似たりよったりの会が重ねられてきたと思います。しかし今回の環世界自然遺産サミットは、弘前青年会議所が主催であったことに意味がありました。それは日本で初めて経済も視野に入れた世界自然遺産の関係者、特に民間団体が多く一堂に会したこと。そして将来に、世界遺産に深くかかわる地域がどのような課題解決に向き合うべきかを発見し、明示できたこと。さらに白神山地を愛する弘前市民に改めて蘇生価値を認識いただいたことであります。またコーディネーターをはじめ、パネリストの方々との繋がりを持てたことが必ずや大きな道となり魅力となり日本ブランドに繋がっていくと皆が確信した事業となりました。

●次回への引継事項：
・まずは、世界自然遺産を有する地域に協議会を立ち上げてもらう。そしてその協議会でどのような方向で世界自然遺産を盛り上げていくか協議してもらう。その協議会の代表者をサミットのパネリストとして招聘し、開催したほうが良い。
・実際に地域での協議会の運営はその地域に任せるが、環世界自然遺産サミットの事務局は周年ごとに持ち回りしたほうが良い。
・サミットの開催には資金がかかるため、資金調達も各地域の協議会にて協議してもらい、持続可能な運営を心掛けてほしい。

●委員長所見：当初の想いは世界自然遺産の地域が繋がれば日本で初めての試みであるし、可能性が

広がると思い計画しました。共生というテーマで、準備をし各地の世界自然遺産を学んでいくうちに、白神山地の課題が見えてきて、保全と活用、特に活用をうまくしていかなければいけない地域は白神山地ということに気付きました。白神山地は活用のしづらい場所であり、活用の捉え方について、涌井氏や赤池氏に貴重なご意見を頂くことができました。また、各地の取り組みや課題を共有でき、繋がりを持てたことに意味がありました。今回の事業はその意味で良い一歩を踏み出すことができたと思います。今後は、まず弘前・西目屋エリアで協力し白神を盛り上げるべく一体となる必要があると思います。また難しい問題もあるかと思いますが、一歩一歩進め確実に盛り上げていければと思っております。このたびご協力いただきた皆様に感謝申し上げます。

●決　　算：¥3,932,981

●委員会名：弘前白神プロモーション委員会

●事 業 名：Cross.S

●意義・目的：2013年、世界最大級のブナの天然林が広がる白神山地は世界遺産登録20周年を迎える。
白神山地から流れる大川は岩木川となり、私たちの日々の生活を支える源となっている。
この白神山地の玄関口となっている弘前。弘前市民は玄関を預かる身として白神山地について理解し、世界遺産としての価値や、私たちの生活の源である白神山地から受けている豊かなめぐみを次代へ紡いでいかなればならない。白神山地を知り、共生し、世界遺産白神山地を取り入れた「弘前ブランド」を市民とともにプロモーションを行い、日本全国に発信する。

●実施日時：平成25年11月３日（日）　10：00～22：00
平成25年11月４日（月・祝）　10：00～18：30

●実施場所・会場：
土手町コミュニティパーク、弘前Mag-Net、かだれ横丁、　蓬莱橋広場、吉野町緑地公園
東奥義塾高校

●対 象 者：観光客、弘前市民、その他

●参加人員：8637名（2日間）

●外部協力者：弘前市役所下土手町商店街振興組合
ライブハウス　Mag-Net中土手町商店街振興組合
東奥義塾高校白神の魚実行委員会
ユースサミット弘前ボヌール
学生団体irosaki 前田酒類食品販売(株)
Conchaビファーボ
弘前市工芸協会ひろさき珈琲スクール
弘前大学教育学部美術学講座弘前実業高校
NPO法人harappaひろさきマルシェコンソーシアム
アップルウェーブ

●方法手段：Cross.S
音楽祭部会
フードマルシェ部会
クラフトワークショップ部会

●スケジュール：各部会を参照のこと
音楽祭部会
フードマルシェ部会
クラフトワークショップ部会

●事業目的の実現と成果：
Cross.Sを通じて白神を発信する最初の一歩ができたのではないかと考えております。
フードを通じて白神のめぐみの大切さを伝えることができた。クラフトコンペティションを行ったことによって、白神からあらたな弘前ブランドの発信をすることができた。
音楽を通じて弘前が白神の玄関口であることをＰＲするとともに、今後のこの地域の重要さをＰＲすることができたのではないかと考える。
この白神の事業をするにあたって、実際に白神に登り私たちも理解を深められたということも良かった。

●次回への引継事項：別紙参照のこと
Cross.S　引き継ぎ事項

●委員長所見：まずは今回のCross.S事業を通じて多くの皆さまのお力添えをいただき感謝申し上げます。第１回目の本事業は、私の力不足により、多くのご迷惑をお掛けしました。しかしながら、毎日深夜まで一緒に資料を作ってくれたメンバーの皆さん、本当にありがとうございました。皆さんがいなければこの事業はできなかったと思います。JCは修練の場であります。事業終了後も身を引き締めて、周りの方々の期待に応えていく行動が求められていくと、考えております。
本当にありがとうございました。

●決　　算：¥11,554,717

●委員会名：弘前白神プロモーション委員会

●事 業 名：Cross.S 音楽祭

●意義・目的：2013年、世界最大級のブナの天然林が広がる白神山地は世界遺産登録20周年を迎える。
白神山地から流れる大川は岩木川となり、私たちの日々の生活を支える源となっている。
この白神山地の玄関口となっている弘前。弘前市民は玄関を預かる身として白神山地について理解し、世界遺産としての価値や、私たちの生活の源である白神山地から受けている豊かなめぐみを次代へ紡いでいかなればならない。白神山地を知り、共生し、世界遺産白神山地を取り入れた「弘前ブランド」を市民とともにプロモーションを行い、日本全国に発信する。

●実施日時：平成25年11月3日（日） 11：30～22：30
11月4日（月） 11：00～18：35

●実施場所・会場：
ライブハウス Mag-Net
土手町コミュニティセンター
かだれ横町
東奥時塾高校礼拝堂
蓬莱橋広場

●対 象 者：弘前市民、観光客、その他

●参加人員：4270名

●外部協力者：弘前市役所・東奥義塾高校・マグネット・ユースサミット・irosaki

●方法手段：弘前市土手町周辺各所で様々なジャンルの音楽を演奏する。
観客には「街歩き」をテーマにマップを作成し、自分の好きな音楽の場所に移動しながら聞いてもらう
Cross.S最終日のグランドフィナーレとして、有名ミュージシャンによるスペシャルライブを披露してもらう。

●スケジュール：一日目

蓬莱広場 *詳細は参考資料

11：25～12：15 弘前大学アカペラサークルV.E.	72	
12：20～13：10 弘前大学吹奏楽団	52	
13：15～14：05 弘前大学三味線サークル	44	
14：10～15：00 弘大囃子組	36	
15：05～15：55 山下知徳	71	
合 計	275	名

土手町コミュニティパーク *詳細は参考資料

12：00～12：30 弘前大学ＪＡＺＺ研究会	42	
12：45～13：55 ＤＪ オラシオ	48	
14：00～14：40 リベルアルチスタ	53	
15：00～15：40 ＺＯＤＩＡＣ（ゾディアック）	69	
18：00～19：00 KOICHI NAKAMURA	182	
19：00～20：30 JAZZ BROTHERS	220	
20：30～22：30 MONDAY 満ちる	400	
合 計	1014	名

マグネット *詳細は参考資料

11：30～11：50 EveryFly	50	
12：00～12：20 mups	61	
12：30～12：55 DEAD STOCK	84	
13：10～13：40 黒	89	
13：55～14：25 ond	131	
14：40～15：10 halos	110	
15：25～15：50 S.P.N POWER	185	
16：10～16：50 LOST IN TIME	220	
17：05～17：30 FATMAN SEMINAR	135	
17：50～18：30 FOUR GET ME A NOTS	203	
18：50～19：30 STANCE PUNKS	173	
19：50～20：30 creeps	115	
合 計	1556	名

かだれ横町 *詳細は参考資料

12：00～12：30 相馬智行	18	
12：45～13：15 ISAMI	38	
13：30～14：00 ツシマケンタ	54	
14：15～14：45 つがりあんブラス	72	
15：20～16：10 りんご娘。LIVE&サイン会	93	
18：00～18：30 上海石	68	
18：45～19：15 blue colors	65	
19：30～20：10 COBRA STYLE	69	
20：25～21：05 小山内創佑	72	
合計	549	名

二日目

蓬莱広場　*詳細は参考資料

10：30～11：15 愛隣＆成田浩司	39	
11：30～12：15 TAKURON＋太田翔	46	
12：30～13：15　本城奈々	50	
13：30～14：00　笹川皇人	29	
14：00～14：30 オールライツ＆音楽ワークショップ参加の皆さん	42	
合計	206	名

土手町コミュニティパーク　*詳細は参考資料

音楽ワークショップ

11：00～12：00

笹川皇人氏による津軽三味線ワークショップ

参加人員	28	名

12：30～13：30

オールライツの皆さんによるゴスペルワークショップ

参加人員	16	名

マグネット　*詳細は参考資料

ティーンズバンドコンテスト

12：00～13：40

参加バンド	観客票	審査員票	合計	
LOZAS （ローザス）	8	20	28	
green ducks （グリーンダックス）	4	60	64	優勝
EveryFly (エビフライ）	10	30	40	
Alter Ego （オルター エゴ）	14	20	34	
合計	36			

入場者数	36	名

東奥義塾礼拝堂　*詳細は参考資料

16：00　開場

17：00～18：35

「青山テルマ」スペシャルライブ

入場者数	590	名
実売数	660	枚
スタンプラリーコンプリート者数	121	名

●事業目的の実現と成果：

二日間に渡り合計39組のアーティストが出演した事で、弘前を音楽で溢れるまちにする事が出来た。又、スタンプラリー参加者が当初の目的通り「街歩き」をする事で、普段は車で通り過ぎてしまう場所をゆっくり歩いて見る事が出来、自分の住んでいるまちの素晴らしさを再認識する事が出来たと思う。

東奥義塾でのライブでは900名のキャパシティに対して、約600名の来場があった。この事からも、次年度以降のアーティストの選定、会場場所、お客様の参加方法等、様々な取り組み方法を検討する、きっかけ作りが出来た。

弘南鉄道大鰐線の利活用という点で、平常運航時の2.5倍の利用者がいた事は、今後の同線の活用方法にとって大きな役割を担う事が出来た。

合計5か所の会場で様々なジャンルのライブをする事により、たくさんの世代の方たちに来場してもらう事が出来た。

音楽ワークショップでは、初めて津軽三味線に触れる参加者(特に弘前大学の留学生)が、津軽の伝統芸能に触れ、改めて津軽三味線の奥深さ、難しさを知ることが出来た。ゴスペルでは、参加した高校生が実際に客前で歌うという経験を積み、歌う事の楽しさを知ることが出来た。

ティーンズバンドコンテストでは、プロのアーティストを目指すアマチュアバンドが、互いに切磋琢磨しながら競い合い、審査員・観客の審査により優勝者を決める事で、現実の厳しさ、プロになることの大変さを知る、良いきっかけ作りが出来た。

●次回への引継事項：別紙参照

●部会長所見：まず始めに、今回の音楽祭を開催するに当たり、お世話になりました市役所、ユースサミット、irosaki 実行委員会の皆様、出演していただいた全てのアーティストの皆様、音響・照明・会場スタッフの皆様、ＪＣメンバーに感謝申し上げます。

二日間に渡り、事故や怪我も無く終わり、ほっとしました。

私自身、初めての経験で右も左も分からないまま、企画・設営・運営と携わらせていただきましたが、関係諸団体の皆様に多大なご迷惑をお掛けしたと反省しております。

又、東奥義塾ライブでは、販売枚数に対して予想以上に来場者数が少なく、私の認識不足、企画力の無さを痛感しています。

しかしながら、市長からもお褒めの言葉をいただき、又、市役所の皆さまから「ＪＣよくやった」と、激励のお言葉をいただきました。それにも増して、来場いただいたお客様の笑顔、声援等を目の当たりにし、私たちが行ってきた事は間違ってなかったんだと、確信いたしました。

改善しなくてはならない諸問題も多々あるとは思いますが、お客さまからのクレー

ム、関係諸団体の皆様からのご指摘等を真摯に受け止め、次年度はさらに素晴らしい事業になるよう、しっかり引き継ぎをしたいと思っております。
未熟な私にこのような大役をを任せていただいた、清藤理事長をはじめ、理事の皆様には本当に感謝いたしております。ありがとうございました。

●委員会名：弘前白神プロモーション委員会

●事 業 名：Cross.S フードマルシェ

●意義・目的：2013年に世界自然遺産登録20周年を迎える白神山地。その白神の山より流れる清流の恵みを受けた食べ物を集め、子供から大人まで気軽に食べることができ、尚且つ身近に感じて、白神山地の保全又、白神のブランドに興味を持っていただく。弘前のアップルパイ、珈琲の街弘前ということも改めて周知し、また東日本大震災に対する復興支援の一部として、被災地の食材を使った食べ物も提供する。

●実施日時：平成25年11月３日　10：00～16：00
平成25年11月４日　10：00～15：00

●実施場所・会場：
土手町
土手町蓬莱橋広場
土淵川吉野町緑地公園

●対 象 者：弘前市民、観光客、その他

●参加人員：1411人

●外部協力者：弘前市役所
ひろさきマルシェコンソーシアム
弘前実業高校
下土手町商店街振興組合
中土手町商店街振興組合
白神の魚
ボヌール
前田酒類食品販売(株)
ビファーボ
ひろさき珈琲スクール
その他

●方法手段：白神山地のめぐみを取り入れたブースを設置する

●土手町蓬莱橋広場
①フードコート
白神山地のめぐみの食材を利用したフードの提供
②マルシェ
白神山地のめぐみの食材を利用したマルシェの提供
りんごの販売
③実業高校生徒によるブース展示
被災地の食材を使ったクラムチャウダーの販売
被災地のパネル展示

●土淵川吉野町緑地公園
フードコート
クラフト・ワークショップブースに併設したフードスペースの提供
アップルパイとコーヒーのセット(２日間で120食)
アップルパイ(青弘トラスト)300円
コーヒー(ひろさき珈琲スクール)200円
※単品300円のコーヒーをセットの場合200円にしていただき、差額を助成する。

●スケジュール：
平成25年11月２日　前日設営　９時から17時まで
平成25年11月３日　８時集合　集合後各テナントにて準備開始　10時より会場
10時30分より無料振る舞い(鮭のチャンチャン焼き)　16時終了
平成25年11月４日　８時集合　集合後各テナントにて準備開始　10時より会場
10時30分より無料振る舞い(鮭のチャンチャン焼き)　15時終了
平成25年11月５日　８時集合　各所撤収作業　12時終了

●事業目的の実現と成果：
11月３日・４日と２日間に渡り、鮭のチャンチャン焼きの無料振る舞いを行い、各日300食が完食となるなど、多くの市民や観光客の方が来場してくださいました。両日ともに雨が降ったものの、お昼時間になると椅子が満席になるなど、たくさんの集客が見られたと思います。蓬莱橋が今回本部設置個所という事、下土手町と吉野町の真ん中という事で、街歩きの方々の休憩所としての役割も果たせていたと思います。吉野町でのアップルパイ四種食べ比べとコーヒーのセットも予定していた販売数の約８割売れるなど、集客に一定の効果がありました。また高校生の復興支援のブースも２日目は完売し無事に終了できました。

●次回への引き継ぎ事項：
食べ物の選定作業をもっと急ぐ必要があると思います。
当初、白神の恵みを受けた食べ物という縛りがある中で出展者を選定していたが、縛りがあるとなかなか見つからず苦労しました。
音楽のステージが終わると人がさみしくなる。通しで何かしら出来れば。(子ども向けの物も)

蓬莱橋と吉野町を分けずに同じ場所で行えると、もっと一体感が出るかと思います。雨の対策をもう少し考えるべきだと思います。

●部会長所見：まずこの度ご協力いただきました、出展者の皆様、またスタッフの方々に感謝申し上げます。私自身、理事経験もなく、事業に係わるのが初めてで、非常に困惑した中でのスタートでした。しかし、皆様に助けられながら無事に終わることができて、本当に感謝申し上げます。部会としてもフード出展者の選定が遅くなり、焦りもありました。ただ白神の食べ物は最低限出せたかなと思っております。白神の恵みを受けた魚介類、お肉、またアップルパイにコーヒーと弘前ならではの食べ物をご用意させていただきました。小さなお子様連れの方でも振る舞いもの等をご購入頂き、家族一緒に食べていってくださったり、お年寄りのご夫婦が一緒にきて、食材に興味を持ってくださった方々も多々いらっしゃいました。また高校生ブースも２日目は完売したという事で、ほっとしました。両日ともにお昼頃ちょうど来場者がピーク近くの時に雨がこぼれ帰ってしまった方もいらっしゃるので、それがとても悔やまれます。これから改善しなければならない事や指摘等を踏まえまして、来年度はもっと良い事業になるよう、引き継ぎたいと思います。最後にこのような経験をさせて頂きましたことを感謝申し上げます。ありがとうございました。

●委員会名：弘前白神プロモーション委員会

●事 業 名：Cross.S クラフト・ワークショップ

●意義・目的：2013年、世界最大級のブナの天然林が広がる白神山地は世界遺産登録20周年を迎える。

白神山地から流れる大川は岩木川となり、私たちの日々の生活を支える源となっている。

この白神山地の玄関口となっている弘前。弘前市民は玄関を預かる身として白神山地について理解し、世界遺産としての価値や、私たちの生活の源である白神山地から受けている豊かなめぐみを次代へ紡いでいかなればならない。白神山地を知り、共生し、世界遺産白神山地を取り入れた「弘前ブランド」を市民とともにプロモーションを行い、日本全国に発信する。

●実施日時：平成25年11月３日 10：00～16：00
平成25年11月４日 10：00～15：00

●実施場所・会場：土淵川吉野町緑地公園

●対 象 者：弘前市民、観光客、その他

●参加人員：約2956名

●外部協力者：弘前市役所
Concha
弘前市工芸協会
弘前大学教育学部美術学講座
NPO法人harappa
ひろさきマルシェコンソーシアム

●方法手段：

１クラフト　コンペティションの開催

『白神山地』をテーマにさまざまなアーティストが作品を表現する。

出展された作品を審査員が選定する。

①募集方法

募集チラシを作成し県内各地の作り手に紹介し、出展を募る。

②審査

A．審査員

	氏名・職業
a	弘前市
b	西目屋村
c	弘前大学教育学部美術学講座　石川善朗氏
e	公益社団法人弘前青年会議所　清藤洋介

B．審査方法

作品から白神山地の創造力が感じられるものについて、判断する

C．賞金

グランプリ(BUNA BELT)	10万円	１点
SKK情報ビジネス専門学校	高山典久	
ゴールド(ブナごろも)	１万円	１点
弘前大学教育学部	鳴海宏美	

２クラフト即売会

クラフトの即売会　13店舗

３ワークショップ

Concha協力による、手仕事ワークショップ体験　14店舗

●スケジュール：

平成25年11月２日　前日設営
８：00～17：00
平成25年11月３日　当日　８時集合
10：00～16：00
平成25年11月４日　当日　８時集合
10：00～15：00
平成25年11月４日　撤収作業　８時集合
８：00～15：00

●事業目的の実現と成果：

さまざまなクラフトの作家の方々とワークショップ参加の方々と交流することによって、この地域のプロモーションをすること

ができたのではないかと思う。コンペティションにおいても新たな価値観を見出すことができ、この地域から新しい文化を若い人から発信できる可能性があると感じた。

●次回への引き継ぎ事項：
クラフト出展者の募集案内は半年前ぐらいから行った方が良い
各所に封書にて案内も必要だが、何よりもホームページへの誘導が必要であり重要
テントは今回準備したが、参加費用を下げてそれぞれで準備してもらっても良いかもクラフトを取り入れた要因はものづくりにあるので、次年度の展開はクラフトだけに限定しない方がこの地域のブランド向上のためと考えた時によいかもしれない。
コンペティションの募集期間もやはり多くの期間が必要。
コンペティションの選定期間は１か月ほど見たほうがよく、選定会議などを行った方が良い
出展者からさまざまな要望があるが、“程度”を見て判断したほうがよい

●部会長所見：Cross.Sを事故もなくまずは無事に終えれたことを、スタッフの皆さんと参加者の皆さまに深く感謝申し上げます。クラフト部会長としては、他の業務もやりながらで、自分が一番やりたかったことにも関わらず、事前準備の詰めが甘く、注力できなかったのは反省の致すところです。この場を借りてお詫び申し上げます。しかし、設営から撤収まで非常に多くのメンバーに助けていただきました。初めてのことだらけで、外部の方々にも多くのご迷惑とお世話をおかけいたしました。ただその中でも準備は足りずとも暖かい言葉をかけていただき、本当に感謝いたしております。
本当にありがとうございました。

●委員会名：会員開発委員会

●事 業 名：ちびっ子ねぷたのお通りだい

●意義・目的：８月１日より開催される弘前ねぷたまつりのオープニングとして「ちびっ子ねぷたのお通りだい」を開催することにより、次代を担う子ども達のまつり参加の参加意識を高め、後継者育成を目指すものである。さらには、子ども達の発表の場と捉え、家族や地域全体でまつりを盛り上げることにより、観光振興に寄与することを目的に開催するものである。

●実施日時：平成25年７月28日（日曜日）
14時50分～16時15分

●実施場所・会場：
土手町商店街（上土手町～桜大通り付近）

●対 象 者：保育園児、弘前市民、観光客、その他
今年度８団体（保育園）参加、計547人
内訳　子ども401人　学童146人
昨年度９団体（保育園）参加、計794人
内訳　子ども529人　学童265人
※親等その他関係者含まず

●参加人員：当会メンバー（12名）
津軽姫&青森県立弘前実業高校ボランティア
ちびっ子ねぷたのお通りだい実行委員会

●外部協力者：ちびっ子ねぷたのお通りだい実行委員会として
弘前市、公益社団法人観光コンベンション協会、弘前商工会議所、社団法人弘前市物産協会、青森県立弘前実業高等学校、グリーンカメラ

●方法手段：◆実行委員会会議へ出席
実行委員会出向者

清藤理事長	実行委員長
小野副理事長	委　員
工藤幹事	委　員
坂本委員長	委　員
大湯副委員長	委　員

※実行委員会出向者が会議、打ち合わせに出席する。

◆当日スケジュール
集合時間　会員開発　13：30
その他　14時
※土手町分庁舎へ集合
開会式
14：50～　開会の言葉
子ども達へ激励の言葉
観光コンベンション協会　清藤会長
事務連絡　注意点等について
15：00～　掛け声　清藤理事長
出発　８団体
運行コース
弘前市役所土手町分庁舎→土手町→一番町→桜大通り

◆当日役割
準備、運行がスムーズかつ安全に進むように役割を分担、段取り。
弘前市、観光コンベンション協会、津軽姫保かと協力して行なう。
準　備
会員開発及びJCメンバー　積荷運搬
手伝い、交通誘導
実業ボランティア
開 会 式
清藤理事長　掛け声

保育園運行警護

藤田直前理事長　藤代保育園スタッフ

大湯副委員長　保育園の整列場所誘導（役員、会員開発）　隊列脇で運行警護を行なう

石澤委員　城南保育園スタッフ

相馬委員　保育園の整列場所誘導（会員開発、総務渉外）　隊列脇で運行警護を行なう

路上運行警護交通誘導

太田出向理事　各保育園の整列場所誘導、最後尾ねぷた誘導

齊藤委員　運行コース２（ねぷた出発地点、土手町分庁舎）（出向理事、会員開発）　全てのねぷたが通り過ぎ、規制解除されるまで

工藤幹事　敷地内入口にて運搬車両の交通誘導

吉川副委員長　運行コース６（交差点配置、まちなか情報センター）（会員開発、青少年）　全てのねぷたが通り過ぎ、規制解除されるまで

小野副理事長　敷地内入口にて運搬車両の交通誘導

坂本委員長　運行コース９（交差点配置、朝日会館）

佐藤副理事長　全てのねぷたが通り過ぎ、規制解除されるまで（会員開発、地域）

全体　その他

会員開発及びJCメンバー

運行全体監視、カメラ撮影

観光館到着後→アイス配付手伝い

津軽姫実業ボランティア

団体先頭のプラカード担当

具合の悪くなった子の救護、対応

その他

※津軽姫、実業ボランティアにはこちらから指示を出す

服　　装

JCTシャツもしくは動きやすい格好

備　　品

誘導棒　　10

担当　吉川副委員長(青少年)

JCTシャツ　　10

担当　工藤幹事(会員開発)

JC半纏

担当　小野副理事長(会員開発)

※JCTシャツは納期の関係で当日配布

※JC半纏は実業高校ボランティアへ貸し出し、着用

●スケジュール：

６月13日	実行委員会（１回目）
６月中	委員会にて打ち合わせ
６月下	実業高校へ協力依頼文送付
６月下	メンバーへ協力依頼文送付
７月１日	実行委員会（２回目）
７月上	参加メンバー確定
７月中	アイス数量確定、発注段取り
７月中	津軽姫及び実業高校と打ち合わせ
７月28日	実施
	実行委員会反省会

●事業目的の実現と成果：

今年度は昨年より参加人数が減少したが、次代を担う子ども達の「ねぷた」に対する熱い想いは昨年と変わりは無かったと思う。ちびっ子ねぷたの後に開催された弘前ねぷたまつりにも多くの子ども達が参加していたことから、当事業によって参加意識の向上を促すことが出来たと考えられる。また、事前準備や当日の運行などを見て、そして体験させる場を与えたことで、次代の後継者育成という部分でも一定の成果は築けたと考えられる。

●次回への引継事項：

【参加団体より一部抜粋】

●弘前文庁舎での対応をもう少し的確に行なうこと。（園児のバス誘導、園児の誘導を特に）

●広報マイクが非常に聞き取りづらい。後ろの方はほぼ聞こえてない。改善必要。

●観光館と裁判所の間の道の警備をもう少ししっかりと行なってほしい。

●開催時間は午前中(10時スタート)を検討してほしい。

※その他は反省会資料にて

【実行委員会より】

●解散場所の検討が必要。（おおまかで特定されていないため）

●集合場所外にもう少し気配りが必要。(園児のバスで渋滞が発生)

●交通規制解除のタイミングの検討。

●交通規制強化のポイント有り。

●当日行なう行なわないの合図は花火でいいのか。（聞こえないのでは？）

●参加団体を次年度以降は増やすのか、現状維持でいくのか。

●PR方法の検討

●次年度は青年会議所で事務局諸々を行なってほしい。

【会員開発委員会より】

●当日の参加、お手伝いが少ない。担当委

員会任せになっている。
●誘導棒は買った方がいいのではないか。（現在は全て吉川建設より借りている）
●次年度もTシャツや半纏で衣装を全員揃えることは良いことだと思う。

●委員長所見：当日の天候は雨で、運行自体が危ぶまれたが、出陣時には天候も回復し、沿道に来た見物客の方々も子ども達の「ヤーヤドー」の掛け声に笑みがこぼれ微笑ましい所も見えた。個人的には自分の息子も是非参加させ、立派な弘前人へ育てたいと思った。
●決　　算：¥50,000

●委員会名：地域のリーダー育成委員会
●事 業 名：HIROSAKIコミュニティミーティング４月ミーティング
●意義・目的：前年度のコミュニティミーティングにおいて我々は市民の想い・意志を受け取ることができた。しかし、まだまだ多くの課題が残っている。また、コミュニティミーティング継続の要望の声を多くいただき、我々はこの事業を継続していく責任があると考える。本事業は、弘前というまちがより一層活性化していくために、より多くの市民と交流し、まちづくりへとつなげていくための意見交換を行い、意識の醸成を図ることを目的とする。
●実施日時：2013年４月21日　14：00～16：00
●実施場所・会場：弘前文化センター
●対 象 者：弘前市民
●参加人員：43名、JCメンバー13名
●外部協力者：なし
●方法手段：１）昨年同様チラシやポスターでの告知活動に加え、Facebook、Twitterといったソーシャルメディアを活用し、若者に向けて広く告知を展開していく。ポスターは３回分の日程を記載して100枚印刷し各所に掲載、チラシは各ミーティングごとに1000枚ずつ印刷し、配布する。
２）同時に、いつ・もの・ことといった紙媒体のメディアでの告知も広く行い、参加者を制限することなく、幅広い世代・業種の参加を呼びかけていく。
３）ミーティングでは、『弘前の「現状」と「可能性」』を共通テーマに据え、KJ法を用いての意見交換を行い、現在の弘前の良いところ及び悪いところを参加者に再確認してもらう。
４）コミュニティミーティング終了後、日を改めて第２回ミーティングでより深く話し合うテーマを参加者有志で選定し、第２回ミーティングへの自発的参加意欲と連帯感を高める。

●スケジュール：
事前準備
２月下旬　告知、会場手配。SNSページ運営開始
３月下旬　案内状発送、取材開始
４月上旬　出欠確認（４／７締切）
当日スケジュール
12：00　事務局集合、備品積み込み
12：05　会場到着、設営開始
13：10　設営終了、最終確認
13：30　開場、受付開始
14：00　開会
14：01　理事長挨拶
14：06　趣旨説明
14：08　自己紹介
14：13　ミーティング説明＆前半ミーティング開始
15：00　休憩
15：10　後半ミーティング開始
15：50　ミーティング終了、PRタイム
15：55　副理事長挨拶
15：58　終了
16：01　撤収作業開始
16：21　撤収終了、解散

●事業目的の実現と成果：
実業高校への呼びかけが遅れたことや、社会人の参加が少なかったこと等あり、予定人数の半数にも満たない人数での開催となってしまった。だが、高校生や大学生ら学生たちと社会人とが同じテーブルで交流し、意見交換することができた。参加者アンケートからも、ほぼ全員から楽しかったという意見を頂き、また普段話さない世代と会話し意見を交わし合うことが出来たという意見も多く、事業目的にある、市民同士の交流や意見交換、意識の醸成は行われたと言える。頂いた弘前のまちに対する意見は、次回以降に確実に反映していき、参加頂いた市民と共に弘前のまちをより良くするための糧とする。

●次回への引継事項：
参加者への呼びかけ不足が大きかった。早い動き出しだけではなく、積極的に粘り強く呼びかけすることが必要。
他のグループの意見を聞きたかったという参加者も多く、発表時間は必ず設けた方がいい。
グループにファシリテーターを置かないという手法をとってみたが、やはりグループに進行役が一人いた方が進行がスムーズに

なる。
特別会員へは声掛けやSNSでの勧誘だけではなく、ちゃんとした案内を送った方がいい。
切手代の定形外や重量超過の計算が甘かったので、送る物のサイズや重さを計算した方がいい。
アンケートにはどの情報を参考にして参加したかの項目も記載した方が、次回以降の参考にしやすい

●委員長所見：案内の周知徹底不足に加え、各種団体等の他イベントと重なったことも災いし、予定人数の半数にも満たなかったことは非常に残念だった。また、実業高校の動員数が非常に少なかったのも残念だった。だが、参加下さった方々の半数以上が初参加で、そのほとんどの方々に、参加して楽しかったと言っていただけたのは非常にうれしかった。台本を見ないと上手く話せなかったり、何度も詰まったりなど自分の司会の課題も多かった。次回以降はもっと人数を増やし、もっと活発な意見交換ができるようにしていきたい。

●決　　算：¥97,357

●委員会名：地域のリーダー育成委員会

●事 業 名：HIROSAKIコミュニティミーティング
５月ミーティング

●意義・目的：前年度のコミュニティミーティングにおいて我々は市民の想い・意志を受け取ることができた。しかし、まだまだ多くの課題が残っている。また、コミュニティミーティング継続の要望の声を多くいただき、我々はこの事業を継続していく責任があると考える。本事業は、弘前というまちがより一層活性化していくために、より多くの市民と交流し、まちづくりへとつなげていくための意見交換を行い、意識の醸成を図ることを目的とする。

●実施日時：2013年５月26日(日)　14：00～16：02

●実施場所・会場：弘前文化センター

●対 象 者：弘前市民

●参加人員：53名、JCメンバー７名

●外部協力者：なし

●方法手段：１）４月ミーティングで出た意見をまとめ、その中から５月ミーティングのテーマを選定する為の委員会を４月28日に行う。それに際し、４月ミーティングにて委員会の日時を告知し、参加市民の中でテーマ選定にも参加を希望する方々がいた場合は、その人たちにも委員会に参加してもらいテーマ選定を行う。
２）選定されたテーマを基に、各グループごとに「自分たちが出来そうなこと」をKJ法を使用して話し合い、より深く掘り下げた話し合いを行う。その後、各グループで１点ないしは２点の事業をピックアップし、事業の大まかな形まで形成し、それを最後に各グループ３分程度で発表する。
３）告知については、作成したポスターはそのまま掲示していただき、チラシの配布、SNSページやホームページでの情報公開、各新聞社への記事掲載依頼を行い、広く周知する。

●スケジュール：

事前準備
４月28日　テーマ選定委員会開催
５月１日～　チラシ配布
５月15日　出欠締切

当日スケジュール
11：50　備品積み込み
12：00　会場到着、設営開始
13：05　設営終了、最終確認
13：30　開場、受付開始
14：00　開会
14：01　趣旨説明
14：03　自己紹介
14：11　ミーティング説明＆ミーティング開始
15：15　休憩
15：25　発表
15：46　発表終了
15：46　講評
15：50　終了
15：51　撤収作業開始
16：02　撤収終了、解散

●事業目的の実現と成果：

実業高校から24名の参加があり、また全体でも10名の増加があり、告知や宣伝の効果が表れた。だが、JCメンバーが非常に少なかった他、各種団体の出席も少なく、まだ案内告知が足りないものとみられる。内容としては、交通マナーを重視したり、新たな弘前のイベントを作ろうという意見が見られ、各グループごとにより具体的な方向性が見えた。しかし、グループで纏め方に差異がみられ、１つにまとめ切れなかったグループも数多くあった。伝え方に不備があったため、本来意図していた結果まで導くことが出来なかった。参加者の約６割が高校生・大学生で占められ、学校同士のコミュニティ形成など、学生目線での意見も目立った。発表では、高校生を主体に発

表するグループが多く見られ、学生によりスポットが当たる形になった。

●次回への引継事項：
学校関係の行事等でJCメンバーの参加が非常に少なかった。もっと多くのメンバーに参加してもらえるよう準備が必要
グループでの纏め方に差異が出てしまったので、伝え方やツール（纏めるための用紙等）で全グループ同じような纏め方になる工夫が必要
時間が短かったという意見が多く出たため、片付けや設営を手早く行い時間短縮を図り、ミーティング自体の時間を長くしてみてもいいかもしれない
備品の積み忘れがあったので、事前の確認は欠かさずに行う

●委員長所見：実業高校の学生の参加が非常に多く見られ、参加者の約６割を学生が占めるという結果に非常に喜ばしく思う。ただ、グループごとの纏め方がうまく伝わりきらず、意見を一つに集約できないグループが多かった。まだまだ司会が拙く、意図していたことを伝えきれなかったのは反省するところである。次回は最後の纏めになるので、うまくプランの形に纏まるよう工夫したい。

●決　　算：¥51,460

●委員会名：地域のリーダー育成委員会

●事 業 名：HIROSAKIコミュニティミーティング
７月ミーティング

●意義・目的：前年度のコミュニティミーティングにおいて我々は市民の想い・意志を受け取ることができた。しかし、まだまだ多くの課題が残っている。また、コミュニティミーティング継続の要望の声を多くいただき、我々はこの事業を継続していく責任があると考える。本事業は、弘前というまちがより一層活性化していくために、より多くの市民と交流し、まちづくりへとつなげていくための意見交換を行い、意識の醸成を図ることを目的とする。

●実施日時：2013年７月15日　14：00～16：00

●実施場所・会場：
土手町コミュニケーションプラザ
１F多目的ホール

●対 象 者：弘前市民

●参加人員：市民45名、JCメンバー10名

●外部協力者：なし

●方法手段：１）５月ミーティングで作成したプラン案を基に、それをどのようにしたら実現できるかを、5W2Hを用い、JCメンバーやわげものビジョン実行委員会のメンバー、それと参加した市民を交えて話し合う。
２）各グループごとに１つの具体的なプランを作成し、各グループをそれぞれのプランの実行委員会に見立て、実際に実現するための計画書を作成し、発表する
３）作成したプランはホームページ上にすべて掲載し、投票用のフォームを設け、８月31日を締切として、一人３票での投票を募り、得票数の多かった物から順にわげものビジョン実行委員会と共に精査し、次年度以降の事業化に向けて話し合いを続けていく。ミーティング参加者にはわげものビジョン実行委員会へ協力・加入して頂けるよう働きかける。
４）告知については、作成したポスターはそのまま掲示していただき、チラシの配布、SNSページやホームページでの情報公開、各新聞社への記事掲載依頼を行い、広く周知する。
５）報告書を作成し、参加頂いた方々・団体に配布し、ミーティングの思い出を形に残していくと共に、一緒に作ったプランを確認し、次年度以降の参考にする。

●スケジュール：
６月下旬　案内状発送、取材開始
７月上旬　出欠確認（４／７締切）
当日スケジュール
11：50　備品積み込み
12：00　会場到着、設営開始
13：05　設営終了、最終確認
13：30　開場、受付開始
14：00　開会
14：01　趣旨説明
14：03　自己紹介
14：11　ミーティング説明＆ミーティング開始
15：15　休憩
15：25　発表
15：50　発表終了
15：50　理事長挨拶
15：56　まとめ
16：00　終了、記念撮影
16：05　撮影終了、撤収作業開始
16：15　撤収終了、解散
実施後
７月23日～８月31日　JCのHPにて投票を実施

●投票結果：Aグループ：０票
Bグループ：１票
Cグループ：０票
Dグループ：２票

Eグループ：６票
Fグループ；０票
Gグループ：０票
Hグループ：０票
Iグループ：２票
Jグループ：８票
総 投 票 数：19票

●事業目的の実現と成果：
同日行われた別事業や、高校選抜等が重なり、結果的に全３回中参加者が一番少なかった。しかし、今回からの参加者も多く、参加者の幅は広がり、今まで出てこなかった意見も出てきて、意見の幅は広がった。作成された10グループの計画書は、今既にある枠組みを活かし、それを拡大・発展させるものや、今までなかったようなものをやってみようという創造的なものまで多岐にわたり、弘前市の未来のためにみんなで考えることが出来た。今回作成された計画を、来年以降に向けて一つずつでも実現していくことが肝要である。
投票に関して、総計19票しか得られることが出来なかった。周知徹底を入念に行う必要がある。
また、自身の不手際により報告書の作成が大幅に遅れてしまった。しっかりと早めにスケジュールを作成したうえで、スケジュール通りに進めていかなければならない。

●次回への引継事項：
SNS主体の告知も重要ではあるが、それと並列して呼びかけや電話掛け、メール等の声掛けも行わないと、連絡が行き届かないところが多い。
計画書の撮影、読み込み等に時間がかかり、もたついた。紙ベースでやる場合は、スキャナを用意するか、張り出して皆に見てもらう等スムーズに行う工夫が必要。
JCメンバーの参加が少なかった。メンバーへの声掛けを徹底し、もっと参加してもらえるよう呼びかけが必要
ミーティング時間が２時間では足りないという声が多かった。会場の使用時間と折り合いがつくのならば、１回あたりの時間を長く取り、その分開催回数を減らすのも一考の余地があると思った。
７月は様々なイベント等重なり、参加者の折り合いをつけるのが難しい。前２回のスケジュールも併せて検討し、間を開き過ぎないように調整しつつ、８月後半などに開催することも視野に入れてもいい。
参加者からは、それぞれ２回ずつの計２回開催の声も上がっていた。前期で１回、後期で１回などの複数開催も考慮してもいい。
写真データや当日使用した資料などの重要なものは、事務局にもデータを保存してもらうなど十分なバックアップを取っておく必要がある。

●委員長所見：時期の折り合いが悪く、各種団体等の他イベントと重なったことも災いし、参加人数が少なかったことは非常に残念だった。だが、初参加の方もそれなりにいて、今まで出てこなかったような意見が飛び出し、グループごとの意見に広がりが出来たのはよかったと思う。また、ミーティング自体の継続を要望する声が数多く聞かれたので、やり方を変えてでも、交流の機会は今後も設けていくことを考えてもいいと思う。このミーティングを通し、様々な市民の方と触れ合えた機会は、実に有意義なものだった。
投票に関して、総計19票しか得られず残念に思った。SNSでの呼びかけはしていたが、書面や電話掛け、口頭伝達も含めもっと入念に呼びかけが必要だと思った。
報告書の作成について、私自身のスケジュール管理不足やデータ紛失等で大幅に遅れてしまい大変申し訳なく思う。今後はこのような事のないようしっかり反省し、これからの自身の活動に取り組んでいきたい。

●決　　算：¥110,370

公２ 青少年の健全な育成に寄与する事業

●委員会名：青少年委員会
●事 業 名：未来の津軽人育成事業
●意義・目的：津軽の未来を担う自覚､社会との関わり方､企画力、実行力は若者が社会人になるにあたって必要な資質である。青年期は社会への目が開き、自らの未来や地域への関わり方に関して、現実的且つ真剣に考え始める時期である。この時期に若者同士が連携し、津軽の文化や歴史に触れながら、何らかの事業を計画、実施することは未来に対する大いなる糧となるものである。しかしながら、現状ではそれを可能とする枠組みは無い。本事業を通じて、思いを持った若者同士をつなぎ連携していくことができる

枠組みを構築し、若者達に未来の津軽人として、社会人として必要な資質を身につける機会としてもらう。

●実施日時：６月初旬募集開始、年内一杯随時活動

●実施場所・会場：
平成まんじ札事業実施店舗、JCねぷた事業実施場所、岩手県釜石市及び大槌町Cross.S実施会場

●対 象 者：弘前近隣在住の高校生及びその他青年世代

●参加人員：

平成まんじ札事業	４人
JCねぷた事業	19人
復興支援事業	23人

延べ　46人

●外部協力者：

平成まんじ札事業	青森県立弘前実業高等学校 弘前市役所 陸奥新報 東奥日報
JCねぷた事業	青森県立弘前実業高校 弘前ねぷた組 陸奥新報 東奥日報
復興支援事業	青森県立弘前実業高等学校 公益社団法人釜石青年会議所 宗教法人日澤山 仙寿院 釜石に桜を植える会

●方法手段：津軽人としての資質を備えた社会人を養成するカリキュラムとして本年度の各種事業に参加及企画に携わってもらう。各々が力を入れた事業にちなんだ「津軽人修了書」を授与する。

１募集活動

・就職を前提とする市内の高校（義塾、実業、工業、他）の進路指導教諭に対し要旨を説明し協力を求める。

・市内高校生に接触し募集開始（５月）

２メンバー参集（５月中旬）

募集に応募してもらったメンバーに対し、説明会を行う。（カリキュラム、道筋の説明）カリキュラムを経て、就職に際しての自らのセールスポイント、強みを得てもらう事を説明。

１　JCねぷた事業への参加（チームワークとリーダーシップの養成、歴史、伝統の理解）

６月から開始するJCねぷた事業に参加してもらい、アイスブレイキング、連携強化の機会とする。

２　平成まんじ札事業の企画、運営（企画力、交渉力の養成）

平成まんじ札事業において、参加店の開拓、まんじ札のデザインを行い事業を実質的に運営する。（企画力、交渉力を養成するとともに、弘前の街への理解を増進する）

４　Cross.Sにおいて復興支援事業に参画（被災地の現状への理解、絆の醸成）Cross.Sの白神マルシェにおいて復興支援ブースを運営、被災地の物品を販売

５　11月の終了時に「津軽人修了書」の授与。事業参加者に記念品贈呈（こぎんざし名刺入れ）

３評価

修了証書にみずからが参加した事業、獲得した素養を明記する。

事業に参加したメンバーには記念品を進呈。

４メディア

NHK、東奥日報、陸奥新報の取材を要請していく（メディアへの露出を図ることにより、メンバーのモチベーションの向上及び、進路資料としての実効性を上げる）

●スケジュール：

３月　市内各高校を訪問事業説明
４月　市内各高校説明継続
５月上旬　各高校訪問
　中旬　参加者募集締め切り（５月21日）
　下旬　参加者説明会（５月25日実施済）
６月　募集開始、まんじ札事業準備開始
６月　ねぷた製作、囃子練習開始、平成まんじ札事業開始
８月初旬　弘前ねぷたまつり参加
９月　復興支援事業準備開始
11月　Cross.Sにおいて復興支援事業実施、津軽人事業修了書授与

●事業目的の実現と成果：

今回の事業において延べ46名の高校生の参加者を得て、JCねぷた事業、平成まんじ札事業の３つの事業に参加してもらった。これまで高校生同士や大人と一緒になって作業をした経験が全くなかった生徒同士が連携して事業を実施、完成させることが出来た点は、本事業の目論見を達成できたと考える。また事業を通じて地元津軽、弘前の文化に直に触れることができたことから津軽人としての素養の習得も達成できたものと総括する。

●次回への引継事項：

・高校ごとにJCの事業への反応は大きく異なる。進学校は特に反応が鈍い。より広い高校の参加を得るには生徒会へのコンタクトなど生徒と直接接触手法を検討すること。

●委員長所見：今回の事業は青少年委員会の事業をはじめとする、本年度の弘前青年会議所の事業の人的なプラットホームとなるものであった。参加高校生は平成まんじ札、JCねぷた、復興支援の各事業において中心的な役割を担ってくれた。大人への対応や積極性が大いに向上した点は大いなる成果であると考える。参加メンバーの人に対する態度の積極性、丁寧さが事業の最初と最後では雲泥の差があり、この成長の速さを見て今後の津軽を支えていく社会人となってくれるであろう事を確信できた意義ある事業でありました。

●決　　算：¥99,498

●委員会名：青少年委員会

●事 業 名：JCねぷた事業

●意義・目的：ねぷたは、わが弘前の魂といえる祭りである。しかしながら、近年祭りに参加する若者や子どもたちが減少し、弘前の魂と伝統の継承が難しくなっている。一方で居住する町会がねぷたを運行しておらず、参加が困難な子どもたちがいることも事実である。多くの大人と交流し、社会の道徳を学び、伝統を紡いできたのがねぷた運行である。本事業は、次世代を担う子どもたちに「道徳」と「伝統」を伝え、彼ら彼女らの未来を創造せしめ、加えて、友好・姉妹都市である斜里町、太田市とも祭りを通して絆を深めることを目的とする。

●実施日時：平成25年５月～８月12日（日）

●実施場所・会場：
弘前ねぷたまつり会場
（土手町コース及び駅前コース）

●対 象 者：弘前市及び周辺市町村の学童及び生徒、市内大学生、JCメンバー及びOB、弘前市民一般、その他関係諸団体、他

●参加人員：

８月１日	８月３日	８月４日	８月６日
JC メンバー 27人	JC メンバー 10人	JC メンバー 31人	JC メンバー 30人
高校生 17人	高校生 ０人	高校生 14人	高校生 16人
その他 90人	その他 90人	その他 34人	その他 71人
合計 144人	合計 100人	合計 79人	合計 117人
			延べ 440人

●外部協力者：弘前市、弘前ねぷた組、太田市新田商工会青年部、上州ねぷた会、その他関係諸団体、他

●方法手段：１　参加者の公募（広報弘前、パンフレットを作成し各団体へ出向きPR）
２　寄付金募集活動
３　オリエンテーション実施（事業概要及びねぷたの歴史に関する講義実施）
４　ねぷた製作（ねぷた組の骨組みを賃借して製作する、ねぷた絵は八嶋龍仙先生）
５　ねぷた囃子講習会
６　ねぷた運行（弘前ねぷたまつり期間の３日間）
７　感想文回収等事後評価作業
８　太田新田商工会青年部及び共同運行（灯篭絵を協働して製作し運行する）
９　斜里JCとの共同運行
10　友好都市青少年と弘前の青少年とで協働したまんじ札集め（青少年交流）

●スケジュール：
４月中旬　　ねぷた骨組みの賃借契約完了（小屋を含む）、小屋建設用地確保、太田青年部、斜里JCとの交渉開始
５月　　参加者募集開始、ねぷた小屋建設（月末）、オリエンテーション
６月　　小屋開き、ねぷた製作開始、囃子講習開始
７月中　　ねぷた製作、囃子練習、各種運行手続き
８月１、４、６日　　ねぷた運行、斜里、太田との交流事業
８月初旬　　撤去作業開始、感想文等事後評価作業開始
８月中旬　　作業終了

●事業目的の実現と成果：
青少年世代への弘前の歴史文化の継承と次代を担う大人への成長をめざしたねぷた事業であった。ねぷた製作及び囃子の練習においても多くの青少年世代の参加を実現した。特にねぷたへの参加の機会が少ない、高校生21名の参加を達成できたのは大いなる成果であると考える。また、男子１名を除いて全員が囃子未経験者であったが、１か月間の練習の結果祭り本番の３日間を見事に演奏できる技量に達することができたことは、ねぷたの「伝統」の継承が実現できた点で大きな成果であったと考える。また、高校生が他の子供たちを指導する場面も見られたことから世代間の交流による「道徳」の継承も実現できたと考える。
アンケートの結果、100％がねぷたへの理

解が深まったと回答し、また100％が今後もねぷたに参加したいと回答している場面も見られたことから世代間の交流による「道徳」の継承も実現できたと考える。

●次回への引継事項：

・事業費の半分以上を寄付金に頼る事業であったことから、事業規模に関しては事業計画段階からしっかりとした想定を立てておくこと。

・各種外部資金(むつ小川原財団等)の制度趣意、性格をしっかり調査して補助の申請を行うこと。(ハードには基本的に補助しないなど事業の根幹にかかわる事態に陥る恐れがあるから)

・一般からの参加はかなり厳しい状況である。(参加者の主力と想定しないこと)

・次回JC独自で運行する場合は小型ねぷたの運行から始めるのが望ましい。単年度制の不自由さはあるが運行のノウハウを複数年かけて蓄積しなければ、スムーズな運行はできない。

・参加者のアテンドや運行計画、その他の打ち合わせ等、運行時は異なる様々な業務を同時にこなさねばならない。分掌指揮官を置いてスムーズな運営体制を構築すること。

●委員長所見：弘前青年会議所としては久々のねぷた運行であり暗中模索の面が多くありましたが、製作作業、本番運行期間中１人のけが人も出すことがなかったことは何よりも大きな成果であったと考えます。これも多くの会員の皆様からご助言、ご協力をいただいたが故と感謝いたします。今回の事業では多くの高校生の事業参加を得ることができました。しかも１か月間の練習の結果ほぼ全員が笛と太鼓を一通りこなすことができるようになった事は驚愕すべき成果だったと考えます。今後、彼ら彼女らが他の団体で囃子を担いねぷたの伝統を紡いくことを鑑みれば、この成果は弘前にとって大きな宝になるものであると確信しています。また、就職等で弘前を離れる事になったとしても、彼の地でねぷたについて弘前について語り、誇る人材になってくれるものと確信します。これも大いなる弘前の宝です。メンバー一同、暗中模索、疲労困憊の壮絶な事業でありました。しかし、今回の事業は10年、20年たってから大きな成果を咲かせるものと委員会一同信じています。

今年度、このような意義ある事業を任せていただきありがとうございました。

●決　　算：¥2,415,209

●委員会名：青少年委員会

●事 業 名：平成まんじ札事業

●意義・目的：まんじ札事業を継続運営し、子供たち、そして若い世代に弘前の様々な施設を訪ねてもらい、弘前の魅力や文化に触れてもらう。そのことにより子供たちの弘前を愛する心を醸成し、子供たちの笑顔があふれ賑わう元気な弘前を創造することを目的とする。

●実施日時：平成25年７月24日～11月30日

●実施場所・会場：

土手町ルート　　配布場所　20
大町駅前ルート　　配布場所　10
弘前公園周辺ルート　配布場所　10
観光客用簡易ルート　配布場所４
(ただし他の３ルートからのピックアップ)
配布場所　合計　40

●対 象 者：弘前市民一般

●参加人員：

40箇所まんじ札 コンプリート数	110人

※各店舗配布状況

●外部協力者：弘前市(観光振興部観光政策課)、弘前上土手町振興組合、弘前中土手町商店街振興組合、弘前下土手町商店街振興組合、弘前駅前商店街振興組合、弘前大町商店街振興組合、百石町商店街振興組合、県内外各報道機関、その他各商店街、関係諸団体、他

●方法手段：１　他団体との協働

・各商店街振興組合や関係諸団体を窓口として参加店の募集を行う。

２　未来の津軽人育成チームの参加

(１)まんじ札のデザイン

まんじ札の裏面のイラストのデザインを行なってもらう。(津軽の春夏秋冬がテーマ)

(２)まんじ札のデザインの校正などの店舗との打ち合わせの一部を高校生に担当してもらう。

参加店の中から市役所のまんじ校正担当を高校生チームで担当制にする。

・ブロッサムホテルにおいて校正の打ち合わせの練習を行ない、市役所に出向く準備を整える。６月下旬に実施予定。

・弘前市役所経営戦略課に出向きデザインのリクエストを取りまとめる。７月初旬までにデザインを決定させる。

２　まんじ札作成

表側

デザインは基本的に施設、店の担当者が行うが、未来の津軽人育成事業とのコラボで高校生等の未来の津軽人育成事業参

加メンバーにデザインを依頼したい企業があればこちらで行う。
寸法　50×150（ミリ）、普通紙使用、三色印刷

裏側
昨年に引き続きすべての札を集めることによって完成する絵のパズル形式のものを作成。
デザインは未来の津軽人育成事業参加メンバーに行ってもらう。（４色印刷）

仕様
両面普通紙シール

発行枚数
各店舗700枚

参加料
１店舗につき15000円（市役所は除く）
39×15000円＝585000円

３　まんじマップ作成、配布
・チラシ　　表面は参加店名とポスターイメージ、裏面に具体的なマップを表示する。
・ポスター　ポスターには参加店舗施設を表示。
・表札　　参加店には目印の表札を掲げてもらう。

４　記念品及び景品
全数収集者には先着順に記念品（40種まんじ札）を贈呈（11月末締め切り）
市長サイン入りまんじ札持参者にはスペシャルまんじ札を贈呈
（スペシャルまんじ札のデザインは未来の津軽人育成事業参加メンバーが行う。）

５　広報
・新聞を中心にプレスリリースを行う。
・チラシの配布、ポスターの掲示。

●スケジュール：
４月中旬　事業企画開始
５月上旬　協力各団体への協力依頼
５月下旬　未来の津軽人チーム編成
（事業の概要説明）
参加店舗募集開始
（JCメンバーが担当）
スペシャルまんじ札
デザイン開始
（未来の津軽人チーム）
業者への見積もり依頼
（まんじ札、チラシ、ポスター）
６月初旬　チラシ、ポスター、まんじ校正
（ブロッサム、市役所を担当）
６月中旬　スペシャルまんじデザイン完成
７月初旬　参加店確定、
まんじデザイン完成
７月24日（夏休み開始日）　事業開始
事業期間中　途中状況の確認、コンプリート者へのスペシャルまんじ贈呈作業
11月30日　事業終了
＊事業終了後も各企業に残ったまんじ札の配布は続けてもらう。

●事業目的の実現と成果：
本事業は子どもを中心とする弘前市民にまんじ札を集めてもらうことで弘前市の文化、魅力を知ってもらうことを目的とした。７月後半に事業を開始し、また駅前再開発ビルの再オープンと時期を合わせた結果、夏休み期間の反響はきわめて大きかった。結果的に110組に及ぶコンプリートを達成できたのは大きな成果と考える。また、デザイン段階、校正段階において新たに高校生の協力を得ることができた点はデザイン面での可能性を広めることが出来たと考える。更に昨年度より10個所の新規配布場所を確保することにより弘前をより細かく知ることが出来る事業になったと考える。一方において、実施期間の延長を行なった効果そのものは目立って現れることはなかったと考える。後半の広報が不十分であった点を鑑みれば次回以降は広報の充実で解決できるかもしれないので一概に期間の短縮を薦めるものではない。何れにせよ、期間中満遍なく広報活動を行なうことが必要であると考える。

●次回への引継事項：
・参加店の選定は出来るだけ早くしたほうがいい。（出来れば４月までには）
・小学生は学区外への外出は厳しく制限されている。中高生や大人世代など広く市民一般を対象とする事業とするほうがよい。
・事業実施は夏休み期間に必ずかかるようにすること。（コンプリート者の大半が８月中である）
・参加店は大いに越したことはない、逆に各店の配布枚数はこれまでより少なくしてよい。各参店とも残数にかなり気を使っている。
・参加店の増大を図るにしても市内広範囲に散らばらないよう工夫すること、旧市街地に集中している方がはけ方もよいように見受けられる。
・旧まんじ札の代表者への挨拶を忘れないこと、礼儀も当然だが２年間続けている現行まんじ札にも注目しておられるので面白いアドバイスをもらえるかも知れない。
・今回はメディアでの宣伝は控え気味にした

（手が回らなかった点もあるし、人伝の広まり方に期待した点もある）が、結果的に宣伝不足の感が否めない。メディアを使った宣伝は可能な限りやった方がいい。（前期、中期、後期満遍なく行なうこと）

・集める人のモチベーション、マスメディアの取材意欲を喚起する為にも、デザインや配布場所には工夫をこらすようにしたほうがいい。

・参加料は昨年の10000円くらいまで落としたほうがいい。参加料の高さ、配布枚数の多さに不満を訴えてこられる店舗が数件あった。

●委員長所見：平成まんじ札事業２年目の年となり、ある程度市民一般への認知がなされている中での事業でありました。本年度は高校生にウラ絵のデザインを担当してもらうことで独自色を持たせました。本格的なデザインで臨んだことから、何年か時間が経ってから価値が増してくると考えます。今回の事業において特に感じたことは夏休み期間がこの事業のクライマックスであるということです。夏休みに始めるよりは事業期間の昼間に夏休みをもってこれるようにする方がより多くの参加者が見込めると考えます。一方で参加促進を目指して各店舗枚数の増大とそれに伴う参加料の15000円への増額は参加店舗からはかなりの不評であったことは特記すべきことと考えます。かつての事業時代から毎年かなりの残数を生じることを問題視している店舗もあることから、次回は参加を見合わせる店舗が少なからず存在すると思います。これに関しては慙愧の念に絶えず、大変申し訳ないと考えております。次回はこの点を考慮した枚数と価格設定をお願いいたします。不具合が多々見られましたが、何れにしましても、最後に小生他委員会メンバーにとってもこれまで行ったことのない店や久々に訪れる場所に赴くことが出来た極めて貴重な経験でありました。弘前を再発見することで、これからの地域活動へのモチベーションとすることが出来る経験であったと考えます。

●決　　算：¥833,400

●委員会名：地域のリーダー育成委員会

●事 業 名：わんぱく相撲

●意義・目的：「相撲王国」と言われる青森県。わんぱく相撲の歴史と伝統を絶やすことなく、後世にその誇りを受け継いでいくために、国技である相撲を通じ、礼節や努力、伝統や思いやりといった、将来の社会生活に必要な精神・知識を学んでもらうことを目的としてこの事業を行う。

●実施日時：2013年５月18日　土曜日　13：00～15：10

●実施場所・会場：
つがる地球村　スポーツパーク相撲場
青森県つがる市森田町床舞藤山244

●対 象 者：わんぱく相撲参加者（小学生　４～６年生）

●参加人員：弘前JCメンバー　４名
五所川原JCメンバー　５名
大会参加者　19名
父兄　50名
相撲協会関係者　13名
計　91名

●外部協力者：つがる市相撲協会　青森県相撲連盟西つがる支部　公益社団法人五所川原青年会議所　公益社団法人東京青年会議所　財団法人日本相撲協会

●方法手段：【弘前場所　準備】
五所川原場所と合同で予選大会を開催。
大会の運営は五所川原JCと弘前JCが共催して行う。
青森県ブロック出場枠が４つの為、本大会では五所川原JCと弘前JCの枠、２つある。
本大会において２チームを選抜し、一方を弘前JC代表、もう一方を五所川原JC代表として全国大会に出場する。
採点方式：参加人数によって異なる。総当たり戦、予選トーナメント→決勝総当たり戦など。五所川原場所の参加人数と合わせ協議し、決定する。
【ブロック大会】
ブロック内での参加LOM数が４か所のため、今年度はブロック大会を開催しない。

●スケジュール：
事前準備
３月～５月上旬　五所川原JCと大会実施に向けての打ち合わせ
４月下旬　各小学校に案内文送付
５月上旬　参加のとりまとめ
当日スケジュール
12：00　集合
12：30　受付
12：45　監督会議
13：00　開会式
開会宣言　五所川原青年会議所
副理事長　佐藤昭義
主催者挨拶　弘前青年会議所
理事長　清藤洋介
審判長注意　青森県相撲連盟
審判部長　三浦武正
選手宣誓　つがる相撲クラブ

小関拓道君
13：15　取り組み開始
15：00　閉会式
成績発表
表彰式
講評　五所川原青年会議所
理事長　小嶋英嗣
閉会宣言　弘前青年会議所
副理事長　佐藤譲
15：10　大会終了

●事業目的の実現と成果：
誰も怪我をすることなく、無事に取り組みを終了することが出来た。年長者への元気な挨拶や、取組後に手を差し伸べる等の敗者への配慮がきちんとなされており、礼節や思いやりの精神がしっかりと育まれている。ただ、弘前からの子どもの参加者が一人もいなかった事が非常に残念であった。
全国大会出場者
４年生　つがる相撲クラブ
古坂　裕聖(こさか　ゆうせい)君
５年生　つがる相撲クラブ
相馬　良亮(そうま　りょうすけ)君
６年生　薄市小学校
神　歩武(じん　あゆむ)君

●次回への引継事項：
昨年に引き続き共催という形をとったが、大会運営委託から横断幕の作成、スポーツ保険等、運営にまつわるほぼ全ての部分を五所川原JCに委託することとなってしまった。依頼の都合や運営の都合があるとはいえ、来年も共催するのであれば、五所川原の負担をいくらかでも受け持つことが出来るように設える必要があると感じた。
弘前単独で開催するのであれば、弘前市内からの参加者集めや、黒石JCがわんぱく相撲を行っていない点を鑑みて、黒石地区からの募集をするなど、参加者を集め運営していく方法を考える必要がある

●委員長所見：昨年に引き続きの五所川原との共催であったが、理事会の時期のズレや、実際の負担に対する支払いや見積もりの方法等苦労する部分が多かった。また、実際の運営の大半を委託という形式になってしまい、五所川原JCに多くの負担をかけてしまったことを心苦しく思う。しかし、お互い協力し合ったり、お互いのLOMの話が出来たりと有意義な面も多かった。
実際のわんぱく相撲の場では、子ども達の熱い取り組みに思わず手に汗を握り、また感動する場面があった。弘前からの参加者が少なく賛否色々ある事業ではあるが、この子ども達の取り組む姿を維持するためにも、絶やさずに継続していっていただきたい事業であると感じた。
最後に、オリエンテーション登録料を予算に盛り込み忘れたことを大いに反省しています。

●決　　算：¥33,692

●委員会名：地域のリーダー育成委員会
●事 業 名：わんぱく相撲全国大会
●意義・目的：「相撲王国」と言われる青森県。わんぱく相撲の歴史と伝統を絶やすことなく、後世にその誇りを受け継いでいくために、国技である相撲を通じ、礼節や努力、伝統や思いやりといった、将来の社会生活に必要な精神・知識を学んでもらうことを目的としてこの事業を行う。
●実施日時：2013年７月28日　日曜日　８：00～18：00
●実施場所・会場：両国国技館
●対 象 者：わんぱく相撲LOM大会成績優秀者
(小学生　４～６年生)
●参加人員：JCメンバー(白石)
わんぱく力士
(古坂　裕聖君･相馬　良亮君･神　歩武君)
●外部協力者：公益社団法人五所川原青年会議所
公益社団法人東京青年会議所　財団法人日本相撲協会
●方法手段：【全国大会】
五所川原JCと共催の弘前場所で選出された４～６年生の２位の選手３名を弘前チームとする。
弘前JCメンバーが弘前チームを引率する。
【交通手段】
新幹線にて東京　両国まで移動する。新青森駅集合
【その他】
選手３名に遠征費用を計上する。他保護者から滞在費として１万円を徴収する。
選手たちに国技館で記念のお土産を購入する。
宿泊する部屋にお土産を用意する。
出場選手
４年生　つがる相撲クラブ
古坂　裕聖(こさか　ゆうせい)君
５年生　つがる相撲クラブ
相馬　良亮(そうま　りょうすけ)君
６年生　薄市小学校
神　歩武(じん　あゆむ)君
●スケジュール：
７月上旬
五所川原JCと打ち合わせ。
保護者へ全国大会に向け案内(五所川原

JC)・新幹線の手配(弘前JC)

7月下旬

お土産を用意。ラグノオささき(気になるリンゴ)を購入

7月27日

6：00　新青森集合

6：46の新幹線はやてにて東京へ出発

10：36　東京駅到着。乗り換えて両国駅に11：05到着。その後昼食

11：40　両国国技館到着。12：00開場。手荷物検査後、エントリーシートを提出し、桝席へ移動。

13：00リハーサル開始。同伴JCメンバーと選手は別行動。

17:00リハーサル終了、相撲部屋へ移動。

両国駅から秋葉原・日暮里を経由し、日暮里・舎人ライナー　西新井大師西駅下車

西新井大師西駅から徒歩20分程で玉ノ井部屋に移動。

玉ノ井部屋に宿泊。

7月28日

5：00起床　5：15朝食

6：00に玉ノ井部屋を出発。玉ノ井部屋から両国国技館までタクシーで移動。

7：00開場。書類提出

8：00開会式

9：00取組み開始

17：30閉会式

18：00終了

終了後、現地にて各自解散

選手記念品内訳：Tシャツ・スポーツタオル・リストバンド

●事業目的の実現と成果：

怪我や事故等無く、無事に両国国技館へ引率し、全国大会に出場することが出来た。相撲の精神に則り、土俵内外においても、礼節を重んじ、年長者への挨拶などしっかりと出来ていた。取組後に相手を引き起こす等、敗者への配慮もされていた。

この事業で得た経験は、必ず将来の社会生活において良い影響をもたらす。

【弘前チーム】		【結果】
4年生	古坂　裕聖君	2回戦出場
5年生	相馬　良亮君	5回戦出場
6年生	神　　歩武君	4回戦出場

●次回への引継事項：

・五所川原JCと何度も打ち合わせを行い、作業を分担し案内や手配等行った。来年もLOM大会を共催し、共に全国大会へ行くのであれば、入念な打ち合わせを行う必要がある。

・わんぱく相撲公式サイトは細目にチェックし、必要な情報を逐次確認する。情報は全てサイト経由で提供されるため、確認を怠ると重要な情報を見落としかねない。

・リハーサル日の昼食の際、五所川原JCと共に行動する場合、五所川原JCは選手の食費を計上しないため、支払いには注意が必要。特に個々人で食券を購入するタイプの飲食店は領収書の回収・計上が煩雑になるため避けた方が良い。

・東京JCの先導で部屋まで電車と徒歩で移動したが、切符代等領収書の出ない支払いが発生し、また長距離の移動になると子ども達の負担も大きいため、タクシーの移動を考慮してもいい。

・会場で用意されているのぼりの支柱が弘前JCの旗とサイズが合わないため、旗をちゃんと張れず不恰好になる。支柱持込みは邪魔になるので、サイズを合わせた旗を用意する方が良い。

・7月7日のオリエンテーションは、今までも参加していなかったという情報から割愛したが、後日確認したところ、県内参加4LOM中八戸JCのみが参加し、他LOMの分も色々決定してくれていた。他LOMに迷惑をかけないためにも、参加できるメンバーがいたら参加した方が良い。

・京都会議の参加や同伴等、担当者の負担が大きくなる。例会後の懇親会などでカンパを募る等、少しでも負担を減らす工夫があってもいい。

●委員長所見：五所川原JCと協力し、無事全国大会へ出場することが出来た。五所川原の担当者が子ども達と長く付き合っていて、子ども達のことをよく理解し、打ち解けていた。個人的にも、相撲部屋での体験や引率を通して子ども達と一緒に過ごさせて頂いたが、子ども達の笑顔が絶えずとても楽しい貴重な時間を過ごすことができ非常に有意義であった。また、LOM同士の協力も、ノウハウが培われ少しずつスムーズになっていった。この協力体制は、他事業等で五所川原JCを訪問する際にも役立ったため、貴重な体験になった。この全国大会出場という機会は、子ども達にとってとても有意義な体験となるため、弘前LOM内の子ども達にも出場する機会を設けるためにも単独開催を行うべきだと考える。

●決算：¥26,710

公３ 東日本大震災の被災地の復興に寄与する事業

●委員会名：青少年委員会

●事 業 名：復興支援事業

●意義・目的：東日本大震災により我々のふるさとである東北地方は甚大なる被害を受けた。これまでの２年間、当弘前青年会議所は同じ東北に住まう者として様々な復興支援事業を展開し、被災者への支援を中・長期的な視点で行ってきた。発災から３年目を迎え、復興への歩みは着実に進みつつある。本事業はこの現状を鑑み、多様化するニーズに合わせた更なる支援活動を、行政及び各種団体と連携して展開していくことを目的とする。

●実施日時：・被災地視察　平成25年９月４、５日
・Cross.S　平成25年11月３日及び11月４日

●実施場所・会場：
・被災地視察　岩手県釜石市、岩手県大槌町
・Cross. S実施会場（蓬莱広場）において

●対 象 者：弘前市民一般

●参加人員：

釜石視察							
９月	４､５日	高校生	４人	ﾒﾝﾊﾞｰ	４人		
Cross.S							
11月	３日	高校生	23人	ﾒﾝﾊﾞｰ	５人	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ	10人
11月	４日	高校生	23人	ﾒﾝﾊﾞｰ	５人	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ	17人

●外部協力者：県立弘前実業高校、社団法人釜石青年会議所、有限会社リアス海藻店

●方法手段：被災地食材販売（Cross.S）
・釜石市の産品を用いた料理をCrossS実施会場（蓬莱広場）にて販売する。（高校生が開発）
→釜石は昨年度の復興支援事業でのご縁があり事業の継続性を確保できる。
→釜石産ワカメを使ったクラムチャウダーを販売。（実業高校家政科が開発）
一杯200円×500食×２日販売予定
試作品写真
→被災地の高校が開発した地元産品の販売（弘前実業高校の友好校）
商品名「たまげ大福だっちゃ」　開発　宮城県立女川高等学校100円（卸値）×200
商品名「そばはっと」　開発　岩手県立水沢商業高等学校200円（卸値）×200
→販売スタッフも未来の津軽人育成メンバーが担当する。（行動力）
→商品開発にあたっては現地釜石の協力を得る。（被災地の現状を知る「恕の精神」）
・売上金を被災地に寄付する。
被災地パネル展示
・Cross.Sの被災地食材販売コーナーにおいて被災地の現状や課題に関するパネルを展示。
→釜石視察を終えた高校生が内容を製作する。（現状に関するコメントやグループ補助金、沿岸地域の土地かさ上げ問題、釜石に桜の木を植えるプロジェクト紹介等）
収益金寄付
・本事業の売上金を「釜石に桜を植える会」に寄付する。
→荒涼とした被災地釜石に復興のシンボルとして桜を植える市民運動。
→釜石JC歴代理事長である芝﨑恵應氏が事務局長を務めている団体。
→一口3000円からの寄付（一本当たりの苗木費用）平成27年春から植樹開始
→マスコミに取材してもらう予定
参考　釜石に桜を植える会HP
URL　http://senjyuin.info/sakura/
釜石に桜を植える運動チラシ
被災地視察・食材選定
・高校生に被災地の実情を知る機会を持ってもらう。
→釜石JCOBの平野嘉隆先輩の（有）リアス海藻店のご協力を得る。
→釜石市、大槌町の現状を視察する。
・被災地の食材を選定する
→実業高校家政科の開発するスープに適した食材を選定する。

●スケジュール：
９月４日　高校生と共に釜石視察出発
→リアス海藻様訪問、作業体験、海産物から食材選定
９月５日　釜石市内復興状況視察、弘前移動
９月中旬～10月末
商品開発、現地との打ち合わせ継続
11月２日　Cross.S設営作業、食材納入
11月３日　出店設営、10：00～15：00販売、撤収作業
４日　出展設営、10：00～15：00販売、撤収作業
タイムスケジュール
12月19日　釜石市において寄付金の贈呈

●事業目的の実現と成果：
今回の事業においては被災地の産品の販売

によって被災地支援を行なうことを目標とした。結果として物産、クラムチャウダーの販売により82370円の収益を得、これを「釜石に桜を植える会」に全額寄付することが出来た。また、高校生による被災地視察の結果と「釜石に桜を植える会」の運動をCross.Sにおいて啓発活動を行なった結果来場市民653人にチラシを配布した。また、陸奥新報においても今回の事業を掲載していただくことにより市民一般への啓発効果があったと考える。

今回の事業において被災地が自ら発起した復興運動を支援しそれを促進していくという形態を見出すことが出来た。以上のことから本事業の目的は達成できたものと総括する。

●次回への引継事項：

・被災地は確実に復興の歩みを速めておりこちらの発想で支援するというスタンスでは現地の状況とミスマッチをおこす。
・被災地でどのような運動を行なっているかなど、被災地自身がやろうとしていることをしっかり把握たうえで実施計画を立てること。
・三年間の復興支援事業を通して釜石との絆は深い。来年度も釜石を中心とした活動を行なってほしい。特に「釜石に桜を植える会」の運動に積極的に貢献してほしい。
・高校生等青少年世代を事業参画させる場合は事前学習をしっかり行なうこと。JCメンバーとは違い市民、特に未成年にとって東日本大震災はテレビの中の出来事に過ぎないという認識でしかないことがごく当たり前のことだという認識で企画してほしい。
・調理の段取りはより綿密に行なう必要がある。今回はクラムチャウダーを焦がしてしまうなど、不具合が多く見られ猛省している。
・仕入れ量、売り上げ目標にはより綿密に作成すること、今回は被災地物産を中心に売れ残りが極めて多く、寄付金の金額が予定より大きく下回ってしまった。

●委員長所見：東日本大震災発災から３年目の復興支援事業を担うにあたって最も難しかったのが、現状の被災地にとって何が支援になるのかということでした。被災地は被災の事後処理から具体的な「復興」へと歩みを進めています。そのような状況下ではこれまでのこちらから提案して、被災地の皆さんに参加してもらうという事業形態はその役割を終えたといってよいと考えます。

今回は釜石に実際に赴き「釜石に桜を植える会」の活動を知ることが出来ました。被災地自らが発起した運動であり、被災地の現状のニーズそのものであると考えます。次年度以降はこういった、被災地自身が考える復興への運動をしっかり把握してそれをサポートするという形式で臨むべきであると考えます。

●決　　算：¥299,228

他１ 会員の資質向上及び親睦を図る事業

●委員会名：会員開発委員会

●事 業 名：あおいりんごNo.359の作成

●意義・目的：弘前JCの事業紹介・報告の広報誌として、事業へ参加、興味がわくような記事を適時に作成し、特別会員やメンバーに情報提供する事を目的とする。またHP上での告知充実を徹底し、広く市民に活動内容を広報していく。また、会員拡大用や市民への事業活動の周知の一面を持つ広報誌として、幅広い周知活動が出来る記事作成を目指す。

●実施日時：発行日　平成25年３月26日(火)

●実施場所・会場：適宜

●対 象 者：現役メンバー及び特別会員、OB、その他

●参加人員：適宜

●外部協力者：適宜

●方法手段：規　　格　B4、白黒印刷、二つ折り
発　　送　特別会員
配布場所　市役所、まちなか情報センター、観光館、かだれ横丁、叙々苑
最終校正　あおいりんごNo.359

●スケジュール：

１月上旬	掲載原稿、写真、資料収集
１月中旬	校正
１月下旬	No.359実施計画書上程
２月	校正等全体的な調整作業
３月上旬	
３月中旬	
３月下旬	最終校正 No.359実施計画書審議 発行、発送作業、配布場所へお届け、HP掲載

●事業目的の実現と成果：

今号は2013年理事長所信、基本方針、新年

祝賀会の報告、委員長紹介、新加入会員紹介を掲載し、当会の2013年度の新たな出発を広く周知出来た。また会員の拡大に取り組んでいく記事も掲載し、特別会員やメンバーへ会員拡大運動の協力、お願いを周知出来た。

●次回への引継事項：
◆白黒でいくのかカラーでいくのか方向性を決めておく
◆メンバーへも送付した方が良い
◆配布場所に何部か置いたが、ほぼ無くなっていなかった
◆誰がどの事業で写真を撮影しているか把握しておいた方が良い

●委員長所見：今年度１号目は当会の新たな動きを掲載する号だったので、何を掲載するかなどの準備に関してはスムーズに運んだ。しかし、誤字、脱字のチェックや修正、印刷までの流れなど細かい部分は初めて経験で、少し時間がかかってしまった。次号から各委員会毎に事業がスタートするので、何を掲載し、どう周知するかを早い段階で決定し、今回時間のかかってしまった部分を正していきたいと思います。

●決　　算：¥39,270

●委員会名：会員開発委員会

●事 業 名：あおいりんごNo.360の作成

●意義・目的：弘前JCの事業紹介・報告の広報誌として、事業へ参加、興味がわくような記事を適時に作成し、特別会員やメンバーに情報提供する事を目的とする。またHP上での告知充実を徹底し、広く市民に活動内容を広報していく。また、会員拡大用や市民への事業活動の周知の一面を持つ広報誌として、幅広い周知活動が出来る記事作成を目指す。

●実施日時：発行日　平成25年６月26日（水）

●実施場所・会場：適宜

●対 象 者：現役メンバー及び特別会員、OB、その他

●参加人員：適宜

●外部協力者：適宜

●方法手段：規　　格　B4、白黒印刷、二つ折り
発　　送　特別会員
配布場所　市役所、まちなか情報センター、観光館、かだれ横丁、叙々苑
最終校正　あおいりんごNo.360

●スケジュール：
５月上旬　　掲載原稿、写真、資料収集
　　校正
５月中旬　　No.360実施計画書上程
５月下旬　　校正等全体的な調整作業
６月上旬
６月中旬
６月下旬　　最終校正
　　No.360実施計画書審議
　　発行、発送作業、配布場所へお届け、HP掲載

●事業目的の実現と成果：
今号では各委員会のこれからの事業について、OBとの交流、新加入会員紹介等を掲載し、当会の現在行なっている内容を広く周知出来た。また寄付のお願いや会員拡大への協力のお願いを掲載し、特別会員やメンバーへ協力も周知することが出来た。

●次回への引継事項：
◆白黒でいくのかカラーでいくのか方向性を決めておく
◆メンバーへも送付した方が良い
◆配布場所に何部か置いたが、ほぼ無くなっていなかった
◆誰がどの事業で写真を撮影しているか把握しておいた方が良い
◆出向者の紹介をいつするのか検討必要（早い方が良い）
◆紙面の大きさの検討
◆字が多いと読みづらい。字と写真のバランスを精査して記事を作成すること
◆HPへのアップのタイミング、HPへ誰がアップするのかを把握すること

●委員長所見：今号はこの内容をメインで掲載するというのをこちらで選定しなければならず、そこに非常に時間がかかった。また、各委員会毎に事業がスタートし、写真が個々に撮影されていて集めるのに時間がかかったり、発行のタイミングによっては次号の掲載になってしまうなど諸問題も多く発生し、最終校正が発行直前までかかかってしまった。次号はそういった部分を改善し、スムーズな発行を目指します。

●決　　算：¥39,270

●委員会名：会員開発委員会

●事 業 名：あおいりんごNo.361の作成

●意義・目的：弘前JCの事業紹介・報告の広報誌として、事業へ参加、興味がわくような記事を適時に作成し、特別会員やメンバーに情報提供する事を目的とする。またHP上での告知充実を徹底し、広く市民に活動内容を広報していく。また、会員拡大用や市民への事業活動の周知の一面を持つ広報誌として、幅広い周知活動が出来る記事作成を目指

す。
●実施日時：発行日　平成25年９月26日（木）
●実施場所・会場：適宜
●対 象 者：現役メンバー及び特別会員、OB、その他
●参加人員：適宜
●外部協力者：適宜
●方法手段：規　　格　B4、白黒印刷、二つ折り
発　　送　特別会員、現役メンバー
最終校正　あおいりんごNo.361
●スケジュール：
７月上旬　掲載原稿、写真、資料収集
校正
No.361実施計画書上程
７月中旬　校正等全体的な調整作業
７月下旬
８月
９月上旬
９月中旬
９月下旬　最終校正
No.361実施計画書審議
発行、発送作業、配布場所へお届け、HP掲載
●事業目的の実現と成果：
今号では次年度理事候補者決定の報告、事業御礼、事業告知並びに新加入会員紹介等を掲載し、当会の現状を広く周知出来た。また会員拡大への協力のお願いを掲載し、特別会員やメンバーへ協力を周知出来た。
●次回への引継事項：
◆白黒でいくのかカラーでいくのか方向性を決めておく
◆メンバーへも送付した方が良い
◆配布場所に何部か置いたが、ほぼ無くなっていなかった
◆誰がどの事業で写真を撮影しているか把握しておいた方が良い
◆出向者の紹介をいつするのか検討必要（早い方が良い）
◆紙面の大きさの検討
◆字が多いと読みづらい。字と写真のバランスを精査して記事を作成すること
◆HPへのアップのタイミング、HPへ誰がアップするのかを把握すること
◆画像の著作権等の注意
●委員長所見：今号は前号の教訓を生かし、スムーズな発行を心がけた。最後に誤字、脱字訂正で若干の時間はかかったもののスムーズに発行出来たと思う。次号で今年度最後の発行となるが、次号も今号の様にスムーズ且つ魅力的な広報誌にしていきたいと思います。
●決　　算：¥39,270

●委員会名：会員開発委員会
●事 業 名：あおいりんごNo.362の作成
●意義・目的：弘前JCの事業紹介・報告の広報誌として、事業へ参加、興味がわくような記事を適時に作成し、特別会員やメンバーに情報提供する事を目的とする。またHP上での告知充実を徹底し、広く市民に活動内容を広報していく。また、会員拡大用や市民への事業活動の周知の一面を持つ広報誌として、幅広い周知活動が出来る記事作成を目指す。
●実施日時：発行日　平成25年11月27日（水）
●実施場所・会場：適宜
●対 象 者：現役メンバー及び特別会員、OB、その他
●参加人員：適宜
●外部協力者：適宜
●方法手段：規　　格　A3、白黒印刷、二つ折り
発　　送　特別会員、現役メンバー
最終校正　あおいりんごNo.362
●スケジュール：
10月上旬　掲載記事、写真、資料収集
10月中旬　No.362実施計画書上程
10月下旬　校正、調整、精査作業
11月上旬
11月中旬
11月下旬　理事会審議
発行
発送作業、HPへ掲載
●事業目的の実現と成果：
今号では今年度理事長、次年度理事長候補者の一問一答、次年度委員長紹介、今年度委員長報告、卒業生紹介、事業御礼、報告などの記事や写真を掲載し、当会の現状報告並びに次年度のこれからの体制などを周知出来た。また、今年度後半に行なわれた事業やその他行事の報告や御礼、会員拡大の最終報告などをわかりやすく掲載し、沢山の内容を周知をすることが出来た。
●次回への引継事項：
◆白黒でいくのかカラーでいくのか方向性を決めておく
◆メンバーへも送付した方が良い
◆配布場所に何部か置いたが、ほぼ無くなっていなかった
◆誰がどの事業で写真を撮影しているか把握しておいた方が良い
◆出向者の紹介をいつするのか検討必要（早い方が良い）
◆紙面の大きさの検討
◆字が多いと読みづらい。字と写真のバランスを精査して記事を作成すること
◆HPへのアップのタイミング、HPへ誰が

アップするのかを把握すること
◆画像の著作権等の注意
◆どのような事業、行事でも写真は多く撮影しておいた方が良い（記事とのバランスや校正がスムーズに行なえる）
◆次年度理事長候補者を撮影する際にネームプレートが気になった。理事長候補者のネームプレートもあった方が良いと思う
◆12月に入会したメンバーはどう紹介していくのか
◆題字は次年度も理事長が書いた方が良いと思う

●委員長所見：今年度最後の発行ということでNo.359からNo.361での教訓を生かし、スムーズな発行、読みやすい記事、わかりやすい写真、見やすい校正などあらゆる面に気を配り作り上げました。沢山の資料や写真などを様々な人から協力を頂き、今年度１番の出来ではないかと思うぐらい魅力的で素晴らしい号に仕上がったと思います。次年度も今年度のあおいりんごを参考にして、より良いあおいりんごを期待しています。
●決　　算：¥39,270

●委員会名：地域のリーダー育成/会員開発　委員会
●事 業 名：３月例会（会員拡大講演会）

●意義・目的：我々JAYCEEは、地域人・経済人としての活躍を期待されており、地域の希望として、地域を牽引するリーダーとしての資質の向上が急務である。例会活動を通してメンバーとの親睦を図るとともに、地域の将来を担うリーダーとしての素質を向上するための学習・啓発活動を行い、我々の使命を見つめなおし、個々のアイデンティティーを確立させ、地域を自発的に牽引していくリーダーシップを兼ね備えた、まちを変えていく一歩を踏み出せる活力のある人材を育成する。
●実施日時：平成25年３月８日（金）19：00～21：35
●実施場所・会場：ホテルニューキャッスル 松の間
●対 象 者：JCメンバー及びオブザーバー
●参加人員：JCメンバー 34名
オブザーバー　　１名
山形昌弘氏（山形商店）
OB　　１名
中井浩二先輩
その他　　７名
佐藤一尚会長（青森ブロック協議会）
日野勲運営専務（青森ブロック協議会）
虻川洋行理事長（一般社団法人大館青年会議所）
藤田甲之助事務局長（公益社団法人花巻青年会議所）
伊藤芳徳会員交流委員長（同上）
上田直輝会員拡大委員長（同上）
佐藤芳樹会員拡大委員（同上）
合計　　43名
紹介誓約書、例会前アンケート提出　55名
※全メンバーより紹介誓約書、例会前アンケートの提出有り。よって100％出席の100％例会とした。全員の誓約書は電子資料に添付
●外部協力者：講師　花巻JCOB　伊藤泰尚先輩
●方法手段：①例会案内郵送時に会員拡大に関するアンケートも同封し、現状のメンバーの意識や質問等を集計して、例会に臨む（講師にもその内容を確認してもらう）
配布物　３月例会案内、講師プロフィール、例会前アンケート、１名紹介誓約書
②多くのメンバーに会員拡大の意識向上を図る
１月下旬より、メンバーに出席を促し、100％例会にする
どうしても所用等で出席出来ない場合は１名紹介誓約書の提出をもって出席とする
③例会出席者に１名紹介誓約書の持参してもらい、LOM全体での活動を促す
誓約書はまとめて事務局に掲示
●スケジュール：
◆事前スケジュール

１月	上旬 中旬 下旬	委員会で例会の検討 講師打ち合わせ 講師打ち合わせ
２月	上旬 中旬 下旬	会場仮押さえ、役割分担、備品等精査 講師最終打ち合わせ メンバーへ案内、会場手配
３月	上旬	出欠確認、最終打ち合わせ

◆当日スケジュール

時　間	内　容	担　当
16：00～	講師と打ち合わせ	坂本委員長
17：00～	会場集合、準備、メンバー打ち合わせ	会員開発委員会、白石委員長、比内事務局長
18：00	受付開始	
18：10	講師を迎えに行く	大湯副委員長
18：30～	コミュニケーションタイム	
18：30	青森ブロック専務お出迎え	安田専務、工藤幹事
18：40	講師お出迎え	工藤幹事
18：45	青森ブロック会長お出迎え	工藤幹事、大湯副委員長
開会セレモニー		

19：00～	開会宣言	小野副理事長 (司会)白石委員長
	国歌斉唱	
	JCソング斉唱	
	JCIクリード	工藤博政君
	JCIミッション並びに JCI VISION唱和	比内事務局長
	JC宣言朗読並び に綱領唱和	三宅委員長
	理事長挨拶	清藤理事長
	青森ブロック会長 挨拶	佐藤一尚会長 (青森ブロック協議会)
	オブザーバー紹介 並びに 来訪JC紹介	(オブザーバー) 山形昌弘氏(山形商店) (来　　訪) 佐藤一尚会長 (青森ブロック協議会) 日野勲運営専務 (青森ブロック協議会) 虻川洋行理事長 (一般社団法人大館青年会議所) 藤田甲之助事務局長 (公益社団法人花巻青年会議所) 伊藤芳徳会員交流委員長(同上) 上田直輝会員拡大委員長(同上) 佐藤芳樹会員拡大委員(同上)
19：35	新加入会員認証式	(新)久保良太君、 笹淳志君、相馬春香君 (司会)坂本委員長
19：50	休憩	
メインタイム		
20：00 20：50	会員拡大講演会 質疑応答	伊藤泰尚先輩 (司会)坂本委員長 (講師誘導) 工藤幹事
21：00	理事長謝辞	清藤理事長
	講師退場	(講師誘導)工藤幹事
21：10	専務理事報告	安田専務
	報告依頼事項	
	監事講評	鎌田監事
21：35	閉会宣言	福士副理事長
	懇親会会場へ講師、 花巻JC送迎	大湯副委員長

●事業目的の実現と成果：今例会は弘前JCの会員増加及び必要性を感じ、会員減少の危機感をメンバー全員より一層認識してもらう為に開催した。近年このような例会で会員拡大をテーマにした例会は無く、改めて外部協力者からの講演を拝聴し効率的なシステム・手法を学び委員会単位ではなく、メンバー一丸でメンバー募集しなければ大幅な会員増加には繋がらない説明を受けた。今後の弘前JCの存続も左右する会員拡大の重要性を参加したメンバーは感じたように思える。例会の成果は毎月の会員拡大ミーティングの状況と今年度の会員増加数で表される。

●次回への引継事項：

●来賓が来る連絡がほぼ当日だったので、対応に困った。

●タイムテーブルに不備が有り、講師を待たせる場面が多かった。

●軽食を準備したが、食べる時間が限られており、多量に残る結果となった。

●予算関係でゆとりが無かった。

●誓約書、アンケートをもって100％例会としたが、例会への参加人数が少ない。

●こういった会員拡大についての内容は今年だけではなく、来年、来々年も行なった方が良いと考えられる。

●２月の総会や前の日の全事業終了時にこういった会員拡大の重要性を説く内容の事をやるのも良いと思う。それにより次の年にスタートダッシュが出来る。

●オブザーバー、先輩、来賓への気遣い、対応がイマイチであった。外部の人が来る場合は注意すること。

●委員長所見：年頭に掲げた会員拡大30名の目標達成の為の第一歩である今例会。例会案内に同封した紹介誓約書・アンケートの回収率による100％例会を目指しました。誓約書の提出に疑問を唱えるメンバー、快く提出するメンバーの意識を認識できました。即ちJAYCEEの存在意義、そして今、活動している事自体への疑心を払拭できたように私は捉えました。

多くの他団体がある弘前の中でも突出したメンバーが集い、様々な事業を行える強い団体を構築する為にメンバーの確保を今年度行っていきます。

●決　　算：¥62,975

●委員会名：地域のリーダー育成／弘前白神プロモーション／青少年委員会

●事 業 名：４月例会

●意義・目的：我々JAYCEEは、地域人・経済人としての活躍を期待されており、地域の希望として、地域を牽引するリーダーとしての資質の向上が急務である。例会活動を通してメンバーとの親睦を図るとともに、地域の将来を担うリーダーとしての素質を向上するための学習・啓発活動を行い、我々の使命を見つめなおし、個々のアイデンティティーを確立させ、地域を自発的に牽引していくリーダーシップを兼ね備えた、まち

を変えていく一歩を踏み出せる活力のある人材を育成する。

●実施日時：平成25年４月５日(金)19：00～21：05

●実施場所・会場：ホテルニューキャッスル 桜の間

●対 象 者：JCメンバー及びオブザーバー

●参加人員：JCメンバー　27名
オブザーバー　１名
前田完治君
アカデミー大学来訪　５名
アカデミー大学学長　高橋　誠君以下５名
合計　33名

●外部協力者：なし

●方法手段：授業形式
・白神山地の歴史及び文化のレクチャー(講師　秋元委員長)
・ねぷたの歴史についての講義(講師　野村委員長)

●スケジュール：

◆事前スケジュール

２月	上旬 中旬 下旬	委員会において例会内容協議、白神委員会との協議 委員会において例会内容精査、協議 委員会において内容精査、協議
３月	上旬 中旬 下旬	会場仮押さえ、内容精査 物品購入等準備作業 出欠確認、会場契約
４月	上旬	実施

◆当日スケジュール

時　間	内　容	担　当
16：00～	物品搬入	野村委員長
17：00～	会場集合、準備、メンバー打ち合わせ	青少年委員会、白石委員長、比内事務局長
18：00	受付開始	弘前白神プロモーション委員会
開会セレモニー		
19：00～	開会宣言	小山内副理事長　(司会)白石委員長
	国家斉唱	
	JCソング斉唱	
	JCIクリード	比内事務局長
	JCIミッション並びにJCI VISION唱和	吉川裕之君
	JC宣言朗読並びに綱領唱和	大中正樹君
19：10～	理事長挨拶	清藤理事長
19：20～	オブザーバー紹介	(オブザーバー) 前田完治
19：30～	新加入会員認証式	(新)阿部塁、葛西豊秀、櫛引英樹
		(司会)坂本委員長
19：50～	休憩	
メインタイム		
20：00～	白神山地の歴史と文化について	秋元委員長
20：20		
20：20～	休憩	
20：30～ 20：50	ねぷたの歴史について	野村委員長
20：50	専務理事報告	安田専務
	報告依頼事項	
	アカデミー大学第４回講座PR	塾生一同
	監事講評	鎌田監事
21：05	閉会宣言	福士副理事長
	事後懇親会	

●事業目的の実現と成果：
・今年度の主要事業となるねぷた及び白神に対する理解を深める内容になった。
・地域のリーダーとしてねぷたや弘前の歴史、白神の歴史文化を知っておくことは必須の素養である。堅い講義形式を採った点はこの目的の達成の為には大いにプラスの効果をもたらした。
・各々の委員会において事業への理解、士気の向上をもたらした。
・具体的な成果はねぷた事業、及び白神関係事業へのメンバーの参加状況に現れる。

●次回への引継事項：
・複数委員会の合同で行なう場合は実施計画と実際の実施を明確に分担するほうがいい、細かく分担するとかえって混乱の元になる。
・地域のリーダー育成委員会(例会担当)に早めに例会の内容や要望事項を伝達する必要がある。
・今回はコミュニケーションタイムを行わないで、食事等は懇親会にまわすことにした、毎回軽食が余る傾向にあるので軽食を用意するのをやめるなど対策が必要である。
・新加入会員やオブザーバーなど、JCがどのような団体であるのかまだ分からない人がいる段階での例会のありかたを熟考して内容を立案したほうがいい(趣とアイスブレイキングの兼ね合ね合いのとり方を中心に)

●委員長所見：青少年委員会　野村委員長
講義形式を採ることによりあいまいにしか認知してこなかった地域の事柄に対する理解を深める事にはつながった。そのような感想を多くいただいた。形式をブラッシュアップしてこういった講義形式の例会を今後も多く行なうのは会員の資質向上に大いにつながる。新加入会員を多く迎えたあとの例会のしつらえとしては多少堅い内容であった。新加入会員のアイスブレイクと会員の資質の向上を同時に達成できる方法手段に関しては、今後検討していく必要がある。

弘前白神プロモーション委員会　秋元委員長

４月例会は白神のことについてメンバーに発表いたしました。メンバーからは「意外と知らなかった、よかった」という意見を多くいただきました。また、担当委員長としても白神についての理解を深められることとなりました。白神全体事業について勢いがついたことになりました。今後もメンバーの協力を得ながら一つずつ進めていきたいと思います。次年度以降こういった形での委員長の発表は機会として、大変良い機会だと思いますし自分自身の事業に対する思いが深まります。

●決　　算：¥51,975

●委員会名：地域のリーダー育成委員会

●事 業 名：例会の企画・運営
（５月例会、リーダー育成講師講演会）
第１回地域のリーダー育成プログラム「リーダーとしての基軸～Visual Future～」

●意義・目的：我々JAYCEEは、地域人・経済人としての活躍を期待されており、地域の希望として、地域を牽引するリーダーとしての資質の向上が急務である。例会活動を通してメンバーとの親睦を図るとともに、リーダーとしての素質を向上するための学習・啓発活動を行い、我々の使命を見つめなおし、個々のアイデンティティーを確立させ、地域を自発的に牽引していくリーダーシップを兼ね備えた、まちを変えていく一歩を踏み出せる活力のある人材を育成する。

●実施日時：平成25年５月９日(金)18：58～21：31

●実施場所・会場：ホテルニューキャッスル 松の間

●対 象 者：JCメンバー及びオブザーバー

●参加人員：JCメンバー 33名
オブザーバー　　１名　　原田裕さん
青森ブロック協議会 ９名
青森ブロック協議会会長
佐藤一尚君以下９名
青森JC　　３名
青森青年会議所拡大研修委員会委員長
北山敏彦君以下３名
合計　　33名

●外部協力者：ヘッドトレーナー　三ツ井仁君

●方法手段：地域のために率先して行動していけるリーダーとなるために必要な素質を学ぶべく、日本青年会議所のJCプログラムVFセミナーを行う。ヘッドトレーナーには静岡青年会議所の三ツ井仁君を、アシスタントトレーナーに当青年会議所の葛西豊喜君をお招きする。
JCセミナーの一つであるVisual Futuerセミナーを開催し、向かうべき未来に向かってどのようにアプローチしていくかのセミナーを、リーダーシップ・ディベロップメントを交えて講演頂き、リーダーとして、見据える未来に確実に到達するための知識を学ぶ。

●スケジュール：
◆事前スケジュール
１月18日　京都会議にて講師打ち合わせ
２月～４月　メールにて講師との打ち合わせ
４月15日　青森JC例会にオブザーブして講師と打ち合わせ
５月　最終打ち合わせ
◆当日スケジュール
17：00　事務局集合、備品積込
白石 比内事務局長 三宅委員長
17：25　会場移動、設営開始
17：30　講師送迎対応　佐藤副理事長
18：00　受付開始
工藤(康)委員　中村委員
18：03　講師到着
18：30　臨時総会
18：58　メインタイム設営
19：10　青森ブロック協議会ブロック大会PR　佐藤ブロック協議会会長　（司会：白石）
19：15　来訪JC並びにオブザーバー紹介　（来訪JC)青森青年会議所
北山委員長以下３名
(オブザーバー)原田裕さん
19：20　メインタイムヘッドトレーナー
三ツ井仁君
VFセミナー
アシスタントトレーナー　葛西豊喜君
20：50　質疑応答　鎌田監事
三國担当幹事
佐藤副理事長
21：05　理事長謝辞清藤理事長
21：08　講師退場
21：10　専務理事報告安田専務理事
21：15　報告依頼事項
21：25　監事講評鎌田監事
21：30　閉会宣言佐藤副理事長

●事業目的の実現と成果：
VFセミナーを通し、今まで自らが気付かなかった自分の姿や、自分が持っている資質などを知ることが出来た。また、目的に向かって外れることなく向かうための手段

を学び、同時にリーダーシップ・ディベロップメントも学ぶことができた。セミナーアンケートでは、87%の人から良く理解できたと回答いただき、内容と理解度から非常に有意義なセミナーになったと確信する。成果は目に見えづらいものではあるが、参加したメンバーの基軸となったことは間違いないものと思う。また、日頃なかなか触れる機会のないJCプログラムに触れる機会が持てたことはとても有意義なことと思う。

●次回への引継事項：
当日のオブザーバー連絡にも対処できるようにしておく
設営への呼びかけや指示を速やかに、かつ的確に行い、スムーズに進行できるよう協力を仰ぐメインタイム部分だけでも台本は用意し、焦らずに司会を行う
講師がスケジュールの予定より前に来ることがあるため、事前に対応できるように予測・打ち合わせしておく
講師プロフィールの紹介部分は事前に打ち合わせを行い、講師に失礼のないようにする
講師や来訪JC、オブザーバーへの対応がイマイチであった。外部からの参加者には注意して対応すること
当日講師が資料をコピーして持ってきていただいたが、事前の打ち合わせで配布資料等をしっかり確認し、すべて事務局で用意できるようにした方が良い。

●委員長所見：初のメインタイム進行であったが、緊張のあまり司会で不手際をかけ、青森ブロックの佐藤会長や講師の三ツ井さんには大変失礼をしてしまい申し訳なく思う。セミナーの内容としては、非常にわかりやすく、満足度も高く、非常に有意義なセミナーとなった。次回はあわてず、講師にご迷惑をおかけすることのないようきちんと下準備を行い、万全の態勢で講師を迎えられるようにしたい。
また、JCプログラムに対する反応が非常によく、普段あまり触れる機会のないJCプログラムを行うことが出来た事が大変良かったと思う。これを機に、JCプログラムを取り入れる機会を増やすことが出来たら良いと思う。

●決　　算：¥84,365

●委員会名：地域のリーダー育成委員会

●事 業 名:例会の企画･運営（６月例会、理事選挙例会）

●意義･目的：我々JAYCEEは、地域人・経済人としての活躍を期待されており、地域の希望として、地域を牽引するリーダーとしての資質の向上が急務である。例会活動を通してメンバーとの親睦を図るとともに、リーダーとしての素質を向上するための学習・啓発活動を行い、我々の使命を見つめなおし、個々のアイデンティティーを確立させ、地域を自発的に牽引していくリーダーシップを兼ね備えた、まちを変えていく一歩を踏み出せる活力のある人材を育成する。

●実施日時：平成25年６月３日(月)19：00～20：58

●実施場所・会場：ホテルニューキャッスル 麗峰の間

●対 象 者：JCメンバー及びオブザーバー

●参加人員：JCメンバー 33名
オブザーバー　２名
三浦博美さん、中里元哉さん
合計　33名

●外部協力者：なし

●方法手段:選挙管理委員会と協力し、理事選挙を行う。
事前に立候補期間を設け、当日の立候補の処理を簡略化する。
理事長選考委員会用に別室を用意。開票もそちらで行う。
選挙時間を有効に使い、開票中などの時間を利用し各委員長から中間報告を行う。
投票率100%を以って100%例会の達成を目指す。

●スケジュール：
◆事前スケジュール
５月上旬　会場抑え
５月下旬　立候補・辞退受付、告示、期日前投票開始
◆当日スケジュール
18：00　事務局集合、備品積込
白石　安田専務理事
比内事務局長
18：15　会場移動、設営開始
18：30　受付開始　工藤(康)委員
19：00　開会セレモニー開始
司会：白石
19：00　開会宣言　佐藤副理事長
国歌斉唱
JCソング斉唱
JCIクリード唱和
秋元弘前白神プロモーション委員長
JCIミッション並びに
JCIビジョン唱和　葛西豊喜君
JC宣言朗読並びに綱領唱和
三宅総務渉外委員長

19：05　理事長挨拶　　清藤理事長
19：10　新加入会員認証式並びにオブザーバー紹介
新加入会員
石澤美幸君　齋藤拓靖君
オブザーバー
三浦博美さん　中里元哉さん
19：20　メインタイム
理事選挙　選挙管理委員会
趣旨説明・投票方法解説
工藤(博)選挙管理委員長
投票
集計
白神山地登録20周年事業説明
安田専務理事、秋元委員長
集計結果発表
理事長候補者選考委員会選任選挙
理事長候補者選考委員会選任結果発表
20：40　専務理事報告安田専務理事
20：45　報告依頼事項
20：55　監事講評　鎌田監事
20：58　閉会宣言　太田出向理事

●事業目的の実現と成果：
期日前投票を含め、投票率100％を達成することができた。主だった事業の始まる前の６月に、皆の気持ちをまとめることができた。ただ、例会自体の出席率は60％に届かず、出席率の向上を図る必要がある。
理事選挙自体はつつがなく終了し、理事長候補者選考委員会の選任も滞りなく終了した。皆で次年度を担う理事を選出することができた。

●次回への引継事項：
例会への出席率をもっと上げるよう、電話掛けや声掛けを皆で協力して行う必要がある。
クールビズでも上着を持参するように案内文に記載するほうがいい。
集計中と理事長候補者選考委員会選出の際に結構時間ができるので、あらかじめその時間の使い道を計画しておくほうがいい。
コミュニケーションタイム用の料理がいつも余る傾向にある。減らすことも考慮してもいい。
期日前投票の確認は早めに行い、職場に伺うなども考慮する。

●委員長所見：投票率100％を達成することができ非常に嬉しく思う。期日前投票を集めるのには若干の苦労もあったが、協力頂けたメンバーの皆に非常に感謝している。
クールビズで上着を忘れてしまい、非常に申し訳なく思った。次回からは必ず持参するとともに、メンバーにも持参するよう例会案内や電話掛け等で呼びかけていきたい。

●決　　算：¥51,975

●委員会名：地域のリーダー育成委員会

●事 業 名：例会の企画・運営（７月例会、リーダー育成講師講演会）
第２回地域のリーダー育成プログラム「目指せ夢ある経営者」

●意義・目的：我々JAYCEEは、地域人・経済人としての活躍を期待されており、地域の希望として、地域を牽引するリーダーとしての資質の向上が急務である。例会活動を通してメンバーとの親睦を図るとともに、リーダーとしての素質を向上するための学習・啓発活動を行い、我々の使命を見つめなおし、個々のアイデンティティーを確立させ、地域を自発的に牽引していくリーダーシップを兼ね備えた、まちを変えていく一歩を踏み出せる活力のある人材を育成する。

●実施日時：平成25年７月３日　19：00～21：05

●実施場所・会場：ホテルニューキャッスル　桜の間

●対 象 者：JCメンバー及びオブザーバー

●参加人員：JCメンバー　35名

●外部協力者：CSグループ最高経営責任者　新戸部　八州男先輩

●方法手段：講師を招き講演を行い、我々が地域経済人として相応しい人材となるべく、講演を通して必要な知識や考えを学び、地域のリーダーとしての育成へと繋げる。
講師に新戸部先輩をお招きし、弘前のまちをより活性化するため、人先の地域経済人として必要な知識や心得を伺う。
新戸部先輩から頂く講演で、経済面からこの地域を支えるリーダーとして、我々青年世代が弘前の未来を支え発展させていくのに必要な経済的な知識を学ぶ。

●スケジュール：
◆当日スケジュール
18：00　事務局集合、備品積込
18：15　会場移動、設営開始
18：20　講師到着
18：30　受付開始
19：00　開会セレモニー開始
19：00　開会宣言
国歌斉唱
JCソング斉唱
JCIクリード唱和

JCIミッション並びに
JCIビジョン唱和
JC宣言朗読並びに綱領唱和
19：05　理事長挨拶
19：10　新加入会員認証式
新加入会員
三浦博美君　中里元哉君
田中寿紀君　原田裕君
19：20　メインタイム
講演「目指せ夢ある経営者」
講師　新戸部　八州男先輩
20：50　専務理事報告
20：55　報告依頼事項
21：00　監事講評
21：05　閉会宣言

●事業目的の実現と成果：
新戸部八州男先輩をお招きし、経営に関しての熱い講演を受けた。超少子高齢化社会に向け、備えておかなければならない知識等、非常にためになる講演を頂くことが出来た。リーダーとして、そして組織のトップとして、部下に対しどういう態度で臨めばいいか等、地域のリーダーとして必要なことを学ぶことが出来、今後のJC活動に活かされていく。日程変更が急であったにもかかわらず、35名のメンバーに参加頂けた。ただ、それに満足することなく、参加率をさらに上げていくよう努力が必要である。

●次回への引継事項：
例会への出席率をもっと上げるよう、電話掛けや声掛けを皆で協力して行う必要がある。
講師への質問をメンバーにより多く行ってもらうために工夫が必要である。
講師への打診は早めに行い、日程変更等ある場合は早めに告知する必要がある。

●委員長所見：新戸部八州男先輩から、経営だけではなくリーダーとしても大事なことを教えていただき、とてもうれしく思う。日程変更が急ではあったが、35名のメンバーに参加していただけたことも非常に嬉しかった。当初の予定変更等あり、講師選定などで非常に迷惑をかけてしまい、大変申し訳なく思う。今回得た知識や経験を次回に活かし、反映していきたい。

●決　　算：¥57,475

●委員会名：地域のリーダー育成委員会

●事 業 名：例会の企画・運営（９月例会、リーダー育成講師講演会）
第３回地域のリーダー育成プログラム「地域のリーダーとは」

●意義・目的：我々JAYCEEは、地域人・経済人としての活躍を期待されており、地域の希望として、地域を牽引するリーダーとしての資質の向上が急務である。例会活動を通してメンバーとの親睦を図るとともに、リーダーとしての素質を向上するための学習・啓発活動を行い、我々の使命を見つめなおし、個々のアイデンティティーを確立させ、地域を自発的に牽引していくリーダーシップを兼ね備えた、まちを変えていく一歩を踏み出せる活力のある人材を育成する。

●実施日時：2013年９月６日　19：00～20：35

●実施場所・会場：ホテルニューキャッスル 桜の間

●対 象 者：JCメンバー及びオブザーバー

●参加人員：JCメンバー　　34名
オブザーバー　３名　市役所より
岩崎隆さま、藤田知道さま、木村敬之さま
合計　38名

●外部協力者：弘前市長　葛西憲之氏
弘前市役所

●方法手段：講師を招き講演を行い、我々が地域経済人として相応しい人材となるべく、講演を通して必要な知識や考えを学び、地域のリーダーとしての育成へと繋げる。
第３回目となる今回は、今実際に地域のリーダーして頑張っている地域人の方をお招きし、我々JCが地域人として何がすべきかを講演から学ぶ。

●スケジュール：
◆当日スケジュール
18：30　臨時理事会終了
18：30　設営開始
18：30　受付開始
19：03　メインタイム
講師紹介
講演「地域のリーダーとは」
講師　葛西　憲之氏
質疑応答
理事長謝辞
講師退場
20：25　専務理事報告
20：30　監事講評
20：35　閉会宣言

●事業目的の実現と成果：
弘前市長葛西憲之氏をお招きし、リーダーとは何か、ということを講演頂いた。葛西市長が実際に取り組んできた姿勢や活動を紹介し、リーダーとして必要なことを多く学び取ることが出来た。自らが変われば周囲が変わり、そして組織が変わり、街が変

わるというこの流れは、我々のJC活動においても同じことをもたらすことは間違いない。そのために、我々がリーダーとならなければいけないということを再確認した。設営に手間取り、開会が遅れてしまったので、スムーズに設営を行っていくようにしなければならない。

●次回への引継事項：
例会への出席率をもっと上げるよう、電話掛けや声掛けを皆で協力して行う必要がある。
行政機関との打ち合わせは入念に何度も行う必要がある
備品の確認をしっかり行い、スムーズに設営を行う。

●委員長所見：葛西憲之氏の講演に際し、プロジェクターの準備に手間取り開会が遅れ、非常に申し訳なく思う。また、音響等の確認に不備があり、音声コンテンツが十分に反映されなかった事も慚愧に耐えない。入念に打ち合わせを行い、不備がないように気を付けていきたい。講演内容は非常に充実しており、リーダーとして必要な要素を十分に盛り込んで頂けてうれしく思う。期待に応え、地域のリーダーとして活躍していけるように努力していきたい。

●決　　算：¥59,707

●委員会名：地域のリーダー育成委員会

●事 業 名：例会の企画・運営（10月例会、リーダー育成総括例会）
第４回地域のリーダー育成プログラム「それぞれの描く地域のリーダー」

●意義・目的：我々JAYCEEは、地域人・経済人としての活躍を期待されており、地域の希望として、地域を牽引するリーダーとしての資質の向上が急務である。例会活動を通してメンバーとの親睦を図るとともに、リーダーとしての素質を向上するための学習・啓発活動を行い、我々の使命を見つめなおし、個々のアイデンティティーを確立させ、地域を自発的に牽引していくリーダーシップを兼ね備えた、まちを変えていく一歩を踏み出せる活力のある人材を育成する。

●実施日時：2013年10月11日（金）　19：00～20：20

●実施場所・会場：ホテルニューキャッスル 曙

●対 象 者：JCメンバー

●参加人員：JCメンバー　20名

●外部協力者：なし

●方法手段：１）最初に、これまでの３回の地域のリーダー育成プログラムをまとめた映像を流し、今までの例会で学んだことを復習する。
２）６名１組でグループワークを行い、それぞれのグループで「自分が思う地域のリーダーとは」について考えていただき、その後発表する
３）これまでの地域のリーダー育成プログラムと今回の発表を総括し、「地域のリーダーとは何か」ということをメンバーに向けて提言する

●スケジュール：

◆当日スケジュール

18：00	会場準備開始
18：30	受付開始
19：00	開会セレモニー
19：00	開会宣言
	国歌・JCソング斉唱
	JCIクリード唱和
	JCIミッション並びに
	JCIビジョン唱和
	JC宣言朗読並びに綱領唱和
	東北JC宣言
19：05	理事長挨拶
19：10	メインタイム
	映像上映
	グループワーク
	発表
	総括
20：05	専務理事報告
20：10	報告依頼事項
20：15	監事講評
20：20	閉会宣言

●事業目的の実現と成果：
地域のリーダー育成プログラム最終回として、これまで手掛けてきたコミュニティミーティングの手法も交え、地域のリーダーについて改めて皆に考えて頂いた。グループワークでは各グループともに楽しく話しながら地域のリーダーについて考え、纏めることが出来た。皆の発表を取り入れ、総括を行い、目指すべき地域のリーダーの姿について再確認した。ただ、参加者が20名と非常に少なかったことが悔やまれる。多くのメンバーに考えてもらいたかっただけに非常に残念であった。

●次回への引継事項：
例会への出席率をもっと上げるよう、電話掛けや声掛けを皆で協力して行う必要がある。
例会時間の運営管理をしっかりと行い、２時間の例会時間を有意義に使うように設えをする。

●委員長所見：下準備の段階で思うように動けず、非常に多くの方々にご迷惑をおかけしてしまった。参加者も少なく、予定していた時間を使い切ることが出来ず大変申し訳なく思う。グループワークでは、皆和気藹々と話し合う姿が見られ嬉しく思った。総括も、皆の意見を反映させ、何とか纏めることが出来たと思う。今回確認した地域のリーダー像を今回参加できなかった方々にもお伝えし、皆で地域のリーダーとなることを目指し、これからも努力していきたい。

●決　　算：¥37,800

●委員会名：地域のリーダー育成／総務渉外委員会

●事 業 名：11月例会
～そもそもJCの諸会議って何？～

●意義・目的：我々JAYCEEは、地域人・経済人としての活躍を期待されている。その為にも地域を牽引するリーダーに必要な資質の向上が急務である。例会活動を通してメンバーとの親睦を図るとともに、地域の将来を担うリーダーとしての素質を向上するための学習・啓発活動を行い、我々の使命を見つめなおし、個々のアイデンティティーを確立させ、地域を自発的に牽引していくリーダーシップを兼ね備えた、まちを変えていく一歩を踏み出せる活力のある人材を育成する。

●実施日時：2013年11月21日(木)　19：00～21：00

●実施場所・会場：ホテルニューキャッスル

●対 象 者：JCメンバー及びオブザーバー

●参加人員：JCメンバー 22名
青森ブロック協議会　1名
青森ブロック協議会会長　佐藤一尚君
盛岡青年会議所OB　1名
村田和士先輩
合計　24名

●外部協力者：公益社団法人日本青年会議所　監事　近藤康之君　(所属：社団法人大阪青年会議所)

●方法手段：諸会議の意味を知るべく、講演を行う。
講演内容(参考資料に添付)
メインタイム内容
1．日本JCとLOM、JCIとLOM
2．日本JCの諸会議の背景と意義
3．京都会議とサマーコンファレンス
4．全国大会
5．JCIの諸会議
6．他LOM交流
7．地域のリーダーとして

●スケジュール：
5月頃　講師打ち合わせ(葛西)
10月5日　最終打ち合わせ(三宅、葛西)
〈当日スケジュール〉
17：00　会場準備(11月例会に携わるメンバー集合)
18：30　コミュニケーションタイム
19：00　開会セレモニー
19：15　青森ブロック協議会会長　挨拶
19：20　講演開始(メインタイム)
20：40　質疑応答　(鎌田監事、三宅)
20：40　理事長謝辞
20：45　専務理事報告
20：50　報告依頼事項
20：55　監事講評　(鎌田監事)
21：00　閉会宣言　(佐藤副理事長)
閉会コング　点鐘

●事業目的の実現と成果：
地域のリーダーとしての資質向上のための研修的な意味合いはもちろん、総務渉外委員会として、渉外事業を来やすいようわかりやすく解説するという目的は実現できたと思う。また、JAYCEEとしての多くの経験を踏んでいる近藤監事だからこそ説得力もあったのだと思う。

●次回への引継事項：
11月は世界会議もあり、日本JC関連の方を呼ぶにはいつも以上に日程調整が難しい。講師例会の場合、内容をどのように魅力的に伝えるかが参加率に大きく関連すると思う。
講師のお出迎えから、お見送りまで、人員配置を余裕を持って考えなければならない。例会で使用する資料や音響施設(配線コードに至るまで)を、講師と細かく打ち合わせしておくとよい。
11月例会は最後の例会でもあるので、エンターテイメント性を持たせた方が良いという意見もあった。次年度体制も本格化し忙しくなる時期でもあるので、段取り良く進めていく事が求められる。

●委員長所見：時期的なものなのか、参加者が少なかったので、もっとPR(講師と打ち合わせし、内容メールで案内するなど)を仕掛けていかなければいけなかったと思う。内容がすごく満足できるものだっただけに、もっと多くのメンバーに聞いてもらいたかった。

●決　　算：¥70,936

●委員会名：総務渉外委員会

●事 業 名：友好の絆事業

●意義・目的：私たちが生きている現代は、様々なメディアを通して簡単に多くの人々と繋がる事が

できる時代である。しかし、多くの情報やツールに頼るあまり、人間関係が希薄な時代でもある。そこで、現地へ赴き、姉妹(友好)JC・友好都市との交流を通して、代々受け継がれてきた絆を確かめ、親睦を深めると共に、地域創りのヒントを得る機会とする。

●実施日時：７月：斜里JC交流(津軽藩士殉難慰霊祭・斜里ねぷた)(斜里)
８月：太田市新田商工会青年部交流(尾島ねぷた祭り)(太田)
11月：台湾・苗栗青年会議所45周年式典

●実施場所・会場：各地

●対 象 者：JCメンバー及び適者

●参加人員：斜里：３名(清藤、太田、葛西)
太田：５名(清藤、藤田、比内、黒部、石澤(美))　JCOB１名(石澤(敏))
苗栗：４名(清藤、佐藤、三宅、葛西)
JCOB２名(石澤(敏)、七戸)

●外部協力者：社団法人斜里青年会議所
太田市新田商工会青年部
社團法人苗栗國際青年商會

●方法手段：社団法人 斜里青年会議所、太田市新田商工会青年部、台湾・苗栗青年会議所と連携を密にとり、早めに情報公開し、例会・総会等でPRし参加を募る。
その土地を理解し、親睦を深めるためのエクスカーションを開催する。
事前に配布物・メールで知らせ出欠の確認をする。

●スケジュール：
７月26－27日　斜里JC交流(津軽藩士殉難慰霊祭・斜里ねぷた)(斜里)
８月14－15日　太田市新田商工会青年部交流(尾島ねぷた祭り)(太田)
11月10日　苗栗青年会議所45周年式典

●事業目的の実現と成果：
実際に会って交流を深める事で、先輩方が築いてきた絆が、私たちの世代まで脈々と受け継がれている事を実感する事が出来た。FacebookなどのSNSでお互いの運動内容は確認する事ができる便利な時代であるが、実際に会ってみる事で、国や地域は違えど、同じように地域を愛しより良くしようという想いでまちづくりに取り組んでいる事を理解する事が出来た。

●次回への引継事項：
斜里：サマコンとわんぱく相撲、ちびっこねぶたなど、調整が必要になる事業と日程が重なりがちで、さらに知床のベストシーズンとも重なるので最低でも１ヶ月までには出欠を取り、きっぷのオーダーを終えるのが望ましい。日程がわかり次第、斜里JCに知らせていただくとよい。
太田：日程は毎年８月14-15日と決まっているがお盆とも重なるため、メンバーの動員が厳しいという背景がある。また、旅費が高くなる時期でもあるので、車で分乗するなど旅費を安く抑えるのも一つのポイントだと思われる。また、家族で参加しやすいような環境を整えるのも参加率を上げる一つのポイントだと思う。
苗栗：まずは打ち合わせや連絡を取るにあたり、言語の問題がある。ある程度は翻訳ソフトを使ったり、英語でやり取りして、日程やその他の情報を国内の友好団体以上に、細かくやり取りする必要がある。その際にfacebookやLINEなどのSNSの方が返信が早く来るので有効と思われる。準備するものなどは直前になって依頼が来るなど、日程に余裕がないため、予め過去の資料を参照して早めに準備する事が望まれる。

●委員長所見：実際に目で見て、その土地を感じる事が重要であることを改めて認識した。遠くへ出かける事は時間もお金もかかる事ではあるが、それに引き換える価値があるものだと考える。実際、「友好の絆」では私自身も苗栗しか参加できなかった経緯があり、事業や仕事などの繁忙期に交流に勧誘する難しさを感じた。どのように参加率を上げていくかが今後の課題である。
普段接する事の出来ない人々と交流する事で友情を育む貴重な機会となった。
次年度、山形でASPACがあり、苗栗JCのメンバーが日本に来るという事だったので、今回参加できなかったメンバーにもぜひ参加し、交流･友情を深めてもらいたい。

●決　　算：¥95,040

●委員会名：総務渉外委員会

●事 業 名：各種大会参加促進事業

●意義・目的：多くの情報が溢れる環境にある私たちは、情報の多さ故に自己の方向性を見失いやすい傾向にある。JCの各種大会で開催される多くのフォーラム・セミナーは、そんな私たちにとって生き方・考え方の基軸を生み出すための多くの知恵を得られるチャンスだと捉えている。各種大会に参加し、その際に他LOMメンバーとの交流を持つことで、自己を磨き合い、我々のアイデンティティを創生する機会とする。

●実施日時　１月18－20日　京都会議(京都)

１月26日　青森ブロック新春名刺交歓会（青森）
３月10日　復興創造フォーラム（宮城）
６月７－９日　全国城下町シンポジウム（さぬき）
６月13－16日　ASPAC（韓国・光州）
７月７日　青森ブロック会員大会（八戸）
７月６－12日　国際アカデミー（福山）
７月20－21日　サマーコンファレンス（横浜）
７月26－27日　斜里JC交流（津軽藩士殉難慰霊祭・斜里ねぷた）（斜里）
８月14－15日　太田市新田商工会青年部交流（尾島ねぷた祭り）（太田）
９月７－８日　東北青年フォーラム（大曲）
10月３－６日　全国会員大会（奈良）
11月２－９日　JCI世界会議（ブラジル・リオデジャネイロ）
11月10日　苗栗JC交流（創立45周年式典）

●実施場所・会場：各開催地
●対 象 者：JCメンバー及び適者
●参加人員：参加者（内理事者）
10名（９名）　京都会議（京都）
14名（11名）　青森ブロック新春名刺交歓会（青森）
６名（６名）　復興創造フォーラム（宮城）
８名（７名）　全国城下町シンポジウム（さぬき）
１名（０名）　ASPAC（韓国・光州）
16名（12名）　青森ブロック会員大会（八戸）
１名（０名）　国際アカデミー（福山）
７名（６名）　サマーコンファレンス（横浜）
４名（４名）　東北青年フォーラム（大曲）
13名（10名）　全国会員大会（奈良）
０名　JCI世界会議（ブラジル・リオデジャネイロ）

●外部協力者：適者
●方法手段：
・事前に配布物・メール等にて情報発信し出欠の確認をする。
・例会等の場において映像や資料等を使い、各種大会の魅力をPRし参加を促す。
・参加促進につながるツールとして「2013渉外まんじ札」を作成し、収集心理を刺激し参加を促す。
・各種大会のフォーラム等の内容がわかり次第、メンバーに告知する。
・各種大会の案内・報告を兼ねて、総務渉外ニュースを不定期にメール配信する。

●スケジュール：
１月18－20日　京都会議（京都）
１月26日　青森ブロック新春名刺交歓会（青森）
３月10日　復興創造フォーラム（宮城）
６月７－９日　全国城下町シンポジウム（さぬき）
６月13－16日　ASPAC（韓国・光州）
７月７日　青森ブロック会員大会（八戸）
７月６－12日　国際アカデミー（福山）
７月20－21日　サマーコンファレンス（横浜）
７月26－27日　斜里JC交流（津軽藩士殉難慰霊祭・斜里ねぷた）（斜里）
８月14－15日　太田市新田商工会青年部交流（尾島ねぷた祭り）（太田）
９月７－８日　東北青年フォーラム（大曲）
10月３－６日　全国会員大会（奈良）
11月２－９日　JCI世界会議（ブラジル・リオデジャネイロ）
11月10日　苗栗JC交流（創立45周年式典）

●事業目的の実現と成果：
参加したメンバーからは他LOMとの交流をする事ができ、何らかの収穫を得られたと聞いている。
参加者を募るために案内文にその土地の情報を載せるなど、情報量を増やすことは興味を引いたと思う。しかし、そこから参加に踏み出す一歩が得られなかったと思う。
渉外まんじ札はタイムリーに発行してこそ収集欲を刺激するので、そのようにできなかったことを反省している。

●次回への引継事項：
各種大会の詳細情報が案内文の審議クールとはマッチしないので、情報が届いたら電子配信にて知らせるのがベストであると思われる。また、渉外プランは詳細発表を待ってからだと遅いので、いつが変更締切

かを旅行会社と打ち合わせして、ある程度は予測で予約する方がよい。

●委員長所見：全てに参加する事はかなわなかったが、多くの大会に参加し他LOMメンバーと交流する事で、弘前という地域の魅力を改めて実感する事が出来た。より多くのメンバーにこの魅力をどう伝えていけばいいのかが、今後の課題である。
涉外事業は案内文発行も現地対応も、とにかく下準備と臨機応変な対応に尽きる。いろんな事が起こったが、メンバーの嬉しそうな顔が原動力になっていたのは間違いない。

●決　　算：¥20,000

●委員会名：青少年委員会

●事 業 名：弘前JCメンバー卒業式

●意義・目的：卒業式を行うことにより新たな一歩を踏み出すJC卒業生の門出を祝福し、現役のJCメンバーは今後のJC運動により一層励む決意を新たにする。

●実施日時：2013年12月10日（火）　19：30～21：50

●実施場所・会場：ラグリー

●対 象 者：JCメンバー

●参加人員：

卒業生	6人
OB・OG	21人
現役	37人
計	64人

●外部協力者：なし

●方法手段：卒業するJCメンバーのこれまでのJC運動の足跡を讃え、新たなステージに進む門出を祝福するために、2013年度弘前青年会議所卒業式の企画実施を行う。

●スケジュール：

当日のスケジュール

16：00　スタッフ集合
17：00　卒業生集合、余興リハーサル
18：15　卒業生会食会
19：00　受付開始
19：33　開会宣言
19：35　卒業生入場
19：40　理事長挨拶
19：45　OB会長挨拶及び乾杯
20：05　卒業証書授与
20：15　送辞
20：42　答辞
21：10　歓談・卒業生余興
21：25　歓談・現役生余興
21：50　中締め

卒業生：工藤　博政君、笹森　聖博君、杉澤　廉晴君、杉田　文華君、原田　和人君、福士　圭介君、藤田あつ志君、安田伊佐武君

●事業目的の実現と成果：
今回の卒業式は現役メンバー37名、OB・OG21名の多くの参加を得ることができた。また、卒業生への素晴らしい送辞、そして余興の中において多くのOB・OGからの祝福の言葉をえることができたことから、卒業生の門出を祝福することができたと考える。
また卒業生の様々な軌跡を知る機会を得、JC運動の素晴らしさを知る機会を得たことから、現役メンバーにとってもJC運動への熱意を燃やす機会になったと確信する。

●次回への引継事項：
・案内文を早めに出せるように10月理事会までには案内文は審議を通すこと。
・会場の仮予約は10月初旬にはしておくこと。（11月だと予約で一杯である場合が多い）
・台本はラフでもいいから早めに作成すること。作成したら委員会で進行のシュミレーションを行なって不具合を修正していくこと。
・卒業生の写真など資料は早めに且何回もメンバーに提供を呼びかけること。
・OB案内文では19：00受付開始19：30開会としたが19：00開始と勘違いして早く来すぎてしまったOBから苦情があった。単に開始時間を記した方がよい。
・上記とは逆に現役メンバーの集まりが悪かったのでメンバー用案内では早めの集合時刻を設定して案内したほうがいい。

●委員長所見：火曜日というウィークデーにも関わらず、64名の参加者を得たことは本当にありがたいと考えます。波乱に満ちて聞こえる卒業生の軌跡ですが、聞けば聞くほどJC運動の一瞬一瞬の大切さ、かけがえのなさを思い知らされました。2014年、真剣に、一生懸命にJC運動に参画しようというモチベーションを高めることができました。今回の担いを任せていただきありがとうございました。

●決算：¥27,930

他２ 会員の拡大及び会員相互の情報の共有等に関する事業

●委員会名：会員開発委員会

●事 業 名：新人研修（４月研修）

●意義・目的：JC入会間もないメンバーに対して、弘前JCの歴史、知識を深める研修事業をおこなう。
事業を行う上で必要不可欠な『奉仕・友情・修練』の精神を学び、JC入会によって地域に貢献する経済人としての成長を続け、将来のJCの事業発展・拡大を目指すものとする。

●実施日時：平成25年４月19日（金）
18時30分～20時33分

●実施場所・会場：弘前市総合学習センター　視聴覚室

●対 象 者：入会２年未満メンバー及びメンバー他

●参加人員：

研修参加人員（計15名）		
入会２年以上メンバー	計１名	
佐藤　　譲		
入会２年未満メンバー	計８名	
白石　将一	大井　康敬	福島　英一
須藤るり子	相馬　春香	葛西　豊秀
葛西　豊秀	櫛引　英揮	
オブザーバー	計１名	
田中　寿紀（たなか銘産）		
会員開発	計４名	
小野　貴志	工藤　順敬	坂本　貢
工藤　博政	大湯　幸世	
懇親会参加（計８名）		
白石　将一	福島　英一	須藤るり子
阿部　　塁	櫛引　英揮	
小野　貴志	工藤　順敬	坂本　貢

●外部協力者：無し

●方法手段：１回目テーマ　友情、修練
友情、修練をテーマにJCメンバーとして新たに加わったメンバーと既存メンバーとのコミュニケーションを円滑にし、今後JCメンバーとしてより社会に貢献できるよう人間関係とチームワーク等を育む。

①セレモニー内容について
セレモニーについてのポイント等を学習する。

②ウォーミングアップ
自己紹介等適宜状況にあわせてウォーミングアップを行う。

③コミュニケーションについて（座学）
コミュニケーションに関して、ハートビーイング（※１）やコミュニケーションにおける身につけたい７つの習慣（※２）等のコミュニケーションに関する大切な要素を学び、事業等を行う上でJCメンバーはもとより、JC外の方との意見調整や実業等において活かせる大切なメソッドを習得してもらう。

④友情、修練をテーマとしたグループワーク
３～５名程度のチームを構成し、当日学んだJC内で必要な知識を制限時間内にチームで考え、唱和、達成していく。その結果、楽しみながら、JC内で必要な知識を自然に習得出来ると共に、チームでの達成を通じ、メンバー間の友情を深めてもらう。

⑥振り返り
グループ内で気付いた事や感じた事を話し合い、より深いものにする。

（※１）ハートビーイング
良好な関係を築くためにどのように関わったら良いのかを理解するためのワーク

（※２）身につけたい７つの習慣
耳を傾ける、励ます、尊敬する、受け入れる、違いを交渉する、信頼する、支援する

●スケジュール：当日スケジュール

	内　容	時　間	担　当	備　考
1	開場	18：00		準備、設営
2	開会挨拶	18：30	小野副理事長	
3	当日内容の説明	18：35	坂本委員長	
4	セレモニー内容について	約10分	工藤担当幹事	内容詳細上記①
5	ウォーミングアップ	約40分	講師 工藤副委員長	内容詳細上記②
6	コミュニケーションについて（座学）			内容詳細上記③
7	テーマによるグループワーク			内容詳細上記④
8	振り返り及び反省			内容詳細上記⑤
9	閉会挨拶	20：20	工藤担当幹事	
10	閉会	20：30		後片付け、撤去

懇親会　東家

実施前スケジュール

２月～２月中旬	研修内容等精査、年間の研修の流れの調整など
	実施計画書上程
３月～ ３月下旬	実施に向けて精査
	実施計画書審議
３月下旬	メンバーへ案内発送
４月19日	実施
４月～	今回の研修内容の反省及び次回研修内容の精査

●事業目的の実現と成果：
今年度最初の実施であったが、JC入会２年未満のメンバーに対して、有意義な時間を提供出来たと考えられる。例会などで必ず行なわれるセレモニーについての意味や練習、３信条の『友情』、『修練』を多角的に学んで頂いたことにより、これからのJC運動や経済人としての個々の活動に少なからず役立つ研修であったと考えられる。

●次回への引継事項：
◆入会２年未満メンバー対象であるが、それ以外のメンバーも参加出来るようにしていく。
◆参加者が少なかった場合の対応を考えること。
◆開会時間、閉会時間の精査が必要である。
◆JC以外の仕事関係の事や社会的マナーなどを教えても良いと思う。

●委員長所見：当日は参加者も多く、参加したメンバー全てが何かを得ようという姿勢が見られたので、今年度１回目の研修としては成功だったと思う。１回目のテーマであった『友情』、『修練』は私が思うにJC運動はおろかこれからの人生において非常に重要な内容なので、是非この研修で学んだ内容をこれからも生かしてもらいたいと思う。

●決　　算：¥5,810

●委員会名：会員開発委員会

●事 業 名：新人研修（７月研修）

●意義・目的：JC入会間もないメンバーに対して、弘前JCの歴史、知識を深める研修事業をおこなう。
事業を行う上で必要不可欠な『奉仕・友情・修練』の精神を学び、JC入会によって地域に貢献する経済人としての成長を続け、将来のJCの事業発展・拡大を目指すものとする。

●実施日時：平成25年７月10日（水）
18時30分～20時28分

●実施場所・会場：弘前市総合学習センター　視聴覚室

●対 象 者：入会２年未満メンバー及びメンバー他

●参加人員：

研修参加人員（計13名）		
入会２年以上メンバー	０名	
不参加		
入会２年未満メンバー	９名	
大井　康敬	鈴木　大樹	相馬　春香
櫛引　英揮	川嶋　貴裕	前田　完治
石澤　美幸	三浦　博美	中里　元哉
オブザーバー	０名	
不参加		
会員開発	計４名	
小野　貴志	工藤　順敬	坂本　貢
工藤　博政		
懇親会参加（計10名）		
大井　康敬	相馬　春香	櫛引　英揮
前田　完治	石澤　美幸	中里　元哉
小野　貴志	工藤　順敬	工藤　博政
大湯　幸世		

●外部協力者：無し

●方法手段：２回目テーマ　修練
修練をテーマに今後のJC運動や個人の事業でも訪れるであろう困難な場面に直面した時を想定し、その際のセルフコントロールを学ぶ。また、チームや組織で課題を乗り越える際に起こりうる事象に対するあり方やポイントを習得し、今後の活動に活かせるようにしていく。
①セレモニー内容について
テーブル毎に反復練習及び復習を行う。また、例会・事業の意義等を伝え参加を促す。
②ウォーミングアップ
自己紹介等適宜状況にあわせてウォーミングアップを行う。
③前回の復習（座学）
１回目で行った内容の復習を行い、今回から参加するメンバーとの情報共有を図る。
④修練をテーマとしたグループワーク
３～５名程度のチームを構成し、目標達成に向けた際に起こりうる困難な状況に直面した際にどう困難を乗り越えていくかをチーム及び個人単位で学ぶ。
⑤振り返り
当日の内容の振り返り及び反省を行なう。

●スケジュール：
当日スケジュール

	内　容	時　間	担　当	備　考
1	開場	18：00		準備、設営
2	開会挨拶	18：30	小野副理事長	
3	当日内容の説明	18：35	工藤担当幹事	
4	セレモニー内容について（復習）	約10分	工藤担当幹事	内容詳細上記①
5	ウォーミングアップ	約40分	講師 工藤副委員長	内容詳細上記②
6	前回の復習（座学）			内容詳細上記③

7	テーマによるグループワーク			内容詳細上記④
8	振り返り及び反省			内容詳細上記⑤
9	閉会挨拶	20：20	小野副理事長	
10	閉会	20：30		後片付け、撤去

懇親会　かだれ横丁

実施前スケジュール

5月～5月中旬	研修内容等精査、年間の研修の流れの調整など
	実施計画書上程
6月～ 6月下旬	実施に向けて精査
	実施計画書審議
6月下旬	メンバーへ案内発送
7月10日	実施
7月～	今回の研修内容の反省及び次回研修内容の精査

●事業目的の実現と成果：

今年度２回目の実施であったが、JC入会２年未満のメンバーに対して、有意義な時間を提供出来たと考えられる。例会などで必ず行なわれるセレモニーについての意味や練習、３信条の『修練』を様々な角度から学んで頂いたことにより、これからのJC活動や経済人としての個々の活動に少なからず役立つ研修であったと考えられる。

●次回への引継事項：

◆入会２年未満メンバー対象であるが、それ以外のメンバーも参加出来るようにしていく。

◆参加者が少なかった場合の対応を考えること。

◆開会時間、閉会時間の精査が必要である。

◆JC以外の仕事関係の事や社会的マナーなどを教えても良いと思う。

◆２回目から初参加したメンバーへの対応が必要。

◆研修から懇親会という流れになるが、懇親会も新人メンバー同士の交流、現役メンバーと新人メンバーとの交流の場となるので、参加してもらえるようにする。

●委員長所見：当日は前回同様、参加者も多く、参加したメンバー全てが今回はどんなことを学べるのか、何が得られるのかという姿勢が感じられた非常に良い研修だったと思う。今回のテーマである『修練』を内容に盛り込んだワークでは、真剣且つ真面目な表情で修練に立ち向かう姿勢が見られ、成功する、失敗するに関わらず今後何かしらの困難な場面に遭遇した時の対処法や考え方を学べたことはこれからの自らの成長に大いに役立ったのではないかと思う。時間が経過するのが非常に早い研修だった。

●決　　算：6,960

●委員会名：会員開発委員会

●事 業 名：新人研修(10月研修)

●意義・目的：JC入会間もないメンバーに対して、弘前JCの歴史、知識を深める研修事業をおこなう。

事業を行う上で必要不可欠な『奉仕･友情･修練』の精神を学び、JC入会によって地域に貢献する経済人としての成長を続け、将来のJCの事業発展・拡大を目指すものとする。

●実施日時：平成25年10月７日(月)

19時00分～20時55分

●実施場所・会場：弘前市文化センター　第２会議室

●対 象 者：入会２年未満メンバー及びメンバー他

●参加人員：

研修参加人員(計13名)		
入会２年以上メンバー	０名	
不参加		
入会２年未満メンバー	９名	
櫛引　英揮	川嶋　貴裕	山形　昌弘
齋藤　拓靖	石澤　美幸	三浦　博美
中里　元哉	田中　真人	成田　志穂
オブザーバー	１名	
成田博之(ソニー生命)		
会員開発計	３名	
小野　貴志	工藤　順敬	工藤　博政
懇親会参加(計10名)		
櫛引　英揮	川嶋　貴裕	山形　昌弘
齋藤　拓靖	石澤　美幸	三浦　博美
田中　真人		
小野　貴志	工藤　順敬	工藤　博政

●外部協力者：無し

●方法手段：３回目テーマ　奉仕(まとめとして友情、修練も含む)

奉仕をメインテーマとし、前回、前々回のテーマであった友情、修練を含めた内容を総合的(まとめとして)に学び、自己の様々な部分での成長や、弘前JC人としてのを成長を促す。

①セレモニー内容について

実際の例会等を想定し、前に出てもらいJCIクリードやJC宣言の朗読練習を行なう。

東北JC宣言の件についても学習する。

②ウォーミングアップ

自己紹介等適宜状況にあわせてウォーミ

ングアップを行う。

③前回、前々回の復習(座学)

１回目、２回目で行った内容の復習を行い、今回から参加するメンバーとの情報共有を図る。

奉仕をテーマとしたグループワーク(まとめとして友情、修練も含む)

３～５名のチームを作り、目標達成に向けたグループワークを行う。チームに対しての奉仕が必要となり、且つ自己の修練ともなり、且つチームワーク(友情)がなければ達成不可能なグループワークをゲーム形式で行なう。

④振り返り(まとめ)

今回行なった内容、年間を通して行なった内容を振り返り、総括する。

●スケジュール：当日スケジュール

	内　容	時　間	担　当	備　考
1	開場	18：30		準備、設営
2	開会挨拶	19：00	工藤担当幹事	
3	当日内容の説明	19：05	工藤担当幹事	
4	セレモニー内容について(復習)	約10分	工藤担当幹事	内容詳細上記①
5	ウォーミングアップ	約40分 講師	工藤副委員長	内容詳細上記②
6	前回、前々回の復習(座学)			内容詳細上記③
7	テーマによるグループワーク			内容詳細上記④
8	振り返り及び反省			内容詳細上記⑤
9	閉会挨拶	20：50	小野副理事長	
10	閉会	21：00		後片付け、撤去

懇親会　よしじん

実施前スケジュール

７月～７月中旬	研修内容等精査、年間の研修の流れの調整など
	実施計画書上程
	実施に向けて精査
８月～	日程精査
	実施に向けて更なる精査
９月下旬	実施計画書審議
９月下旬	メンバーへ案内発送
10月７日	実施
10月～	今回の研修内容の反省及び報告書作成

●事業目的の実現と成果：

今年度最後の実施であったが、JC入会２年未満のメンバーに対して、有意義な時間を提供出来たと考えられる。例会などで必ず行なわれるセレモニーについての個人練習や、『奉仕』をメインとした３信条を総合的に学んで頂いたことにより、これからのJC運動や経済人としての個々の活動に少なからず役立つ研修であったと考えられる。

●次回への引継事項：

◆入会２年未満メンバー対象であるが、それ以外のメンバーも参加出来るようにしていく。

◆参加者が少なかった場合の対応を考えること。

◆開会時間、閉会時間の精査が必要である。

◆JC以外の仕事関係の事や社会的マナーなどを教えても良いと思う。

◆２回目から初参加したメンバーへの対応が必要。

◆研修から懇親会という流れになるが、懇親会も新人メンバー同士の交流、現役メンバーと新人メンバーとの交流の場となるので、参加してもらえるようにする。

◆全てがJC的な内容の研修であれば厳しいがそうでなければオブザーバーは参加して楽しめると思う。

◆OBや歴代理事長が新人研修で講師として参加出来る場面があってもよい。

●委員長所見：今年度の新人研修は年間を通して楽しく学べるというイメージが強かった。どれもこれも今後の自らを成長させる為に非常に役立つ内容で、社会人としてJAYCEEとして様々な場面に遭遇、直面した際にどう行動し、どう対処すれば良いかなどのヒントやきっかけを楽しみながら習得出来る内容であった。次年度も今年度の新人研修を糧にして素晴らしい研修を行なってもらいたい。

●決　　算：¥10,660

●委員会名：会員開発委員会

●事 業 名：100人LOMへの道

●意義・目的：弘前青年会議所は現在会員の減少の一途にある。事業を行う上で最も必要な人材の確保が急務である。地域に必要とされる力強い団体を目指して、同志を募り、100人LOMとしての礎を築く。

2013年は51名でのスタートとなり、弘前青年会議所として会員拡大の急用性は周知の事実である。近年においては会員拡大の必要性が叫ばれながら、卒業生も多数出る等、大きな会員増加が結果として出ていないのが現状である。

組織の活性化とは、事業もさることながら、新しい人材が入ってくる事が、組織を活性させていく重要な要素であると思われ

る中で、従来の会員開発担当委員会だけの活動ではなく、会議所全体の問題として意識改革や仕組みづくりが急務であり、情報及び問題意識の統一を図り、より効率的、永続的な会員拡大活動の実施を目的とする。

●実施日時：適時
●実施場所・会場：適宜
●対 象 者：適宜
●参加人員：メンバー、その他
●外部協力者：花巻JCOB　伊藤泰尚先輩
●方法手段：①全メンバー及び理事者でのミーティングの実施
ミーティング
・会員拡大ミーティングを定期的に行なう（月１回程度）
・会員リストの共有、現状の問題点やアプローチ方法などの検討をメンバー全員で行なう
・委員会の垣根を越えて各々の会員拡大の意識を向上させる
・新加入会員の報告を随時例会等で行なう
※ミーティングは各委員会より最低１名の参加を義務付ける
※ミーティングの進行、段取りは会員開発委員会で行なう
ミーティング前後
・メーリングリストやメールなどで情報の共有化を全メンバーで行なう
・情報を各委員会に待ち帰ってもらい、委員会内でも協議してもらう
・総会や例会でも情報の共有を行なう
②特別会員及びOBへのPR（ソフトボール大会、ビアパーティ等にて）
③例会等でのPR
④広報誌あおいりんごへの会員拡大情報を掲載
⑤PRチラシを活用する（年頭広報、会員広報等）
●スケジュール：

１月	新年祝賀会にて会員拡大の呼びかけ ホテルニューキャッスル
２月４日	会員拡大全体ミーティング（１回目） 土手町コミュニティパーク
２月13日	会員拡大全体ミーティング（２回目）※伊藤先輩参加 土手町コミュニティパーク
３月８日	伊藤先輩による例会での会員拡大の呼びかけ ホテルニューキャッスル
３月15日	会員拡大全体ミーティング（３回目） 学習センター
４月14日	第１回OB対抗ソフトボール大会にて会員拡大の呼びかけ
４月15日	会員拡大全体ミーティング（４回目） 事務局
５月17日	会員拡大全体ミーティング（５回目） 東家
６月10日	会員拡大全体ミーティング（６回目）※伊藤先輩参加 事務局
７月19日	会員拡大全体ミーティング（７回目） 事務局
７月24日	第２回OB対抗ソフトボール大会にて会員拡大の呼びかけ
７月31日	日本JC拡大褒賞締切
８月９日	ビアパーティにて会員拡大の呼びかけ
10月４日	日本JC拡大褒賞表彰（奈良）
12月	次年度への引継ぎ
随時	例会での会員拡大呼びかけ

●事業目的の実現と成果：
会員拡大目標を30人と掲げて動いたが、結果は23人の入会であり、目標の30人には届かなかったものの、100人のLOMを目指すという目的の礎を今年度は築けた。
また、会員減少の危機感を全体ミーティングなどを通してメンバーに促したことにより、例年にないような率先した会員拡大運動をLOM全体で展開することが出来た。これも各個人の拡大への意識が少なからず変わった証拠と考えられる。
●次回への引継事項：
◆次年度も１人が１人入会の動きをとった方が効率的だと思う。
◆卒業生にも１人１名の入会を促した方がよい。
◆今年度入会にあたりメールでの審議が何度かあった。入会に関しての審議のルールやオブザーブのルールなどをしっかり定めた方が良い。
◆毎月定期的にとは言わないが、次年度も今年度同様拡大ミーティングを行なった方が良い。
◆次年度は日本JC褒賞のゴールデンゴング獲得を狙ってほしい。
◆引継ぎは資料の受け渡しのみでなく、今年度、次年度で情報共有の場（委員会）などを設けたほうが良い。
●委員長所見：毎年非常に苦戦を強いられる会員拡大ということでどうなることかと心配してましたが、沢山の協力もあり何とか23人入会とい

う結果を残すことが出来ました。担当委員会のみでの動きだとここまでの入会数にはならなかったと思うので、やはりメンバー全員で効率的な動き、情報の共有を行ないながら取り組む大切さを感じました。

●決　　算：¥15,935

●委員会名：総務渉外委員会

●事 業 名：アテンダンスポイント事業

●意義・目的：参加率を数値化する事により、個々のJC運動への参加状況が把握できる。また、高ポイント者を表彰する事で出席率が向上し、JC運動を活発にするための要素となる。

●実施日時：2013年１月１日－12月31日

●実施場所・会場：無し

●対 象 者：公益社団法人弘前青年会議所　正会員

●参加人員：対象者に同じ

●外部協力者：なし

●方法手段：

・アテンダンスポイント報告書フォーマットを作成し、各委員会へ配布

・各月毎に委員会にて各人のアテンダンスポイントを集計し、報告書を事務局へ提出

・原則として年３回、各委員会・入会同期・同年代の集計を表にして、途中経過を報告し、理事者以外の年間高ポイント獲得者を称賛する

・低ポイント者を各委員会に通知し、各委員会及び同世代・同期メンバーにて出席を促す

・低ポイント者への出席を促すご案内をするのに最適なメンバーを理事会にてご提案していただき、そのメンバーと共に低ポイント者へのアプローチを図る。

・渉外事業の案内文に獲得ポイントを掲載する。

・例会や事業等の雰囲気を伝えるために、総務渉外ニュースを不定期にメール配信する。

2013年度 表彰者

	１位	２位	３位
全体	葛西豊喜	吉川裕之	須藤立也
LOM	吉川裕之	須藤立也	葛西豊喜
新人	齋藤拓靖		
賞品(USB)	￥2000相当	￥1000相当	￥750相当

●スケジュール：

2012年12月：アテンダンスポイント報告書を各員会に配布

2012年12月：アテンダンスポイント告知文を全メンバーに発送

2013年４月：第１次途中経過報告(全メンバーにメール配信)

2013年６月：低ポイント者の通知

2013年７月：第２次途中経過報告(全メンバーにメール配信)

2013年９月：低ポイント者の通知

2013年10月：第３次途中経過報告(全メンバーにメール配信)

2014年２月：2014年度通常総会にて高ポイント者の称賛

毎月：各委員会からの報告書の集計

●事業目的の実現と成果：

アテンダンスの告知文を作成した事により、メンバーズリスト以外での周知を行う事ができた。

渉外の告知文にアテンダンスポイントを記載したことにより、アテンダンスポイントを意識し、出席するメンバーもいたので、出席率の向上につながったと思う。上記のスケジュール通りに集計・報告ができなかった。報告や新人への告知ができていれば成果がもっと上がっていたと思う。

●次回への引継事項：

委員長は忙しく報告が滞りがちなので、各員会ごとの集計者(副委員長など)を報告者に決めてもらい、その集計者とやり取りした方が良い。報告が溜まらないうちに毎月電話などで集計報告を各委員会に促した方が良い。

アテンダンスポイントのPRを告知文などで知らせているつもりでも、入ったばかりの新人や、出席率が低い人ほど知らないという状況があった。年初だけでなく、絶えず告知をする事も必要である。

●委員長所見：他の事業を優先してしまい、後回しにしている内に溜まってしまいました。溜まってしまうと報告も億劫になると思うので、促すことも大切だと、今になって痛感しました。ご迷惑をおかけした委員長をはじめとする理事者の方にお詫びと御礼申し上げます。

●決　　算：¥9,975

総会報告

●委員会名：総務渉外委員会

●事 業 名：公益社団法人　弘前青年会議所
第87回通常総会

●意義・目的：定款及び諸規定に準じ、本会目的達成に向けた多くの議案を適正かつ慎重審議が行わ

れるための運営を心掛け、様々な意見・考え方を出し合い議論を重ね、よりよい地域の未来を創生するための土台を創り出す場とする。また、各種会議においてスムーズな運営を行い、通常総会・臨時総会では会員の総意に基づいた事業の実施へ導く。

●実施日時：2012年２月12日(火)　19：00～21：00

●実施場所・会場：
土手町コミュニティパーク　コミュニケーションプラザ　多目的室Aエリア

●対 象 者：JCメンバー及びオブザーバー

●参加人員：出席者37名
(正会員55名中34名出席　OB３名出席)
有効委任状15通
(欠席者21名中有効委任状15通)

●外部協力者：なし

●方法手段：委員会内にて役割分担、その他確認
審議事項
第１号議案
2012年度公益社団法人弘前青年会議所事業報告書(案)承認に関する件
満場一致可決承認
第２号議案
2012年度公益社団法人弘前青年会議所決算書(案)承認に関する件
満場一致可決承認
第３号議案
2013年度公益社団法人弘前青年会議所正味財産増減１次修正予算書(案)承認に関する件
満場一致可決承認
第４号議案
公益社団法人弘前青年会議所　定款変更(案)承認に関する件
満場一致可決承認
第５号議案　その他(削除)

●スケジュール：
〈通常総会当日〉
18：00　会場入り
18：30　会場リハーサル等(会場設営、司会、音響、受付等)
19：00　第87回通常総会開会(司会、議事録作成等)
21：00　第87回通常総会閉会

●事業目的の実現と成果：
慎重審議に努め、通常総会を滞りなく運営する事ができた。

●次回への引継事項：
年度が変わって最初の総会という事もあり、できるものから準備を始めればよかったと思う。また、当日の備品リストを作っておくとよい。受付には蛍光ペンを用意し、総会出席者と委任状のカウントを素早くできるよう、人数配分や方法に工夫が必要だった。

●委員長所見：総会を運営してみて、総会について改めて勉強する機会となった。定款・諸規定とかかわりが深い内容なので、今後も知識を養い、スムーズな運営を心がけていきたい。

●決　　算：¥11,000

●委員会名：総務渉外委員会

●事 業 名：公益社団法人　弘前青年会議所
第１回臨時総会

●意義・目的：定款及び諸規定に準じ、本会目的達成に向けた多くの議案を適正かつ慎重審議が行われるための運営を心掛け、様々な意見・考え方を出し合い議論を重ね、よりよい地域の未来を創生するための土台を創り出す場とする。また、各種会議においてスムーズな運営を行い、通常総会・臨時総会では会員の総意に基づいた事業の実施へ導く。

●実施日時：2013年５月９日(木)　18：30　～

●実施場所・会場：ホテルニューキャッスル　松の間

●対 象 者：JCメンバー及びオブザーバー

●参加人員：出席者30名(正会員64名中30名出席)
有効委任状24通
(欠席者34名中有効委任状24通)

●外部協力者：なし

●方法手段：委員会内にて役割分担、その他確認
審議事項
第１号議案
特別委員会設置(案)承認に関する件
満場一致可決承認
第２号議案　その他(削除)

●スケジュール：
〈通常総会当日〉
17：30　会場入り
18：00　会場リハーサル等（会場設営、司会、音響、受付等）
18：30　第１回臨時総会開会（司会、議事録作成等）
19：00　第１回臨時総会閉会

●事業目的の実現と成果：
慎重審議に努め、会員の総意に基づく臨時総会を運営する事ができた。

●次回への引継事項：
通常総会以上に時間が限られているので、よりテンポよく進める事を意識する。時間の限られた臨時総会でも流れを割愛することなく、時間内に慎重審議を行えるよう、例会担当委員会と綿密な打ち合わせが必要。

●委員長所見：
年度が変わって初めての臨時総会で、ところどころスムーズに運営できない場面があった。このような限られた時間の臨時総会では段取りを専務と直前に再確認するなど、綿密な打ち合わせを行いたいと思う。
●決　　算：¥0

●委員会名：総務渉外委員会
●事 業 名：公益社団法人　弘前青年会議所
第88回通常総会
●意義・目的：定款及び諸規定に準じ、本会目的達成に向けた多くの議案を適正かつ慎重審議が行われるための運営を心掛け、様々な意見・考え方を出し合い議論を重ね、よりよい地域の未来を創生するための土台を創り出す場とする。また、各種会議においてスムーズな運営を行い、通常総会・臨時総会では会員の総意に基づいた事業の実施へ導く。
●実施日時：2013年８月９日(金)　18：30～19：35
●実施場所・会場：
土手町コミュニティパーク　A館コミュニケーションプラザ　多目的ホールBエリア
●対 象 者：JCメンバー及びOB、オブザーバー
●参加人員：出席者39名
(正会員72名中32名出席　OB６名出席　オブザーバー１名)
有効委任状28通
(欠席者40名中有効委任状28通)
●外部協力者：なし
●方法手段：委員会内にて役割分担、その他確認
審議事項
第１号議案
公益社団法人弘前青年会議所　2014年度理事長候補者選任(案)承認に関する件
拍手多数にて可決承認
第２号議案　その他(削除)
●スケジュール：
〈通常総会当日〉
17：00　会場入り、会場設営開始
17:45　会場リハーサル等（進行打合せ、司会・音響リハーサル、受付準備等）
18：30　第87回通常総会開会（司会、議事録作成等）
19：35　第87回通常総会閉会
19：50　OB現役交流ビアパーティ開始
21：05　OB現役交流ビアパーティ終了
●事業目的の実現と成果：
慎重審議に努め、通常総会を滞りなく運営する事ができた。
●次回への引継事項：
OBへの交流会案内の兼ね合いもあるので、交流会の場所は早めに抑えたほうが良い。（６月上旬など）
OBをお待たせしないよう、スケジュールに則った運営が求められる。
●委員長所見:諸事情により、今回も欠席となってしまい、委員長として申し訳なく思います。また、ご協力いただいたメンバーに心より感謝申し上げます。
●決　　算：¥22,600

●委員会名：総務渉外委員会
●事 業 名：公益社団法人　弘前青年会議所　第２回臨時総会
●意義・目的：定款及び諸規定に準じ、本会目的達成に向けた多くの議案を適正かつ慎重審議が行われるための運営を心掛け、様々な意見・考え方を出し合い議論を重ね、よりよい地域の未来を創生するための土台を創り出す場とする。また、各種会議においてスムーズな運営を行い、通常総会・臨時総会では会員の総意に基づいた事業の実施へ導く。
●実施日時：2013年９月６日(木)　18：00　～ 18:50
●実施場所・会場：ホテルニューキャッスル
●対 象 者：JCメンバー及びオブザーバー
●参加人員：出席者31名(正会員73名中31名出席)
有効委任状26通
(欠席者42名中有効委任状26通)
●外部協力者：なし
●方法手段：委員会内にて役割分担、その他確認
審議事項
第１号議案
公益社団法人弘前青年会議所 定款変更(案)承認に関する件
満場一致可決承認
第２号議案
公益社団法人弘前青年会議所 2014年度役員候補者選任(案)承認に関する件
満場一致可決承認
第３号議案　その他(削除)
●スケジュール：
〈通常総会当日〉
16：30　会場入り
17：00　会場リハーサル等（会場設営、司会、音響、受付等）
18：00　第２回臨時総会開会（司会、議事録作成等）
18：50　第２回臨時総会閉会
●事業目的の実現と成果：
慎重審議に努め、未来を創生する土台とな

る場として運営する事ができた。

●次回への引継事項：
時間を早めて開催する場合は、出席の場合でも委任状をいただく事を再徹底したほうが良い。臨時総会という性質上、周知がぎりぎりとなるので、いつも以上に出席率向上と委任状の取得を地道に行う事が求められる。

●委員長所見：諸事情により出席ができなかったことを、委員長としてお詫び申し上げます。また、ご協力くださった方に感謝申し上げます。

●決　　算：¥0

●委員会名：総務渉外委員会

●事 業 名：公益社団法人　弘前青年会議所
第89回通常総会

●意義・目的：定款及び諸規定に準じ、本会目的達成に向けた多くの議案を適正かつ慎重審議が行われるための運営を心掛け、様々な意見・考え方を出し合い議論を重ね、よりよい地域の未来を創生するための土台を創り出す場とする。また、各種会議においてスムーズな運営を行い、通常総会・臨時総会では会員の総意に基づいた事業の実施へ導く。

●実施日時：2013年12月６日(金)　19：00～20：00

●実施場所・会場：ホテルニューキャッスル

●対 象 者：JCメンバー

●参加人員：出席者26名(正会員74名中48名出席　オブザーバーなし)
有効委任状29通
(欠席者48名中有効委任状29通)

●外部協力者：なし

●方法手段：委員会内にて役割分担、その他確認
審議事項
第１号議案
公益社団法人弘前青年会議所　定款変更(案)承認に関する件
第２号議案
2014年度公益社団法人弘前青年会議所事業計画書(案)承認に関する件
第３号議案
2014年度公益社団法人弘前青年会議所正味財産増減計算書(案)承認に関する件
第４号議案　その他(削除)

●スケジュール：
〈通常総会当日〉
18：00　会場入り、会場設営開始
18：30　会場リハーサル等(進行打合せ、司会･音響リハーサル、受付準備等)
19：00　第87回通常総会開会
(司会、議事録作成等)
20：00　第87回通常総会閉会
20：30　懇親会開始

●事業目的の実現と成果：
慎重審議に努め、通常総会を滞りなく運営する事ができた。会員の総意に基づくためには、出席率を上げる事はもちろんだが、委任状の収集は必須である。

●次回への引継事項：
年度最後の通常総会となるので、出席者を多く集められるように早め早めの働きかけをするとよい。次年度との調整を綿密に行う事が早めの議題確定など、スムーズな準備につながる。
卒業式と通常総会と共に参加していただく必要があるので、日程調整を担当委員会と行い、両日ともに参加しやすい日程を設定するとよい。日程調整に当たり、事前配信(７日前)、発送日、締切日、それぞれを考慮して設定する必要がある。

●委員長所見：総会を運営する事を通して、定款をくまなく読み、弘前青年会議所がどのように運営されているかを学ぶことができました。総会の運営も滞りなく行えるまで１年かかってしまい、やっと慣れてきた頃に次年度へのバトンを渡す時期となりました。この経験を次年度に繋ぎ、一メンバーとして協力していきたいと思います。皆さんの協力を以て、無事に終える事が出来ました。ありがとうございました。

●決　　算：¥11,550

2013年度

公益社団法人弘前青年会議所

決　算　書　類

公益社団法人　弘前青年会議所　法人全体

正味財産増減計算書

平成25年01月01日から平成25年12月31日まで

（単位　円）

科　目	当年度		前年度		増減	
一般正味財産増減の部						
経常増減の部						
【経常収益】						
①受取入会金	**460,000**	**1.7**	**120,000**	**0.5**	**340,000**	**283.3**
受取入会金	460,000	1.7	120,000	0.5	340,000	283.3
②受取会費	**9,248,750**	**33.2**	**8,481,250**	**35.3**	**767,500**	**9.0**
正会員会費	6,750,000	24.2	7,290,000	30.3	△540,000	△7.4
特別会員会費	485,000	1.7	550,000	2.3	△65,000	△11.8
新入会員会費	2,013,750	7.2	641,250	2.7	1,372,500	214.0
③事業収益	**3,208,500**	**11.5**	**4,325,618**	**18.0**	**△1,117,118**	**△25.8**
登録料収益	656,000	2.4	280,000	1.2	376,000	134.3
懇親会費収益			642,000	2.7	△642,000	***
広告料収益			2,334,000	9.7	△2,334,000	***
販売収益	2,552,500	9.2	1,003,600	4.2	1,548,900	154.3
事務局受託収益			50,000	0.2	△50,000	***
雑収益			16,018	0.1	△16,018	***
④受取補助金等	**13,290,000**	**47.7**	**10,963,000**	**45.6**	**2,327,000**	**21.2**
受取地方公共団体補助金			259,000	1.1	△259,000	***
受取民間補助金	100,000	0.4			100,000	***
受取地方公共団体助成金	13,180,000	47.3			13,180,000	***
受取民間助成金	10,000	0.0	1,550,000	6.4	△1,540,000	△99.4
受取地方公共団体受託金			9,154,000	38.1	△9,154,000	***
⑤受取負担金	**30,000**	**0.1**	**96,000**	**0.4**	**△66,000**	**△68.8**
受取負担金	30,000	0.1	96,000	0.4	△66,000	△68.8
⑥受取寄付金	**1,310,727**	**4.7**			**1,310,727**	***
受取寄付金	1,310,727	4.7			1,310,727	***
⑦雑収益	**329,996**	**1.2**	**53,499**	**0.2**	**276,497**	**516.8**
受取利息	996	0.0	1,616	0.0	△620	△38.4
雑収益	329,000	1.2	51,883	0.2	277,117	534.1
経常収益	**27,877,973**	**100.0**	**24,039,367**	**100.0**	**3,838,606**	**16.0**
【経常費用】						
①事業費	**25,235,254**	**90.5**	**21,162,608**	**88.0**	**4,072,646**	**19.2**
給料手当	848,149	3.0	1,584,022	6.6	△735,873	△46.5
退職給付費用			43,200	0.2	△43,200	***
福利厚生費	8,594	0.0	196,334	0.8	△187,740	△95.6
会議費	192,826	0.7	127,408	0.5	65,418	51.3
旅費交通費	970,410	3.5	7,636,335	31.8	△6,665,925	△87.3
通信運搬費	418,715	1.5	390,885	1.6	27,830	7.1
消耗什器備品費	364,925	1.3			364,925	***
消耗品費	389,021	1.4	346,508	1.4	42,513	12.3

公益社団法人　弘前青年会議所　法人全体

正味財産増減計算書

平成25年01月01日から平成25年12月31日まで

（単位　円）

科　目	当年度		前年度		増減	
会員支給品費	176,500	0.6			176,500	***
修繕費	15,120	0.1	49,200	0.2	△34,080	△69.3
印刷製本費	2,921,173	10.5	1,350,824	5.6	1,570,349	116.3
広報費	2,012,325	7.2	1,242,780	5.2	769,545	61.9
燃料費	132,731	0.5	72,264	0.3	60,467	83.7
水道光料費	271,743	1.0	119,499	0.5	152,244	127.4
賃借料	2,723,349	9.8	2,025,842	8.4	697,507	34.4
保険料	35,240	0.1	58,550	0.2	△23,310	△39.8
諸謝金	2,053,352	7.4	3,404,387	14.2	△1,351,035	△39.7
租税公課	11,700	0.0	11,400	0.0	300	2.6
渉外費	333,970	1.2	47,540	0.2	286,430	602.5
委託費	8,287,543	29.7	537,100	2.2	7,750,443	1443.0
記念品費	1,747,854	6.3	209,100	0.9	1,538,754	735.9
衛生費	37,905	0.1			37,905	***
雑費	1,282,109	4.6	1,709,430	7.1	△427,321	△25.0
②管理費	**4,232,041**	**15.2**	**3,894,192**	**16.2**	**337,849**	**8.7**
給料手当	212,037	0.8	324,204	1.3	△112,167	△34.6
退職給付費用			10,800	0.0	△10,800	***
福利厚生費	2,148	0.0	49,084	0.2	△46,936	△95.6
会議費	26,226	0.1	21,602	0.1	4,624	21.4
旅費交通費			21,820	0.1	△21,820	***
通信運搬費	79,848	0.3	63,635	0.3	16,213	25.5
消耗什器備品費	219,500	0.8			219,500	***
消耗品費	11,879	0.0	34,665	0.1	△22,786	△65.7
会員支給品費	538,640	1.9	58,525	0.2	480,115	820.4
修繕費	3,780	0.0	12,300	0.1	△8,520	△69.3
印刷製本費	153,041	0.5	102,567	0.4	50,474	49.2
広報費	249,900	0.9	52,500	0.2	197,400	376.0
燃料費	23,961	0.1	18,067	0.1	5,894	32.6
光熱水料費	33,833	0.1	29,884	0.1	3,949	13.2
賃借料	118,715	0.4	131,400	0.5	△12,685	△9.7
保険料	8,160	0.0	7,530	0.0	630	8.4
租税公課	3,950	0.0	1,900	0.0	2,050	107.9
渉外費	773,554	2.8	1,745,290	7.3	△971,736	△55.7
委託費	231,000	0.8			231,000	***
記念品費	102,380	0.4			102,380	***
雑費	37,148	0.1	29,899	0.1	7,249	24.2
支払負担金	1,402,341	5.0	1,178,520	4.9	223,821	19.0
経常費用合計	**29,467,295**	**105.7**	**25,056,800**	**104.2**	**4,410,495**	**17.6**
経常増減の部	**△1,589,322**	**△5.7**	**△1,017,433**	**△4.2**	**△571,889**	**△56.2**

公益社団法人　弘前青年会議所　法人全体

正味財産増減計算書

平成25年01月01日から平成25年12月31日まで

（単位　　円）

科　　目	当年度		前年度		増　　減	
一般正味財産増減額	**△1,589,322**	**△5.7**	**△1,017,433**	**△4.2**	**△571,889**	**△56.2**
一般正味財産期首残高	2,698,475	9.7	3,715,908	15.5	△1,017,433	△27.4
一般正味財産期末残高	**1,109,153**	**4.0**	**2,698,475**	**11.2**	**△1,589,322**	**△58.9**
正味財産期末残高	**1,109,153**	**4.0**	**2,698,475**	**11.2**	**△1,589,322**	**△58.9**

公益社団法人　弘前青年会議所

正味財産増減計算書内訳表

平成25年01月01日から平成25年12月31日まで

（単位　　円）

科　　目	法人全体			内部取引消去	合計	
	公益事業会計	収益事業会計	法人会計			
一般正味財産増減の部						
経常増減の部						
【経常収益】						
①受取入会金			**460,000**	**0**	**460,000**	
受取入会金			460,000	0	460,000	
②受取会費			**9,248,750**	**0**	**9,248,750**	
正会員会費			6,750,000	0	6,750,000	
特別会員会費			485,000	0	485,000	
新入会員会費			2,013,750	0	2,013,750	
③事業収益	**3,208,500**			**0**	**3,208,500**	
登録料収益	656,000			0	656,000	
販売収益	2,552,500			0	2,552,500	
④受取補助金等	**13,290,000**			**0**	**13,290,000**	
受取民間補助金	100,000			0	100,000	
受取地方公共団体助成金	13,180,000			0	13,180,000	
受取民間助成金	10,000			0	10,000	
⑤受取負担金	**30,000**			**0**	**30,000**	
受取負担金	30,000			0	30,000	
⑥受取寄付金	**1,301,000**		**9,727**	**0**	**1,310,727**	
受取寄付金	1,301,000		9,727	0	1,310,727	
⑦雑収益			**329,996**	**0**	**329,996**	
受取利息			996	0	996	
雑収益			329,000	0	329,000	
経常収益	**17,829,500**		**10,048,473**	**0**	**27,877,973**	
【経常費用】						
①事業費	**23,353,880**	**1,881,374**		**0**	**25,235,254**	
給料手当	530,093	318,056		0	848,149	
福利厚生費	5,371	3,223		0	8,594	
会議費	153,486	39,340		0	192,826	
旅費交通費	906,590	63,820		0	970,410	
通信運搬費	297,332	121,383		0	418,715	
消耗什器備品費	364,925			0	364,925	
消耗品費	370,866	18,155		0	389,021	
会員支給品費	176,500			0	176,500	
修繕費	9,450	5,670		0	15,120	
印刷製本費	2,522,466	398,707		0	2,921,173	
広報費	2,012,325			0	2,012,325	
燃料費	96,789	35,942		0	132,731	
水道光料費	220,993	50,750		0	271,743	
賃借料	2,146,619	576,730		0	2,723,349	

公益社団法人　弘前青年会議所

正味財産増減計算書内訳表

平成25年01月01日から平成25年12月31日まで

（単位　　円）

科　　目	法人全体			内部取引消去	合計	
	公益事業会計	収益事業会計	法人会計			
保険料	35,240			0	35,240	
諸謝金	2,031,777	21,575		0	2,053,352	
租税公課	11,700			0	11,700	
渉外費	330,970	3,000		0	333,970	
委託費	8,183,293	104,250		0	8,287,543	
記念品費	1,684,589	63,265		0	1,747,854	
衛生費	37,905			0	37,905	
雑費	1,224,601	57,508		0	1,282,109	
②管理費			**4,232,041**	**0**	**4,232,041**	
給料手当			212,037	0	212,037	
福利厚生費			2,148	0	2,148	
会議費			26,226	0	26,226	
通信運搬費			79,848	0	79,848	
消耗什器備品費			219,500	0	219,500	
消耗品費			11,879	0	11,879	
会員支給品費			538,640	0	538,640	
修繕費			3,780	0	3,780	
印刷製本費			153,041	0	153,041	
広報費			249,900	0	249,900	
燃料費			23,961	0	23,961	
光熱水料費			33,833	0	33,833	
賃借料			118,715	0	118,715	
保険料			8,160	0	8,160	
租税公課			3,950	0	3,950	
渉外費			773,554	0	773,554	
委託費			231,000	0	231,000	
記念品費			102,380	0	102,380	
雑費			37,148	0	37,148	
支払負担金			1,402,341	0	1,402,341	
経常費用合計	**23,353,880**	**1,881,374**	**4,232,041**	**0**	**29,467,295**	
経常増減の部	**△5,524,380**	**△1,881,374**	**5,816,432**	**0**	**△1,589,322**	
一般正味財産増減額	**△5,524,380**	**△1,881,374**	**5,816,432**	**0**	**△1,589,322**	
一般正味財産期首残高	18,244	10,947	2,669,284	0	2,698,475	
一般正味財産期末残高	**△5,506,136**	**△1,870,427**	**8,485,716**	**0**	**1,109,153**	
正味財産期末残高	**△5,506,136**	**△1,870,427**	**8,485,716**	**0**	**1,109,153**	

公益社団法人　弘前青年会議所

正味財産増減計算書内訳表

平成25年01月01日から平成25年12月31日まで

（単位　円）

科目	公益事業会計					収益事業会計
	地域発展推進	青少年育成	被災地復興支援	公益事業共通	小計	資質親睦向上
一般正味財産増減の部						
経常増減の部						
【経常収益】						
①受取入会金					**0**	
受取入会金					0	
②受取会費					**0**	
正会員会費					0	
特別会員会費					0	
新入会員会費					0	
③事業収益	**2,623,500**	**585,000**			**3,208,500**	
登録料収益	71,000	585,000			656,000	
販売収益	2,552,500				2,552,500	
④受取補助金等	**13,100,000**	**190,000**			**13,290,000**	
受取民間補助金	100,000				100,000	
受取地方公共団体助成金	13,000,000	180,000			13,180,000	
受取民間助成金		10,000			10,000	
⑤受取負担金		**30,000**			**30,000**	
受取負担金		30,000			30,000	
⑥受取寄付金		**1,301,000**			**1,301,000**	
受取寄付金		1,301,000			1,301,000	
⑦雑収益					**0**	
受取利息					0	
雑収益					0	
経常収益	**15,723,500**	**2,106,000**			**17,829,500**	
【経常費用】						
①事業費	**17,814,679**	**3,523,459**	**259,198**	**1,756,544**	**23,353,880**	**778,104**
給料手当				530,093	530,093	
福利厚生費				5,371	5,371	
会議費	74,920	13,000		65,566	153,486	
旅費交通費	834,100	29,190	43,300		906,590	57,820
通信運搬費	94,170	2,050	1,491	199,621	297,332	1,610
消耗什器備品費	364,925				364,925	
消耗品費	134,155	78,837	128,175	29,699	370,866	336
会員支給品費	176,500				176,500	
修繕費				9,450	9,450	
印刷製本費	1,402,765	690,900	46,200	382,601	2,522,466	169,146
広報費	1,879,500	132,825			2,012,325	
燃料費	30,486	6,400		59,903	96,789	
水道光料費	2,600	128,687	5,124	84,582	220,993	
賃借料	830,554	1,019,278		296,787	2,146,619	375,267

公益社団法人　弘前青年会議所

正味財産増減計算書内訳表

平成25年01月01日から平成25年12月31日まで

（単位　　円）

科　　目	公益事業会計					収益事業会計
	地域発展推進	青少年育成	被災地復興支援	公益事業共通	小計	資質親睦向上
保険料		35,240			35,240	
諸謝金	2,025,657	6,120			2,031,777	20,000
租税公課	2,000	2,200	7,500		11,700	
渉外費	224,500	106,470			330,970	3,000
委託費	7,698,293	485,000			8,183,293	104,250
記念品費	1,233,599	450,990			1,684,589	44,890
衛生費		37,905			37,905	
雑費	855,955	248,367	27,408	92,871	1,224,601	1,785
事業仮払金	△50,000	50,000			0	
②管理費					**0**	
給料手当					0	
福利厚生費					0	
会議費					0	
通信運搬費					0	
消耗什器備品費					0	
消耗品費					0	
会員支給品費					0	
修繕費					0	
印刷製本費					0	
広報費					0	
燃料費					0	
光熱水料費					0	
賃借料					0	
保険料					0	
租税公課					0	
渉外費					0	
委託費					0	
記念品費					0	
雑費					0	
支払負担金					0	
経常費用合計	**17,814,679**	**3,523,459**	**259,198**	**1,756,544**	**23,353,880**	**778,104**
経常増減の部	**△2,091,179**	**△1,417,459**	**△259,198**	**△1,756,544**	**△5,524,380**	**△778,104**
一般正味財産増減額	**△2,091,179**	**△1,417,459**	**△259,198**	**△1,756,544**	**△5,524,380**	**△778,104**
一般正味財産期首残高				18,244	18,244	
一般正味財産期末残高	**△2,091,179**	**△1,417,459**	**△259,198**	**△1,738,300**	**△5,506,136**	**△778,104**
正味財産期末残高	**△2,091,179**	**△1,417,459**	**△259,198**	**△1,738,300**	**△5,506,136**	**△778,104**

公益社団法人　弘前青年会議所

正味財産増減計算書内訳表

平成25年01月01日から平成25年12月31日まで

（単位　円）

科目	収益事業会計			法人全体	内部取引消去	収益事業会計合計
	会拡研修	収益事業共通	小計	法人会計		
一般正味財産増減の部						
経常増減の部						
【経常収益】						
①受取入会金			**0**	**460,000**	**0**	**460,000**
受取入会金			0	460,000	0	460,000
②受取会費			**0**	**9,248,750**	**0**	**9,248,750**
正会員会費			0	6,750,000	0	6,750,000
特別会員会費			0	485,000	0	485,000
新入会員会費			0	2,013,750	0	2,013,750
③事業収益			**0**		**0**	**3,208,500**
登録料収益			0		0	656,000
販売収益			0		0	2,552,500
④受取補助金等			**0**		**0**	**13,290,000**
受取民間補助金			0		0	100,000
受取地方公共団体助成金			0		0	13,180,000
受取民間助成金			0		0	10,000
⑤受取負担金			**0**		**0**	**30,000**
受取負担金			0		0	30,000
⑥受取寄付金			**0**	**9,727**	**0**	**1,310,727**
受取寄付金			0	9,727	0	1,310,727
⑦雑収益			**0**	**329,996**	**0**	**329,996**
受取利息			0	996	0	996
雑収益			0	329,000	0	329,000
経常収益			**0**	**10,048,473**	**0**	**27,877,973**
【経常費用】						
①事業費	**49,340**	**1,053,930**	**1,881,374**		**0**	**25,235,254**
給料手当		318,056	318,056		0	848,149
福利厚生費		3,223	3,223		0	8,594
会議費		39,340	39,340		0	192,826
旅費交通費	6,000		63,820		0	970,410
通信運搬費		119,773	121,383		0	418,715
消耗什器備品費			0		0	364,925
消耗品費		17,819	18,155		0	389,021
会員支給品費			0		0	176,500
修繕費		5,670	5,670		0	15,120
印刷製本費		229,561	398,707		0	2,921,173
広報費			0		0	2,012,325
燃料費		35,942	35,942		0	132,731
水道光料費		50,750	50,750		0	271,743
賃借料	23,390	178,073	576,730		0	2,723,349

公益社団法人　弘前青年会議所

正味財産増減計算書内訳表

平成25年01月01日から平成25年12月31日まで

（単位　　円）

科　　目	収益事業会計			法人全体	内部取引消去	収益事業会計合計
	会拡研修	収益事業共通	小計	法人会計		
保険料			0		0	35,240
諸謝金	1,575		21,575		0	2,053,352
租税公課			0		0	11,700
渉外費			3,000		0	333,970
委託費			104,250		0	8,287,543
記念品費	18,375		63,265		0	1,747,854
衛生費			0		0	37,905
雑費		55,723	57,508		0	1,282,109
事業仮払金			0		0	0
②管理費			**0**	**4,232,041**	**0**	**4,232,041**
給料手当			0	212,037	0	212,037
福利厚生費			0	2,148	0	2,148
会議費			0	26,226	0	26,226
通信運搬費			0	79,848	0	79,848
消耗什器備品費			0	219,500	0	219,500
消耗品費			0	11,879	0	11,879
会員支給品費			0	538,640	0	538,640
修繕費			0	3,780	0	3,780
印刷製本費			0	153,041	0	153,041
広報費			0	249,900	0	249,900
燃料費			0	23,961	0	23,961
光熱水料費			0	33,833	0	33,833
賃借料			0	118,715	0	118,715
保険料			0	8,160	0	8,160
租税公課			0	3,950	0	3,950
渉外費			0	773,554	0	773,554
委託費			0	231,000	0	231,000
記念品費			0	102,380	0	102,380
雑費			0	37,148	0	37,148
支払負担金			0	1,402,341	0	1,402,341
経常費用合計	**49,340**	**1,053,930**	**1,881,374**	**4,232,041**	**0**	**29,467,295**
経常増減の部	**△49,340**	**△1,053,930**	**△1,881,374**	**5,816,432**	**0**	**△1,589,322**
一般正味財産増減額	**△49,340**	**△1,053,930**	**△1,881,374**	**5,816,432**	**0**	**△1,589,322**
一般正味財産期首残高		10,947	10,947	2,669,284	0	2,698,475
一般正味財産期末残高	**△49,340**	**△1,042,983**	**△1,870,427**	**8,485,716**	**0**	**1,109,153**
正味財産期末残高	**△49,340**	**△1,042,983**	**△1,870,427**	**8,485,716**	**0**	**1,109,153**

公益社団法人　弘前青年会議所　法人全体

貸　借　対　照　表

平成25年12月31日現在

（単位　　円）

科　　目	当　年　度		前　年　度		増　　減	
【流動資産】						
現金	382,709	14.4	14,358	0.5	368,351	2565.5
普通預金	1,025,702	38.7	1,419,118	51.9	△393,416	△27.7
定期預金	1,011,155	38.1	1,010,903	37.0	252	0.0
前払金	57,130	2.2			57,130	***
未収入金	31,250	1.2			31,250	***
その他仮払金			143,500	5.3	△143,500	***
流動資産合計	**2,507,946**	**94.6**	**2,587,879**	**94.7**	**△79,933**	**△3.1**
【固定資産】						
電話加入権	144,000	5.4	144,000	5.3	0	0.0
固定資産合計	**144,000**	**5.4**	**144,000**	**5.3**	**0**	**0.0**
資産の部合計	**2,651,946**	**100.0**	**2,731,879**	**100.0**	**△79,933**	**△2.9**

公益社団法人　弘前青年会議所　法人全体

貸　借　対　照　表

平成25年12月31日現在

（単位　　円）

科　　目	当　年　度		前　年　度		増　　減	
【流動負債】						
未払金	56,173	2.1	17,013	0.6	39,160	230.2
前受金	1,485,000	56.0	16,391	0.6	1,468,609	8959.8
預り金	1,620	0.1			1,620	***
流動負債合計	**1,542,793**	**58.2**	**33,404**	**1.2**	**1,509,389**	**4518.6**
負債の部合計	**1,542,793**	**58.2**	**33,404**	**1.2**	**1,509,389**	**4518.6**
【正味財産】						
【一般正味財産】						
一般正味財産	1,109,153	41.8	2,698,475	98.8	△1,589,322	△58.9
正味財産合計	**1,109,153**	**41.8**	**2,698,475**	**98.8**	**△1,589,322**	**△58.9**
純資産の部合計	**1,109,153**	**41.8**	**2,698,475**	**98.8**	**△1,589,322**	**△58.9**
負債・純資産の部合計	**2,651,946**	**100.0**	**2,731,879**	**100.0**	**△79,933**	**△2.9**

公益社団法人　弘前青年会議所

貸借対照表（内訳表）

平成25年12月31日現在

（単位　　円）

科　　目	公益事業会計	収益事業会計	法人会計	合計	内部取引消去	
資産の部						
【流動資産】						
現金			382,709	382,709	0	382,709
普通預金			1,025,702	1,025,702	0	1,025,702
定期預金			1,011,155	1,011,155	0	1,011,155
前払金	26,750	16,050	14,330	57,130	0	57,130
未収入金			31,250	31,250	0	31,250
流動資産合計	**26,750**	**16,050**	**2,465,146**	**2,507,946**	**0**	**2,507,946**
【固定資産】						
電話加入権			144,000	144,000	0	144,000
固定資産合計			**144,000**	**144,000**	**0**	**144,000**
資産の部合計	**26,750**	**16,050**	**2,609,146**	**2,651,946**	**0**	**2,651,946**

公益社団法人　弘前青年会議所

貸借対照表（内訳表）

平成25年12月31日現在

（単位　　円）

科　　目	公益事業会計	収益事業会計	法人会計	合計	内部取引消去	
負債の部						
【流動負債】						
未払金	17,586	10,552	28,035	56,173	0	56,173
前受金			1,485,000	1,485,000	0	1,485,000
預り金			1,620	1,620	0	1,620
本部勘定	5,515,300	1,875,925	△7,391,225	0	0	0
流動負債合計	**5,532,886**	**1,886,477**	**△5,876,570**	**1,542,793**	**0**	**1,542,793**
負債の部合計	**5,532,886**	**1,886,477**	**△5,876,570**	**1,542,793**	**0**	**1,542,793**
純資産の部						
【正味財産】						
【一般正味財産】						
一般正味財産	△5,506,136	△1,870,427	8,485,716	1,109,153	0	1,109,153
正味財産合計	**△5,506,136**	**△1,870,427**	**8,485,716**	**1,109,153**	**0**	**1,109,153**
純資産の部合計	**△5,506,136**	**△1,870,427**	**8,485,716**	**1,109,153**	**0**	**1,109,153**
負債・純資産の部合計	**26,750**	**16,050**	**2,609,146**	**2,651,946**	**0**	**2,651,946**

公益社団法人弘前青年会議所2013年度正味財産増減計算書に関する注記 1)～4)

1) 管理費の事業費配賦基準管理表

A	会計区分	従事割合
給料手当	公益目的事業会計	50%
	収益事業等会計	30%
	法人会計	20%

B	会計区分	従事割合
退職給付費用	公益目的事業会計	50%
	収益事業等会計	30%
	法人会計	20%

C	会計区分	従事割合
福利厚生費	公益目的事業会計	50%
	収益事業等会計	30%
	法人会計	20%

D	会計区分	使用割合
会議費	公益目的事業会計	50%
	収益事業等会計	30%
	法人会計	20%

E	会計区分	使用割合
通信運搬費	公益目的事業会計	50%
	収益事業等会計	30%
	法人会計	20%

F	会計区分	使用割合
消耗品費	公益目的事業会計	50%
	収益事業等会計	30%
	法人会計	20%

G	会計区分	使用割合
印刷製本費	公益目的事業会計	50%
	収益事業等会計	30%
	法人会計	20%

H	会計区分	使用割合
光熱水料費	公益目的事業会計	50%
	収益事業等会計	30%
	法人会計	20%

I	会計区分	使用割合
賃借料	公益目的事業会計	50%
	収益事業等会計	30%
	法人会計	20%

J	会計区分	使用割合
賃借料	公益目的事業会計	50%
	収益事業等会計	30%
	法人会計	20%

K	会計区分	使用割合
雑費	公益目的事業会計	50%
	収益事業等会計	30%
	法人会計	20%

L	会計区分	使用割合
修繕費	公益目的事業会計	50%
	収益事業等会計	30%
	法人会計	20%

M	会計区分	使用割合
燃料費	公益目的事業会計	50%
	収益事業等会計	30%
	法人会計	20%

N	会計区分	使用割合
受取会費	公益目的事業会計	30%
	収益事業等会計	20%
	法人会計	50%

2) 2013年度　公益事業比率

公益目的事業の実施に係る費用		
23,353,880		
公益目的事業の実施に係る費用+収益事業等に係る費用+公益法人運営経常費用		
23,353,880	1,881,374	4,232,041
29,467,295		
79%		

3) 公益社団法人弘前青年会議所　2013年度　会計科目表

1	給料手当	アルバイト等の人件費
2	退職給付費用	退職時の給付費用
3	福利厚生費	人件費に付随する福利厚生費
4	会議費	事業に関わる会議費用
5	旅費交通費	公共機関等による移動費　宿泊費　借り上げ車両費・運転手等の経費　※自家用車による移動は燃料費・損料共に認められない
6	通信運搬費	郵送料・送料・電話料・インターネット回線使用料
7	消耗什器備品費	使用後に備品として残るもの、若しくは1物品15万円以上の消耗品　例）テント等は消耗什器備品費
8	消耗品費	1物品15万円未満の消耗品　例）紙・ペン・ライター・ろうそく・テープ等
9	会員支給品費	会員に支給する物品等費
10	修繕費	修繕に関わる費用
11	印刷製本費	印刷にかかる経費　例）資料作成費・報告書作成費等
12	広報費	広告にかかる費用等　例）広告看板・チラシ･ポスター等の制作費
13	燃料費	車両・ストーブ・発電機等の動力に必要な燃料費等
14	光熱水料費	電気・水道にかかる費用等
15	賃借料	会場・駐車場等の借賃　物品の借賃　リース物件の借賃
16	保険料	損害保険料・陪責保険料等
17	諸謝金	講師謝金・謝礼等但し、講師謝金に関連する源泉税等は講師謝金に含む
18	租税公課	税金・印紙税等
19	渉外費	渉外関係費　※交際費など
20	委託費	外部に委託する業務費　※委託とは、本来自分で行う業務を他人に任せること
21	記念品費	記念物品購入費用
22	衛生費	ゴミ処理、除雪等に関わる費用
23	雑費	振り込み手数料、その他

≪注意事項≫

本会では15万円を高額備品の基準としてそれ以上の金額の物品関しては、2社以上の相見積もりを徴収する。

4)公益社団法人弘前青年会議所　2013年度　事業区分表

公益目的事業
公1:　地域発展に寄与する事業
政治・経済・社会及び文化等に関する調査研究を行い、または、地域経済の発展、地域住民生活の活性化を図り、住民が安心して生活できる地域をつくるための地域発展に寄与する事業。
公2:　青少年の健全な育成に寄与する事業
教育、スポーツ等を通じて次世代を担う子ども達の健全なる心身の発達をはかると共に、豊かな人間性を育み国や地域を牽引する人材を育成する事業。
公3:　東日本大震災の被災地の復興に寄与する事業
東日本大震災の被災地の一日も早い復興に寄与することを目的とし、東日本大震災の被災地が復興するまでの暫定的な事業。
収益事業
他1:　会員の資質向上及び親睦を図る事業
指導力啓発の知識及び教養の習得と向上、並びに能力の開発親睦交流を促進する事業。
他2:　会員の拡大及び会員相互の情報の共有等に関する事業
会員の拡大を目的とし、新加入会員の研修を目的とする事業

監査報告書

公益社団法人弘前青年会議所
２０１３年度　理事長　清藤　洋介　殿

26 年 1 月 15 日
公益社団法人弘前青年会議所

２０１３年度　監事　鎌田 法丈

２０１３年度　監事　三上宙裕

私たちは、２０１３年1月１日から２０１３年１２月３１日までの会計年度における会計及び業務の監査を行い、次の通り報告する。

１．監査の方法の概要

（１）会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて計算書類の正確性を検討した。

（２）業務監査について、理事会及びその他会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。

２．監査意見

（１）活動計算書、貸借対照表、財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支状況及び財産状態を正しく示していると認める。

（２）事業報告書の内容は真実であると認める。

（３）理事の職務遂行に関する不正の行為、又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

３．その他

以上

会　員　異　動

新加入会員

22名

阿部　塁	石澤美幸	大井康敬	大藪貴雄	川島貴裕
櫛引英揮	久保良太	齋藤拓靖	笹　淳志	鈴木大樹
須藤るり子	相馬春香	田中寿紀	田中真人	中里元哉
成田志穂	野宮誠鏡	原田　裕	福島英一	前田完治
三浦博美	山形昌弘			

卒　業　生

8名

工藤博政	笹森聖博	杉澤廉晴	杉田文華	原田和人
福士圭介	藤田あつ志	安田伊佐武		

退　会　者

5名

2013年度　公益社団法人 弘前青年会議所

生 年 別 会 員 一 覧 表

生年	会員　氏名	計61名
1974年 (昭和49年)	阿部　墾 ／ 井上　信平 ／ 大中　正樹 ／ 工藤　幸正 齋藤　拓靖 ／ 田中　真人 ／ 野宮　誠鏡 ／ 三上　富裕 山崎　大介	9名
1975年 (昭和50年)	相内　英之 ／ 小野　貴志 ／ 斉藤　勇太 ／ 佐藤　譲 徳差　学 ／ 長谷川武史 ／ 三宅　志保	7名
1976年 (昭和51年)	大井　康敬 ／ 太田　厚仁 ／ 小山内隆一 ／ 葛西　豊喜 鎌田　法丈 ／ 黒部　能史 ／ 笹　淳志 ／ 鈴木　大樹 田澤　祐司 ／ 中里　元哉 ／ 中村　倫人 ／ 三浦　博美	12名
1977年 (昭和52年)	秋元　牧人 ／ 石澤　美幸 ／ 泉谷　貴崇 ／ 久保　良太 須藤るり子	5名
1978年 (昭和53年)	川嶋　貴裕 ／ 工藤　康宏 ／ 清藤　洋介 ／ 原田　裕	4名
1979年 (昭和54年)	櫛引　英揮 ／ 相馬　春香 ／ 中田　諭 ／ 福井　啓之 福島　英一 ／ 前田　完治 ／ 山内　尚美	7名
1980年 (昭和55年)	大湯　幸世 ／ 尾崎　桂輔 ／ 工藤　順敬 ／ 須藤　立也 野宮　智之 ／ 福士　蔵 ／ 三國　典央	7名
1981年 (昭和56年)	秋元　駿一 ／ 木村　新悟	2名
1982年 (昭和57年)	成田　志穂 ／ 吉川　裕之	2名
1983年 (昭和58年)	田中　寿紀 ／ 野村　太郎 ／ 山形　昌弘	3名
1984年 (昭和59年)	白石　将一 ／ 比内　理佑	2名
1985年 (昭和60年)		0名
1992年 (平成4年)	大藪　貴雄	1名

ＪＣソング

一、ＪＣ　ＪＣ　ＪＣ
世界を結ぶ　若き団結（ちから）
新しき世紀（よ）の　希望（のぞみ）となりて
永遠（とわ）に繁栄（さか）えん　我等の集い

二、ＪＣ　ＪＣ　ＪＣ
奉仕の理想　探究（もと）めつつ
祖国（くに）の進歩（あゆみ）の　力となりて
先駆けゆかん　我等の集い

若い我等

一、若い我等が　手を取り合って
進む行く手の　青い空に
輝くＪＣ　明るい希望
足なみをそろえて
行こうじゃないか

二、世界を結ぶ　若さの力
互に尽す　楽しさこそ
ＪＣの理想だ　新しい日だ
足なみをそろえて
行こうじゃないか

三、若い我等の　心を集め
つくる集いに　未来をかけて
ＪＣの仲間は　皆信じあう
足なみをそろえて
行こうじゃないか

明日（あした）のために

一、若さと若さが　手を結び
明日にいつも　向うのだ
豊かな未来　めざしつつ
日本の道を　創ろうよ
行こうＪＡＹＣＥＥ
明日のために

二、心と心を　つなぎ合い
大きな虹を　かけるのだ
生きてることの　喜びを
すべての人に　投げかけて
行こうＪＡＹＣＥＥ
明日のために

三、命と命が　満ちあふれ
光りとなって　燃えるのだ
世界の窓に　いつの日も
希望の夢は　はばたくよ
行こうＪＡＹＣＥＥ
明日のため

（公社）弘前青年会議所
2014年度 **基本資料**

発　行：平成26年1月15日
印　刷：やまと印刷株式会社